

静岡県葦山町

史跡北条氏邸跡発掘調査報告 I

—御所之内遺跡第13次発掘調査報告—

2002

葦山町教育委員会

静岡県菲山町

史跡北条氏邸跡発掘調査報告 I

—御所之内遺跡第13次発掘調査報告—

2002

菲山町教育委員会



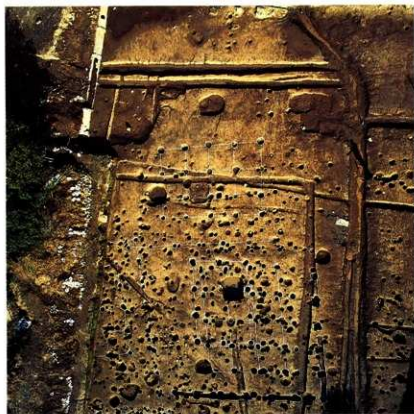
1. 遺跡遠景(北西より)



2. 遺跡遠景(東より)



1. 調査区全景



2. 第1～4号掘立柱建物跡



1. 第4号溝状遺構



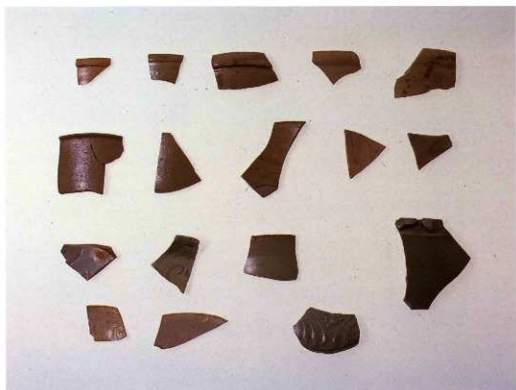
2. 第10号遺構



1. 質易陶磁(青磁)



2. 質易陶磁(青磁)



1. 賈易陶磁(白磁)



2. 賈易陶磁(青白磁·陶器)



1. 国産陶器(瀬戸美濃)



2. 国産陶器(瀬戸美濃)



3. 国産陶器(瀬美 刻画文壺)



1. 第2号井戸出土かわらけ



2. 第2号井戸出土かわらけ



3. 第4号溝状遺構出土かわらけ



1. 第4号溝状遺構出土土かわらけ



2. 瓦質 風炉・火鉢



3. 瓦

序

御所之内遺跡の第13次発掘調査は、平成4年から5年にかけて、企業の研修所建設をきっかけに行いました。発掘調査の結果、多数の掘立柱建物跡や中国製の陶磁器など貴重な遺構・遺物が発見され、さらに、これらが鎌倉時代の北条氏の屋敷や、今まで実体が明らかではなかった円成寺である可能性が指摘され、本遺跡の重要性が目されるようになりました。

そのため、文化庁の指導のもと、県文化課・町教育委員会・企業の三者で検討を重ねた結果、本遺跡は日本の中世史上大変貴重な遺跡であり、その歴史的価値を評価して史跡として保存する方向で協議を進めることになりました。平成7年には史跡整備委員会も充足し、委員の先生方のご研究・ご討議を経て、平成8年9月に「史跡北条氏邸跡」として指定されました。

その後、「史跡北条氏邸跡」では史跡の追加指定や、整備のための確認調査などを行ってきました。また、今年度は、「史跡北条氏邸跡」・「史跡伝堀越御所跡」・「史跡願成就院跡」の3つの史跡と、それを取り囲む遺跡や文化財を一体として整備・活用するために、「守山中世史跡群整備基本計画」が刊行されております。

このように貴重な遺跡の成果をまとめた本書を刊行することは、誠に喜ばしいことであります。本書が学術研究や郷土の教育資料として活用されることを願ってやみません。

なお、最後になりましたが、関係諸機関ならびに調査に従事された方々に対し、心よりお礼を申し上げます、刊行の序といたします。

平成14年3月

菫山町教育委員会
教育長 植松 静治

例 言

1. 本書は、平成4年～平成5年に葦山町教育委員会が実施した御所之内遺跡第13次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、東急電鉄株式会社の研修所建設計画に伴う事前調査で、葦山町寺家字御産所1224他、同字守山1219-1他で実施し、調査面積は2,826.68㎡である。
3. 発掘調査は平成4年3月9日から12月29日・平成5年3月18日から7月25日の2回にわたって実施した。遺物整理・報告書作成作業は平成11年4月1日より平成14年3月20日まで実施した。
4. 発掘調査は、原茂光と加藤学園考古学研究所秋本真澄が担当した。また、本報告書の遺物整理・図版作成は、池谷初志が整理員を指導して実施し、原稿はⅡ章、Ⅲ章-1を原が、Ⅰ章、Ⅲ章-2、Ⅳ章を池谷が執筆した。編集は池谷が行った。
5. 出土遺物のうち、瀬戸美濃窯製品については(財)瀬戸市文化財センター藤澤良祐氏に、常滑窯製品については常滑市民俗資料館中野晴久氏に分析をお願いし、ご教示を賜った。また、貿易陶磁については、国立歴史民俗博物館小野正敏氏・鎌倉考古学研究所斎木秀雄氏・平泉町文化財センター八重樫忠郎氏にご教示を賜った。記して感謝申し上げる。
6. 本調査については、平成7年に「伊豆葦山円成寺遺跡(御所之内遺跡第13次調査)」として概要報告が刊行されている。本報告と概報の間で相違する点は本報告が正しい。なお、遺跡名は国史跡指定名称に従い「史跡北条氏邸跡」に統一する。
7. 調査体制は以下のとおりである。

発掘調査 平成4年度

調査主体	葦山町教育委員会	教育長	植松静治
調査事務局	葦山町教育委員会社会教育課長		飯田孝雄
発掘調査担当	葦山町教育委員会社会教育課		原 茂光
発掘作業員	田中 亨 山口利郎 町田欣也	小泉道治 高橋達郎 渡辺孝紀	
	森野公毅 鈴木正信 白井幸太郎	原信之助 富樫栄太郎 梶山 格	
	長島静夫 鈴木正信		
	原多江子 新見智子 大川愛紀子	桑原靖子 古川昭代 安倍真由美	
	後藤洋恵 小松法子 川合千賀子	森野みさ子 岩田郁子 海藤裕美子	
	屋代安枝 西島和美 与五沢博子	渡辺淑敏 芹沢豊子 安倍孝子	

発掘調査 平成5年度 追加調査

調査主体	葦山町教育委員会	教育長	植松静治
調査事務局	葦山町教育委員会社会教育課長		飯田孝雄
	葦山町教育委員会社会教育課		原 茂光
発掘調査担当	加藤学園考古学研究所		秋本真澄
発掘作業員	加藤学園考古学研究所 研究員 他		

整理調査 平成11～13年度

補助事業者	葦山町 町長	渡辺解太郎	
調査主体	葦山町教育委員会	教育長	植松静治
調査事務局	葦山町教育委員会社会教育課長		鈴木容子(平成13年12月まで)

菫山町教育委員会社会教育課長 平井正之（平成14年1月から）
菫山町教育委員会社会教育課長補佐 中鉢賢治（平成13年3月まで）
菫山町教育委員会社会教育課 川口瑞樹（平成13年3月まで）

菫山町教育委員会社会教育課学芸員 小島達彦（平成13年4月から）
山田康雄（平成13年4月から）
池谷初恵

整理調査担当

非常勤嘱託職員

整理作業員

原 多江子 今野朋子 斉藤禎子 高垣佐代子

- 8、本調査による図面・写真・遺物等の資料は、菫山町教育委員会で保管している。
- 9、発掘調査・整理調査においては次の方々に、ご指導・ご助言を賜った。厚くお礼申し上げる次第である。

小和田哲男	湯之上 隆	小野正敏	河野眞知郎	家水遼嗣	藤澤良祐	中野晴久	百瀬正恒
橋本久和	伊野近富	中井 淳	八重樫忠郎	本澤慎輔	藤原良章	浅野晴樹	飯村 均
荒川正大	斎木秀雄	宗益秀明	服部実喜	汐見一夫	水澤幸一	田中 学	金子健一
塚木和宏	松井一明	鈴木敏則	渡井英祐	岩名建太郎	栗木 崇		

静岡県教育委員会文化課 （順不同・敬称略）

凡 例

1. 本書の遺構・遺物の縮尺・指示は次のとおりである。

(1) 遺構の略号と挿図の縮尺

遺構全体図		1/100
掘立柱建物跡	SH	1/80
井戸	SE	1/40
溝状遺構	SD	1/100
土坑墓	ST	1/40
土坑	SX	1/40

(2) 遺物挿図の縮尺 (縮尺の異なるものは図中に明記した。)

陶磁器・土器	1/3
瓦	1/4
石製品	1/3・1/4
銭貨	1/2

(3) スクリーントーンの指示 (使用例の異なるものは明記した。)



(4) 遺物マークの指示

○ かわらけ ● 陶磁器 ▲ 金属製品

- 方位は国土座標第Ⅲ系に拠っており、挿図中の方位記号はこの座標北を示す。
- 遺物の番号は遺構種別ごとの通し番号とし、本文・挿図・表・写真図版とも一致する。
- 遺構一覧表における計測値はmであり、()は残存値を示す。
- 遺物一覧表における計測値はcmであり、()は残存値を、-は不明または計測不可能を示す。
- 本書における貿易陶磁の分類は以下の文献に基づいている

藤田繁次郎・森田 豊 1978『太守府出土の輸入陶磁器について』九州陶磁資料館研究論集4

国立歴史民俗博物館 1994『日本出土の貿易陶磁』東日本編1

- 本書において、瀬戸美濃系施釉陶器・瀬戸美濃産陶器類・瀬戸美濃焼などを略して「瀬戸美濃」と記述する。また、古瀬戸後期様式は後と略し、ローマ数字で型式名を付記し、瀬戸・美濃大窯製品は大窯とし、算用数字で型式名を付記した。常滑焼・常滑産陶器は「常滑」と略して記述した。それぞれの編年は以下の文献に基づいている。

藤澤良雄 1991『瀬戸古窯址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年—』『研究紀要X』瀬戸市歴史民俗資料館

藤澤良雄 1996『生産3 瀬戸』『古瀬戸をめぐる中京陶器の世界』資料集 瀬戸市埋蔵文化財センター

藤澤良雄 2001『瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通—研究の現状と課題』『陶器・磁器類の陶磁器流通と瀬戸美濃大窯製品』資料集 瀬戸市埋蔵文化財センター

中野晴久 1994『生産地における編年について』『中京常滑焼をめぐって』資料集 日本福祉大学知多平島総合研究所

中野晴久 1996『生産1 産器系』『古瀬戸をめぐる中京陶器の世界』資料集 瀬戸市埋蔵文化財センター

目次

巻頭図版

序

例言

目次

I. 遺跡の立地と歴史的環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	3
II. 調査に至る経緯・調査方針・調査経過	10
1. 調査に至る経緯	10
2. 調査経過	10
3. 土層	12
III. 遺構と遺物	13
1. 遺構	13
(1) 掘立柱建物跡 柱穴列(堀跡)	13
(2) 井戸	30
(3) 溝状遺構	32
(4) 土坑墓	47
(5) 上坑	51
(6) 集石	64
(7) ビット群	75
2. 遺物	77
(1) 掘立柱建物跡・柱穴列出遺物	77
(2) 井戸出土遺物	77
(3) 溝状遺構出土遺物	81
(4) 土坑墓出土遺物	112
(5) 土坑出土遺物	113
(6) 集石出土遺物	116
(7) 遺構外出土遺物	128
IV. 調査の成果と課題	174
1. 遺物について	174
2. 遺構の時期的な展開について	187

遺構・遺物一覧表

写真図版

挿 図 目 次

第1図	御所之内遺跡の位置	1	第44図	第1号集石	66
第2図	遺跡の位置と周辺の地形	2	第45図	第2～5号集石	68
第3図	遺跡の位置と周辺遺跡分布図	4	第46図	第6～8号集石	69
第4図	守山中世史跡群の史跡と遺跡の位置	7	第47図	第9～11号集石	71
第5図	遺跡周辺の地籍図	9	第48図	第12～15号集石	72
第6図	腐食区設定図	11	第49図	第16・17号集石	73
第7図	基本土層図	12	第50図	第18・19号集石	74
第8図	遺構全体図	14	第51図	ビット群分布図	76
第9図	掘立柱建物跡・柱穴列配置図	15	第52図	掘立柱建物跡出土遺物	77
第10図	第1号掘立柱建物跡・第1号柱穴列(1)	16	第53図	柱穴列出土遺物	77
第11図	第1号掘立柱建物跡・第1号柱穴列(2)	17	第54図	井戸出土遺物(1)	78
第12図	第2・3号掘立柱建物跡 第2・3号柱穴列(1)	18	第55図	井戸出土遺物(2)	79
第13図	第2・3号掘立柱建物跡 第2・3号柱穴列(2)	19	第56図	井戸出土遺物(3)	80
第14図	第4号掘立柱建物跡 第4号柱穴列	20	第57図	溝状遺構出土遺物(1)	82
第15図	第5号掘立柱建物跡	21	第58図	溝状遺構出土遺物(2)	83
第16図	第6号掘立柱建物跡	21	第59図	溝状遺構出土遺物(3)	85
第17図	第11号掘立柱建物跡 第8号柱穴列	23	第60図	溝状遺構出土遺物(4)	88
第18図	第12号掘立柱建物跡 第9号柱穴列	24	第61図	溝状遺構出土遺物(5)	89
第19図	第6・7号柱穴列	26	第62図	溝状遺構出土遺物(6)	90
第20図	第10号遺構(築地塀基礎)	28	第63図	溝状遺構出土遺物(7)	91
第21図	井戸配置図	29	第64図	溝状遺構出土遺物(8)	92
第22図	第1号井戸	30	第65図	溝状遺構出土遺物(9)	93
第23図	第2号井戸	31	第66図	溝状遺構出土遺物(10)	94
第24図	第2号溝状遺構	32	第67図	溝状遺構出土遺物(11)	95
第25図	中世溝状遺構配置図	33	第68図	溝状遺構出土遺物(12)	96
第26図	第1号溝状遺構	35	第69図	溝状遺構出土遺物(13)	97
第27図	第3・13～15号溝状遺構	36	第70図	溝状遺構出土遺物(14)	99
第28図	第4号溝状遺構(1)	37	第71図	溝状遺構出土遺物(15)	100
第29図	第4号溝状遺構(2)	38	第72図	溝状遺構出土遺物(16)	101
第30図	第5～11号溝状遺構	39	第73図	溝状遺構出土遺物(17)	102
第31図	第12・16～19号溝状遺構	41	第74図	溝状遺構出土遺物(18)	104
第32図	近世以降溝状遺構配置図	43	第75図	溝状遺構出土遺物(19)	105
第33図	十坑墓・土坑配置図	48	第76図	溝状遺構出土遺物(20)	107
第34図	第1～3号土坑墓	49	第77図	溝状遺構出土遺物(21)	108
第35図	第4・5号土坑墓	50	第78図	溝状遺構出土遺物(22)	110
第36図	第1～8号土坑	52	第79図	溝状遺構出土遺物(23)	111
第37図	第9～18号土坑	54	第80図	十坑墓出土遺物	112
第38図	第19～27号土坑	56	第81図	土坑出土遺物(1)	114
第39図	第28～38号土坑	58	第82図	土坑出土遺物(2)	115
第40図	第39～50号土坑	60	第83図	集石出土遺物(1)	117
第41図	第51～61号土坑	62	第84図	集石出土遺物(2)	118
第42図	第62号土坑	64	第85図	集石出土遺物(3)	119
第43図	1・2区 集石の配置と中世後期遺構	65	第86図	集石出土遺物(4)	120

第87図	集石出土遺物(5)……………	121	第117図	遺構外出土遺物(24) - 3区④ - ……	157
第88図	集石出土遺物(6)……………	122	第118図	遺構外出土遺物(25) - 3区⑤ - ……	158
第89図	集石出土遺物(7)……………	123	第119図	遺構外出土遺物(26) - 3区⑥ - ……	159
第90図	集石出土遺物(8)……………	124	第120図	遺構外出土遺物(27) - 3区⑦ - ……	160
第91図	集石出土遺物(9)……………	125	第121図	遺構外出土遺物(28) - 4区① - ……	161
第92図	集石出土遺物(10)……………	126	第122図	遺構外出土遺物(29) - 4区② - ……	162
第93図	集石出土遺物(11)……………	127	第123図	遺構外出土遺物(30) - 4区③ - ……	163
第94図	遺構外出土遺物(1) - 1区① - ……	134	第124図	遺構外出土遺物(31) - 4区④ - ……	164
第95図	遺構外出土遺物(2) - 1区② - ……	135	第125図	遺構外出土遺物(32) - 4区⑤ - ……	165
第96図	遺構外出土遺物(3) - 1区③ - ……	136	第126図	遺構外出土遺物(33) - 4区⑥ - ……	166
第97図	遺構外出土遺物(4) - 1区④ - ……	137	第127図	遺構外出土遺物(34) - 4区⑦ - ……	167
第98図	遺構外出土遺物(5) - 1区⑤ - ……	138	第128図	遺構外出土遺物(35) - 4区⑧ - ……	168
第99図	遺構外出土遺物(6) - 1区⑥ - ……	139	第129図	遺構外出土遺物(36) - 4区⑨ - ……	169
第100図	遺構外出土遺物(7) - 1区⑦ - ……	140	第130図	遺構外出土遺物(37) - 5区① - ……	170
第101図	遺構外出土遺物(8) - 1区⑧ - ……	141	第131図	遺構外出土遺物(38) - 5区② - ……	171
第102図	遺構外出土遺物(9) - 1区⑨ - ……	142	第132図	遺構外出土遺物(39) - 地点不明① - ……	172
第103図	遺構外出土遺物(10) - 1区⑩ - ……	143	第133図	遺構外出土遺物(40) - 地点不明② - ……	173
第104図	遺構外出土遺物(11) - 1区⑪ - ……	144	第134図	出土遺物組成グラフ……………	175
第105図	遺構外出土遺物(12) - 1区⑫ - ……	145	第135図	中世陶磁器産地別グラフ……………	176
第106図	遺構外出土遺物(13) - 1区⑬ - ……	146	第136図	貿易陶磁の組成と時期別出土量グラフ……………	177
第107図	遺構外出土遺物(14) - 1区⑭ - ……	147	第137図	瀬戸美濃の組成と型式別・器種別出土量グラフ……………	178
第108図	遺構外出土遺物(15) - 2区① - ……	148	第138図	瀬戸美濃の型式別・器種別出土量グラフ……………	179
第109図	遺構外出土遺物(16) - 2区② - ……	149	第139図	常滑の組成と型式別出土量グラフ……………	180
第110図	遺構外出土遺物(17) - 2区③ - ……	150	第140図	常滑の型式別・器種別出土量グラフ……………	181
第111図	遺構外出土遺物(18) - 2区④ - ……	151	第141図	かわらけの変遷と共存遺物(1)……………	184
第112図	遺構外出土遺物(19) - 2区⑤ - ……	152	第142図	かわらけの変遷と共存遺物(2)……………	185
第113図	遺構外出土遺物(20) - 2区⑥ - ……	153	第143図	主要遺物の出土量の推移……………	187
第114図	遺構外出土遺物(21) - 3区① - ……	154	第144図	主な遺構の変遷(1)……………	189
第115図	遺構外出土遺物(22) - 3区② - ……	155	第145図	主な遺構の変遷(2)……………	190
第116図	遺構外出土遺物(23) - 3区③ - ……	156			

表 目 次

第1表	周辺遺跡地名表……………	5	第10表	土坑一覧表……………	198
第2表	守山中世史跡群における発掘調査一覧……………	8	第11表	集石遺構一覧表……………	199
第3表	掘立柱建物跡一覧表(1)……………	194	第12表	中世遺物組成表……………	200
第4表	掘立柱建物跡一覧表(2)……………	195	第13表	中世以外の遺物一覧表……………	200
第5表	柱穴列一覧表(1)……………	195	第14表	中世七器・陶磁器組成表……………	200
第6表	柱穴列一覧表(2)……………	196	第15表	貿易陶磁分類別一覧表……………	201
第7表	井戸一覧表……………	197	第16表	常滑・瀬美・湖西 器種・時期別一覧表……………	201
第8表	溝状遺構一覧表……………	197	第17表	瀬戸美濃 器種・時期別一覧表……………	202
第9表	土坑墓一覧表……………	197	第18表	山茶碗産地別一覧表……………	202

第19表	掘立柱建物跡・断跡出土遺物一覧表	203	第34表	1区出土遺物一覧表(1)	214
第20表	井戸出土遺物一覧表(1)	203	第35表	1区出土遺物一覧表(2)	215
第21表	井戸出土遺物一覧表(2)	204	第36表	1区出土遺物一覧表(3)	216
第22表	溝状遺構出土遺物一覧表(1)	204	第37表	1区出土遺物一覧表(4)	217
第23表	溝状遺構出土遺物一覧表(2)	205	第38表	1区出土遺物一覧表(5)	218
第24表	溝状遺構出土遺物一覧表(3)	206	第39表	2区出土遺物一覧表(1)	218
第25表	溝状遺構出土遺物一覧表(4)	207	第40表	2区出土遺物一覧表(2)	219
第26表	溝状遺構出土遺物一覧表(5)	208	第41表	2区出土遺物一覧表(3)	220
第27表	溝状遺構出土遺物一覧表(6)	209	第42表	3区出土遺物一覧表(1)	221
第28表	溝状遺構出土遺物一覧表(7)	210	第43表	3区出土遺物一覧表(2)	222
第29表	溝状遺構出土遺物一覧表(8)	211	第44表	4区出土遺物一覧表(1)	223
第30表	溝状遺構出土遺物一覧表(9)	212	第45表	4区出土遺物一覧表(2)	224
第31表	土坑墓出土遺物一覧表	212	第46表	4区出土遺物一覧表(3)	225
第32表	土坑出土遺物一覧表	212	第47表	5区出土遺物一覧表	225
第33表	集石遺構出土遺物一覧表	213	第48表	出土位置不明遺物一覧表	225

図 版 目 次

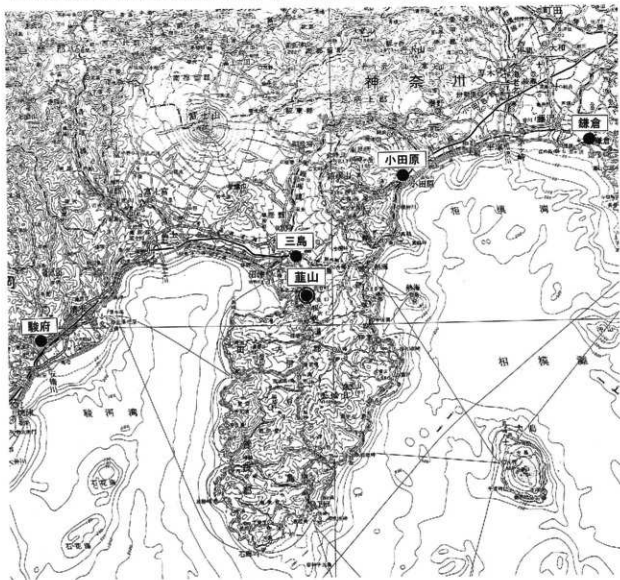
図版 1	1.調査区全景 2.第1号掘立柱建物跡・第1号柱穴列 3.第2・3号掘立柱建物跡・第2・3号柱穴列
図版 2	1.第2～4号掘立柱建物跡・第2～4号柱穴列 2.第4号土坑墓 3.第5号土坑墓
図版 3	1.第1号井戸(1) 2.1.第1号井戸(2) 3.1.第1号井戸(3)
図版 4	1.第3号溝状遺構 2.第4号溝状遺構 3.第4号溝状遺構上層断面
図版 5	1.第4号溝状遺構 2.第4号溝状遺構遺物出土状況 3.第5号溝状遺構
図版 6	1.第17号溝状遺構 2.1区集石検出状況 3.近世溝状遺構
図版 7	1.発掘調査風景 2.見学会風景 3.見学会風景
図版 8	1.第1号・2号井戸出土陶磁器 2.第1号溝状遺構出土陶磁器
図版 9	1.第3号溝状遺構出土陶磁器 2.第4号溝状遺構出土陶磁器
図版 10	1.第4号溝状遺構出土陶磁器 2.第4号溝状遺構出土瓦質製品
図版 11	1.第16号溝状遺構出土陶磁器 2.第16号溝状遺構出土陶磁器・瓦質製品
図版 12	1.近世溝状遺構出土陶磁器 2.軒瓦瓦
図版 13	1.軒平瓦 2.平瓦
図版 14	1.銭貨 2.石製品(1)
図版 15	1.石製品(2) 2.石製品(3)
図版 16	1.第1号井戸出土かわらけ 2.第2号井戸出土かわらけ 3.第1号溝状遺構出土かわらけ 4.第2号溝状遺構出土かわらけ 5.第3号溝状遺構出土かわらけ
図版 17	第4号溝状遺構出土かわらけ
図版 18	1.第5号溝状遺構出土かわらけ 2.第10号溝状遺構出土かわらけ 3.第16号溝状遺構出土かわらけ 4.第19号溝状遺構出土かわらけ 5.第5号土坑墓出土かわらけ 6.第34号土坑出土かわらけ 7.第36号土坑出土かわらけ
図版 19	1.第39号土坑出土かわらけ 2.第50号土坑出土かわらけ 3.第56号土坑出土かわらけ 4.4区遺物集中地点出土須恵器・土師器 5.4区出土土師器

I. 遺跡の立地と歴史的環境

1. 地理的環境

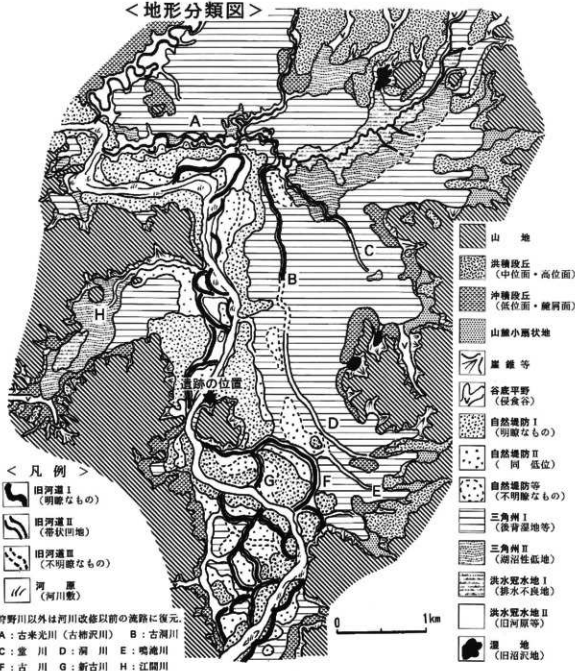
葦山町は静岡県東部の東部にあり、伊豆半島のつけ根部分、北伊豆地域の内陸部ほぼ中央に位置している。地形的には、伊豆半島を北流する狩野川によって形成された沖積平野である田方平野の南部に立地する。

葦山町の地形は、大きく山地、段丘、自然堤防、低地（後背湿地）に分けることができる。町域の東部約2/3は「多賀火山」の西側斜面が占める山地・丘陵斜面部である。一方、多賀火山の西側斜面に連続するように、標高128.4mの天狗岳（通称天ヶ岳）を主峰とする小山ないし丘陵状の地形が存在するが、これらは多賀火山噴出物とは異なる石英安山岩からなる貫入岩体である。また、御所之内遺跡の南部に存在する守山は町域の最西部に位置し、狩野川右岸部にある標高101.8mの小山である。この守山は狩野川を挟んで西側に展開する静浦山地の一部をなすが、安山岩の貫入岩体によって孤立丘の様相を呈している。段丘は、多賀火山帯の西麓一帯、平野部との境に展開する。



第1図 御所之内遺跡の位置

<地形分類図>



第2図 遺跡の位置と周辺の地形 葦山町史第十巻「葦山の自然と風土」より

自然堤防は狩野川の現在の河道に沿って、比較的大規模なものが発達している。また、旧河道や推定される帯状凹地沿いにも、小規模な自然堤防が形成されている。低地は狩野川と山地の間の展開する平野部の大半を占める。狩野川をはじめするいくつかの河川によって形成された後背湿地である。この他、東部の山地の西麓には、比較的緩やかな小規模扇状地が形成されているが、主に北部に多く、南部の西麓ではそれほど発達していない。

御所之内遺跡は、町城の西端、狩野川右岸に立地する守山から北方にのびる自然堤防上に展開する。この自然堤防は、御所之内遺跡のある守山裾部を最南端とし、途中分断や未発達な箇所を経て、原木付近まで2.5kmに及ぶ。遺跡の範囲は、葦山町四日町字築山・御所之内、寺家字御産所・守山地籍に所在

し、総面積は10万㎡に及び、標高は、平均14.7mである。

2. 歴史的環境

韭山町における旧石器時代の遺跡は現在まで14遺跡が知られているが、調査例は非常に少なく、表面採集などによる資料が多い。そのため、出土層位や遺跡の広がりなどは明確ではなく、詳細は不明である。

縄文時代の遺跡は約30遺跡が周知されているが、出土した遺物等から時期が明確な遺跡は24遺跡である。主な発掘調査例には、宮原A遺跡(10)・宮原B遺跡(11)・神崎遺跡(15)・久根ヶ崎遺跡などがある。これらはいずれも東部の山地やそれから続く段丘状に立地している。当町においては、大規模な丘陵・緩斜面が少ないため、縄文時代の遺跡は近隣に比べてあまり多くはない。また、現在までのところ、大規模な集落跡なども検出されていない。神崎遺跡で検出された縄文時代後期の敷石住居が唯一の住居跡例である。また、韭山カントリークラブ地内遺跡群では、多数の落とし穴が検出されている。町内北部の低位の段丘面末端に位置する久根ヶ崎遺跡では、当地域では類例の少ない縄文晩期の土器が多数出土したことで注目されている。

弥生時代になると、集落が低地に進出するためか、韭山町においては急激に遺跡数が増加する。主な遺跡では、山木遺跡(25)・蛭ヶ島遺跡(32)・宮下遺跡(42)・内中遺跡(39)を挙げることができる。これらのうち、蛭ヶ島遺跡・宮下遺跡などを除き、弥生時代後期から営まれた遺跡が多いことが特徴である。当町の弥生時代遺跡で特筆すべきは、多数の水田が確認されていることである。有名な山木遺跡をはじめとして、宮下遺跡・内中遺跡などでも水田跡が検出されており、大量の木製品が出土している。一方、住居跡は、神崎遺跡・韭山城内遺跡で確認されている。

水田跡や木製品で有名な山木遺跡であるが、1997年に行われた第14次調査では、13基の方形周溝墓が検出された。さらに1994年に調査された第10次調査の溝状遺構もその可能性が考えられ、山木遺跡の墓城の範囲が確認されつつある。山木遺跡は部分的な調査が多く、全体像を把握するには至っていないが、韭山城内遺跡の住居跡群を集落と考えれば、集落域・水田等生産域・墓城などの有機的なつながりが解明される可能性がある。また、遺跡の存続が古墳時代まで継続していることも明らかになってきており、集落の存続期間やその背景なども課題である。

古墳時代になると、丘陵上やその末端部にいくつかの古墳群があらわれてくる。主なものは、多田大塚古墳群(19)・台古墳群(43)などである。多田大塚古墳群は、1977年と1989～1990年に発掘調査が行われた。鏡や馬具が出土した4号墳、盾持人の人物埴輪が出土した6号墳など、10基の古墳から構成される古墳群である。なお、当該期の集落跡の調査例は非常に少なく、花ヶ崎遺跡で中期頃の住居跡が6軒確認されたにとどまっている。ただし、御所之内遺跡の中世遺構面の下部から、古墳時代や奈良・平安時代の遺物がまとめて出土しており、下層に当該期の集落が予想されている。

奈良・平安時代では、坂本遺跡(47)・前峠遺跡などの調査例がある。このうち、坂本遺跡では「方」「人」「久」などの罫書が多数出土している。これらの遺跡は、町中心部の低地にある自然堤防上に立地しており、現存集落の下に、当該期の集落が遺存している可能性が高い。また、町内には条里制に基づく「田方条里」と呼ばれるN-22°-Wの表層条里が残存している。山木遺跡の発掘調査でも、10世紀の条里遺構が確認され、残存する表層条里とほぼ一致することが検証された。

次に中世の様相を概観する。韭山は源頼朝の旗揚げから、豊臣秀吉による韭山城攻め・後北条氏滅亡まで、中世史上画期となる事柄の舞台となった重要な地域であり、そのため多くの館や城跡などの遺跡・文化財が残されている。



第3図 遺跡の位置と周辺遺跡分布図 (1/25,000)

御所之内遺跡(36)は、鎌倉幕府執権職北条氏の本貫地の館跡、鎌倉幕府滅亡後北条氏ゆかり子女によって建てられた円成寺や室町時代の堀越御所が次々と営まれていったことが発掘調査で明らかとなっている。また、遺跡内には、御所之内、御座所、築山などの地籍名が存在し、伝北条政子産湯の井戸や、御所の庭にあったと伝える「七つ石」の伝承なども残っていて、居館・御所の存在を示す環境が良好に残されている。

願成就院跡(38)は北条時政の祈願寺であり、臨池庭園形式の寺院跡である。現在までの調査で、南塔・堂の雨落溝・段状遺構などが検出されている。しかし、いずれも小規模な調査であり、南塔以外は伽藍配置等を確定するには至っていない。満願寺跡(70)では3地点の調査が行われており、前期の井戸跡や後期の溝状遺構などが検出されている。また、溝や石積みなどで区画した平場がいくつか作られており、願成就院跡と関連する遺構群である可能性が高い。守山砦(37)は堀越御所の後詰めの城と推定されているが、該当する遺構が検出されておらず詳細は不明である。光照寺跡(35)は菅義経にみえる頼朝亭の伝承をもつ遺跡である。鎌倉時代初期の井戸が検出されているが、調査地点が限られているため詳細は明らかではない。以上の5遺跡が守山を中心として長期間営まれており、中世において当地域が重要な位置を占めていたことがわかる。また、御所之内遺跡には「史跡北条氏邸跡」と「堀越御所跡」の2つの史跡が、願成就院跡には「史跡願成就院跡」の国指定史跡が存在する。これら5つの遺跡と3つの史跡を包括して、「守山中世史跡群」と呼称する。

第1表 周辺遺跡一覧表

荊山町							
2	奈古谷低地遺跡群	4	神明原遺跡	6	浮名古墳群	7	花ヶ崎遺跡
8	伽藍沢遺跡	9	伽藍沢古墳群	10	宮原A遺跡	11	宮原B遺跡
12	花立遺跡	13	国清寺北古墳群	14	国清寺	15	神崎遺跡
16	芋ヶ窪遺跡	17	芋ヶ窪古墳群	18	妹ヶ久保遺跡	19	大塚古墳群
20	熊野神社	21	長崎神社	22	原木下町遺跡	23	荒木神社
24	荒真木遺跡	25	山木遺跡	26	滝の洞遺跡	27	太閤陣場古墳
28	下向山遺跡	29	山木下町遺跡	30	山木館	31	荊山城
32	蛭ヶ島遺跡	33	兵衛ノ森遺跡	34	道下遺跡	35	光照寺
36	御所之内遺跡	37	守山砦	38	願成就院跡	39	内中遺跡
40	山田古墳群	41	宮ノ後遺跡	42	宮下遺跡	43	台古墳群
44	長者ヶ原遺跡	45	皆沢日向古墳	46	皆沢低地遺跡	47	板本遺跡
48	大間洞古墳群	70	満願寺跡	71	正念寺		

荊南町							
101	向原館	105	肥田古館	106	池之尻遺跡	113	岩崎遺跡
114	岩崎遺跡						
伊豆長岡町							
6	花ノ木遺跡	8	町屋遺跡	9	窯の壇遺跡	10	吉祥寺廃寺
20	桜ヶ平A遺跡	22	窯石塚遺跡	23	四反畑窯遺跡	24	御文馬場遺跡
29	塚之上遺跡	42	田塚遺跡	43	源氏山(弥勒洞)遺跡	44	源氏山(細洞)遺跡
45	源氏山(法院)遺跡	46	源氏山(多門山)遺跡	47	若宮遺跡	48	源氏山(岩鼻)遺跡
49	高天ヶ原遺跡						
大仁町							
44	富士見夫婦塚						

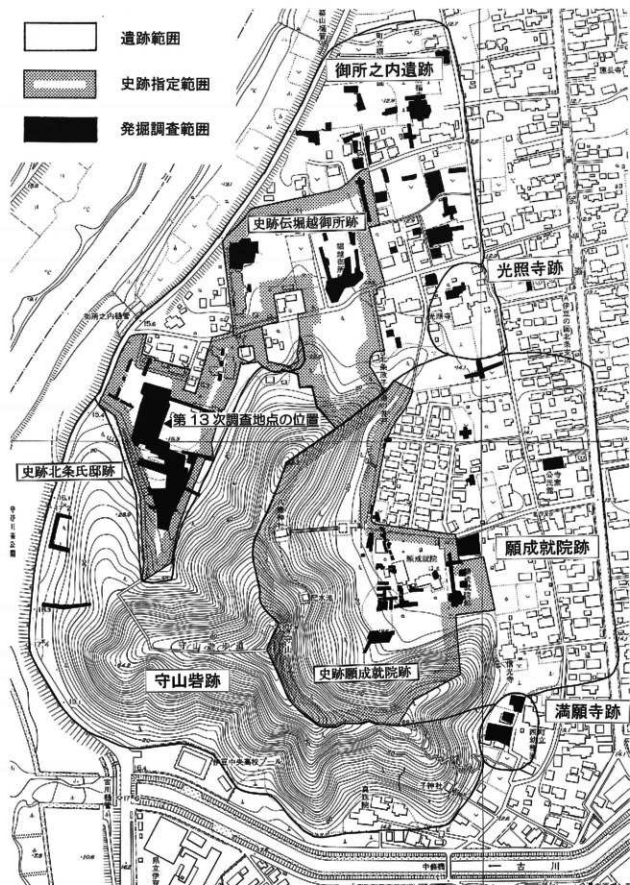
守山中世史跡群の東側、国道136号線を隔て正念寺跡(71)がある。ここは現在の寺名を蓮長寺といい、正応五年(1292)銘の宝篋印塔基台が残されている。発掘調査でも12世紀末～13世紀初頭の井戸が検出されている。また、この付近は四日町の地名が三斎市としての北条市に由来するといわれ、中世において当地域の経済的中心であったと推定される。

一方、町域東側の山麓部にも中世遺跡が多く存在する。葦山城跡(31)は北条早雲築城の城といわれている。現在までに、県立高校内で2地点、周辺の無量寺地区・芳池地区などで約10地点の調査が行われており、堀や道路状遺構、屋敷跡などが検出されている。また、源頼朝旗揚げの際に攻撃したといわれる平兼隆の館跡に比定されている山木館(30)や、中世墓が確認された下向山遺跡(28)などがある。葦山城の西側の低地には、弥生～古墳時代の遺跡である山木遺跡・蛭ヶ島遺跡などがあるが、これらの遺跡でも包含層から平安時代～中世の遺物が検出されており、葦山城や関連する遺跡の広がりを推測させる。その他、兵衛ノ森遺跡(33)、道下遺跡(34)、長者ヶ原遺跡(44)で中世遺物が発見されているが、遺構等の検出はなく詳細は明らかではない。

町域東北部に位置する国清寺(14)は、関東管領上杉氏が開祖となり14世紀中頃に建立された寺院で、伊豆国守護所の比定説などもあるなど、中世葦山におけるもう一つの中心地であった。発掘調査は寺院の西側の3地点で行われ、中世後期の遺構・遺物が検出されている。また、国清寺では上杉禪秀の乱(1416年)の折に合戦が行われており、軍事的な拠点でもあった。寺の周囲に一部残っている土塁にもその名残りをみることができる。国清寺裏手の山麓には授福寺遺跡がある。国清寺の奥の院と位置づけられており、毘沙門堂付近で道路修理が行われた際に中世墓が発見された。また周辺には五輪塔破片や玉石などがみられ、一帯に中世墓が群在していたと考えられる。

以上のように、葦山においては主に3つの中世の遺跡集積地が認められる。また、多田の大塚古墳群のうち、2号墳で1基、4号墳から2基の中世墓が認められている。

近世の葦山は、天領として葦山代官江川氏が治めるようになる。その遺跡は、重要文化財江川邸や幕末の史跡反射炉として残されている。いずれも整備に伴い一部発掘調査が行われ、近世の葦山のようにも徐々に明らかになっている。



第4図 守山中世史跡群の史跡と遺跡の位置

第2表 守山中世史跡群 発掘調査一覧表

遺跡名	調査次	調査期間	所在地	調査面積	調査原因	調査成果
御所之内遺跡群	予備	S57. 9~10月	西日町字御所之内934-1	605㎡	宅地分譲	開池・井戸等
御所之内遺跡群	1次	S58. 1~3月	西日町字御所之内934-1		範囲確認	開池・遺水等
御所之内遺跡群	2次	S58. 4~12月	西日町字御所之内934 1他	1048㎡	範囲確認	井戸等
御所之内遺跡群	3次	S59. 8~9月	西日町字築山1005-6他	219㎡	個人住宅建設	灰
御所之内遺跡群	4次	S61. 9月	西日町字築山981-1	77㎡	寺院建設	堀・井戸等
御所之内遺跡群	5次	S61. 10月~S62. 1月	西日町字御所之内939-8	497㎡	保養所増築	開池・井戸等
御所之内遺跡群	6次	S62. 6月	西日町字築山1006-1	43㎡	個人住宅建設	溝
御所之内遺跡群	7次	S62. 4~7月	西日町字築山981-1	377㎡	寺院建設	堀・井戸・土坑墓・近世建物
御所之内遺跡群	8次	S63. 4月、H元. 2月	西日町字御所之内932-1 字築山1007-2	63㎡	個人住宅建設	堀・井戸、土坑墓
御所之内遺跡群	9次	H2. 2~3月	西日町字御所之内974	445㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・溝 井戸、かわかけ溝
御所之内遺跡群	10次	H3. 1~3月	西日町字御所之内927-1 字築山1008-1	231㎡	個人住宅建設	井戸・溝等
御所之内遺跡群	11次	H3. 7~8月	寺家字池島38-4	97㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・井戸等
御所之内遺跡群	12次	H4. 1~2月	西日町字御所之内929-1	68㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・井戸等
御所之内遺跡群	13次	H4. 3~12月 H5. 3~5月	寺家字御座所1224 1他	2930㎡	伊修所建設	掘立柱建物跡・堀跡・井戸、土坑墓
御所之内遺跡群	14次	H4. 9~10月	西日町字築山983-1他	216㎡	墓地造成	堀・溝・井戸等
御所之内遺跡群	15次	H5. 1~6月	西日町字御所之内927-1	390㎡	個人住宅建設	井戸・溝等
御所之内遺跡群	16次	H5. 6月	西日町字御所之内927 1	55㎡	アパート建設	井戸等
御所之内遺跡群	17次	H6. 2月	西日町字御所之内939 8	16㎡	保養所増築	開池・井戸
御所之内遺跡群	18次	H6. 5月	西日町字御所之内926-2	62㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・溝・土坑
御所之内遺跡群	19次	H7. 8~9月	西日町字御所之内971 2	101㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・溝等
御所之内遺跡群	20次	H8. 2~4月	西日町字御所之内928-3	89㎡	個人住宅建設	溝・地形整形の跡等
御所之内遺跡群	21次	H8. 6~8月	寺家字御座所23-1他	96㎡	個人住宅建設	溝
御所之内遺跡群	22次	H10. 8月~H11. 3月	寺家字御座所1219-5他	374㎡	範囲確認	土坑・溝、かわかけ溝・小堀跡
御所之内遺跡群	23次	H11. 11月~H12. 3月	寺家字御座所1219-10	166㎡	範囲確認	土坑・溝等
御所之内遺跡群	24次	H11. 3~5月	寺家字御座所16	45㎡	範囲確認	土坑・溝等
御所之内遺跡群	25次	H12. 8~12月	寺家字御座所1219-7他	883㎡	範囲確認	土坑・溝等
御所之内遺跡群	26次	H13. 5月~H14. 1月	寺家字御座所1234-1他	446㎡	範囲確認	堀・溝・柱穴等
願成院跡	—	S34	寺家字池島		地形測量	園地範囲推定
願成院跡	0次	S42	寺家字池島83-1他	140㎡	寺院修葺	人御堂・新御堂
願成院跡	1次	S45. 2~3月	寺家字池島37-1他	590㎡	宅地造成	南寄
願成院跡	2次	S45. 7~9月	寺家字池島83-4他	511㎡	範囲確認	南新御堂池
願成院跡	3次	S49.	寺家字池島83-4他	135㎡	範囲確認	南新御堂池
願成院跡	4次	S56. 8月~S57. 3月	寺家字守山1212 1他	281㎡	墓地造成	宗室墓・井戸他
願成院跡	5次	S57. 8~9月	寺家字池島83-6他	88㎡	墓地代替地	石塔群・段状遺構
願成院跡	6次	S63. 1~2月	寺家字池島83-4他	109㎡	収蔵庫建設	段状遺構・段状遺構
願成院跡	7次	H元. 8~9月	寺家字池島112-1他	258㎡	公民館建設	
願成院跡	8次	H7. 9~12月	寺家字池島80-2他	466㎡	宅地分譲	溝
光聖寺跡	1次	S61. 5~6月	寺家字池島30-1	145㎡	寺院修葺	井戸・溝
廣輪寺跡	1次	S62. 11月	寺家字池島93-3	103㎡	個人住宅建設	柱穴跡
廣輪寺跡	2次	S63. 11月~H元. 2月	寺家字池島93-14他	492㎡	宅地分譲	井戸・土坑墓・溝・石積の跡
廣輪寺跡	3次	H元. 7~8月	寺家字池島93-4	206㎡	個人住宅建設	土坑墓・溝・石積の跡
守山寺守山西地区	1次	H11. 9~10月	伊集野西大淵469-5他	275㎡	範囲確認	土坑・溝



第5図 遺跡周辺の地籍図

II. 調査に至る経緯・調査方針・調査経過

1. 調査に至る経緯

東京急行電鉄株式会社（以下、会社側と表記）から70周年記念事業として水宝閣跡地にセミナーハウス建設の計画があるとして、埋蔵文化財の存在確認調査依頼が提出されたのは平成3年(1991)3月18日のことであった。同月28日に現地踏査と後日の建物解体時に立会いを実施した結果、かわらけや陶磁器片の出土が確認された。30日、埋蔵文化財の確認結果を報告するとともに、ここで事業を実施する場合には発掘調査が必要であることを伝える。同年10月15日付けで教育長宛に発掘調査依頼が提出され、同月28日付けで埋蔵文化財発掘調査届を提出。11月19日付けで県教委から発掘指示が届く。翌平成4年(1992)2月3日、葦山町と会社側との間で発掘調査委託契約を締結し、3月9日から発掘調査に着手した。

2. 調査経過

平成4年(1992)3月9日機材搬入後、土層と遺物包含層位を確認するため建物予定地の外側1.5mに沿って9箇所のテストピットを開ける。3月11日全体を予定建物の形状にあわせて1～5区に区分けし、重機を投入して2m近い表土を除去しながら遺構検出に入った。工程は下表のとおりである。

以下、発掘調査の進行に併せて実施した打ち合わせ、調整等の経過を追ってみる。

会社側との打ち合わせは毎月1回行うこととした。遺構や遺物の量が予想を越えて数多く検出されたため、7月7日の打ち合わせで調査期間延長をお願いし、8月6日の打ち合わせで11月までの調査延長が承認された。9月3日及び10月2日の打ち合わせを経て10月10日には現地説明会を実施し、97名の参加者があった。この後、塀を伴った掘立柱建物などが検出され、遺跡の重要性が増したため、11月5日の打ち合わせで再度期間延長をお願いするが、期限内に調査を完了する見込みは難しくなった。

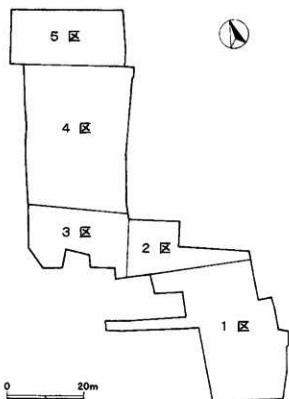
12月17日、現場をマスコミに公開する。21日には会社側へ工事関係の進行を一時ストップするように依頼する。年末から翌平成5年当初にかけて県文化課や研究者の視察や見学が相次ぎ、1月18日には

御所之内遺跡第13次調査工程表

I 期調査(平成4年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1区	遺構検出・調査			実測	遺構検出・調査				実測
2区					遺構検出・調査				実測
3区	遺構検出・調査					遺構検出・調査			実測
4区	遺構検出・調査						遺構検出・調査		実測
5区					遺構検出・調査			実測	

※第II期調査については日誌不明のため、行程表作成出来ず



第6図 調査区設定図

第Ⅱ期調査委員会構成

委員長 渡辺文三(町長) 副委員長 齊藤 宏 委員 小和山哲男 小野真一 大原美方
 指導機関 五島康司 佐藤正知(県文化課)

調査主体 並山町教育委員会 調査員 秋本真澄(加藤学園考古学研究所)

6月5日、第2回調査委員会を開催し、検出遺構および遺物について検討する。6月21日、第3回調査委員会。遺物の年代および遺構の性格について検討する。7月25日、第Ⅱ期調査終了。

7月25日、第4回調査委員会開催。遺跡全体の評価および保存と開発について検討する。調査結果概要および保存策をまとめる。

8月16日、三者協議実施。調査結果報告および計画変更の要請をするが、会社側からは困難との回答。

9月13日、三者協議実施。文化庁と協議の結果、国指定の価値があるとして前回案を再提示。代替案や事業撤退等について協議する。

10月20日、発掘調査終了報告を会社側に提出。

10月26日、二者協議実施。

平成6年6月9日、文化庁と協議。国指定申請書を作成するよう指導がある。

8月1日、会社側と土地売買に関する覚書を締結。

12月13日、全調査費精算。会社側の支出は24,423,458円となる。

12月27日、調査用地確保のため、土地使用貸借を締結。

平成7年3月8日、史跡整備委員会設置。

平成8年1月29日、国指定申請書を提出。3月23日国指定審議委員現地視察。

4月19日、国指定答申され、9月5日史跡「北条氏邸跡」として15,326.72㎡が指定告示される。

静岡県考古学会から町長、教育長、県知事、県教育長、東急、文化庁宛に、保存と調査継続の要望書が提出された。県文化課、文化庁等と協議の末、2月17日に県教委を交えて会社側との協議(以下、三者協議)を行った。この席上、県文化課から町の体制が不十分なので、調査組織をつくり、継続調査が必要との指導を受けた。会社側は70周年事業として平成5年中に着工したい、そのために追加調査に応じる旨の回答があった。

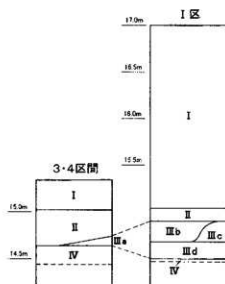
2月20日、町教育委員会では他遺跡の発掘調査を実施する必要が生じたため、町文化財保護審議委員会で検討し、当遺跡の調査を加藤学園考古学研究所に委託することにした。

3月10日、二者協議実施。継続調査の方法・金額・時期、および設計変更、国指定同意等についても協議する。同月15日、第Ⅱ期調査を開始する。また、遺跡の調査方法・評価について指導・助言する機関として調査委員会を設置し、4月10日、第1回の調査委員会を開催し、経過報告をするともに、今後の調査方針、計画について検討した。

3. 土層

調査区の基本層序は次のとおりである。

- I層 盛土層で、北部では35cm前後、南部では1.9mほどみられる。
- II層 旧表上で、多くは畑の作上である。
- III層 中世遺物の包含層で、南部及び東部で厚く、北・西部では消滅してしまい、III層を除去すると中世遺構検出面となる。I区では上層（III c 浅黄色系）と、それを覆うように分布するIII b 砂質層があり、その下部には造成による数枚の薄層からなるIII d 層が堆積する。
- IV層 黄褐色系の中世基盤層で、北部では中世前期及び後期の遺構検出面となり、南部では中世前期の検出面となっている。IV層内には弥生時代後期から古代にかけての遺構・遺物を包含するが、中世遺構保存のため、調査していない。



第7図 基本土層図

III. 遺構と遺物

1. 遺構

第13次調査は、4年度と5年度の2度にわたって調査が行われた。4年度は1区から5区に向けて谷奥の南側から北にかけて順次遺構を確認、調査を行った。翌年の5年度は、1区の拡張からはじまり、2・3区の柱穴の調査を行った。しかし、調査途中で、当遺跡の保存が検討されはじめたため、2・3区と4区の南側は、遺構の確認のみで掘り下げは行わずに保存した。

確認した遺構は、掘立柱建物跡12棟、塀跡と思われる柱穴列9基、低い土壇状の遺構1基、井戸4基、溝状遺構39基、土坑墓5基、土坑62基、集石遺構19基、その他柱穴等を含むピット多数である。

掘立柱建物跡12棟のうち、完掘したものは7棟である。他の5棟は柱穴の確認のみにとどまっている。柱穴列のうち3基は掘立柱建物跡を取り囲むように検出されており、塀跡と考えられる。5号柱穴列のみ確認にとどまっており、その他は調査を行っている。井戸は4基のうち2基を調査した。溝状遺構39基のうち、中世の遺構は19基で、その他は近世以降の溝である。土坑墓は5基検出され、いずれもかわらけなどの出土遺物がある。土坑は62基検出されているが、遺物が出土し時期を確定できたものは少ない。集石遺構は1区を中心に19基検出した。

(1) 掘立柱建物跡・柱穴列

掘立柱建物は12棟検出した。このうち完掘したのは第1号～第5号掘立柱建物跡、第11号・第12号掘立柱建物跡の7棟である。第6号掘立柱建物跡は一部の柱穴は確認のみの調査で、第7号～第10号掘立柱建物跡は柱穴プランの確認のみにとどまり、内部を調査していない。

第1号掘立柱建物跡 SH01 (第10・11図 図版1)

第1号掘立柱建物跡は調査区北部で検出した4×2間の総柱建物である。柱間は2.1mを測り、面積は約51㎡である。南側に1.6mの庇が設けられている。柱穴は南西隅を除き19基確認された。円形、楕円形、隅丸方形を呈し、径40～60cmの比較的大きなものである。確認面からの深さは10～25cmと浅い。主軸方位は、N-86°-Wである。

南側に第1号柱穴列(SA01)が同方向で確認されており、当掘立柱建物跡に付随するものと思われる。

出土遺物はピット14からかわらけの破片2点が出土したほか、わずかしら認められず、図示可能遺物はない。

第2号掘立柱建物跡 SH02 (第12・13図 図版1)

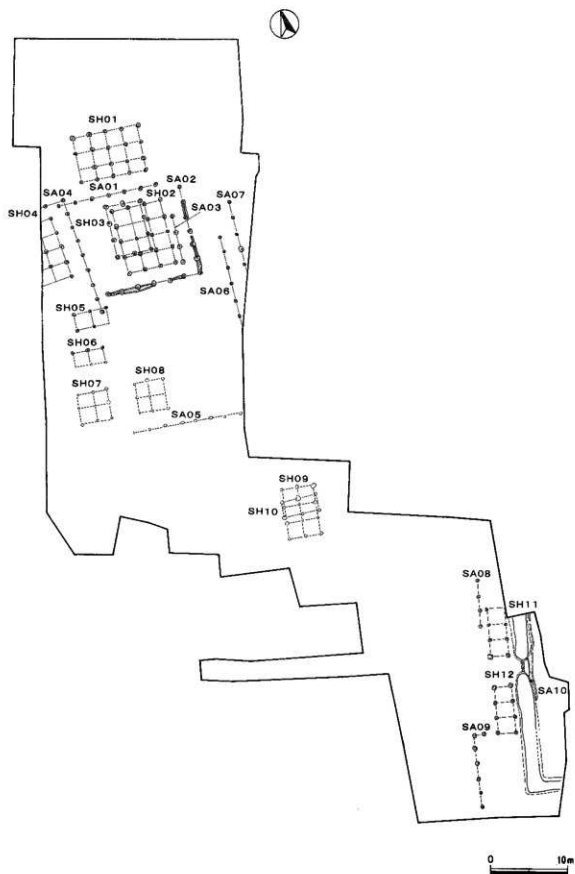
第2号掘立柱建物跡は調査区北部、第1号掘立柱建物跡の南側で検出した。第3号掘立柱建物跡と北西部で重複するが、新旧関係は不明である。3×4間の総柱建物で、柱間は2.1mを測る。面積は約56㎡である。柱穴は第1号井戸と重複している1基を除き19基確認された。円形、楕円形、隅丸方形を呈し、径30～50cm、確認面からの深さは20～48cmである。主軸方位は、N-87°-Wである。

本遺構と第3号掘立柱建物跡を囲むように、東・南側に第2号柱穴列(SA02)が検出されている。また、東側に近接して第3号柱穴列(SA03)が同方向で確認されている。

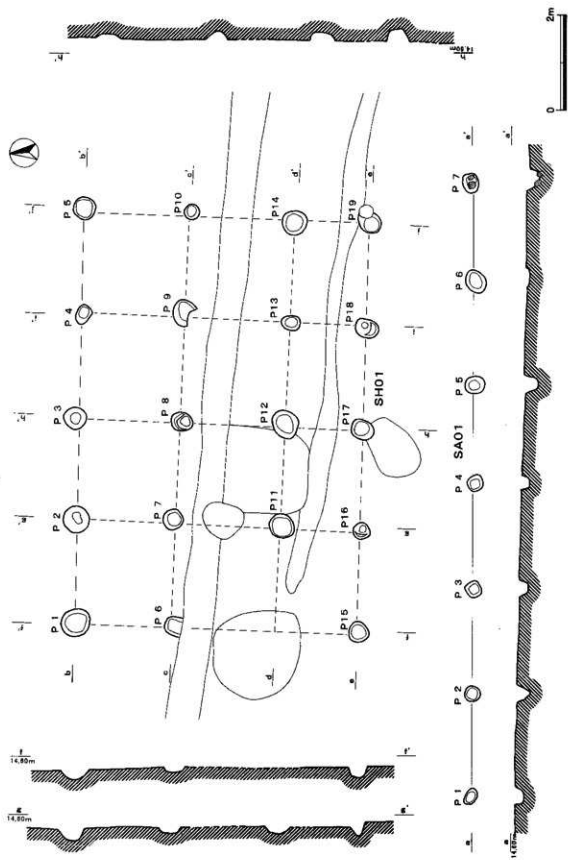
出土遺物はピット17から貿易陶磁白磁碗破片が、ピット2・4・5・10・12・13・16・18からかわらけの破片が、ピット3・7から鉄釘が出土している。図示可能なものはなかった。



第 8 図 遺構全体図



第9図 掘立柱建物跡・柱穴列配置図



第10图 第1号船立柱建筑物·第1号柱穴列(1)

第3号掘立柱建物跡 SH03 (第12・13図 図版1)

第3号掘立柱建物跡は第2号掘立柱建物跡の北西部で重複して検出された。新旧関係は不明である。2×3間の側柱建物である。柱間は2.1mを測り、面積は約28.3㎡である。柱穴は10基確認され、北西隅のビット1は2基の重複が確認された。円形、楕円形、隅丸方形を呈し、径40～60cmの比較的大きなものである。確認面からの深さは25～50cmである。主軸方位は、N-87° 30'-Wである。

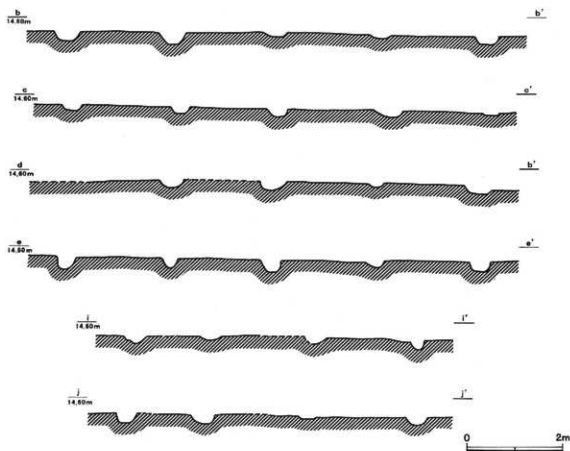
出土遺物はビット3から貿易陶磁白磁碗が、ビット2・3・4・6・8～10からかわらけが、ビット4から常滑甕・スラグが出土している。いずれも破片で、図示可能なものはなかった。

第4号掘立柱建物跡 SH04 (第14図 図版2)

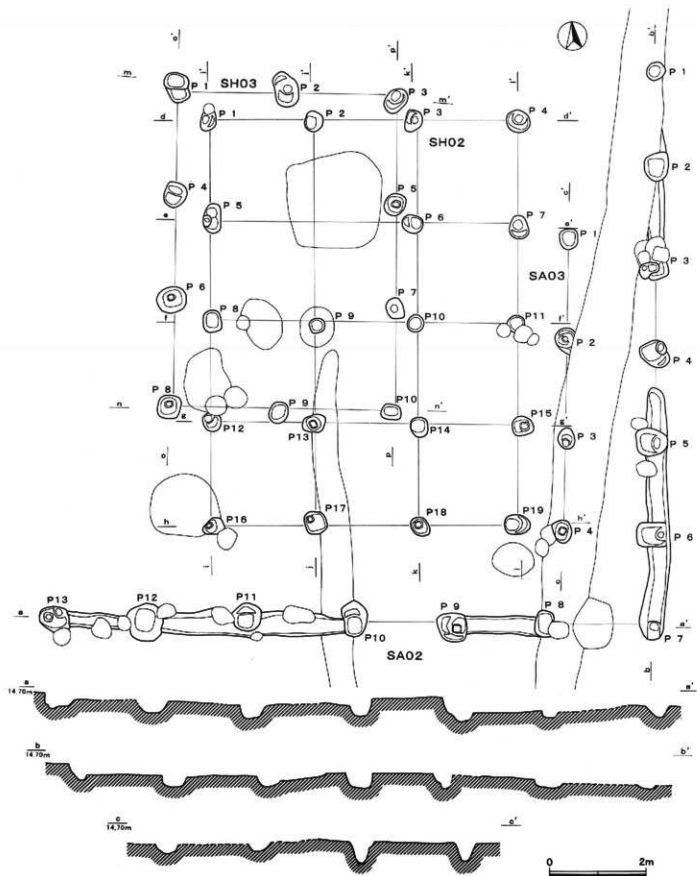
第4号掘立柱建物跡は調査区北西部で検出したもので、西側は調査区外にある。南北は4間、東西は2間以上の建物である。柱間は2.1mを測る。柱穴は7基確認された。楕円形またはやや不整な隅丸方形を呈し、径40～60cm、確認面からの深さは30～50cmである。主軸方位は、N-89° -Wで、第1～3号掘立柱建物跡とはやや異なる方向を示す。

北・東側に第4号柱穴列(SA04)が同方向で確認されており、本遺構に付随するものと思われる。

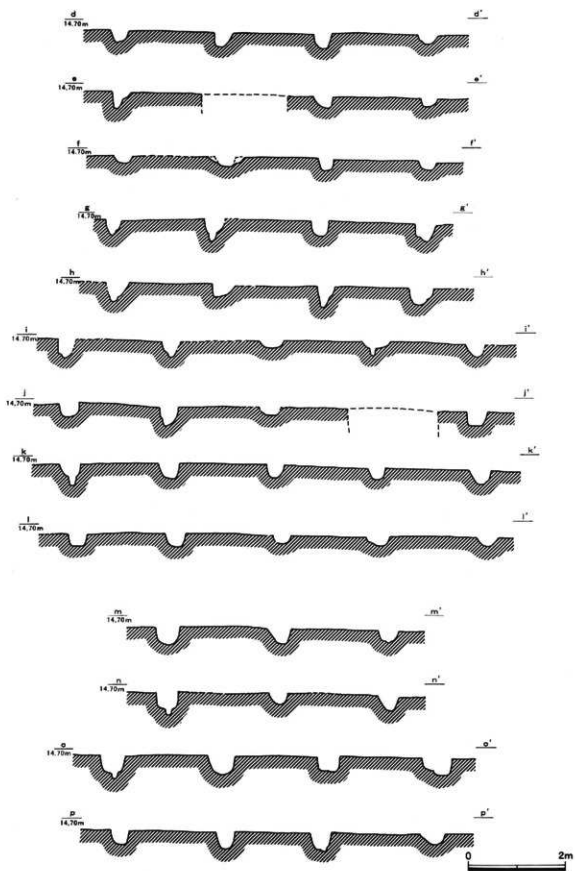
出土遺物はビット6を除くすべてのビットからかわらけの破片が出土したが、いずれも小片で図示はできなかった。また、ビット2から貿易陶磁白磁皿X類が出土している。



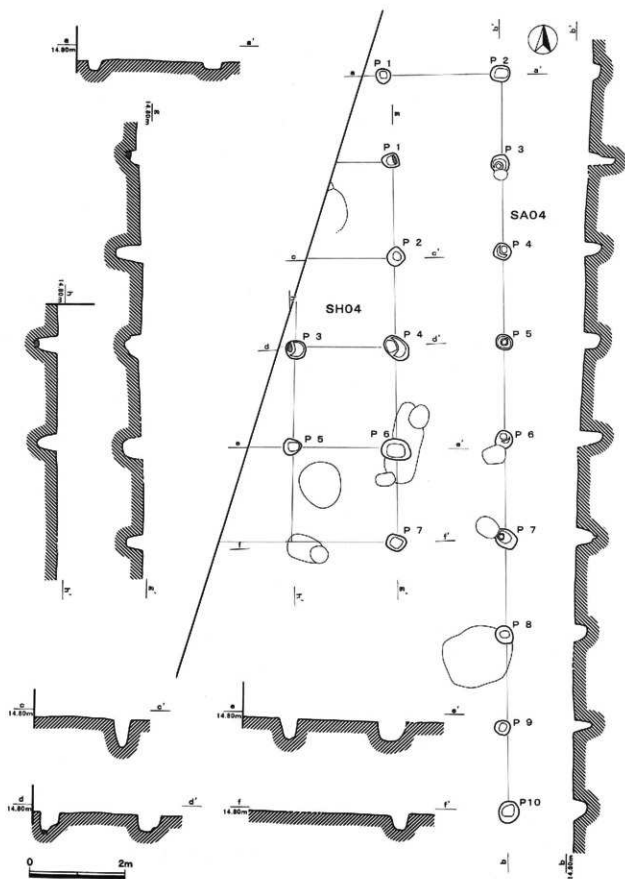
第11図 第1号掘立柱建物跡・第1号柱穴列(2)



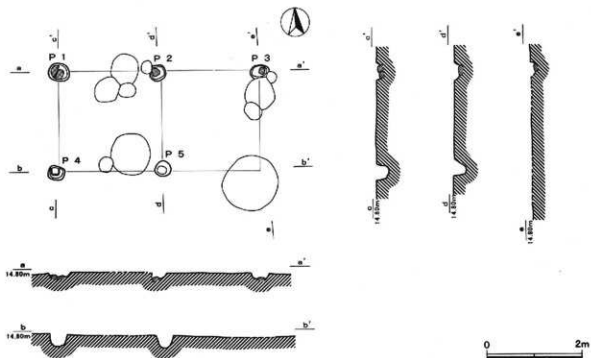
第12图 第2·3号掘立柱建物跡・第2·3号柱穴列(1)



第13圖 第2・3号掘立柱建物跡・第2・3号柱穴列(2)



第14图 第4号掘立柱建物跡・第4号柱穴列



第15図 第5号掘立柱建物跡

第5号掘立柱建物跡 SH05 (第15図)

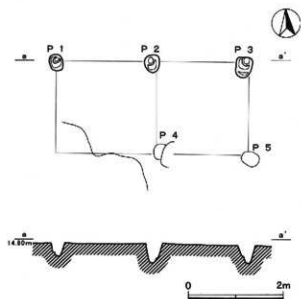
第5号掘立柱建物跡は第4号掘立柱建物跡の南で検出したもので、 2×1 間の建物である。柱間は2.1mを測り、面積は約9.5 m^2 である。柱穴は土坑と重複した南東隅を除き5基確認された。円形または隅丸方形を呈し、径は30~45cmである。確認面からの深さは10~27cmと比較的浅い。主軸方位は、 $N-82^{\circ} 30'-W$ である。

出土遺物はすべてのピットからかわらけの破片が出土したが、いずれも小破片で図示可能遺物はない。

第6号掘立柱建物跡 SH06 (第16図)

第6号掘立柱建物跡は第5号掘立柱建物跡の南に位置する建物で、同じく 2×1 間である。柱間は2.1mを測り、面積は約8.0 m^2 と推定される。柱穴は南西隅が攪乱によって確認できなかったが、5基を検出した。そのうち、ピット1~3のみ掘り下げを行い、ピット4・5は確認のみにとどまっている。楕円形・隅丸方形を呈し、径35~40cmを測る。確認面からの深さは30~40cmである。主軸方位は、 $N-84^{\circ} 30'-W$ である。

出土遺物はピット2からかわらけの破片、ピット3からかわらけと瓦が出土した。瓦のみ図示可能であった。



第16図 第6号掘立柱建物跡

第7号掘立柱建物跡 SH07

第7号掘立柱建物跡は調査区ほぼ中央、第6号

掘立柱建物跡の南で検出したもので、 2×2 間の建物である。柱間は2.0mを測る。柱穴は確認のみで、内部の調査は行っていない。検出段階での柱穴の規模は、径30～50cmで、円形または楕円形を呈すると思われる。主軸方位は、 $N-83^{\circ} 30' -W$ である。

第8号掘立柱建物跡 SH08

第8号掘立柱建物跡は調査区ほぼ中央、第7号掘立柱建物跡と並列して検出された。同じく 2×2 間の建物である。柱間は2.0mを測る。柱穴は確認のみで、内部の調査は行っていない。検出段階での柱穴の規模は、径30～50cmで、円形または楕円形を呈すると思われる。主軸方位は、 $N-83^{\circ} 30' -W$ である。

第9号掘立柱建物跡 SH09

第9号掘立柱建物跡は調査区中央やや南、2区で検出された。第10号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。 2×3 間の総柱建物である。柱間は2.1mを測る。柱穴は12基確認したが、内部の調査は行っていない。検出段階での柱穴の規模は、径30～40cmで、円形または隅丸方形と思われる。主軸方位は、 $N-80^{\circ} -W$ である。

第10号掘立柱建物跡 SH10

第10号掘立柱建物跡は、第9号掘立柱建物跡と重複して出された。 1×2 間の建物で、柱間は2.1mを測る。柱穴は確認のみで、内部の調査は行っていない。検出段階での柱穴の規模は、径30～40cmで、円形または楕円形を呈すると思われる。主軸方位は、 $N-88^{\circ} -W$ である。

第11号掘立柱建物跡 SH11 (第17図)

第11号掘立柱建物跡は、調査区の南部、1区で検出した。第12号掘立柱建物跡と南北に並列し、東側に塀跡と思われるSA10、西側に第8号柱穴列があり、いずれも同方向を示している。 3×1 間の建物で、柱間は2.0mを測る。面積は約13.2 m^2 である。柱穴は調査区外にある1基を除き、7基確認された。楕円形または隅丸方形を呈し、径20～40cm、確認面からの深さは10～20cmである。主軸方位は、 $N-15^{\circ} -E$ である。

出土遺物はビット6から瓦破片が出土したのみで、図示可能なものはなかった。

第12号掘立柱建物跡 SH12 (第18図)

第12号掘立柱建物跡は、調査区の南部、1区で検出した。第11号掘立柱建物跡と南北に並列し、東側に塀跡と思われるSA10、南西に第9号柱穴列があり、いずれも同方向を示している。 3×1 間の建物で、柱間は2.0mを測る。面積は約12.5 m^2 である。柱穴は8基確認された。楕円形または不整形な隅丸方形を呈し、径30～50cm、確認面からの深さは10～25cmである。主軸方位は、 $N-12^{\circ} -E$ である。

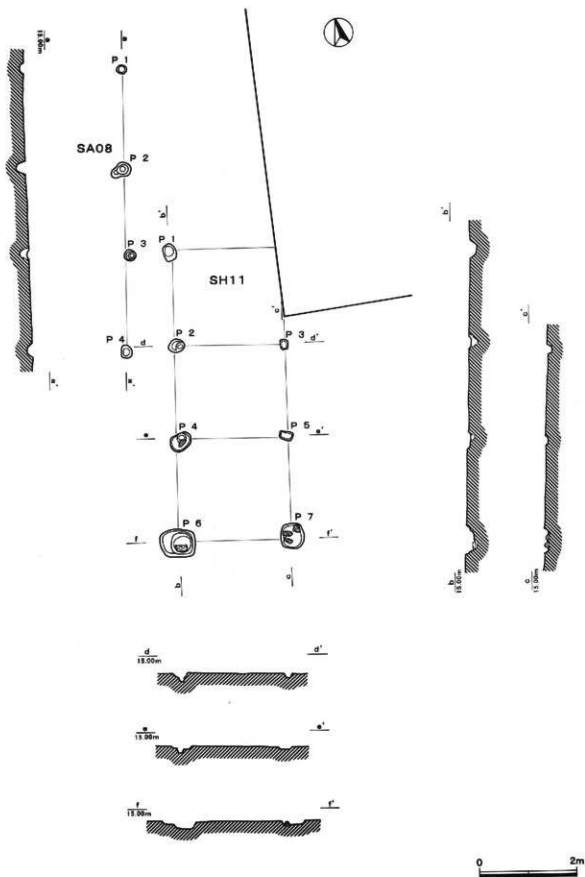
出土遺物はビット1～4からかわかけ破片が、ビット3から常滑甕が出土しているが、図示可能なものはなかった。

第1号柱穴列 SA01 (第10・11図 図版1)

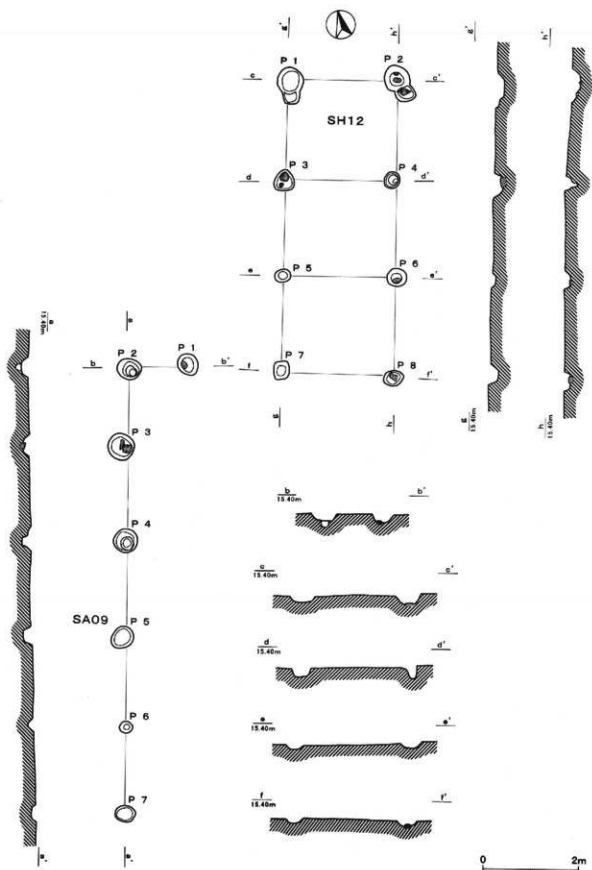
第1号柱穴列は調査区北部で検出したもので、北側に第1号掘立柱建物跡があり同方向を示す。同掘立柱建物跡に付随するものと思われる。

確認した柱穴は7基で、長さは13.2mを測る。柱間2.1mである。柱穴は円形または楕円形を呈し、径30～40cmで、深さは10～30cmである。主軸方位は $N-86^{\circ} -E$ である。

出土遺物はビット1・3～5でかわかけ破片が出土しているが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。



第17图 第11号掘立柱建物跡・第8号柱穴列



第18图 第12号掘立柱建物跡・第9号柱穴列

第2号柱穴列 SA02 (第12・13図 図版1)

第2号柱穴列は調査区北部で検出したもので、第2・3号掘立柱建物跡を囲むように逆L字形を呈している。両掘立柱建物跡あるいはいずれかに付随するものと思われる。

確認した柱穴は13基と溝状遺構4基で構成され、一部布堀を伴う跡跡と考えられる。検出された長さは南北12.0mで6間、東西12.92mで6間である。柱間は2.0～2.1mである。柱穴は円形または楕円形を呈し、径40～60cmで、深さは20～50cmを測る。主軸方位はN-87°-Wである。布堀の溝は4基で、南北に2基、東西に2基検出されている。断面U字状を呈す。

出土遺物はピット3を除くすべての柱穴・溝からかわらけ破片が出土しているが、いずれも小破片のため図示はできなかった。また、ピット11から貿易陶磁褐釉壺、ピット13から青磁劃花文碗、溝から白磁碗・青磁河女窯系碗が出土している。また東遠江系の山茶碗が出土しているが、小破片のため詳細は不明である。溝からは軽石製凹石が2点出土しており、第53図に図示した。

第3号柱穴列 SA03 (第12・13図 図版1)

第3号柱穴列は第2・3号掘立柱建物跡と第2号柱穴列の間で検出した。確認した柱穴は4基で、長さは6.6mを測る。柱間は2.1mである。柱穴は楕円形を呈し、径45～55cmで、深さは25～50cmである。主軸方位はN-3°30'-Eである。

出土遺物はピット2～4でかわらけ破片が出土しているが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。

第4号柱穴列 SA04 (第14図 図版2)

第4号柱穴列は調査区北西部で検出したもので、第4号掘立柱建物跡を囲むように、北・東に逆L字状に展開している。同掘立柱建物跡に付随するものと思われる。

西側は調査区外にあるため、現状で確認した柱穴は10基である。南北は9基の柱穴で構成され8間、長さは15.5mである。東西では2基の柱穴が確認され、2間以上と思われる。残存長2.8mである。柱間は1.9～2.1mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径30～40cmで、深さは15～50cmである。主軸方位はN-3°30'-Eである。

出土遺物はすべての柱穴からかわらけ破片が出土しているが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。

第5号柱穴列 SA05

第5号柱穴列は調査区ほぼ中央で検出したもので、東西方向に配置されている。第8号掘立柱建物跡の南に位置するが、主軸方位が若干異なっている。

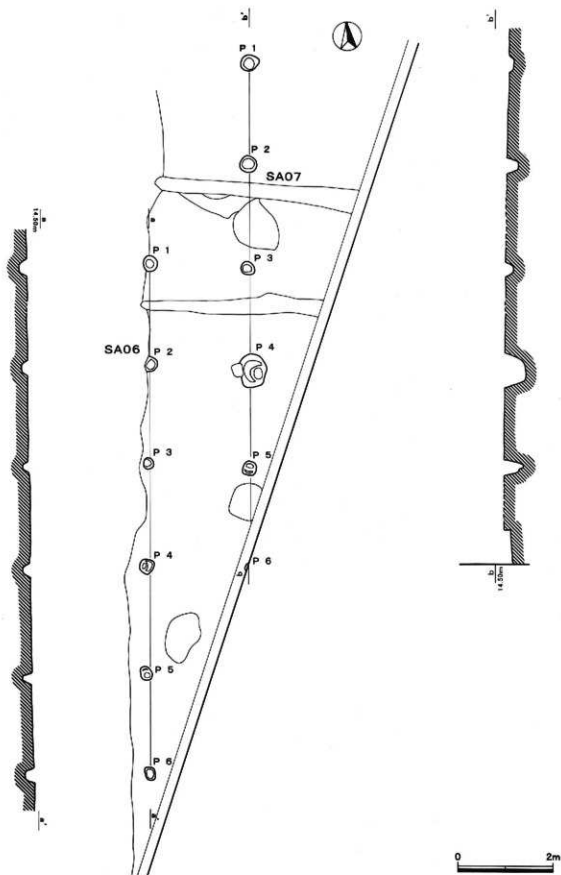
柱穴の確認のみを行い、内部の調査は行っていない。また、東側は調査区外にあるため全体の規模は不明である。確認した柱穴は8基で、長さは14.2mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20～50cm、柱間は2.1mである。主軸方位はN-85°-Wを示す。

第6号柱穴列 SA06 (第19図)

第6号柱穴列は調査区北部の東端で検出したもので、南北に配置された柱穴列である。東側の第7号柱穴列とほぼ並列する。南側は調査区外にあるため、全体規模は不明である。

確認した柱穴は6基で、残存長は11.1mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20～35cmで、深さは10～30cmである。主軸方位はN-4°-Eである。

いずれの柱穴からも出土遺物は認められなかった。



第19图 第6·7号柱穴列

第7号柱穴列 SA07 (第19図)

第6号柱穴列は調査区北部の東端で検出したもので、南北に配置された柱穴列である。西側の第6号柱穴列とほぼ並列する。南側は調査区外にあるため、全体規模は不明である。

確認した柱穴は6基で、残存長は11.0mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20~35cmで、深さは10~20cmである。主軸方位はN-3°-Eである。

出土遺物はビット2・4・5からかわかけ破片が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

第8号柱穴列 SA08 (第17図)

第1号柱穴列は調査区南部で検出したもので、南東側に第11号掘立柱建物跡があり同方向を示す。

確認した柱穴は4基で、長さは6.0mを測る。柱間は2.0mである。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20~30cmで、深さは10~20cmである。主軸方位はN-14°30'-Eである。

いずれの柱穴からも出土遺物は認められなかった。

第9号柱穴列 SA09 (第18図)

第1号柱穴列は調査区北南で検出したもので、北東側に第12号掘立柱建物跡があり同方向を示す。

確認した柱穴は7基で、北端はL字に屈曲する。南北長は9.6mで、柱間は1.8~2.0mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20~30cmで、深さは10~20cmである。主軸方位はN-14°30'-Eである。

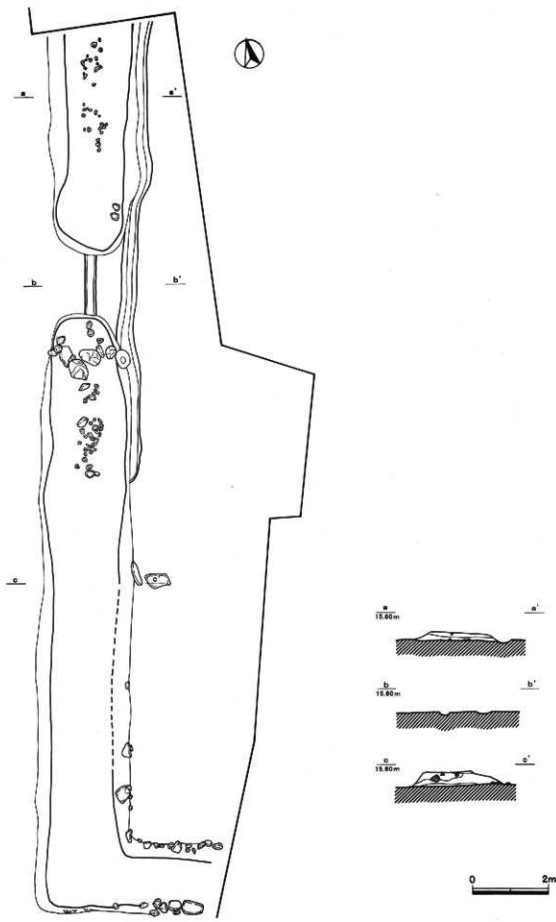
出土遺物はビット1~3・5・7でかわかけ破片、ビット6で瓦質製品、ビット7で常滑甕が出土しているが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。

第10号遺構 SA10 (第20図)

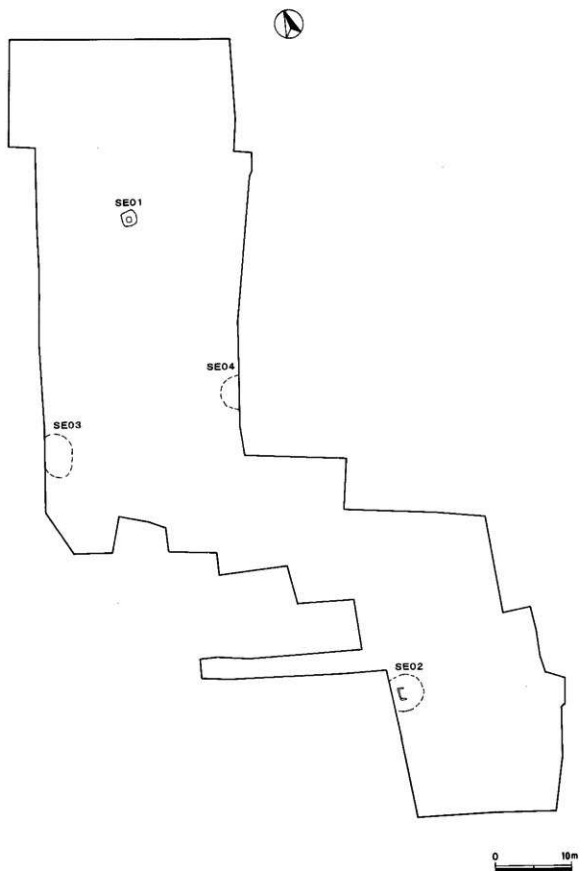
第10号遺構は調査区南東部で検出したもので、北・東側には調査区外にある。西側に第11・12号掘立柱建物跡、第8・9号柱穴列があり、ほぼ同方向を示す。

高さ20~30cmの低い上畳状の高まりが廻る遺構で、現状で確認できる規模は、南北23.5m、東西5.0mである。幅は1.9~2.7mを測り、南部で西側に屈曲している。南北方向のやや北寄りに切れ目があり、また、一部下層では2条の溝状遺構も確認された。主軸方位はN-10°-Eを示す。

出土遺物はかわかけ、貿易陶磁青磁碗、常滑甕、鉄釘などがあるが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。



第20図 第10号遺構 (築地堰基礎)



第21図 井戸配置図

(2) 井戸

井戸は4基を検出したが、第1・2号井戸の2基のみ調査を行いし、他は確認のみにとどまった。

第1号井戸 SE01 (第22図 図版3)

第1号井戸は調査区北部で検出したもので、第2・3号掘立柱建物跡と重複しており、覆土の観察から本遺構が古いと認識した。

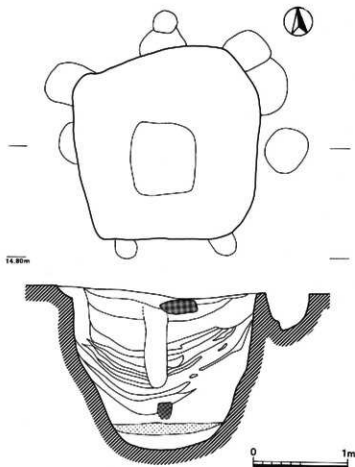
規模は上部が2.0×1.9m、底部が0.75×0.69mの隅丸方形を呈し、深さ1.7mの素掘りの井戸である。下部に砂層が堆積しており、また上部には周囲から流れ込んだ砂利層が認められた。

出土遺物は、貿易陶磁の白磁・青磁、東遠江系山茶碗、かわらけなどがある。かわらけの中には、古代末の様相を呈するものもあり、また古代末の灰軸陶器も出土している。

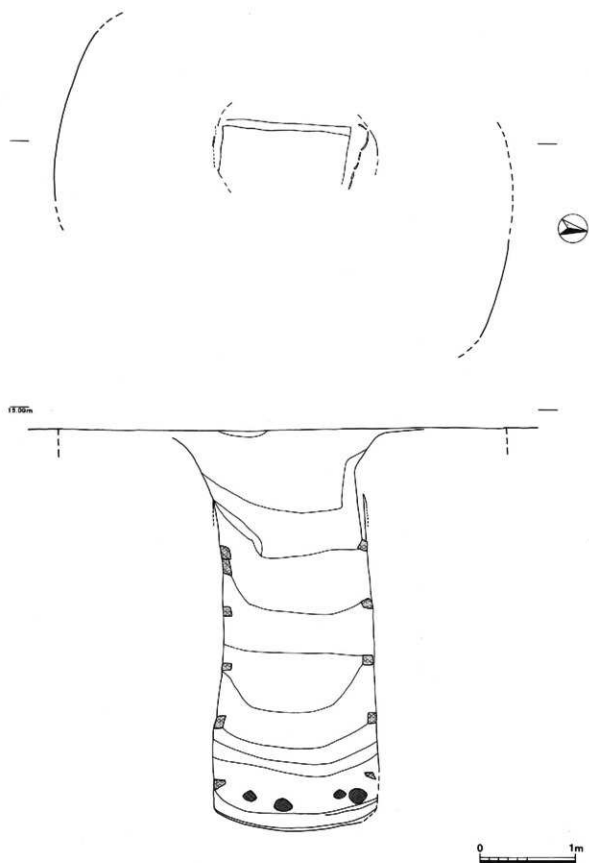
第2号井戸 SE02 (第23図)

第2号井戸は調査区南部の1区で検出した。調査途中で崩落したため、規模の詳細は明らかではなく、また掘り方もプランのみの確認である。木枠井戸で、木枠の規模は1辺1.5mの方形で、深さは4.2mまで調査を行った。掘り方は径4.9mほどの円形とみられる。

出土遺物は貿易陶磁白磁・青磁、常滑甕、東遠江系山茶碗、かわらけ等で、かわらけはロクロ成形ものもと手づくね成形のものが大量に認められた。他に木製箸や種子、獣骨等が出土した。



第22図 第1号井戸



第23図 第2号井戸

第3号井戸 SE03

第3号井戸は調査区中央西寄りの3区で検出したもので、規模や覆土のようすから井戸と判断したが、検出面でのプランの確認のみで、調査は行ってない。5.0×4.0mの楕円形を呈すと思われるが、井戸の種類は不明である。

第4号井戸 SE04

第4号井戸も、プランの確認のみにとどまっている。調査区中央東寄りの4区で検出したもので、規模や覆土のようすから井戸と判断した。径5.0mの円形プランのみ確認した。

(3) 溝状遺構

溝状遺構は39基検出した。このうち、第1～19号が中世の溝であり、第20～39号は近世以降のものである。

中世の溝状遺構

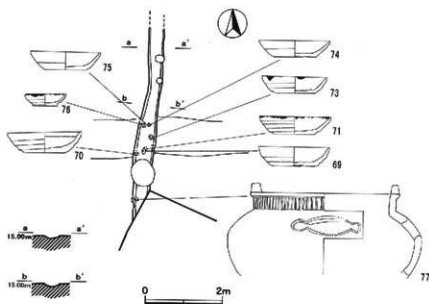
第1号溝状遺構 SD01 (第26図)

第1号溝状遺構は調査区ほぼ中央2区から3区にかけて検出した。東西に走る溝で、西部ではやや屈曲する。東端は第1号集石と重複したため、未調査である。検出長は36.6mで、幅0.6～1.2m、深さは29～45cmであった。断面はU字形を呈する。溝底は検出範囲内で、東側に35cm下がっている。第2号溝状遺構・第11号溝状遺構と重複しており、第2号溝状遺構よりも本遺構が古く、第11号溝状遺構との新旧関係は不明である。

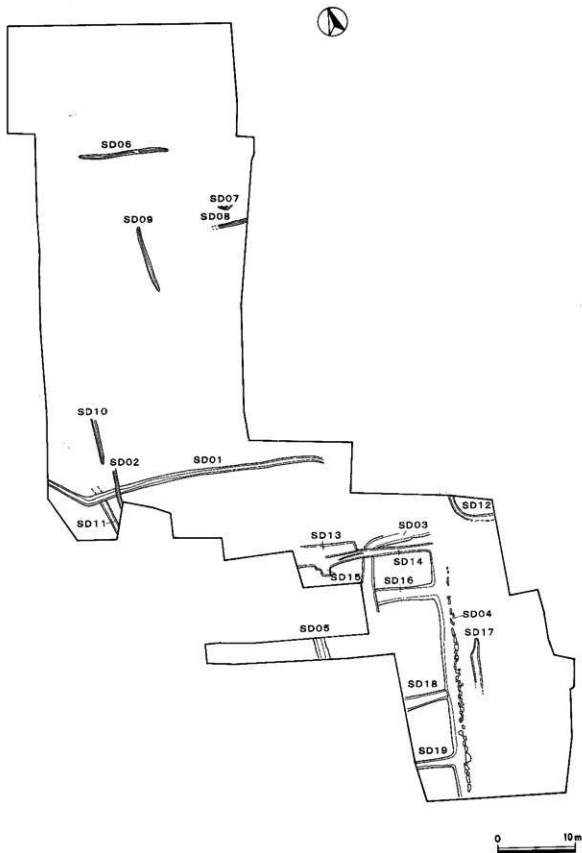
出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・山茶碗・砥石・銭貨などである。かわらけは、4ヶ所で集中する箇所が認められた。

第2号溝状遺構 SD02 (第24図)

第2号溝状遺構は調査区中央やや西寄りの3区検出した南北溝である。第1号溝状遺構と重複しており、本遺構が新しい。また、北部は未調査である。検出長は4.6mで、幅0.5m、深さは10cmと浅く、断面形は皿状を呈す。やや屈曲気味であるが、主軸方位は、 $N-4^{\circ}-30'-E$ である。溝底は検出範囲内



第24図 第2号溝状遺構



第25図 中世溝状遺構配置図

で、北側に19cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・常滑・瓦質風炉などがある。

第3号溝状遺構 SD03 (第27図 図版3)

第3号溝状遺構は調査区南部の1区で検出した。L字に屈曲する溝で、北部は攪乱のため確認できなかった。第14号溝状遺構と重複し、本遺構が古い。検出長は16.5mで、幅1.45m、深さは40~70cmであった。断面はU字形を呈する。溝底は検出範囲内で、東側に14cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・常滑・などである。

第4号溝状遺構 SD04 (第28・29図 図版4・5)

第4号溝状遺構は調査区南部1区で検出した南北溝で、北部は集石群と重複したため、未調査である。第16・18・192号溝状遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。東側のみは大小の礫によって石積状に構築されていた。検出長は31.6mで、最大幅2.0m、深さは40~70cmで、断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-13°-Eである。溝底は検出範囲内で、北側に57cm下がっている。出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・志戸呂・瓦質製品・砥石・銭貨・スラグなどが出土している。とくにかわらけは実測個体で243点、総破片数で6,000点以上の数量が出土している。また、瓦質製品も種類・量ともに豊富で、火鉢・風炉・香炉などがあり、総破片数は65点を数える。

第5号溝状遺構 SD05 (第30図 図版5)

第5号溝状遺構は調査区南部、1区から西に延長したトレンチで検出された。南北に走る溝で、検出長は2.3mで、幅1.5m、深さは28cmであった。断面はU字形を呈し、主軸方位は、N-5°-Eである。

出土遺物は、検出範囲が限られているため少ないが、かわらけ・瀬戸美濃・釘などが出土している。

第6号溝状遺構 SD06 (第30図)

第6号溝状遺構は調査区北部の4区で検出した。東西にほぼ直線的に走る溝で、掘込みが浅いため東西端は検出できなかった。検出長は11.25mで、最大幅は0.5m、深さは7cm程度であった。断面は皿形を呈する。主軸方位は、N-76°-Wを指す。溝底は検出範囲内で、東側に11cm下がっている。

出土遺物は、かわらけの破片が少量出土しているのみで、図示可能なものはなかった。

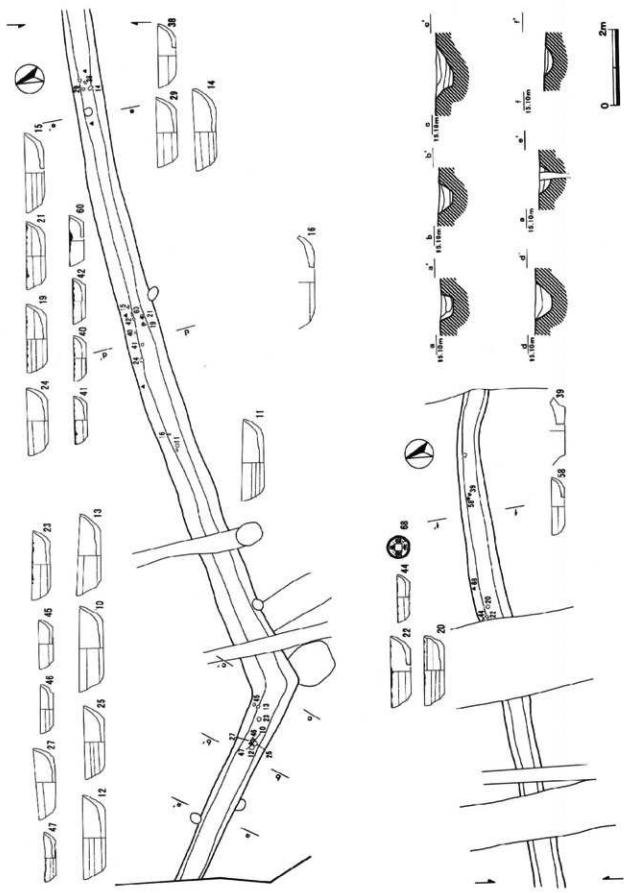
第7号溝状遺構 SD07 (第30図)

第7号溝状遺構は調査区北部4区で検出した。近世の第28号溝状遺構と重複しているため、一部を検出したにすぎない。やや屈曲気味の溝である。検出長は1.5mで、幅0.35m、深さは20cm、断面はU字形を呈する。

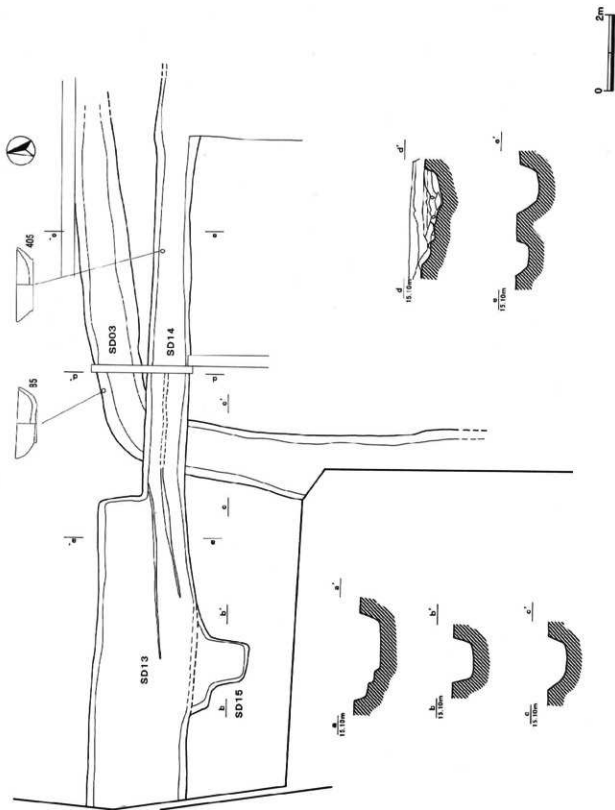
出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・釘などがあるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。

第8号溝状遺構 SD08 (第30図)

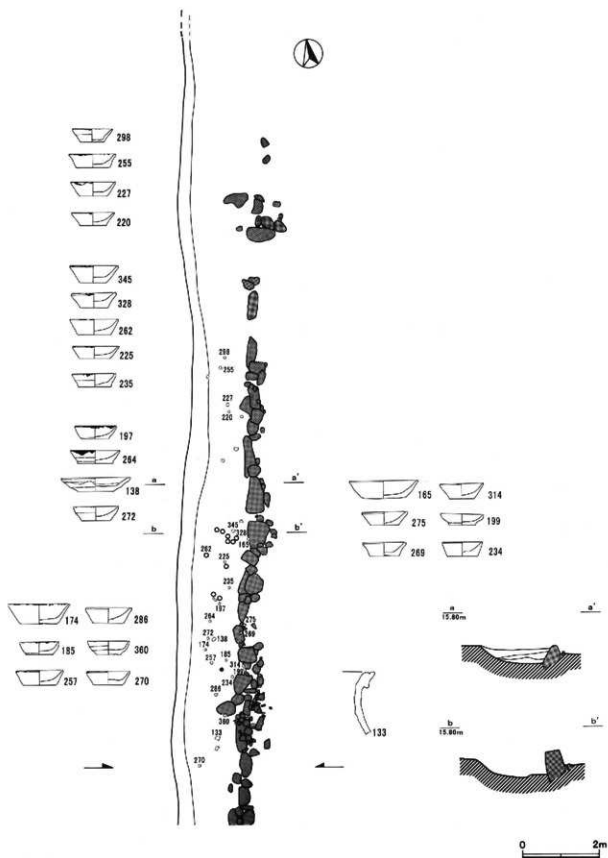
第8号溝状遺構は調査区北部4区で検出した。西側は近世の第21号溝状遺構と重複し、東は調査区外にあるため、一部を検出したにすぎない。検出長は3.75mで、幅0.20~0.45m、深さは10cmと浅く断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-83°-Wである。溝底は検出範囲内で、西側に5cm下がっている。出土遺物はなかった。



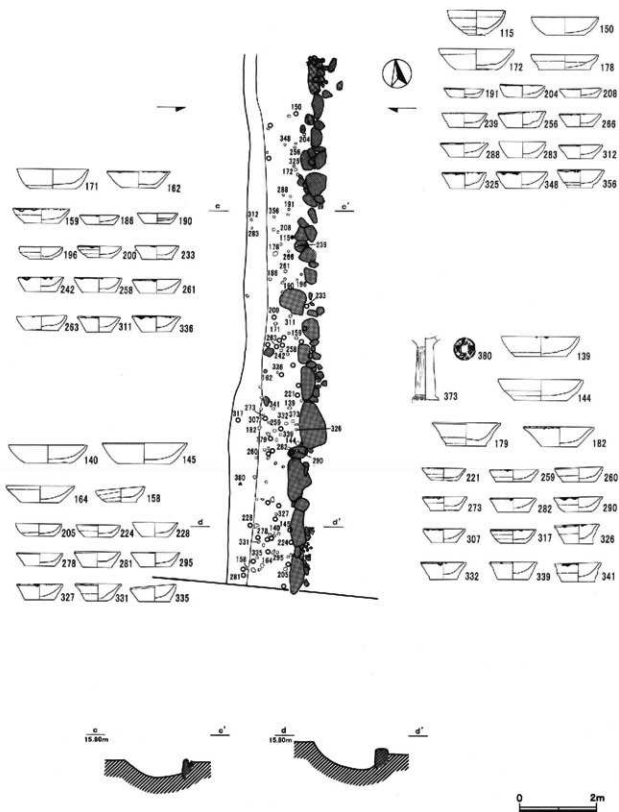
第26图 第1号溝状遺構



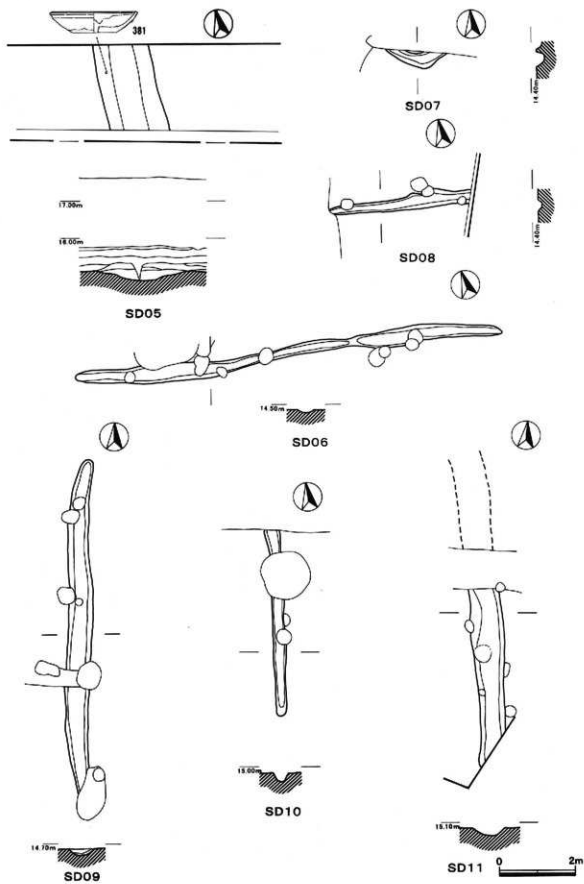
第27图 第3·13~15号溝状遺構



第28图 第4号溝状遺構(1)



第29図 第4号溝状遺構(2)



第30図 第5～11号溝状遺構

第9号溝状遺構 SD09 (第30図)

第9号溝状遺構は調査区北部4区中央で検出した南北溝である。南部は土坑と重複しているため不明、北部は確認面からの深さが少ないため不明瞭であった。検出長は8.5mで、幅0.6m、深さは20cmであった。断面はU字形を呈し、主軸方位は、N-30°-Eである。溝底は検出範囲内で、北側に5cm下がっている。

出土遺物はかわらけの小破片があるのみで、図示可能遺物はなかった。

第10号溝状遺構 SD10 (第30図)

第10号溝状遺構は調査区ほぼ中央3区で検出した南北溝である。北部はピット群・土坑等と重複しているため未調査、南部は確認面からの深さが少ないため不明瞭であった。検出長は4.9mで、幅0.4m、深さは20cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-9°-Eである。溝底は検出範囲内で、北側に15cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・常滑などがあり、貿易陶磁青磁碗1点・かわらけ5点図示可能であった。

第11号溝状遺構 SD11 (第30図)

第11号溝状遺構は調査区ほぼ中央3区で検出した。南北に走る溝で、南部は調査区外、北部は第1号溝状遺構と重複し、その北側は未検出であった。第1号溝状遺構との新旧関係は確認できなかった。検出長は4.25mで、幅0.6~0.9m、深さは20cmと浅く、断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-7°30'-Wである。溝底は検出範囲内で、北側に6cm下がっている。

出土遺物にはかわらけ・貿易陶磁・常滑などがあるが、貿易陶磁青磁碗1点のみ図示可能であった。

第12号溝状遺構 SD12 (第31図)

第12号溝状遺構は調査区東端2区で検出した。屈曲する溝で、両端ともに調査区外にあるため、全容は不明である。また、南側は近現代の水路があったため、確認できなかった。検出長は7.1mで、幅0.7m、深さは12cmと浅く、断面皿状を呈する。溝底は検出範囲内で、東側に2cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・常滑・瓦質製品などがあるが、図示可能遺物はなかった。

第13号溝状遺構 SD13 (第27図)

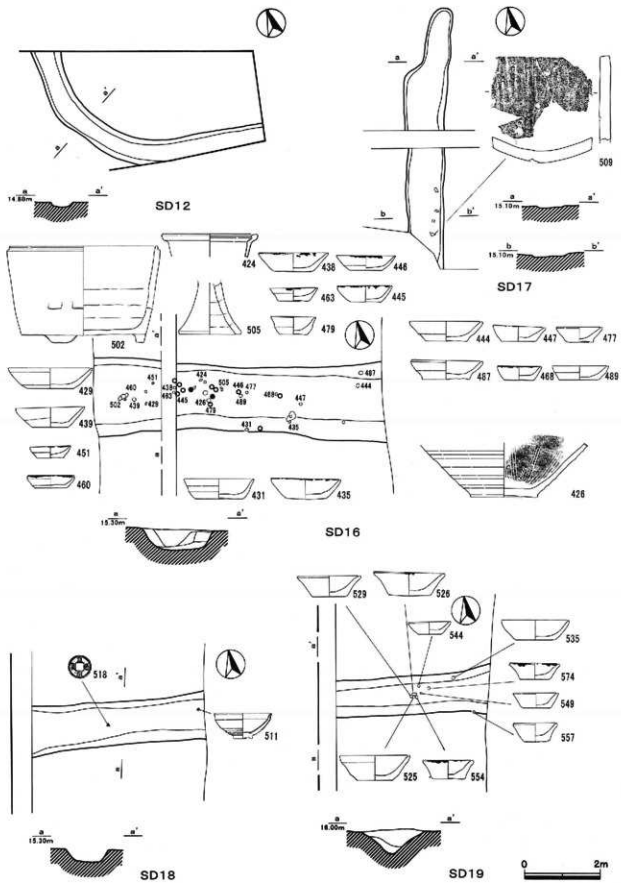
第13号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、第14・15号溝状遺構と重複しているが、新旧関係等は確認できなかった。検出長は8.3mで、確認できた幅1.65m、深さは52cmであった。断面は逆台形状を呈する。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・瓦質製品などがある。

第14号溝状遺構 SD14 (第27図)

第14号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、第3・13・15号溝状遺構と重複する。第3号溝状遺構より新しい溝で、第13・15号溝状遺構との新旧関係は不明である。また、第4号溝状遺構の北部とも重複するが、その新旧関係も確認できなかった。検出長は19.2mで、幅1.1m、深さは26cmを割り、断面は逆台形を呈する。主軸方位は、N-76°-Wを指す。溝底は検出範囲内で、西側に14cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・志戸呂・瓦質製品・瓦・石製品等があり、種類・量ともに豊富である。貿易陶磁・常滑・かわらけ・石製品等が図示可能遺物であった。



第31图 第12·16~19号沟状遗構

第15号溝状遺構 SD15 (第27図)

第15号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。第13・14号溝状遺構と重複するが、一部の検出にとどまっているため、規模や方向など不明な点が多い。検出長は1.55mで、幅1m前後、深さは56cmであった。断面は逆台形状を呈する

出土遺物は、かわらけ・常滑などがあり、3点が図示可能であった。

第16号溝状遺構 SD16 (第31図)

第16号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、西部では第3号溝状遺構と、東部は第4号溝状遺構と重複する。第3号溝状遺構よりも新しく、第4号溝状遺構との新旧関係は不明である。検出長は7.6mで、幅1.7~2.1m、深さは55cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-77°-Wを指し、第4号溝状遺構と直交する。溝底は検出範囲内で、東側に35cm下がっている。

出土遺物は種類・量ともに豊富で、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・志戸呂・瓦質製品・砥石等の石製品・刀子釘などの鉄製品などがある。とくにかわらけの出土量は多く、総破片数1,700点近く、図示可能個体数が70点あまりであった。また、瀬戸美濃も多く出土しており、38点出土し10点が図示可能であった。また志戸呂鉢鉢も2個体出土している。

第17号溝状遺構 SD17 (第31図 図版6)

第17号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。南北に走る溝で、第4号溝状遺構と併行するようにみえるが、北側は確認面からの深さが不明、南側は未調査である。検出長は6.3mで、幅0.6~1.0m、深さは10cmと浅く、断面皿状を呈する。主軸方位は、N-14°-30'-Wである。溝底は検出範囲内で、北側に4cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・瀬戸美濃・常滑・瓦などがあるが、瀬戸美濃天目茶碗と平瓦のみ図示可能であった。

第18号溝状遺構 SD18 (第31図)

第18号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、東部は第4号溝状遺構と重複し、西部は調査区外である。第4号溝状遺構との新旧関係は不明である。検出長は4.5mで、幅1.3m、深さは33cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-86°-Wを指し、第4号溝状遺構と直交するようすを示している。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・砥石・銭貨などがあり、全部で9点が図示可能であった。

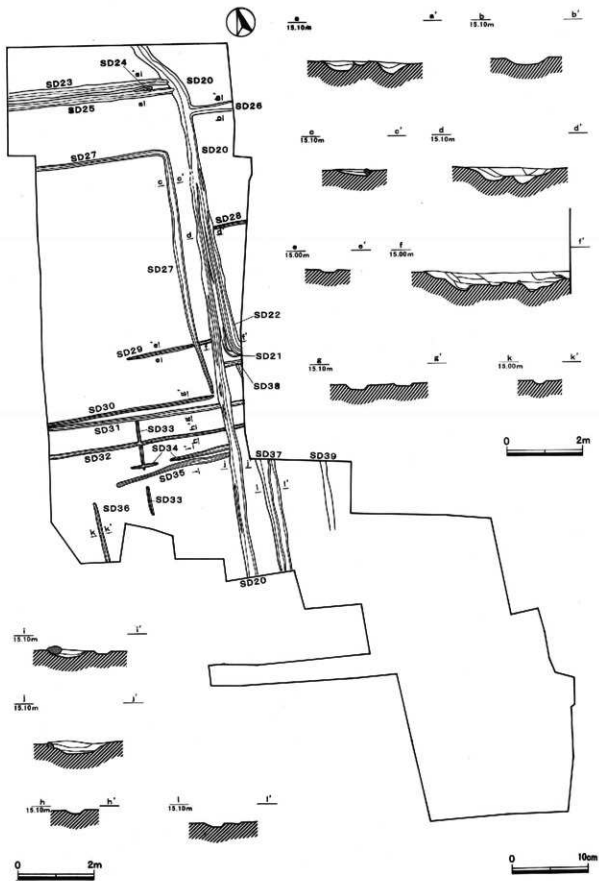
第19号溝状遺構 SD19 (第31図)

第1号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、東部は第4号溝状遺構と重複し、西部は調査区外である。第4号溝状遺構との新旧関係は不明である。検出長は4.0mで、幅1.0m、深さは63cmを測り、断面はV字形を呈する。主軸方位は、N-77°-30'-Wで、第18号溝状遺構同様、第4号溝状遺構と直交する。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・瓦質製品・瓦・砥石等石製品などがある。かわらけの出土量は多く、総破片数770点、図示可能個体数が54点であった。

近世以降の溝状遺構 (第32図 図版6)

第20~39号溝状遺構は近世以降の溝である。南北に走る比較的大きな溝である第20・21・22・37号溝状遺構とそれらと直交する東西溝の第23・24・25号溝状遺構などがあり、さらに小規模な溝が多数検出された。



第32図 近世以降溝状遺構配置図

第20号溝状遺構 SD20

第20号溝状遺構は調査区北部から中央やや南寄りの5区から2区にかけて検出された南北方向の溝状遺構である。南北端とも調査区外にあり、全体の規模は不明である。4区で第21・22号溝状遺構と重複するが、両者よりも本遺構が古い。また、第23～25・26号溝状遺構をはじめ多くの東西溝と直交しているが、それらとの新旧関係は確認できなかった。検出長は71.7mで、幅1.3～1.8m、深さは30～60cmであった。断面はU字形を呈する。北部でやや屈曲するが、主軸方位は、ほぼN-9°-Eを指している。溝底は検出範囲内で、北側に113cm下がっている。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃類・徳利、唐津と肥前産の碗・皿、瓦質の甕などがある。その他、中世の貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・かわらけなどが混入している。

第21号溝状遺構 SD21

第21号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出された南北方向の溝状遺構である。第20・22号溝状遺構と重複し、第20号よりも新しく第22号よりも本遺構が古い。北部は第20号溝状遺構と重複しているため不明、南部では東方向に屈曲して調査区外に延びている。検出長は14.1mで、幅0.55m、深さは33cmで、断面はU字形を呈する。南部の屈曲を除いた主軸方位は、N-5°-Eである。溝底はほぼ平らであった。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃類、肥前産の磁器碗・皿などがあるが、小破片のため図示可能遺物はなかった。

第22号溝状遺構 SD22

第22号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出された南北方向の溝状遺構である。第20・21号溝状遺構と重複し、両者よりも本遺構が新しい。北部は第20・21号溝状遺構と重複しているため不明、南部では第21号溝状遺構と併行して東方向に屈曲して調査区外に延びている。検出長は25.5mで、幅1.4m、深さは50cmで、断面は皿状を呈する。南部の屈曲を除いた主軸方位は、N-4°-Eである。溝底は検出範囲内で、北側に19cm下がっている。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃類、肥前産の磁器碗・皿などがあり、その他中世の貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑なども混入している。いずれも小破片であり、図示可能遺物はない。

第23号溝状遺構 SD23

第23号溝状遺構は調査区北部5区で検出した東西溝である。東端は第20号溝状遺構と重複し、西部では調査区外にある。また、第24・25号溝状遺構と併行して配置されている。検出長は20.8mで、幅0.7～1.2m、深さは37cm。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-79°-Wである。溝底は検出範囲内で、西側に13cm下がっている。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃類、肥前産の磁器碗・皿などである。その他中世の貿易陶磁・瀬戸美濃・かわらけなども出土しており、図示可能遺物は中世の貿易陶磁白磁碗・瀬戸美濃天目茶碗である。

第24号溝状遺構 SD24

第24号溝状遺構は調査区北部5区で検出した東西溝である。東端は第20号溝状遺構と重複し、西部では調査区外にある。また、第23・25号溝状遺構と併行・一部重複している。25号溝状遺構との新旧関係は、本遺構が新しいことが確認されている。検出長は3.1mで、幅0.3m、深さは10cmと浅く、断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-79°-Wである。溝底は検出範囲内で、西側に8cm下がっている。遺物は出土しなかった。

第25号溝状遺構 SD25

第25号溝状遺構は調査区北部5区で検出した東西溝である。東端は第20号溝状遺構と重複し、西部では調査区外にある。また、第23・24号溝状遺構と併行し、第24号溝状遺構と一部重複している。第24号溝状遺構より本遺構が古い。検出長は21.5mで、幅0.6~1.0m、深さは25~34cm、断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-79°-Wである。溝底は検出範囲内でほぼ水平であった。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃類、肥前産の磁器碗・皿、石製品などである。その他中世の瀬戸美濃・常滑・かわらけなども出土している。図示可能遺物は軽石を加工した石製品と中世の瀬戸美濃半碗である。

第26号溝状遺構 SD26

第26号溝状遺構は調査区北部5区で検出した東西溝である。西端は第20号溝状遺構と重複し、東端は調査区外に延びている。第20号溝状遺構と直交する位置関係にあるが、新旧関係等は不明である。検出長は5.3mで、幅1.2m、深さは48cmで、断面逆台形を呈する。主軸方位は、N-81°-Wである。溝底は検出範囲内で、西側に5cm下がっている。遺物は出土しなかった。

出土遺物は、近世の陶磁器破片が少量出土しているのみで、図示可能なものはなかった。

第27号溝状遺構 SD27

第27号溝状遺構は調査区北側4区で検出した溝状遺構で、逆L字形に配置されている。西端は調査区外にあり、南端は確認面からの深さが非常に浅くなっているため検出できなかった。検出長は総計で48.2m、幅は狭い部分で0.2m、最も広い部分は1.2mを測る。深さは10~25cmで、断面はU字形を呈する。主軸方位は、南北方向の溝でN-6°-30'-Eである。溝底は検出範囲内で、西から東へ21cm、南から北へ42cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・砥石などが出土している。

第28号溝状遺構 SD28

第28号溝状遺構は調査区北部4区で検出した東西溝である。西端は第22号溝状遺構と重複し、東端は調査区外に延びている。第22号溝状遺構と直交する位置関係にあるが、新旧関係等は不明である。検出長は4.3m、幅0.4m、深さは13cmである。断面U字形を呈する。主軸方位は、N-86°-Wを指している。溝底は検出範囲内で、西側に5cm下がっている。

出土遺物は、かわらけの小破片が少量出土しているのみで、図示可能なものはなかった。

第29号溝状遺構 SD29

第29号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出した。東西に走る溝で、東部で第27号溝状遺構・第20号溝状遺構と重複する。また、西端は確認面からの深さが非常に浅くなっているため検出できなかった。検出長は11.4mで、幅0.4m、深さは5cmと浅い。断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-86°-Wで、上記の溝とほぼ直交する。溝底は検出範囲内で、東側に12cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・中世のかわらけ・瀬戸美濃・常滑などであるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。

第30号溝状遺構 SD30

第30号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出した。東西に走る溝で、第27号溝状遺構の南北方向とほぼ直交する。西端は調査区外に延びている。検出長は22.1mで、幅0.4m、深さは10cm、断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-83°-30'-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に24cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・中世のかわらけ・瀬戸美濃・常滑・瓦などで、17世紀代の瀬戸美濃志野皿と瓦各1点が図示可能であった。

第31号溝状遺構 SD31

第31号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出した。東西に走る溝で、東部で第20号溝状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。また、第32号溝状遺構と平行する。東西両端は調査区外に延びている。検出長は25.5mで、幅0.6m、深さは14cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-83°-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に39cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・中世のかわらけ・瀬戸美濃・常滑などであるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。

第32号溝状遺構 SD32

第32号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出した。東西に走る溝で、東部で第20号溝状遺構と重複し、第31号溝状遺構と平行する。第20号溝状遺構との新旧関係は不明である。東西両端は調査区外に延びている。検出長は25.0mで、幅0.5m、深さは15cm、断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-84°-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に29cm下がっている。

出土遺物は、かわらけの小破片があるのみで、図示可能遺物はなかった。

第33号溝状遺構 SD33

第33号溝状遺構は調査区中央やや南の4区から3区にかけて検出した。南北に走る溝で、第30～32・34号溝状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。また、第35号溝状遺構と交差する付近では、掘込みが浅く検出できない部分がある。検出長は12.8mで、幅0.3m、深さは7cmと浅く、断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-9°-Eである。溝底は検出範囲内で、北側に24cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ・貿易陶磁・常滑などが出土しているが、いずれも小破片で図示可能遺物はない。

第34号溝状遺構 SD34

第34号溝状遺構は調査区中央やや南の3区で検出した。東西に走る溝で、第20号・33号溝状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。また、一部掘込みが浅く検出できない部分がある。検出長は12.7mで、幅0.2～0.5m、深さは10cmと浅く、断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-86°-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に26cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・瓦質製品・石製品などで、ほかに中世のかわらけ片等もある。このうち、17世紀代唐津皿2点が図示可能であった。

第35号溝状遺構 SD35

第35号溝状遺構は調査区中央やや南の3区で検出した。東西に走る溝で、東部で第20号溝状遺構と重複するが新旧関係は不明である。西側は掘込みが浅いため検出できなかった。検出長は15.0mで、幅0.4～1.1m、深さは10～20cm、断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-89°-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に37cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・かわらけ・瓦質製品・石製品等で、中世の瓦質火鉢と凹石状の石製品を図示した。

第36号溝状遺構 SD36

第36号溝状遺構は3区の南西で検出した南北方向の溝である。西部ではやや屈曲する。南端は調査区外の延びており、また北部は掘込みが浅いため検出できなかった。検出長は7.9mで、幅0.3~0.6m、深さは10cm前後であった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、 $N-4^{\circ}-30'-E$ である。溝底は検出範囲内ではほぼ水平であった。

出土遺物は、かわらけ小片と鉄釘があるが、小破片のため図示はできなかった。

第37号溝状遺構 SD37

第37号溝状遺構は2区で検出された南北溝である。第20号溝状遺構と平行するようであるが、南北両端とも調査区外に延びており全体は明らかではない。検出長は28.0mで、幅1.6~2.2m、深さは約30cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、 $N-7^{\circ}-E$ である。溝底は検出範囲内、北側に20cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ・貿易陶磁・常滑などで、図示可能遺物は後者の中世のものであった。

第38号溝状遺構 SD38

第38号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区の東端で検出した。東西に走る溝で、第20号溝状遺構と重複し、東側は調査区外に延びている。検出長は2.3mで、幅0.6m、深さは約40cm、断面はU字形を呈する。主軸方位は、検出部分が少ないため不明である。

出土遺物は、近世陶磁器、中世のかわらけ・貿易陶磁・常滑などであるが、いずれも小破片であり図示可能遺物はなかった。

第39号溝状遺構 SD39

第39号溝状遺構は調査区ほぼ中央の2区で検出した南北溝である。検出面での確認のみで内部の調査は行っていない。確認できた検出長は9.2m、幅0.72mである。主軸方位は、 $N-9^{\circ}-E$ を指すと思われる。

(4) 土坑墓

土坑墓とみられる遺構は5基検出された。いずれも調査区の北部、4~5区で検出された。

第1号土坑墓 ST01 (第34図)

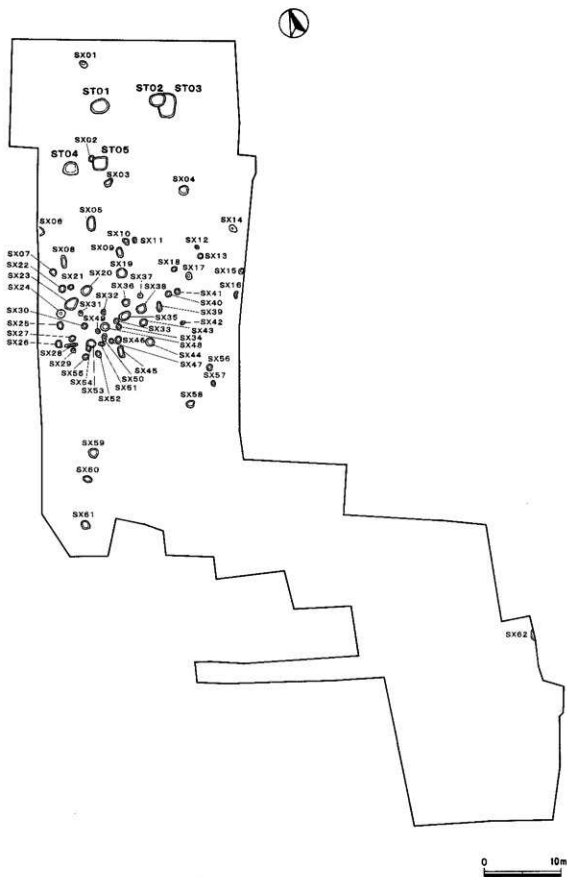
1号土坑墓は5区で検出した。2.36×1.86mの楕円形を呈し、深さは22cmを測る。西側の壁際に2基のピットが存在するが、本遺構に伴うものであるかは不明である。

出土遺物は、かわらけ・鉄釘で、かわらけ2点が図示可能であった。

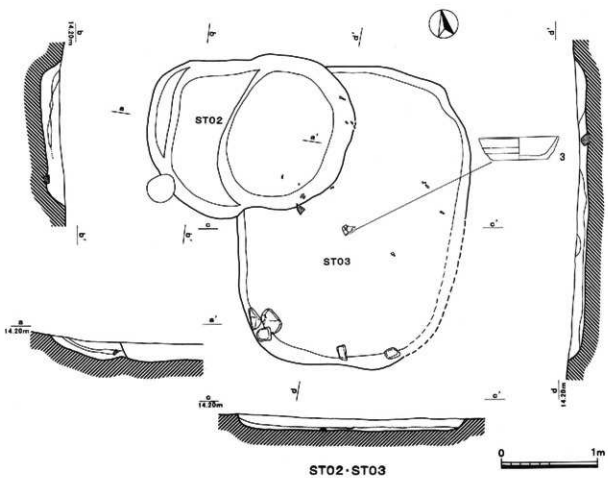
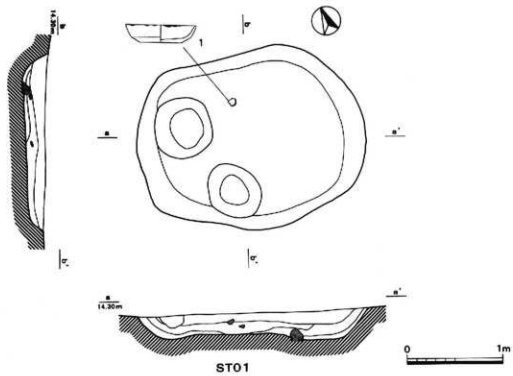
第2号土坑墓 ST02 (第34図)

第2号土坑墓は5区で検出した。第3号土坑墓と重複し、本遺構の方が古い。規模は2.14×1.6mの不整形で、深さは21cmである。また、2段の段差が認められた。

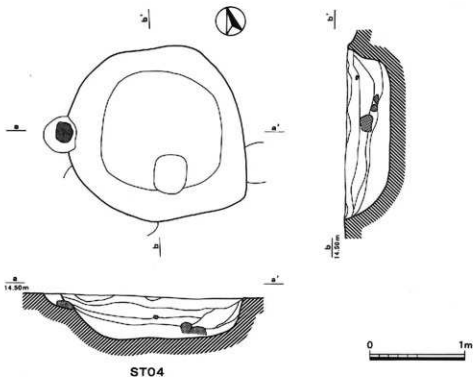
出土遺物は、かわらけ・鉄釘などで、他に漆片・骨片なども認められた。かわらけはいずれも小破片のもので、図示可能な遺物はなかった。



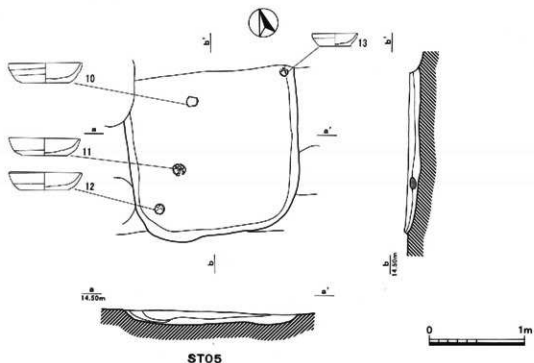
第33图 土坑墓·土坑配置图



第34图 第1~3号土坑墓



ST04



ST05

第35図 第4・5号土坑墓

第3号土坑墓 ST03 (第34図)

第3号土坑墓は5区で検出した。第2号土坑墓と重複し、本遺構が新しい。3.15×2.4mの楕円形を呈し、深さは15cmを測る。

出土遺物は、かわらけ・瓦・鉄釘などで、骨片なども確認された。かわらけ1点が図示可能であった。

第4号土坑墓 ST04 (第35図 図版2)

第4号土坑墓は4区北部で検出した。1.9×1.85mの不整形を呈し、深さは45cmを測る。
出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・鉄釘などで、かわらけ4点が図示可能であった。

第5号土坑墓 ST05 (第35図 図版2)

第5号土坑墓は4区北部で検出した。近世の溝である第27号溝状遺構と重複したため、北部は確認できなかった。東西長1.71m、南北は残存長1.77mで、隅丸長方形を呈すと思われる。掘込みは非常に浅く15cmほどであった。

出土遺物は、かわらけ・常滑・軽石加工品・鉄釘・スラグなどで、覆土内で炭化物も認められた。かわらけ7点と軽石製の凹石1点が図示可能であった。

(5) 土坑

土坑は62基検出した。土坑墓も含まれている可能性もあるが、形態や出土遺物からでは判断できないため、土坑として一括した。また、1区は集石等が多く検出されたため、その下部の遺構については確認していない。2・3区も検出面上での遺構プラン確認にとどまっており、土坑と思われる遺構についても内部の調査を行っていないため、土坑として扱っていない。そのため、必然的に4・5区に集中する傾向にみえるが、1～3区の再調査によって、この範囲においても土坑と認識される遺構が検出されることをあらかじめ断っておく。

第1号土坑 SX01 (第36図)

第1号土坑は調査区北辺近く5区の北部で検出した。1.05×0.8mの楕円形を呈し、深さは18cmと浅い。遺物は出土しなかった。

第2号土坑 SX02 (第36図)

第2号土坑は調査区北部4区で検出した。0.87×0.7mの不整形円形を呈し、深さは17cmを測る。第5号土坑墓と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。

第3号土坑 SX03 (第36図)

第3号土坑は調査区北部4区で検出した。1.38×0.8mの楕円形を呈し、深さは23cmを測る。出土遺物はかわらけ・常滑などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第4号土坑 SX04 (第36図)

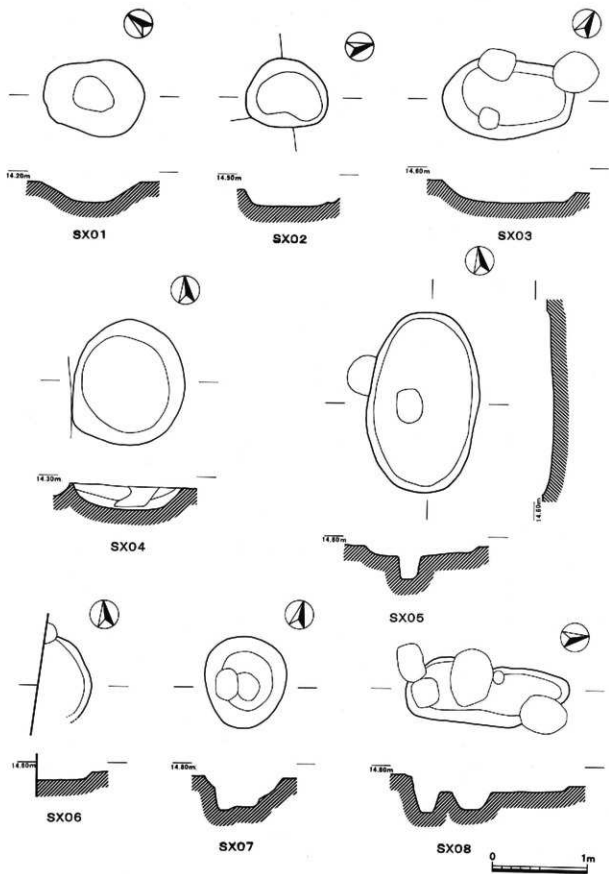
第4号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.33mの円形を呈する土坑で、深さは26cmを測る。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第5号土坑 SX05 (第36図)

第5号土坑は調査区北部4区で検出した。1.9×1.15mの長楕円形を呈する土坑で、深さは10cm前後と浅い。かわらけの小破片が出土しているのみで、図示可能な遺物はなかった。

第6号土坑 SX06 (第36図)

第6号土坑は4区西端で検出した。西側は未調査であるが、0.87mの円形を呈する土坑と思われる。



第36图 第1~8号土坑

深さは確認した範囲では9cmであった。遺物は出土しなかった。

第7号土坑 SX07 (第36図)

第7号土坑は4区で検出した円形の土坑である。径0.96mの小形の土坑で、深さは28cmを測る。いくつかのビットと重複しているが、新旧関係は不明である。かわらけの小破片が出土しているのみで、図示可能な遺物はなかった。

第8号土坑 SX08 (第36図)

第8号土坑は4区で検出した。1.73×0.66mの長楕円形を呈する土坑で、深さは17cmを測る。出土遺物は、かわらけの小破片があるのみで、図示可能な遺物はなかった。

第9号土坑 SX09 (第37図)

第9号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.35m・短辺1.0mの不整形を呈する土坑で、深さは15cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第10号土坑 SX10 (第37図)

第10号土坑は調査区北部4区で検出した。1.1×0.75mの楕円形を呈し、深さは8cmと非常に浅い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第11号土坑 SX11 (第37図)

第11号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.85mの円形を呈する土坑で、深さは10cmである。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第12号土坑 SX12 (第37図)

第12号土坑は調査区北部4区で検出した土坑である。0.6×0.5mの楕円形を呈し、深さは14cmである。出土遺物はかわらけのみであり、いずれも小破片で、図示可能な遺物はなかった。

第13号土坑 SX13 (第37図)

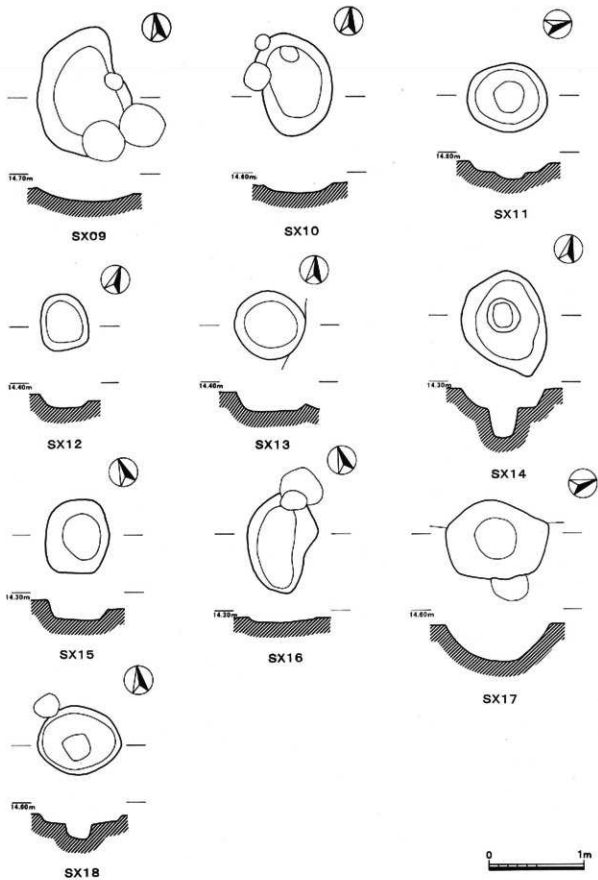
第13号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.75mの円形土坑で、深さは20cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第14号土坑 SX14 (第37図)

第14号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.05m・短辺0.9mの不整形を呈する土坑で、深さは20cmを測る。底部中央に径約40cm・深さ33cmほどのビットを伴う。出土遺物はかわらけ・古代末の上師器などがある。古代末の土師器1点が図示可能であった。

第15号土坑 SX15 (第37図)

第15号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺0.77m・短辺0.65mの隅丸方形を呈する土坑で、深さは21cmを測る。出土遺物はなかった。



第37图 第9~18号土坑

第16号土坑 SX16 (第37図)

第16号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.07m・短辺0.72mの不整形を呈する土坑で、深さは6cmほどで非常に浅い。小破片のかわらけが少量出土している程度で、図示可能な遺物はなかった。

第17号土坑 SX17 (第37図)

第17号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.05m・短辺0.8mの不整隅丸方形を呈する。断面U字状を呈す土坑で、深さは40cmを測る。遺物は出土しなかった。

第18号土坑 SX18 (第37図)

第18号土坑は調査区北部4区で検出した。0.88×0.72mの楕円形を呈する土坑で、深さは10cmを測る。底部中央でピットを検出したが、本遺構よりも新しい柱穴であると判断した。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第19号土坑 SX19 (第38図)

第19号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.45mの円形を呈する土坑である。深さは32cmを測り、底面はやや凹凸が認められた。かわらけが少量出土しており、手づくねかわらけ1点を図示した。

第20号土坑 SX20 (第38図)

第20号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.45m・短辺1.23mの不整形を呈する土坑で、底面はかなり凹凸が著しく、深さは16cmである。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第21号土坑 SX21 (第38図)

第21号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.7mの円形を呈する土坑で、深さは18cmを測る。遺物は出土しなかった。

第22号土坑 SX22 (第38図)

第22号土坑は調査区北部4区で検出した。ピットや攪乱等により全体を検出することはできなかったが、短辺0.77m、長辺の残存長約1mの楕円形と呈すと思われる。深さは60cmで断面U字状を呈す。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第23号土坑 SX23 (第38図)

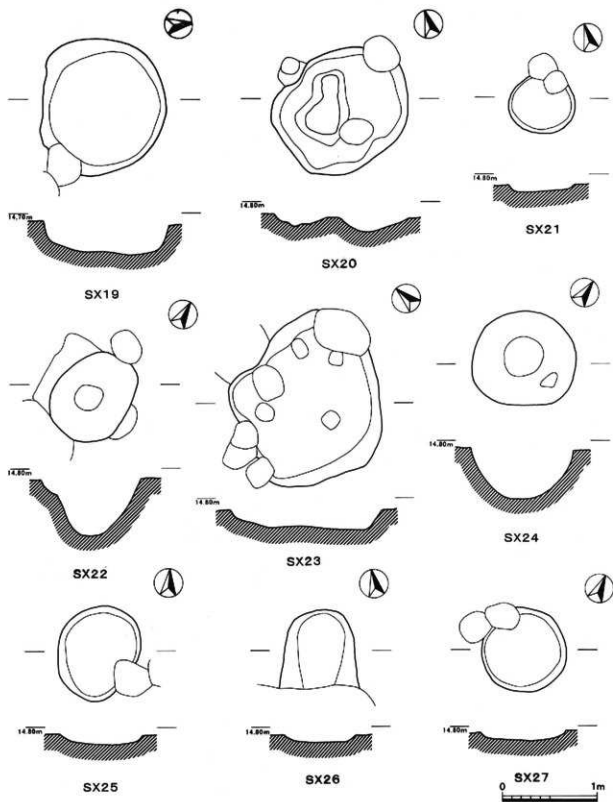
第23号土坑は調査区北部4区の西側で検出した。長辺1.65m・短辺1.38mの不整形を呈し、深さは20cmである。多くのピットと重複しているが、いずれも新旧関係など不明である。遺物は出土しなかった。

第24号土坑 SX24 (第38図)

第24号土坑は調査区北部4区の西側で検出した。径1.05mの円形を呈する土坑である。断面U字状で、深さは55cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第25号土坑 SX25 (第38図)

第25号土坑は調査区北部4区の西側で検出した。径1.0mの円形を呈する土坑で、深さは10cmと浅い。ピット1基と重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な



第38图 第19~27号土坑

遺物はなかった。

第26号土坑 SX26 (第38図)

第26号土坑は調査区北部4区で検出した。南側は攪乱により確認できなかった。楕円形を呈すと考えられ、短辺は0.75m、長辺の残存長は0.8mである。深さは8cmで、非常に浅い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第27号土坑 SX27 (第38図)

第27号土坑は調査区北部4区の西側で検出した。径0.9mの円形を呈する土坑で、深さは10cmと浅い。ビット2基と重複するが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ・渥美甕破片などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第28号土坑 SX28 (第39図)

第28号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.65m・短辺0.45mの長楕円形を円形を呈する土坑である。深さは21cmを測り、底面は平坦である。出土遺物はかわらけ・鉄釘などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第29号土坑 SX29 (第39図)

第29号土坑は調査区北部4区で検出した。0.68×0.56mのやや不整な隅丸方形を呈する土坑で、深さは40cmを測る。出土遺物はかわらけ・常滑甕などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第30号土坑 SX30 (第39図)

第30号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.89mの円形を呈する土坑で、深さは10cmを測る。ビット2基と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。

第31号土坑 SX31 (第39図)

第31号土坑は調査区北部4区で検出した。南側でビット2基と重複するため一部確認できなかったが、径0.65mの円形を呈する土坑と思われる。ビットとの新旧関係は不明である。深さは10cmと非常に浅い。遺物は出土しなかった。

第32号土坑 SX32 (第39図)

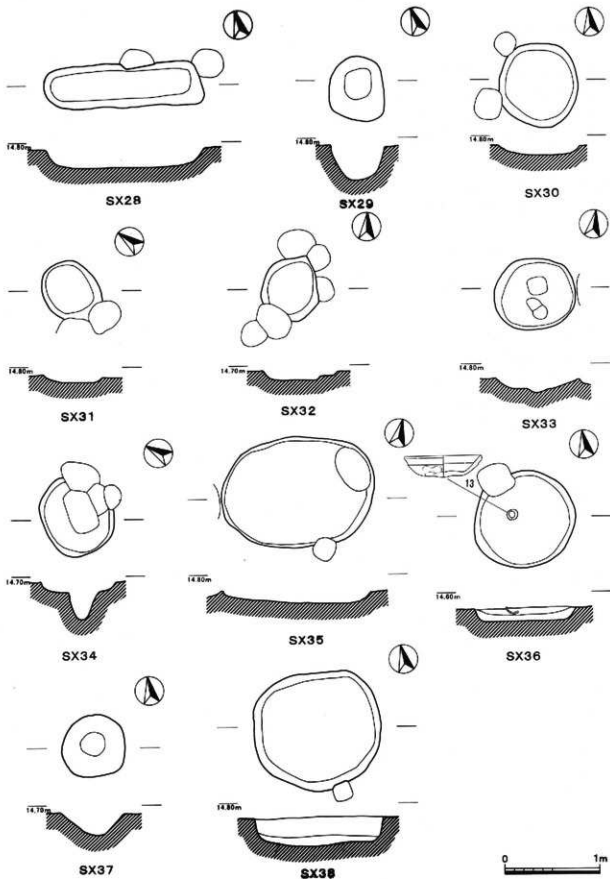
第32号土坑は調査区北部4区で検出した。多くのビットと重複しており、全体を確認することはできなかったが径0.65mほどの円形を呈する土坑と思われる。ビットとの新旧関係は確認できなかった。深さは8cmを測る。遺物は出土しなかった。

第33号土坑 SX33 (第39図)

第33号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.85mの円形土坑である。深さは12cm程度で、底面はやや凹凸が認められた。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第34号土坑 SX34 (第39図)

第34号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.85mの円形を呈すると思われるが、東側が4基のビッ



第39回 第28~38号土坑

トと重複しているため全体の規模は不明である。ピットとの重複関係はいずれも不明である。深さは10cmと浅く、断面皿状を呈す。出土遺物はかわらけのみあるが、8点が図示可能であった。手づくね成形のかわらけが多い傾向がみられた。

第35号土坑 SX35 (第39図)

第35号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.58m・短辺1.16mの楕円形土坑である。深さは14cmを測る。2基のピットと重複するが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・常滑・石製品などがある。軽石製の凹石1点のみ図示可能で、その他かわらけ・陶磁器等は小破片のため図示できなかった。

第36号土坑 SX36 (第39図)

第36号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.05mの円形を呈する土坑で、深さは15cmを測る。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・常滑・鉄釘などがあるが、かわらけ3点が図示可能であった。いずれも手づくね成形のかわらけである。

第37号土坑 SX37 (第39図)

第37号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.65mの円形を呈する。底面が小さい断面はU字状の土坑で、深さは25cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第38号土坑 SX38 (第39図)

第38号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.35mのやや不整な円形を呈する土坑である。覆土は2層に分層され深さは30cmを測る。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・常滑・滑石製品・鉄釘などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第39号土坑 SX39 (第40図)

第39号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.43m・短辺0.7mのやや不整な楕円形の土坑で、深さは18cmを測る。ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあり、かわらけ1点を図示した。

第40号土坑 SX40 (第40図)

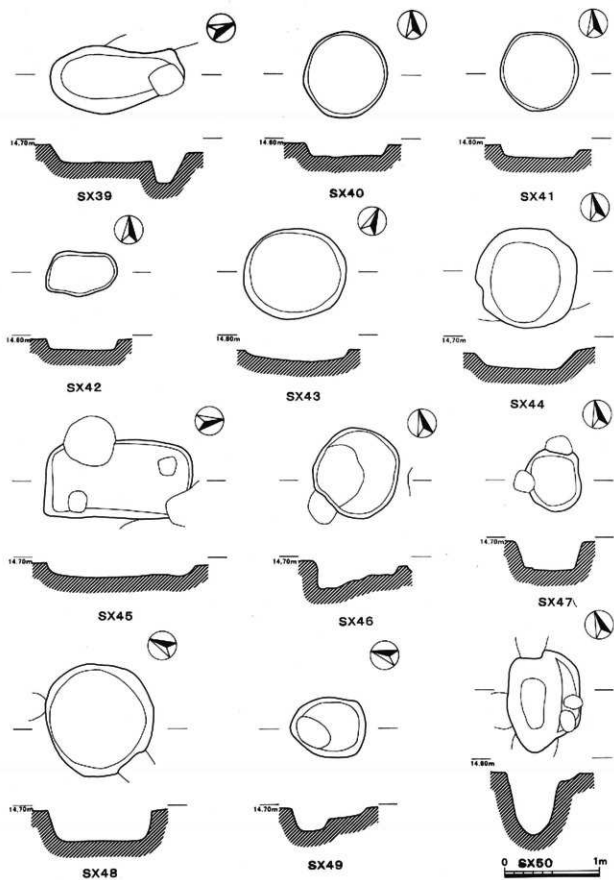
第40号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.86mの円形を呈する土坑で、深さは10cmと浅い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第41号土坑 SX41 (第40図)

第41号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.82mの円形土坑で、深さは14cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第42号土坑 SX42 (第40図)

第42号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺0.73m・短辺0.48mの不整形を呈する土坑で、深さは13cmと浅い。遺物は出土しなかった。



第40図 第39~50号土坑

第43号土坑 SX43 (第40図)

第43号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.05mの円形を呈する土坑である。深さは10cmで断面は皿状を呈す。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第44号土坑 SX44 (第40図)

第44号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.07mのやや不整な円形土坑で、深さは23cmを測る。南側は近世以降の第29号溝状遺構と重複しており、本遺構が古い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第45号土坑 SX45 (第40図)

第45号土坑は調査区北部4区で検出した。第27号溝状遺構・ピット等と重複しており一部不明瞭であるが、長辺4.53m・短辺0.82mの隅丸長方形を呈す土坑である。深さは12cmほどで非常に浅い。第27号溝状遺構よりも本遺構が古い、ピットとの新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第46号土坑 SX46 (第40図)

第46号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.9mのやや不整な円形を呈する土坑である。深さは13cmを測り、底面は凹凸が著しい。ピット等と重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第47号土坑 SX47 (第40図)

第47号土坑は調査区北部4区で検出した。0.66×0.55mの楕円形土坑で、深さは30cmを測る。出土遺物はかわらけ・銭貨などがある。かわらけは小破片で図示はできなかった。銭貨5点が図示可能であった。

第48号土坑 SX48 (第40図)

第48号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.15mの円形を呈する土坑で、深さは33cmを測る。出土遺物はかわらけ・滷美などがあるが、かわらけ2点のみ図示可能であった。

第49号土坑 SX49 (第40図)

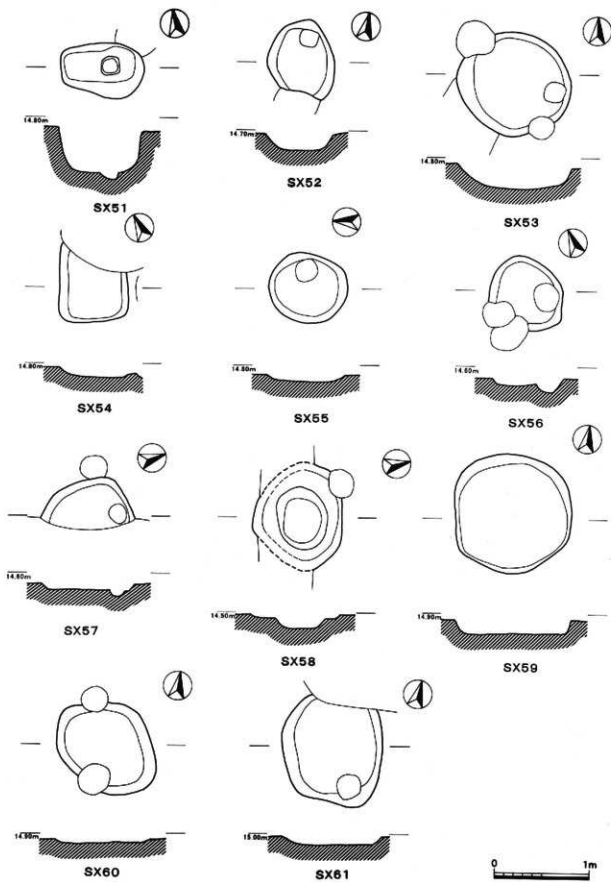
第49号土坑は調査区北部4区で検出した。0.8×0.65mの楕円形を呈する土坑で、深さは10cmを測る。ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第50号土坑 SX50 (第40図)

第50号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.08m・短辺0.75mの不整楕円形を呈す。東側に段を有しており、深さは65cmと深めである。出土遺物はかわらけのみで、5点が図示可能であった。本遺構からは手づくねかわらけが多く出土している。

第51号土坑 SX51 (第41図)

第51号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺0.87m・短辺0.6mのやや不整形な隅丸方形を呈す。深さは48cmで、坑底に1辺20cmほどの方形ピットが伴う。貿易陶磁白磁焼 1点が出土しているが、小破片のため、図示はできなかった。



第41图 第51~61号土坑

第52号土坑 SX52 (第41図)

第52号土坑は調査区北部4区で検出した。南側はピットと重複しているため確認できないが、短辺0.7m・長辺0.75m以上の楕円形を呈する土坑と思われる。深さは18cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第53号土坑 SX53 (第41図)

第53号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.13mの円形を呈する土坑で、深さは23cmを測る。第54号土坑やいくつかのピットと重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・鉄釘などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第54号土坑 SX54 (第41図)

第54号土坑は調査区北部4区で検出した。第53号土坑と重複しているため、全体の規模は不明である。短辺は0.7m・長辺は残存長で0.83mで、隅丸長方形を呈すと思われる。深さは10cmで非常に浅く、東側にやや傾斜している。出土遺物はかわらけ・銭貨・鉄釘などがあり、銭貨1点のみ図示可能であった。

第55号土坑 SX55 (第41図)

第55号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.8mの円形を呈する土坑ある。深さは6cmと非常に浅く、断面は皿状を呈す。ピットと重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。

第56号土坑 SX56 (第41図)

第56号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺0.78m・短辺0.58mの不整形を呈す土坑で、深さは8cmを測る。3基のピットと重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけのみで、手づね成形かわらけ1点が図示可能であった。

第57号土坑 SX57 (第41図)

第57号土坑は調査区北部4区で検出した。近世以降の第20号溝状遺構と重複しているため、半分程度の検出である。新旧関係は本遺構の方が古い。確認できた残存長は0.88×0.54mで、楕円形を呈すと思われる。深さは6cmで非常に浅い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第58号土坑 SX58 (第41図)

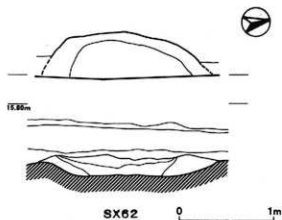
第58号土坑は調査区北部4区で検出した。近世以降の第31号溝状遺構と重複しているため、一部検出できなかった部分もある。残存長は1.12×0.94mで、楕円形あるいは不整形を呈すと考えられる。途中に段を有し、深さは14cmである。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第59号土坑 SX59 (第41図)

第59号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.25mの円形を呈する土坑で、深さは14cmを測る。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・瓦質製品・石製品・鉄釘などがあるが、いずれも小破片であり、瓦石1点のみ図示可能であった。

第60号土坑 SX60 (第41図)

第60号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.0m・短辺0.95mの不整形な土坑である。深さはわ



第42図 第62号土坑

ずか3cmほどしか確認できなかった。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第61号土坑 SX61 (第41図)

第61号土坑は調査区北部4区で検出した。第1号溝状遺構と第37号溝状遺構と重複するため、全体を検出することはできなかった。第37号溝状遺構よりも本遺構が古いが、第1号溝状遺構との新旧関係は確認できなかった。残存する規模は長辺1.05m・短辺1.0mの楕円形を呈す。深さは10cm程度である。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第62号土坑 SX62 (第42図)

第62号土坑は調査区南部1区の東壁際で検出した。半分以上が調査区外にあるため、全体の規模は明らかではないが、残存長は長辺1.82m・短辺1.48mで、楕円形を呈する土坑と思われる。確認された深さは25cmである。覆土から焼土・炭化物・骨片などが出土しているため、火葬遺構と推測される。出土遺物はなかったが、掘込み面や覆土の状態から、近世以降の遺構と考えられる。

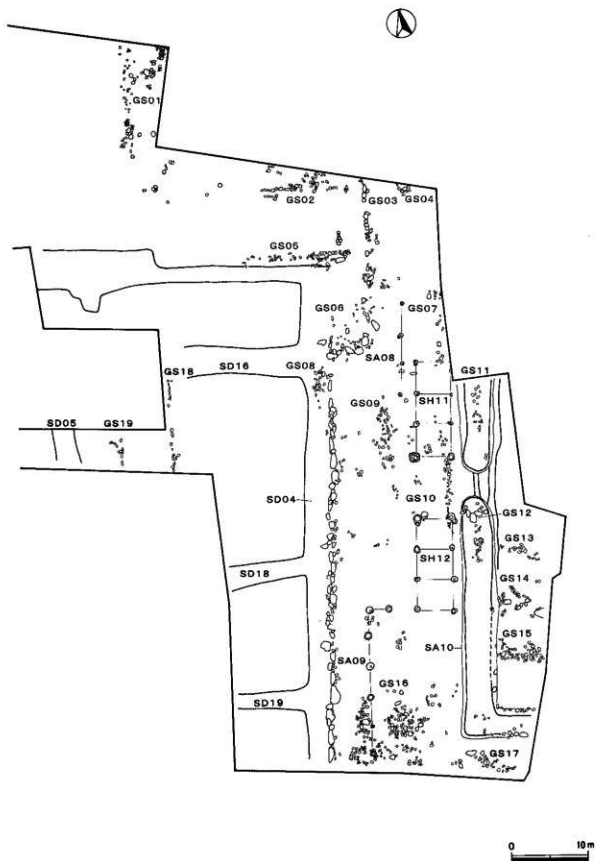
(6) 集石

1区～2区にかけて、礫が集中して分布する状況が検出された。これらの中には、密集して分布するものや、散在的にあるもの、列状に配置されている例など、様々なようすがみられた。礫の多くは、遺跡の背後にある守山の安山岩を利用したもので、一部狩野川の川原石も含まれていた。また、石製品や瓦、かわらけなどを伴っているものも多く認められた。調査時においては、とくにグルーピングは行わなかったが、整理の段階で便宜的に19ヶ所の集中域を設定し、集石として記述することにした。なお、調査段階においては、集石下部の調査は行われておらず、下部の遺構等の有無については不明である。

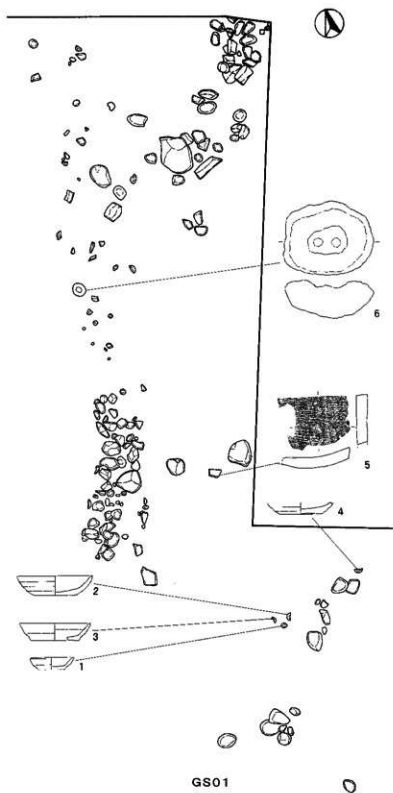
第1号集石 GS01 (第44図)

2区で検出したもので、北・東側が調査区外にあるため全体の規模は不明である。確認された集石範囲は南北9.6m、東西3.75mである。人頭大～拳大の礫がで構成され、2ヶ所で集中する範囲がある他は散在的に分布していた。

本集石範囲では、かわらけ・瓦・凹石状の石製品などが出土している。いずれの遺物も、集石がやや



第43図 1・2区 集石の配置と中世後期遺構



第44図 第1号集石

疎な部分で出土しているため、この集石に伴うものであるかは、やや疑問がある。

第2号集石 GS02 (第45図)

2区東端で検出した。集石範囲は東西長5.74mで、北側が調査区外にあるため確認された南北長は2.05mである。一部人頭大～拳大の礫が2列の列状をなす部分が見られ、下部に溝状遺構の存在が予想されたが、下部調査を行っていないため不明である。

遺物は比較的多く、常滑片口鉢・かわらけ・瓦などが礫の間から出土している。

第3号集石 GS03 (第45図)

1区～2区にかけて南北に配置された集石である。北側は調査区外にあるため南北長は不明であるが、残存長で7.1mを測る。これに対し、東西幅は最も広いところで1.7mであった。人頭大の礫が1列に並び、これに拳大礫が付随するようすが観察された。本集石に伴う出土遺物はなかった。

第4号集石 GS04 (第45図)

2区東端で検出したもので、北側は調査区外にあるため、一部を確認したにすぎない。確認された集石範囲は南北0.7m、東西0.87mである。比較的小さい礫で構成されている。本集石に伴う出土遺物はなかった。

第5号集石 GS05 (第45図)

調査区南部の1区で検出した。南側で第14号溝状遺構と重複しているため、一部検出できなかったが、南北2.8m、東西7.0mの範囲に分布している。一部人頭大の礫が列状をなして配置され、その内部に拳大礫を充填しているような範囲も認められたが、両側が検出できなかったため、全体の構成は不明である。

出土遺物は、常滑甕破片が2点認められたのみで、図示可能遺物はなかった。

第6号集石 GS06 (第46図)

1区北部で検出したもので、南北4.45m、東西4.4mの範囲に分布していた。人頭大から一抱えほどの大きな礫が弧状に配置され、その北側に拳大の礫が散在的に配置され、全体には円形を呈すようである。

遺物は礫の空白部から多く出土している。かわらけ・瀬戸美濃・常滑・瓦などで、かわらけ5点が図示可能であった。

第7号集石 GS07 (第46図)

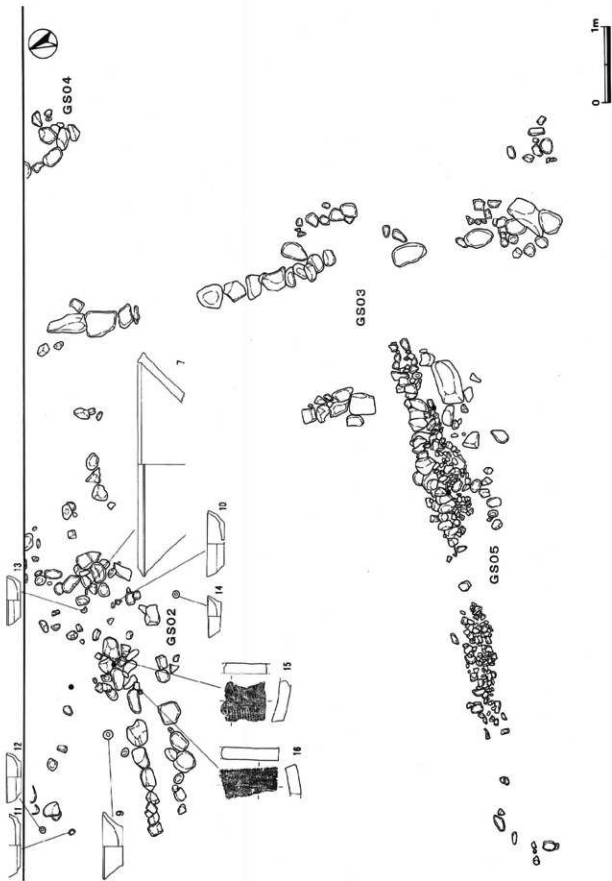
1区東端で検出したもので、東側が調査区外にあるため全体の規模は不明である。確認された集石範囲は南北6.15m、東西1.1mである。人頭大～拳大の礫で構成され、現状では散在的に列状に並ぶような状況が認められた。遺物は出土しなかった。

第8号集石 GS08 (第46図)

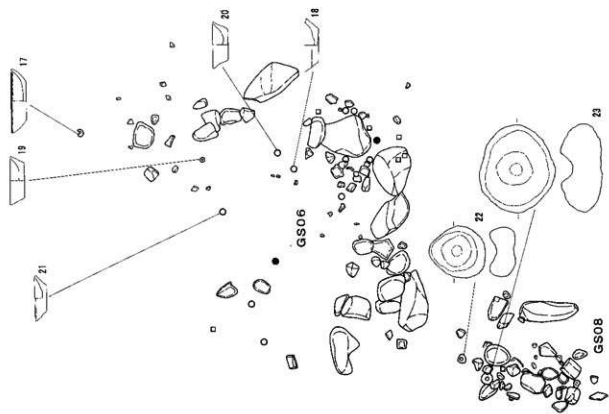
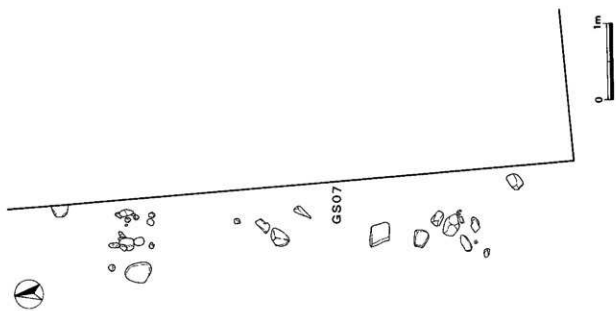
1区の第4号溝状遺構の北側で検出した集石である。第4号溝状遺構の延長上にあるが、下部調査を行っていないため、溝との関連・新旧関係等は不明である。範囲は南北1.95m、東西1.55mで、人頭大～拳大の礫が非常に密集して配置されている。集石の中には、軽石製の凹石状石製品2点が含まれていた。

第9号集石 GS09 (第47図)

調査区南部の1区で検出したもので、確認された集石範囲は南北4.9m、東西1.72mである。拳大程



第45図 第2～5号集石



第46図 第6～8号集石

度の比較的大きさの揃った礫がやや集中的に分布していた。

集石東側で瓦数点が出土し、軒平瓦1点を図示したが、集石域からやや離れて出土しているため、本集石に伴うものであるかは若干疑問がある。

第10号集石 GS10 (第47図)

調査区南部の1区で検出した集石で、第11号・12号掘立柱建物跡の間に分布する。掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。分布範囲は南北7.8m、東西4.63mで、人頭大～拳大の礫で構成されている。東側に列状に並ぶ配置があり、その周囲に密集する範囲や散在的な分布などが見られた。

本集石範囲からは、大量の瓦が出土している。総数97点で、35点を図示した。他にかわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・瓦質製品等が出土しており、かわらけ2点が図示可能であった。

第11号集石 GS11 (第47図)

1区の東部、築地基礎と思われる第10号遺構上で検出した。北側が調査区外にあるため全体の規模は不明であるが、確認された範囲は南北3.08m、東西1.35mである。比較的小形の拳大礫で構成される。第10号遺構を構成する礫になる可能性もあるが、調査段階ではその確認はしていない。

同一面上から平瓦1点が出土している。

第12号集石 GS12 (第48図)

第12号集石は、第11号同様第10号遺構上で検出した。集石範囲は南北2.53m、東西1.1mである。北側は人頭大から一抱えほどの大きな礫が集中し、南側は比較的小形の拳大礫で構成されるようすが認められた。

同一面上から平瓦1点が出土した。その他かわらけ小破片が出土しているが図示はできなかった。

第13号集石 GS13 (第48図)

1区第10号遺構東側で検出した小規模な集石である。確認された範囲は南北0.7m、東西0.97mである。人頭大～拳大の礫で構成される。遺物は出土しなかった。

第14号集石 GS14 (第48図)

第13号集石同様1区第10号遺構東側で検出した集石である。確認された範囲は南北1.72m、東西2.08mで、人頭大～拳大の礫で構成される。2ヶ所で比較的大きさの揃った礫が弧状に並ぶようすが認められたが、下部遺構の有無が不明のため、詳細は明らかではない。

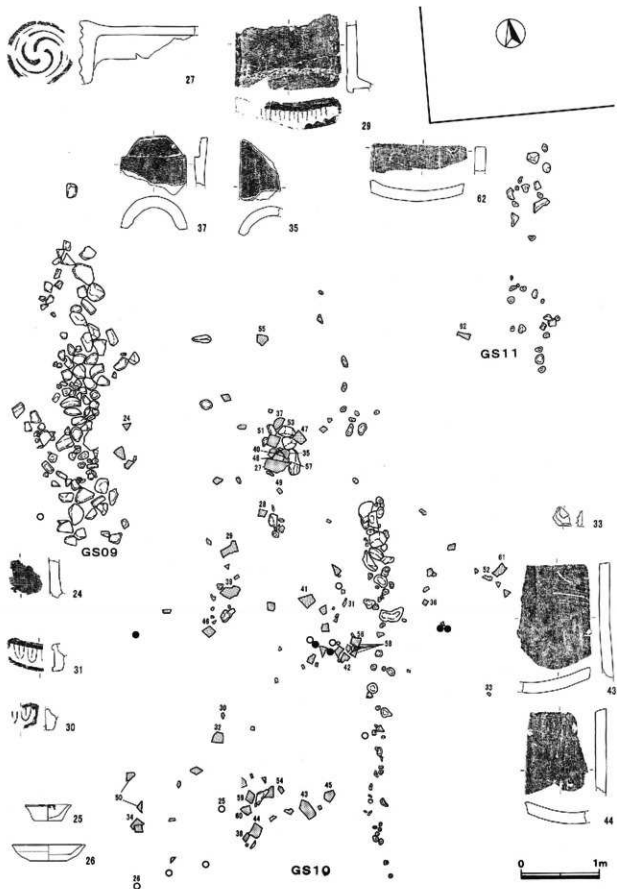
出土遺物は、瓦破片があるのみで、図示可能遺物はなかった。

第15号集石 GS15 (第48図)

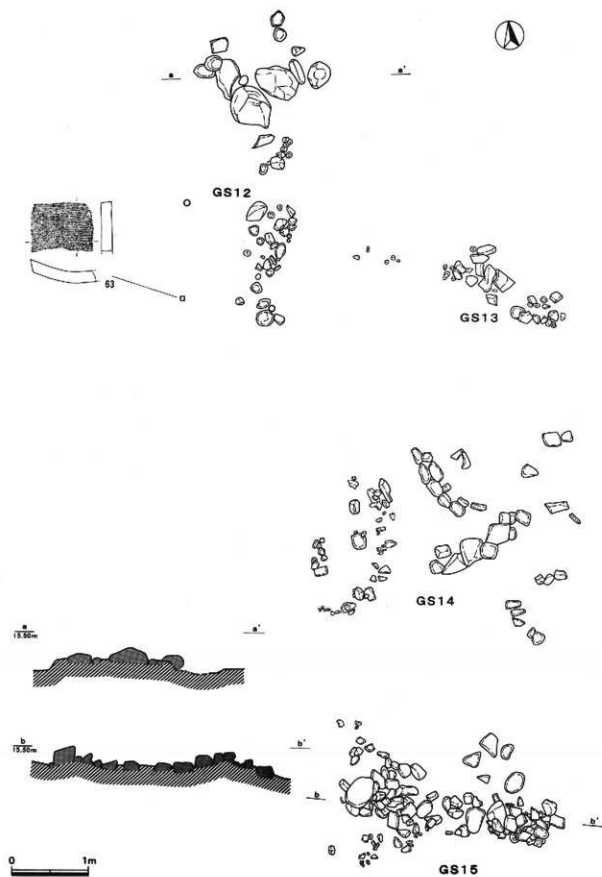
第13・14号集石同様1区第10号遺構東側で検出された。東側が調査区外にかかっているため、全体の規模は明らかではないが、確認された範囲は南北1.18m、東西1.75mである。人頭大～拳大の礫が比較的密集して分布していた。遺物は出土しなかった。

第16号集石 GS16 (第49図)

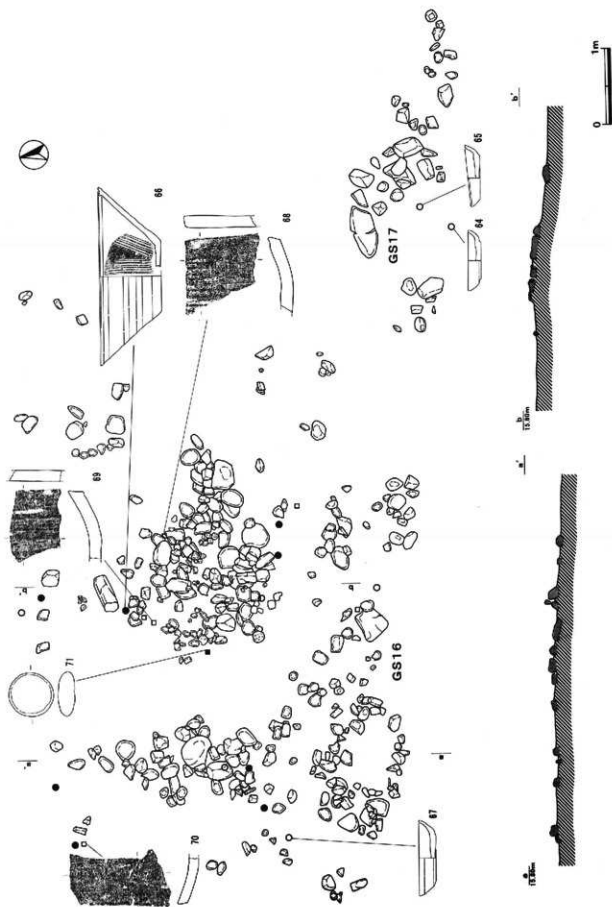
1区南部で検出したもので、南側が調査区外にあるため全体の規模は不明である。確認された集石範囲は南北4.48m、東西7.25mである。中間にやや分布の疎らな部分があるため2つに分かれる可能性もあるが、明白な境界が認められなかったため1基の集石として扱った。人頭大～拳大の礫で構成され、



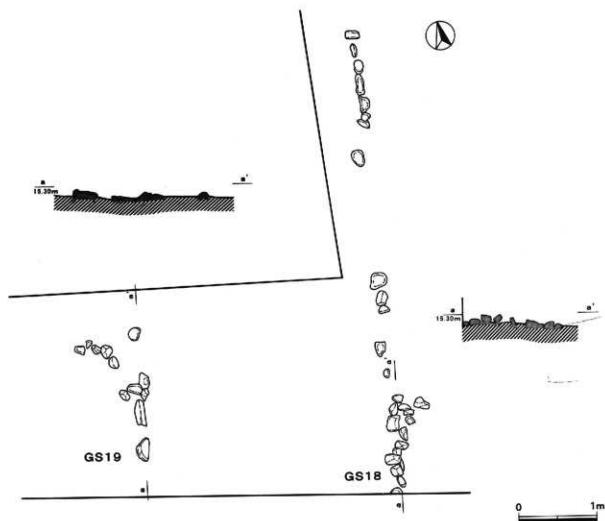
第47图 第9~11号集石



第48図 第12~15号集石



第49図 第16・17号集石



第50図 第18・19号集石

密集箇所と散在的な分布とがみられた。

出土遺物にはかわらけ・瀬戸美濃・常滑・瓦などがあり、瀬戸美濃摺鉢・かわらけ・瓦、軽石製品を图示した。

第17号集石 GS17 (第49図)

1区南部の第16号集石東側で検出したもので、調査区南東隅にあるため全体の規模は不明である。確認された集石範囲は南北0.92m、東西2.56mである。比較的大きめの人頭大の礫が多く、周辺に散在する拳大の礫とで構成される。

出土遺物はかわらけのみで、2点が图示可能であった。

第18号集石 GS18 (第50図)

1区西端で検出した。拳大よりやや大きめの礫が、南北の列状に配置されたもので、集石というよりは列石に近い。南北ともに調査区外に延びているため、全体の規模は不明であるが、確認された範囲は南北3.7m、東西0.38mである。集石下部の調査を行っていないため明らかではないが、溝状遺構の構成礫の可能性も考えられる。遺物は出土しなかった。

第19号集石 GS19 (第50図)

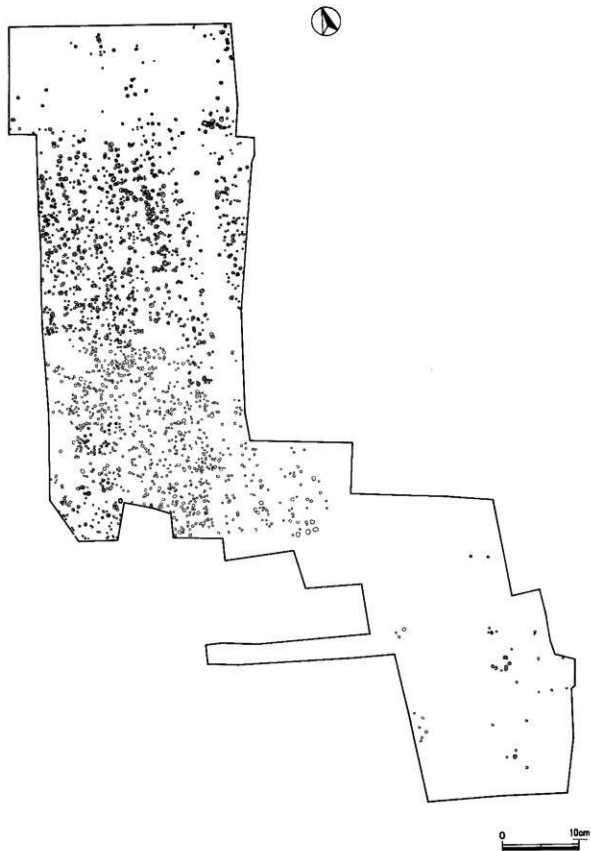
1区から西に設定したトレンチ内で検出した。南北ともに調査区外にあるため、全体の規模は不明であるが、確認された範囲は南北1.05m、東西0.58mである。第18号集石同様南北の列状に配置されたものであるが、詳細は明らかではない。遺物は出土しなかった。

(7)ピット群 (第51図)

本遺跡では掘立柱建物跡の柱穴と認識したもの以外に、多数のピットが検出されている。これらの多くは建物や櫓列などを構成するものと思われるが、現状では認定はできなかつたため、ピット群として一括した。

検出数は、1区が25基、3区が128基、4区が636基、5区が107基、総数896基である。これらのうち、5区と4区の北側約2/3の範囲のみ、調査を行い、4区南部と2・3区はプランの確認にとどまっている。そのため、3区は11基が、4区は289基が未調査である。また、1区・2区については、集石下部の調査を行っていないため、そその下層にあるピット等については確認していない。したがって、現状でみえるピットの粗密はあくまでも調査の進度によるもので、実際のピット分布状況を示していない。また、遺物が出土したピットは少ないため、時期認定が難しく、これらの中に近世以降のものも含まれていると思われる。

調査を行ったピットの形状は隅丸の角を基調とするものや、丸のものがあり、規模は径10~40cmで平均約27cmであった。深さは10cm~30cmまでさまざまである。



第51図 ビット群分布図

2. 遺物

(1) 掘立柱建物跡・柱穴列出土遺物

掘立柱建物跡・柱穴跡ともに遺物はほとんど出土せず、わずかにかわらけ小片が確認されるにすぎない。図示可能であったものは、6号掘立柱建物跡と2・3号掘立柱建物跡をめぐる第2号柱穴列のピット中からである。

第6号掘立柱建物跡 SH06 (第52図)

第6号掘立柱建物跡では、ピット2から丸瓦の破片が出土している。凸面には縄目、凹面には布目痕が認められる。

第2号柱穴列 SA02 (第53図)

第2号柱穴列は布堀を伴う塀跡であるが、その布堀の溝中より凹みを有す軽石製品が2点出土した。2は半分以下の残存であるが、中央に凹みを有す。3は左右端部の一部を欠いているもののほぼ全形が確認できる。いずれも凹みは表面のみに認められた。

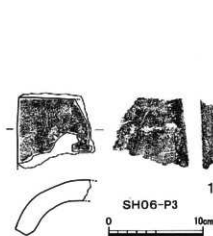
(2) 井戸出土遺物

第1号井戸跡 SE01 (第54図 図版8・16)

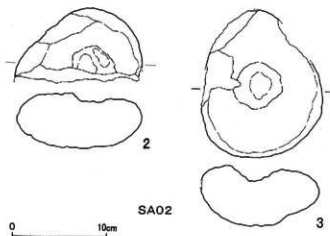
第1号井戸跡からは貿易陶磁13点、東遠江系の山茶碗類4点、かわらけ512点が出土している。このうち、30点が図示可能であった。

第54図1～5は貿易陶磁である。いずれも白磁で、1～3が碗、4が小壺、5は合子の蓋破片と思われる。6～8は東遠江系の山茶碗で、6・7が碗、8は片口鉢である。

当井戸で最も多く出土しているのはかわらけで、22点を図示した。9～13は大形のかわらけで、底径の大きい皿形の9・10と、底径が小さく環状を呈す11～13との2タイプが認められる。いずれも底部が厚く器厚も全体に厚い特徴をもつ。14～29は小形のかわらけで、口径は9～10cmを測る。大形のかわらけ同様、底部が厚く、また突出する特徴が認められる。皿形と環形の2タイプの形状があり、14・15・19～21は底径6.0～6.5cmの皿形、16・17は底径5.0～6.0cmの環形である。さらに底径5.0cm以下の22～24がある。30は手づくね成形かわらけである。



第52図 掘立柱建物跡出土遺物



第53図 柱穴列出土遺物

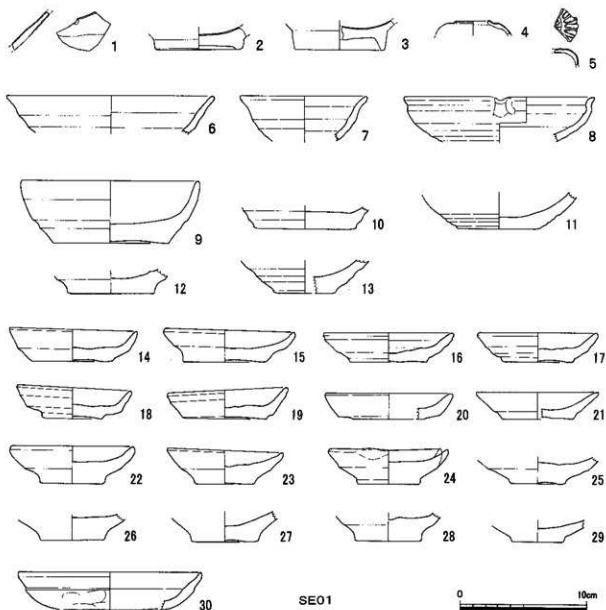
第1号井戸で出土した貿易陶磁は青磁を含まず、白磁はⅠがⅡ類、2がⅣ類、3がⅤ類に比定される。かわらけも30以外はすべてロクロ成形で、底部の厚い古代末土師器の系統にあるものが認められる。さらに、東遠江系山茶碗の年代等も考慮すれば、本遺構の年代は12世紀後半と考えられる。

第2号井戸跡 SE02 (第55・56図 図版8・16)

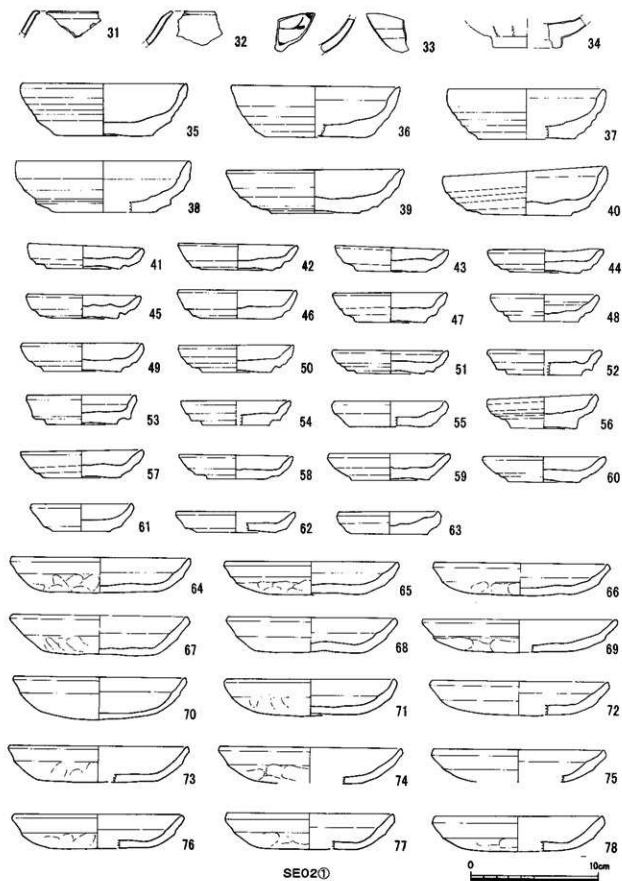
第2号井戸跡からは大量のかわらけが出土している。かわらけは、ロクロ成形と手づくね成形の2種があり、出土破片数は、前者が358点、後者が647点で、手づくね成形かわらけが多い傾向が認められた。この他、貿易陶磁8点、常滑3点、石製品が出土している。このうち、52点が図示可能であった。

31～34は貿易陶磁である。31・32は白磁碗で31がⅤ類かⅥ類、32は口禿のⅨ類である。33・34は龍泉窯系の青磁碗で、33が劃花文のⅠ-2類、34が蓮弁文のⅠ-5類である。

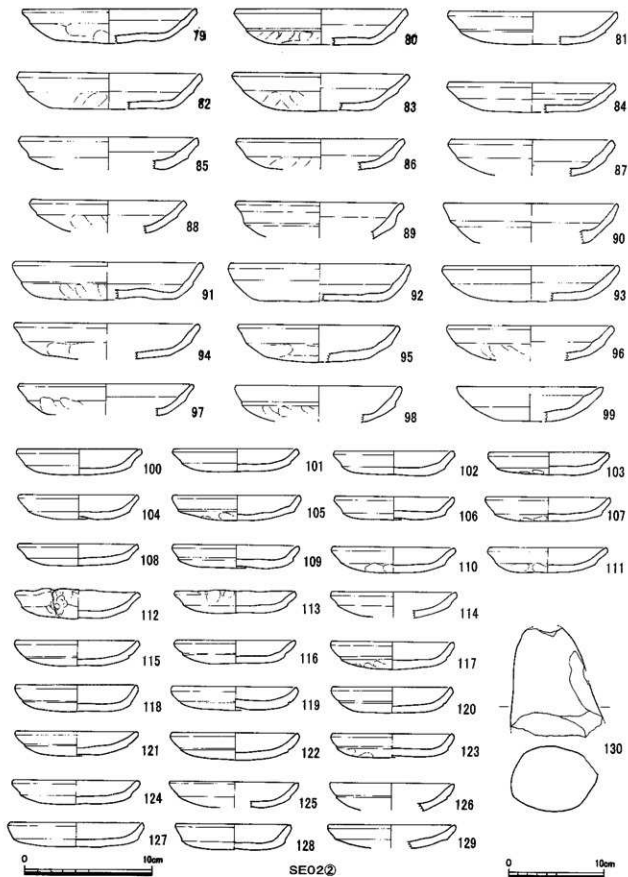
かわらけはロクロ成形29点、手づくね成形66点を図示した。ロクロ成形のかわらけは大小があり、



第54図 井戸出土遺物(1)



第55図 井戸出土遺物(2)



第56図 井戸出土遺物(3)

それぞれ第1号井戸同様に、底径の大きい皿形と底径が小さい環形の2タイプが認められた。大形のかわらけは口径13.0~14.0cmで、皿形の35~38は底径7.0~8.0cmである。器高は4.0cm前後のものが多い。環形の39・40は底径7.0cm前後で、器高も3.5cm前後と皿形に比べてやや低い。また、環形は体部の内彎が強い特徴がみられた。41~63は小形のロク口成形かわらけである。口径は9.0cm前後、器高は2.0cm前後である。大形同様、底径の大小により分類が可能である。41~55・57・59・60は底径5.3~6.0cmの皿形である。56・58は底径が5.0cm前後を測る環形のかわらけである。

64~129は手づくね成形のかわらけである。64~99が大形、100~129が小形のものである。

大形かわらけは、口径13.0~14.0cm、器高は2.5~3.0cmを測る。口唇部の形状によって以下の3種類が認められた。明瞭な面取りするものは64~69、弱い面取りのものは76・79・82~87である。また、91~99は口唇部に面をもたず、丸くなっているか尖り気味に仕上げているものである。さらに内底面の調整には、通常見られるナデ調整の他に粗いハケ状のナデが認められた。ハケ状の調整をもつものは64・68・79・80・81・94・95である。また、82・84のようにハケ状の調整を施した後ナデ調整をする例もある。

小形の手づくねかわらけは、口径9.4~10.0cm、器高は1.7~2.0cmである。全体の形状では、100~114のように口縁部が外反し口縁下に明瞭な稜を有するものと、115~129のように体部からそのまま口縁部が内彎し、口縁下はわずかに稜をつくるか沈線状になるものとが認められる。また、大形かわらけ同様口唇部に面取りを施すものと丸みのあるものの2種がある。面取りは100~114・117・120・122・123などで、口縁部が外反するものは面取りを有す傾向が認められる。ただし、大形かわらけに比べて面取りの幅は小さく明確ではない。口唇部を丸く仕上げるものは、115・116・118・119・121・124~129で、口縁部内彎タイプの多くがこの形状をとる。内底面の調整は、ナデとハケ状調整の2種が認められた。なお、112は口縁部から体部にかけて接合痕とその後の調整痕が明瞭に残っているもので、円盤切り込み技法がよくわかる例である。

130は大形の砥石である。軟質の砂岩系の石材を使用している。

第2号井戸跡は、出土した貿易陶磁の年代や手づくねかわらけが出土していること、ロク口成形かわらけの形態や整形技法などから、13世紀初頭~前半の遺構と考えられる。また、図示はしなかったが2~3型式の常滑甕が出土していることもその証左と考える。

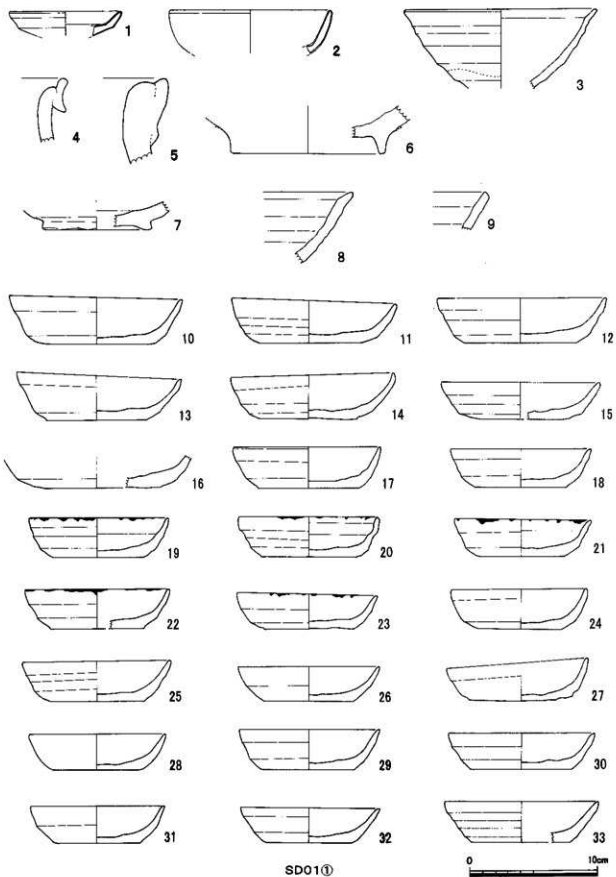
(3) 溝状遺構出土遺物

溝状遺構は39基検出されたが、そのうち第1~19号溝状遺構が中世、第20~39号溝状遺構は近世以降の遺構である。まとまって遺物が出土したのは、第1~4号溝状遺構で、とくに第4号溝状遺構は量・種類とも豊富な遺物が出土している。

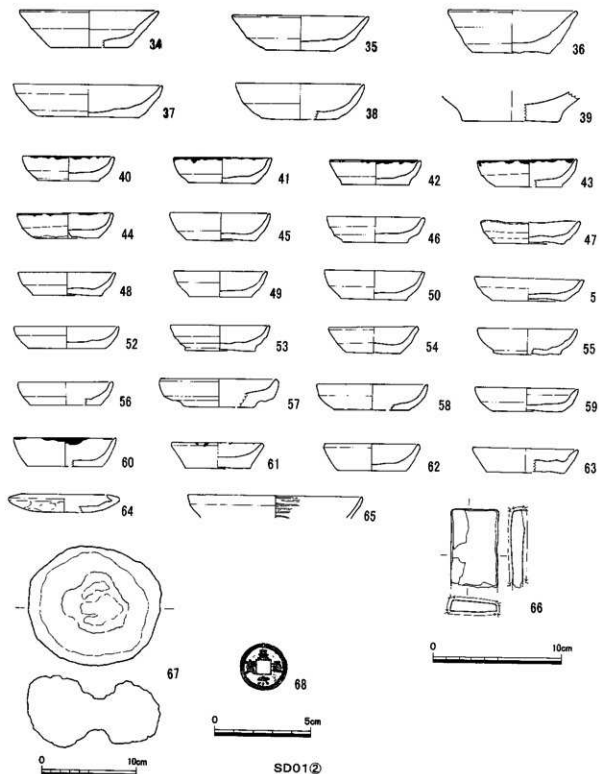
第1号溝状遺構 SD01 (第57・58図 図版8・16)

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・瀬美・山茶碗・砥石・銭貨などである。貿易陶磁は、白磁碗・皿、青磁碗・皿、青白磁皿、緑釉・黄釉の甕など16点が出土しているが、図示可能遺物は1・2の青磁である。1は同安窯系の皿、2は龍泉窯系の皿か鉢である。瀬戸美濃は2点出土しており、3の平碗を図示した。古瀬戸中期Ⅱ・Ⅲ期である。常滑は甕20点、片口鉢1が7点出土している。2型式~10型式が出土しているが、4~6b型式が主体である。図示可能遺物は3点で、4は6b型式の甕、5は10型式の甕、6は片口鉢で、5~6a形式である。全体からみて5は混入であろう。また、6a型式の山茶碗も出土している。瀬美は甕が6点出土したが、図示可能なものはなかった。山茶碗は碗・片口鉢などが5点出土している。7~9の3点を図示した。7は碗、8・9は片口鉢であろう。

かわらけは、破片数で4,269点出土している。図示可能遺物は10~64の55点である。本遺構出土のかわらけの量は大きく以下の3つに分けることができる。口径12.0cmを越え、底径7.6~9.0cmの大形(10~15)、



第57図 溝状遺構出土遺物(1)



第58図 溝状遺構出土遺物(2)

口径10.0～11.5cmで底径6.5～8.0cmの中形(17～32)、口径8.0cm以下、底径5.0cm前後の小形(40～50・53・55・56)である。体部はやや内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾しながら開く。いずれも内底面に丁寧なナデを施し、底部には板状圧痕が認められる。なお、16は底径9.8cmを測る大形品である。また、51・52・58・59は口径8.0～8.5cmのもので、中形と小形の中間の大きさである。胎土・調整等は、他の3法量のもの共通してお

り、さらに2法量ある可能性もあるが、出土量が少ないため明確には規定できない。64は手づくねのコースター形のかわりけである。その他のかわりけは、上記の規格外のもので、前後の時期の混入と思われる。

65は瓦器碗である。楠葉産と思われる。

石製品は砥石と軽石製品の2点を図示した。66は残存長6.1cmの仕上砥で鳴滝産である。67は衣裏に凹凸有す軽石製品である。銭貨は1点出土しており、68は北宋銭・皇宋通宝である。

以上の出土遺物、とくにロクロ成形かわりけの形態や技法の特徴、手づくね成形かわりけがみられないことなどから、当遺構の時期は13世紀後半に比定される。

第2号溝状遺構 SD02 (第59図 図版16)

かわりけ・瓦質風炉・常滑等が出土している。

かわりけは破片数で61点出土しており、69～76の8点が図示可能であった。69～75は口径10.0～11.4cmを測る。70～75は底径は6.5cm前後であるが、69は底径7.6cmを測り、他に比べて大きめである。76は口径6.4cmの小形かわりけで、底径が3.8cmと小さくがやや突出する。内底面にナデを施し、底部には板状圧痕が残る。SD01の法量分布と比較すると、69～75は中形、76は小形に相当すると考えられる。

77は瓦質風炉である。直立する口縁部には縦沈線が施され、上面には台形の突起が付けられる。体部には透かし窓が設けられている。

SD02のかわりけは、形態の特徴や内底面のナデが簡略化されていることなどから、SD01よりも後出のものと考えられる。当遺構の時期は13世紀末～14世紀以降の年代を想定しておきたい。

第3号溝状遺構 SD03 (第59図 図版9・16)

川土遺物は、かわりけ・貿易陶磁・常滑・瀬美などである。

貿易陶磁は白磁皿、青磁碗、褐釉壺、緑釉盤などが5点出土しているが、78～81の4点が図示可能であった。78は白磁の皿で、ⅡカⅢ類と思われる。79・80は青磁の劃花文碗で、79がⅠ・2類、80がⅠ・3類である。81は褐釉の壺で長胴壺であろう。

常滑は壺18点、片口鉢1点が出土した。図示した82は10型式の片口鉢Ⅱ類であるが、他の壺はすべて2～4型式で、やや混在している状況である。瀬美の壺も5点出土しているが、図示はできなかった。

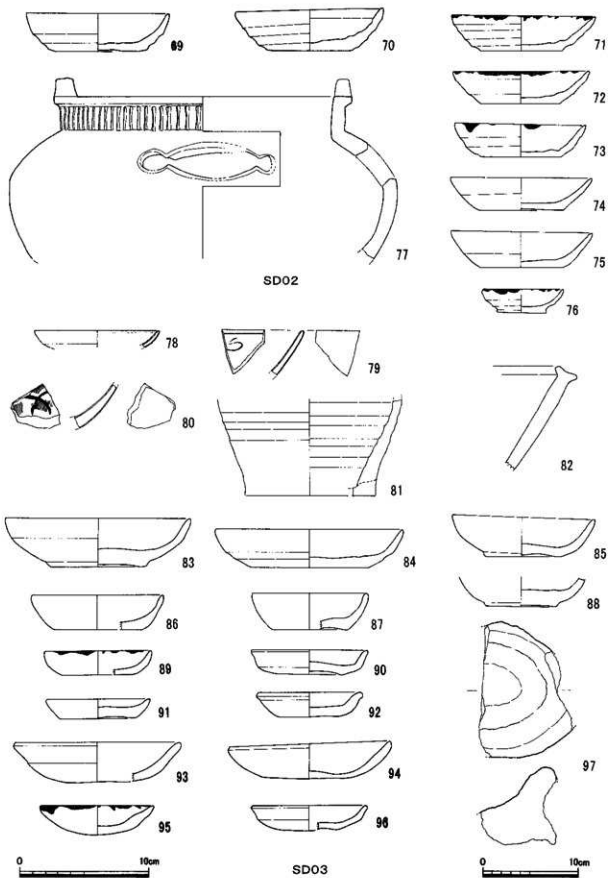
かわりけは472点出土した。このうち、83～96の14点を図示した。ロクロ成形(83～92)と手づくね成形(93～96)のものがある。83・84は口径14.0cmを超える大形のかわりけである。83は底径7.4cmで小さめの坯形、84は底径9.0cmの皿形である。85～87は口径9.0～11.0cmの中形のかわりけである。大形同様坯形(85・88)と皿形(86・87)に分けることができる。89～92は口径8.0～9.0cmを測る小形かわりけである。底径は5.0～6.0cmで、器高の低い皿形を呈す大・中・小のいずれも内底面のナデの有無は摩滅により確認できなかったが、底部の板状圧痕は認められなかった。

93～96は手づくね成形かわりけである。93・94は口径13.0cm前後の大形、95・96は口径9.0cm前後の小形のものである。いずれも器厚が厚く、口唇部が尖り気味である。95は口縁部にススが付着している。

川土遺物の年代は、貿易陶磁がやや古い様相を示しているものの、手づくね成形かわりけがかなり退化したものであり、ロクロ成形かわりけもやや小形化していることから、かわりけの年代は第2号井戸よりも新しく位置づけられ、当遺構の年代を13世紀中葉頃と考えておく。

第4号溝状遺構 SD04 (第60～67図 図版9・10・17)

出土遺物は、かわりけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・志戸呂・瓦質製品・砥石・銭貨・スラグなどがある。とくにかわりけは実測可能個体で243点、総破片数で3,000点以上の数量が出土している。また、



第59図 溝状遺構出土遺物(3)

瓦質製品も種類・量ともに豊富で、火鉢・風炉・香炉などがあり、総破片数は65点を数える。

貿易陶磁は、白磁碗・皿、青磁碗・皿・鉢類、青白磁皿・合子、天目茶碗、緑釉甕など40点が出土している。このうち14点が図示可能であった。98は白磁の皿で口禿のⅨ期である。99～101は同安窯系青磁で、99は碗、100・101は皿である。102～105は龍泉窯系青磁の碗である。102は蓮弁文のⅠ・Ⅴ類、103・104は瑣瑣碗、105は輪花小碗である。107・108は青磁の大形甕であろう。109は青白磁の合子・甕である。110・111は天目茶碗である。110は建窯産と思われる。

瀬戸美濃は器種・量ともに豊富で、101点出土している。このうち112～132の21点を図示した。112～114は天目茶碗でいずれも古瀬戸後Ⅲ期である。115～117は小天目茶碗で、115が後Ⅱ期、116・117は後ⅠかⅡ期である。118～120は平碗である。118・120は後Ⅰ期、119は後Ⅳ古期である。121～123は灰釉施種の緑釉小皿、121・122は後Ⅰ期、123は後Ⅳ古期である。124は後Ⅰ期の折縁中皿である。125は浅碗で後Ⅲ期。126・127は直縁大皿で126は後Ⅰ期、127は後Ⅲ期である。128は後ⅠかⅡ期の碗形鉢である。129は後Ⅲ期の小鉢、130は鉄釉施釉の小杯で後ⅠかⅡ期である。131・132は柄付片口で、132は後ⅠかⅡ期のものである。

常滑は甕58点、片口鉢18点、広口壺2点、碗1点、器種不明2点が出土している。甕は2形式～11型式、片口鉢は5型式～11型式までと、幅広い年代のものが出土している。図示可能なものは、133～137の5点である。133は6b型式の甕である。134～136は片口鉢Ⅱ類で、134・135は8形式、136は11型式である。137は2～3型式の広口壺である。その他、渥美の甕が14点、渥美が湖西産の山茶碗が1点出土しているが、いずれも図示はできなかった。

138は志戸呂窯産の鉄釉緑釉小皿である。古瀬戸後Ⅳ古期併行期のものである。

当遺構からは、多種多様なかわらけが大量に出土している。器形によって以下の4類に分類した。

A類：体部が内彎して立ち上がる形状のものである。

B類：体部が直線的で全体に箱形を呈するものである。

C類：体部が直線的で、器高が高く底径の小さい逆台形を呈するもの。

D類：C類同様器高が高いものであるが、体部が内彎して立ち上がる。

D類を除いてはそれぞれ大中小の3法量があり、細部の形状や器厚によって、さらに細分した。

A類の大形かわらけ(A-I類)は139・140で、口径12.0cmを測り、底径は7.0～8.0cm、器高は3.0cm前後である。中形かわらけ(A-II類)は、150～161が相当し、口径8.0～11.0cmを測る。さらに口径10.0cm大のものと8.0cm前後のものに細分が可能である。小形かわらけ(A-III類)は口径6.0～7.0cmを測るもので、183～205が相当する。以上のA類は大中小いずれも内底面に一方向の簡単なナデを施し、底部には板状圧痕を有す。

B類は口径と底径の差が比較的少ない箱形を呈するものである。法量により大中小の3種類があり、小形のもの形態・器厚によりさらに細分した。大形のもの(B-I類)は141～148が該当する。口径は12.0～14.6cmを測り、底径は8.0～9.0cmである。口径にやや幅があり、さらに細分の可能性もあるが、現状では明確な法量差が認められなかった。内底面にやや粗雑なナデを施し、底部には板状圧痕を残す。中形のかかわらけ(B-II類)は、162～172が該当する。口径9.9～11.6cm、器高は2.5cm前後、底径5.5～7.0cmを測る。口径・底径ともに法量にかなり幅があり、さらに大・小あるいは底径の小さなタイプなど細分ができる可能性もあるが、大形かわらけ同様、現状の数量では明確な差異を出すことはできなかった。小形かわらけ(B-III類)は、当遺構で最も大量に出土しているもので、以下のように4種類に細分が可能であった。本類は口径と底径の差が小さい箱形(a)と差がやや大きく逆台形状を呈するもの(b)の2種に分かれ、さらに器高の厚さによってそれぞれ2細分できる。箱形で器厚が薄手のもの(B-III-a 1)は206～213が該当する。口径は6.5～7.0cm、器高は2.0cm前後、底径は4.5～5.0cmである。内底面のナデは摩滅のため不明なものが多いが、ナデ調整を施している例がいくつか認められた。底部には板状圧痕がある。箱形で器厚が全体に厚いもの(B-III-a 2)として230～264がある。口径は6.8～7.6cmでa 1類よりもやや大きめである。器高は2.0～2.5cm、底径は5.0cm前後であ

る。内底面のナデは摩滅のため不明なものも多く、底部の板状圧痕も残っていない例が多い。

口径と底径の差が大きい逆台形のb類も器厚により1・2に細分した。器厚が薄手のもの(B-III-b 1)は214~228が該当する。口径は6.3~7.2cm、器高は2.0~2.3cm、底径は4.0~4.8cmである。内底面のナデは摩滅のため不明なものが多いが、基本的にナデ調整を施しているものとみられる。底部には板状圧痕がある例が多い。器厚が全体に厚いもの(B-III-b 2)として265~295がある。口径は6.6~7.6cmでやはりb 1類よりもやや大きめである。器高は2.0~2.5cm、底径は4.2~5.0cmである。内底面のナデは摩滅のため不明なものも多く、底部の板状圧痕も残っていない例が多い。

C類は口径と底径の差が大きい逆台形形状を呈すかわりである。大形のもの(I)は149の1点のみである。口径13.0cm、器高4.2cm、底径6.6cmを測る。内底面にナデを施しているが、底部の調整は不明である。中形のもの器厚によって、薄手(C-II-1)と厚手(C-II 2)がある。C-II-1類は173~175で、口径は10cm前後を測り、底径は5.4~5.8cmである。内底面にはナデを施し、底部には板状圧痕が認められる。厚手のC-II-2類は179~182で、II-1類よりもやや大きめで、口径10.6~11.0cmである。小形かわりけのIII類も、器厚により2種類に細分できる。薄手のC-III-1類は297~322で、口径は5.8~6.8cm、器高2.0cm、底径は4.0cm以下である。内底面のナデが施される例はほとんどなく、また底部の板状圧痕のないものも多くある。厚手のC-III-2類は323~349で、III-1類よりもやや大きめで、口径6.6~8.0cmである。器高も2.5cm前後とやや高めになる。底部が非常に厚く、また器形の歪みが著しいものが多い。内底面のナデ、底部の板状圧痕はほとんど認められない。

器高が高く、体部が内彎するD類は、小形かわりけのIII類のみ抽出できた。D-III類に該当するものは、350~359で、口径6.6~7.0cm、器高2.5cm前後、底径は3.2~4.0cmを測る。内底面のナデはない例が多く、底部の板状圧痕もほとんど認められない。胎土は他に比べて白色味が強く、砂質の粉性のものである。大形・中形を抽出することができなかったため、このD類はC類のパラエティの可能性もある。

当遺構のかわりけは、小形かわりけの占める割合が多いことが特徴で、また口縁部にススが付着しているものも多く、とくに小形かわりけでは9割近くにその傾向が認められる。本遺構出土のかわりけは非常にパラエティに富むが、共存する陶磁器、とくに瀬戸美濃が数型式にわたり年代幅があるため、時期差か系統差かの判断は難しい。ただし、A類・B類は前代のかわりけと形態的な連続性が認められ、C類・D類はこれまでのかわりけにみられなかった新しい形態であると考えられる。

瓦質製品は総数で65点出土しているが、図示可能遺物は362~374の13点である。362~366は火鉢である。362はスタンブ文と連珠文を有す大形品である。363・365は無文で扁球形の胴部の火鉢である。364は浅い鉢形を呈すもので三脚が付く。366は浅い大形のものである。367~370は風炉で、いずれもスタンブが付されている。367・368は花文、369は雷文、370は斜行文が頸部または、胴部下位に認められた。371・372は香炉である。371は口縁部下に雷文様のスタンブが、372は胴部下位に連珠文が付されている。373は燭台で、下部に巴文が認められる。374は大形の獣足である。

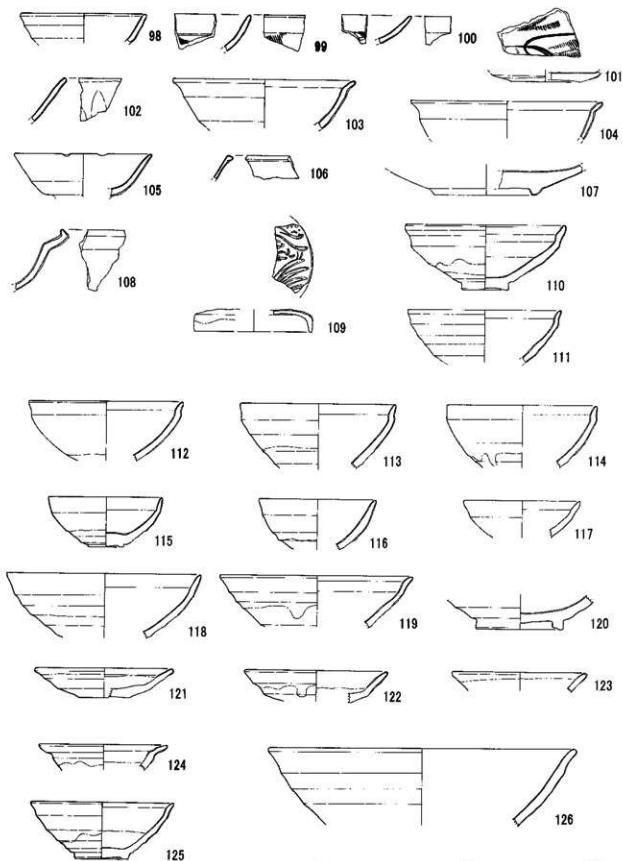
375~378は瓦で、375は巴文を有す軒丸瓦、376は丸瓦、377・378は平瓦である。

379は砥石で、伊予産の中砥と思われる。380は銭貨で熙寧元宝である。

第5号溝状遺構 SD05 (第68図 図版18)

検出範囲が限られているため、出土遺物は少ないが、かわりけ・瀬戸美濃・釘などが出土している。瀬戸美濃は381の銅皿1点のみの出土である。古瀬戸中期Ⅲ期である。かわりけは59点出土しているが、図示可能遺物は382~384の3点である。いずれもロクロ成形で、小形かわりけである。382・383は口径9.0cm代、384は口径7.4cmである。

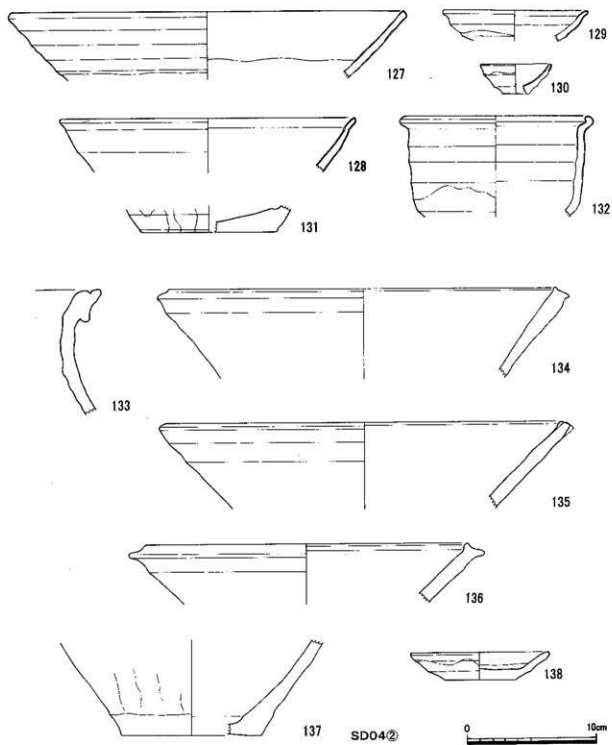
当遺構は出土遺物が少なく、また時期幅が認められるため、時期決定は困難である。



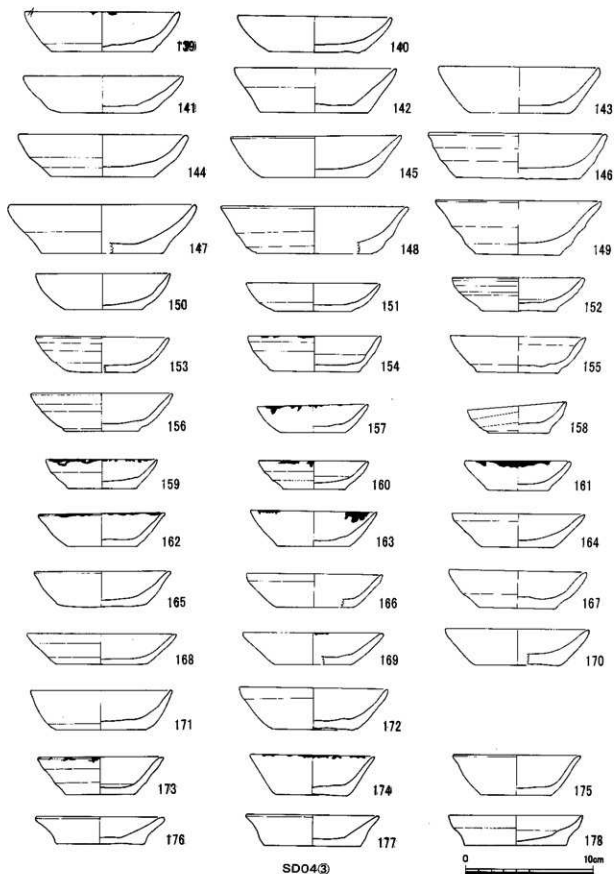
SD04①

0 10cm

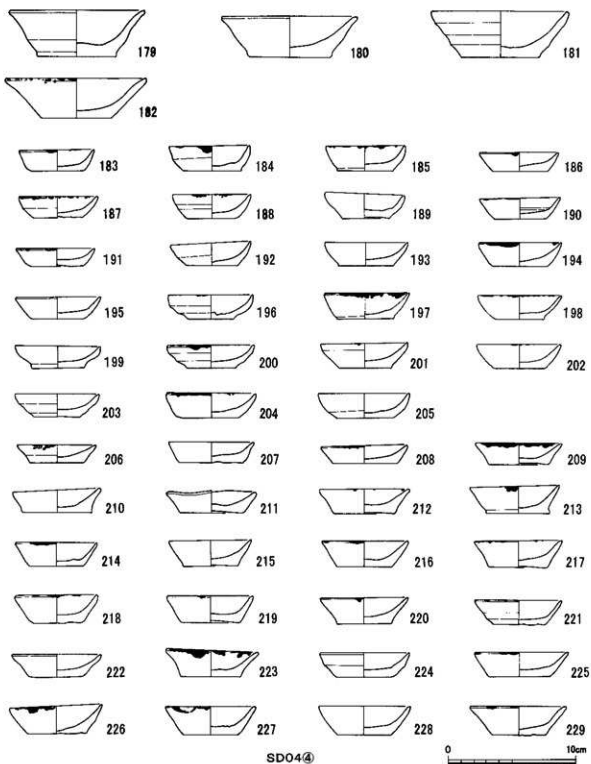
第60図 溝状遺構出土遺物(4)



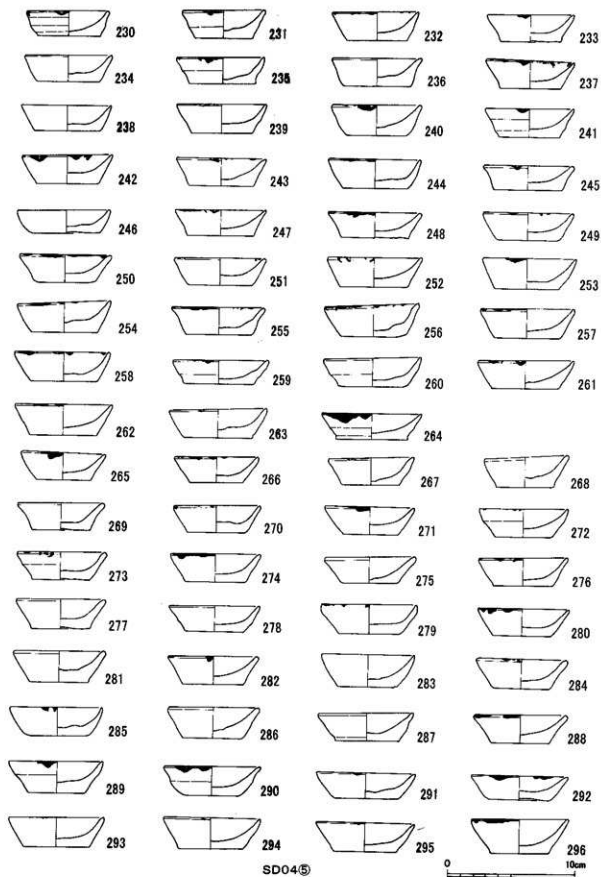
第61圖 溝状遺構出土遺物(5)



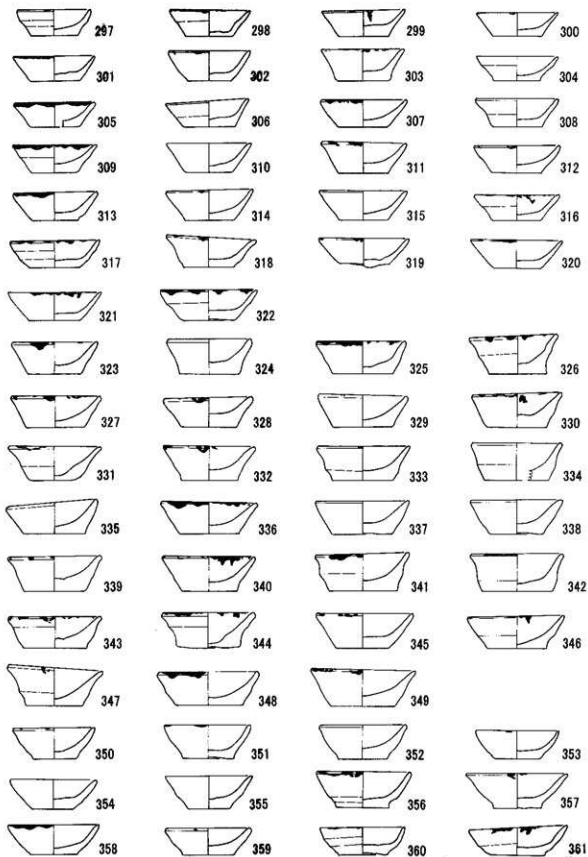
第62図 溝状遺構出土遺物(6)



第63図 溝状遺構出土遺物(7)



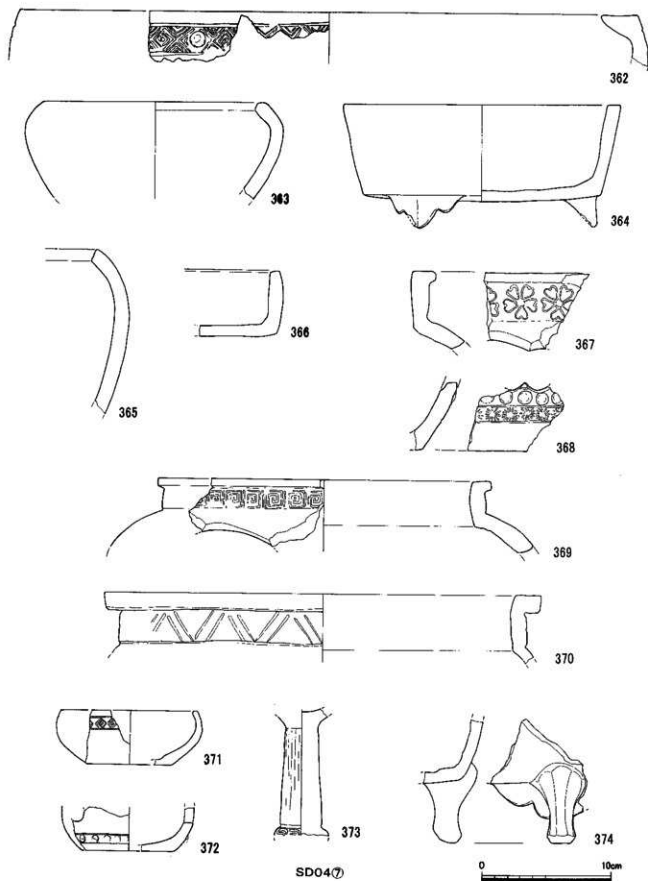
第64図 溝状遺構出土遺物(8)



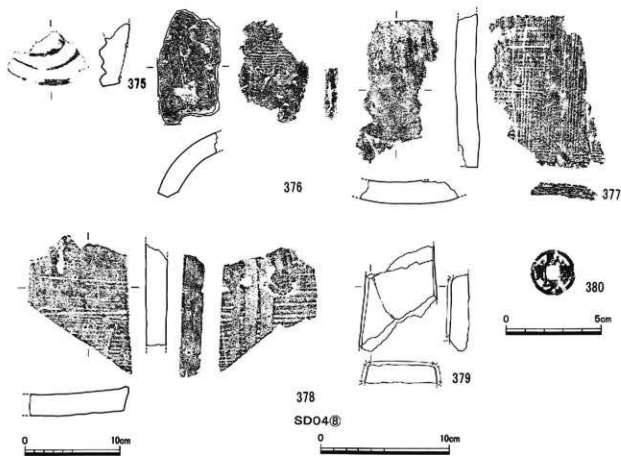
SD04⑥



第65図 溝状遺構出土遺物(9)



第66圖 溝状遺構出土遺物(10)



第67図 溝状遺構出土遺物(11)

第6号溝状遺構 SD06

出土遺物は、かわらけの小破片が7点出土しているのみで、図示可能なものはなかった。

第7号溝状遺構 SD07

出土遺物は、かわらけ破片15点の他・貿易陶磁・釘などがあるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。

第8号溝状遺構 SD08

出土遺物はなかった。

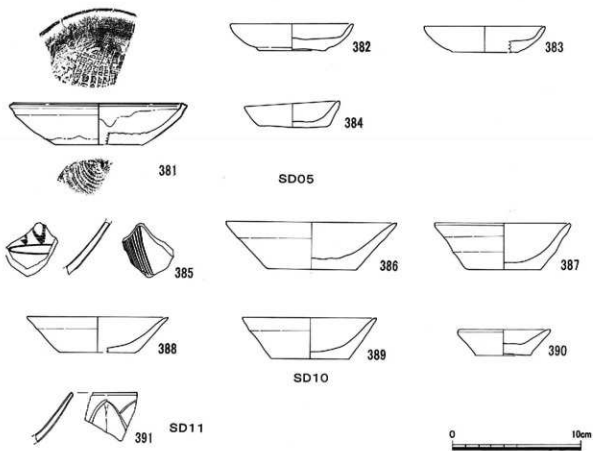
第9号溝状遺構 SD09

出土遺物はかわらけの小破片1点のみで、図示可能遺物はなかった。

第10号溝状遺構 SD10 (第68図 図版18)

出土遺物はかわらけ135点、貿易陶磁2点、常滑甕1点である。貿易陶磁青磁碗1点・かわらけ5点が図示可能であった。385は同安窯系青磁碗である。他に白磁皿B群が出土している。386~390はかわらけで、いずれもロクロ成形、体部が直線的に立ち上がるものである。

図示した貿易陶磁は中世前期のものであるが、かわらけは中世後期の15世紀代と考えられ、当遺構の



第68図 溝状遺構出土遺物(12)

時期も概期に比定されよう。

第11号溝状遺構 SD11 (第68図)

かわらけ120点、貿易陶磁2点、常滑2点が出土しているが、図示可能遺物は貿易陶磁青磁碗1点のみである。391は青磁碗のI-5類である。

出土した常滑甕は2～3形式、かわらけは手づくねを含む中世の古い段階のもので、当遺構は12世紀末～13世紀前半と考えられる。

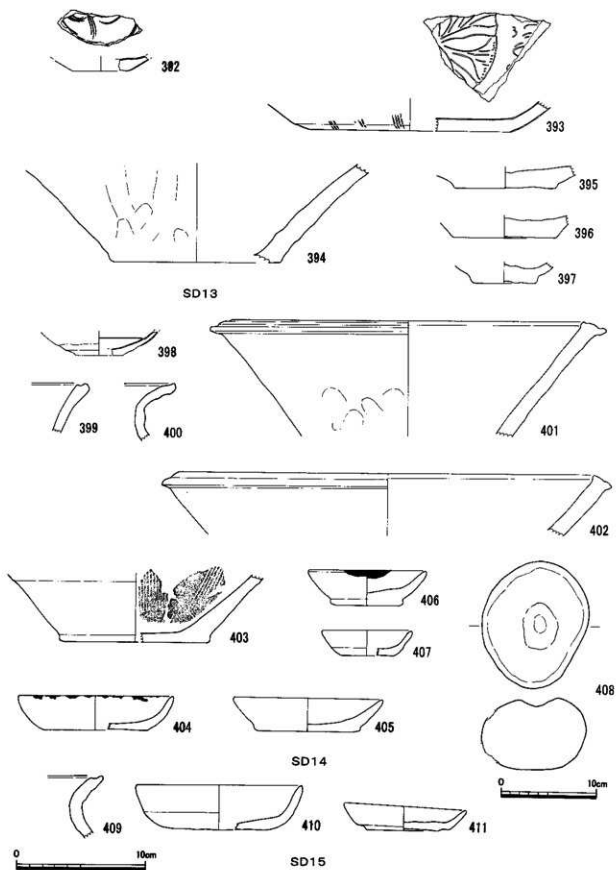
第12号溝状遺構 SD12

出土遺物は、かわらけ19点・常滑2点・瓦質製品1点などがあるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。当遺構の時期も不明である。

第13号溝状遺構 SD13 (第69図)

出土遺物は、かわらけ49点、貿易陶磁5点、瀬戸美濃1点、常滑は8点、瓦質製品1点などである。図示可能遺物は392～397の6点である。

392は貿易陶磁の龍泉窯系青磁皿で、劃花文が描かれる。393は瀬戸美濃・古瀬戸中Ⅲ期の折縁深皿である。内面に花文、外面には柳描きの文様が認められる。394は常滑の片口鉢Ⅱ類で、11型式に比定される。



第69圖 溝状遺構出土遺物(13)

395～397はかわらけであるが、いずれも厚手の底部破片で、12世紀末～13世紀前半に比定される。当遺構はかわらけ・陶磁器ともに時期の異なるものが混在しており、時期決定は困難である。

第14号溝状遺構 SD14 (第69図)

出土遺物は、かわらけ305点、貿易陶磁4点、瀬戸美濃4点、常滑36点、志戸呂1点、瓦質製品6点、瓦4点、石製品1点等があり、種類・量ともに豊富であるが、図示可能遺物は398～408の貿易陶磁・常滑・かわらけ・石製品等の11点である。

398は貿易陶磁白磁の皿である。399は瀬戸系山茶碗の片口鉢である。藤澤編年の7型式である。400～403は常滑である。400は甕で3型式、401・402は片口鉢Ⅱ類で11型式である。403は志戸呂窯製品の描鉢で、古瀬戸後Ⅳ期併行のものである。

404～407はかわらけで、404・405は大形、406・407は小形品である。404・406は口縁部にススが付着する。408は凹みを有す軽石製品である。

当遺構の出土遺物は貿易陶磁や国産陶器の一部に時間幅があるが、全体としては中世後期のものと考えられる。

第15号溝状遺構 SD15 (第69図)

出土遺物は、かわらけ18点、常滑5点、瀬美2点が出七し、409～411の3点が図示可能であった。409は常滑の甕で3型式である。410・411はかわらけである。410は手づくね成形、411はロクロ成形である。

第16号溝状遺構 SD16 (第70～72図 図版11・18)

遺物は種類・量ともに豊富で、かわらけ1,834点、貿易陶磁16点、瀬戸美濃38点、常滑38点、瀬美3点、東遠江系山茶碗1点、志戸呂5点、瓦質製品44点、石製品5点、鉄製品7点が出土している。

貿易陶磁は白磁碗、青磁碗・盤・香炉、褐釉壺などが出土しているが、412～414の3点を図示した。412・413は同安窯系の青磁碗である。414は白磁の口禿碗・Ⅰ類である。

瀬戸美濃は天目茶碗・平碗・縁軸小皿などが出土している。このうち、415～424が図示可能であった。415・416は天目茶碗で415は後Ⅱ期、416は後Ⅲ期である。417は小天目茶碗で後Ⅲ期である。418・419は平碗で418が後Ⅲ期、419が後Ⅳ古期である。420～422は縁軸小皿、420は鉄軸施軸で後Ⅲ期、421・422は灰軸施軸で後Ⅳ古期である。423は大窯1段階の端反皿である。424は柄付片口で後Ⅲ期のものである。

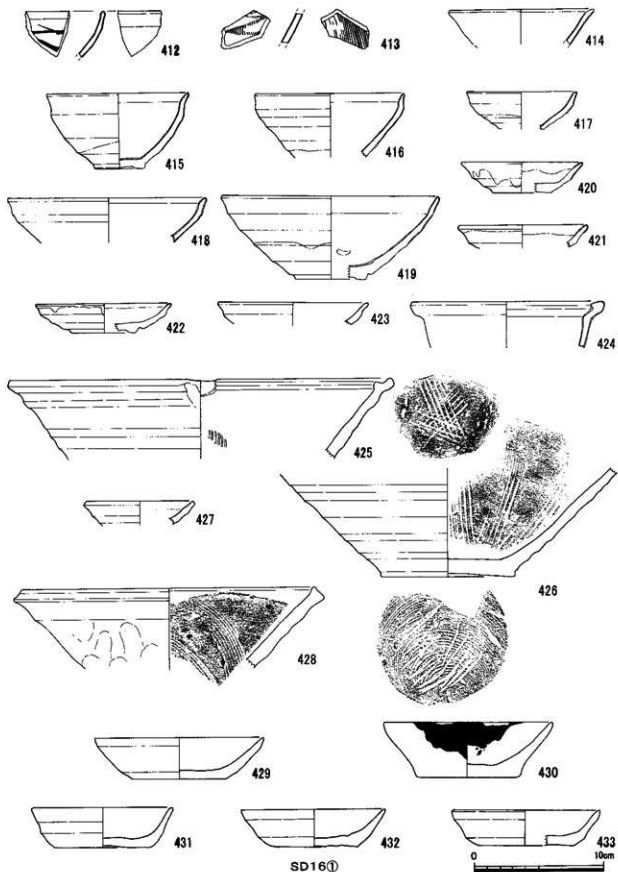
志戸呂は描鉢が出土しており、425・426の2点を図示した。瀬戸美濃の後Ⅳ期併行の描鉢である。

427は東遠江系山皿である。東遠江系山茶碗はこの1点のみの出土である。

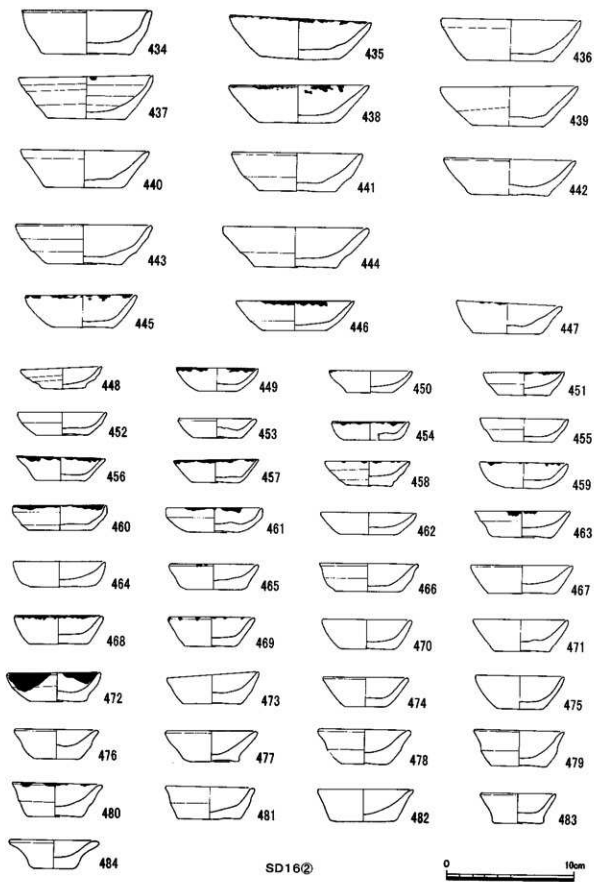
428は常滑の片口鉢Ⅱ類である。8形式に比定され、内面に摺り目を有す。

429～499はかわらけである。当遺構のかわらけは、第4号溝状遺構のものと同様に近似しており、同様の分類基準で記述する。

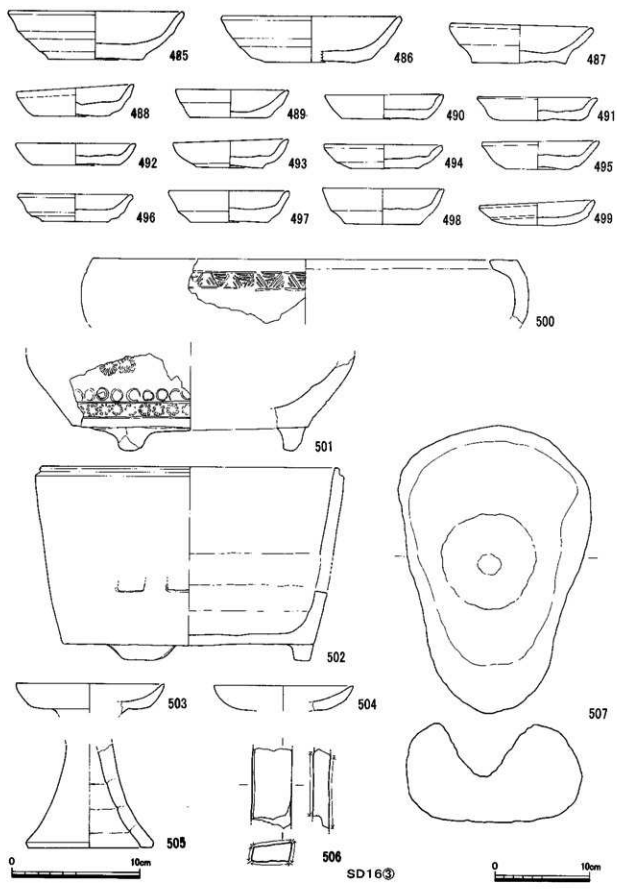
429は箱形を呈すB類の大形かわらけ(B-I)である。口径は13.2cmを測り、内底面にはナデを施す。430は逆台形状を呈すC類の大形かわらけ(C-I)である。底径は8.2cmで、第4号溝状遺構の例よりもやや大きい。口縁部にススを付着する。432・435～444はB類の中形かわらけ(B-II)である。口径は10.0～11.0cmで、底径は6.0～6.8cmである。底径がやや小さい傾向がある。445・446は体部が内彎するA類の中形かわらけ(A-II)である。448～452は同じくA類の小形かわらけ(A-III)である。453～473はB類の小形かわらけである。このうち、454・455は口径と底径の差が小さい箱形のa類薄手(B-III-a1)、464～467はやや厚手のもの(B-III-a2)である。456・457は口径と底径の差が大きく逆台形状を呈すb類の薄手タイプ(B-III-b1)、453・458～473は厚手のかかわらけ(B-III-b2)である。474～484は器高の高い逆台形を呈するC類の小形かわらけ(C-III類)である。



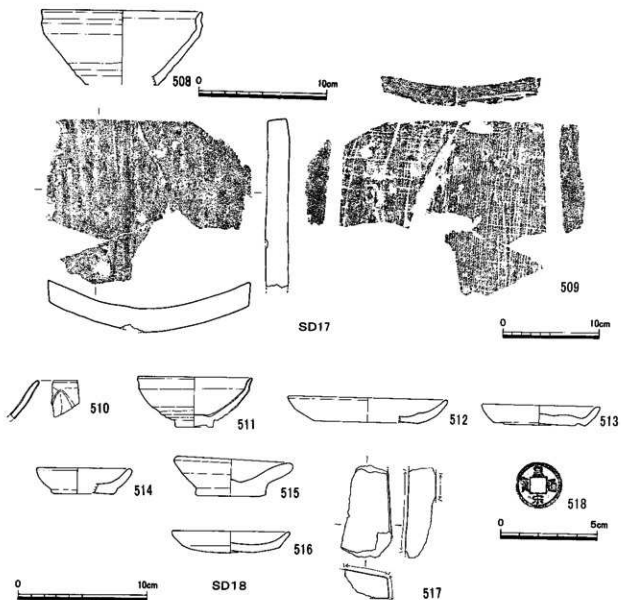
第70图 清状遗構出土遺物(14)



第71図 溝状遺構出土遺物(15)



第72図 溝状遺構出土遺物(16)



第73図 溝状遺構出土遺物(17)

このうち、474・475・483は器厚が薄いもの(C-Ⅲ-1)、476～482・484は厚手のもの(C-Ⅲ-2)である。

また、485～498は古手のロクロ成形かわらけで、第2号井戸出土のものに近似する。499は手づくね成形かわらけで、同じく第2号井戸と同時期のものと思われる。

500～505は瓦質製品である。500・501は火鉢で、500は口縁下に斜行と横線のスタンプを有す。501は胴部に花文のスタンプと連珠が巡る。502は胴部に窓があり、行火と思われる。503～505は燗台で、503・504は受け皿部、505は脚部の破片である。

石製品は砥石・軽石製品などが出土している。2点が図示可能であった。506は砥石で伊予産の中砥である。507は表面に深く大きな凹みを有す軽石製品である。

第17号溝状遺構 SD17 (第73図)

出土遺物は、かわらけ29点、瀬戸美濃2点、常滑2点、瓦3点などがあるが、瀬戸美濃天目茶碗と平瓦のみ図示可能であった。508は瀬戸美濃天目茶碗で後IV古期のものである。509は平瓦で凸面に縄目を有す。

出土したかわらけは小破片で、また時期の異なる遺物が混在しているため、遺構の時期は不明である。

第18号溝状遺構 SD18 (第73図)

出土遺物は、かわらけ518点、貿易陶磁6点、瀬戸美濃1点、常滑8点、石製品3点、銭貨などがあり、全部で9点が図示可能であった。

貿易陶磁は白磁碗、青磁碗、青白磁梅瓶などが出土している。510は龍泉窯系青磁碗のⅠ5類である。瀬戸美濃は1点のみの出土で、511の小天日茶碗のみ図示可能であった。後Ⅱ期に比定される。

512～516はかわらけである。512は口径約13cmの大形のかわらけで、器高が低く扁平なものである。513～515は小形かわらけである。515は厚手で底部が突出する。516は平づくねかわらけである。

517は砥石で上野産の中砥である。518は北宋銭・泉末道宝である。

当遺構は、陶磁器・かわらけともにいくつかの時期のものが混在している状況であり、時期を決定することは困難である。

第19号溝状遺構 SD19 (第74・75図 図版18)

かわらけ809点、貿易陶磁6点、瀬戸美濃18点、常滑10点、瓦質製品15点、瓦3点、石製品2点、銭貨などが出土している。

貿易陶磁は青磁碗、白磁皿、天日茶碗などが出土している。519・520の2点が図示可能である。519は口縁部に雷文を有す龍泉窯系青磁碗である。520は同じく龍泉窯系青磁碗で、口縁部が端反になるタイプである。

瀬戸美濃は大目茶碗、平碗、盤類などが出土しているが、521～523の3点を図示した。521は後Ⅱ期の平碗、522は反軸施釉の輪花小鉢である。後Ⅰ期か後Ⅱ期。523は鉄釉の香炉で中Ⅱ期のものである。

かわらけは57点が図示可能であった。当遺構のかわらけも第4号溝状遺構と共通しているため、同様の分類基準で記述する。当遺構で最も多く出土したのは逆台形のC類かわらけである。524～533・536・543・545・546～552・554・557・559～565・574～577が該当する。524は大形のC-I類、525～533・536は中形のC-II類である。このうち、536は器厚の薄いC-II-1類、他は厚手の2類である。543・545・546～552・554・557・559～565・574～577は小形のC-III類である。543～546が薄手の1類、その他は厚手の2類である。

この他、箱形のB類が一定量、体部内彎のA類、器高がやや高めで内彎するD類が少量出土している。534・535・537・538は箱形を呈すB類の中形かわらけ(B-II類)である。553・555・567～570はB類の小形かわらけのうち、口径と底径の差がないa類の厚手に属するもの(B-III-a2類)、556は底径が小さめで薄手のかわらけ(B-III-b1)、544・571～573は厚手のもの(B-III-b2類)である。539～542は体部内彎のA類の小形かわらけ(A-III類)である。A類は小形のもののみ出土している。556・558はD-III類のかわらけである。

瓦質製品は578～580の3点を図示した。578は香炉の底部、579は双耳壺が銅類の底部と思われる。580は燭台の脚部である。

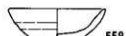
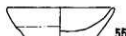
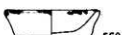
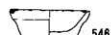
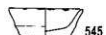
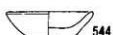
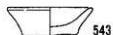
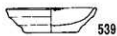
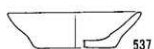
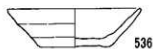
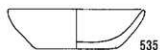
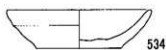
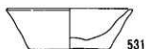
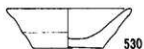
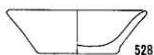
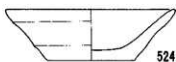
瓦は2点図示した。581は軒丸瓦で、破片資料であるが巴文の一部が認められた。582は丸瓦で、凹面に布目が残る。

石製品は2点を図示した。583は砥石で鳴滝産の仕上げ砥である。584は凹みをもつ軽石製品である。

第20号溝状遺構 SD20 (第76・77図 図版12)

出土遺物は、瀬戸美濃・唐津と肥前産の碗・皿、瓦質の甕などがある。この他、中世の貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・かわらけなどが混入している。

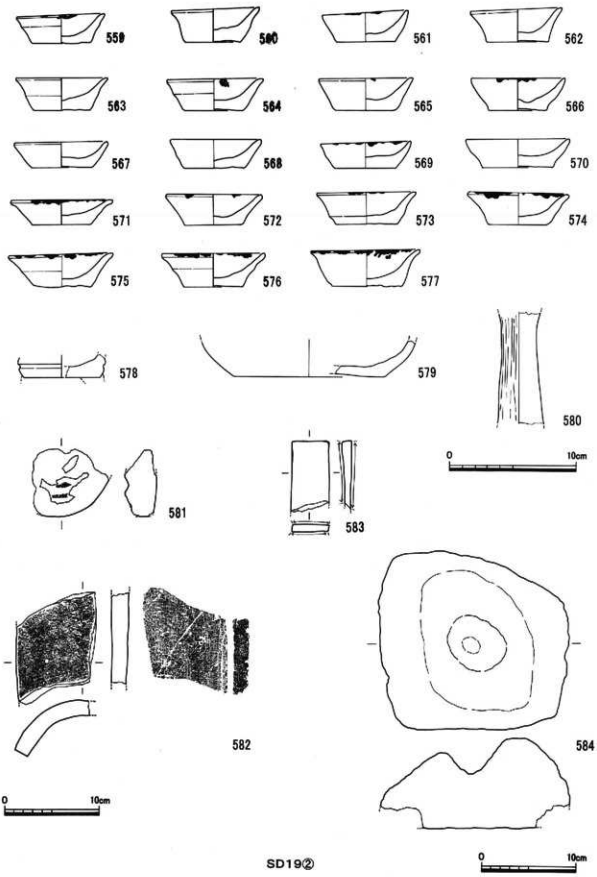
瀬戸美濃は徳利・碗・皿などが出土している。585は鉄釉施釉の徳利で、大窯2～3段階のものであ



SD19①



第74図 溝状遺構出土遺物(18)



SD19②

第75図 溝状遺構出土遺物(19)

る。586は鉄釉椀皿で、大窯2後半段階に比定される。587～594は登窯期の瀬戸美濃製品である。587・588は天日茶碗、589は灰釉碗、590は鉄釉小杯、591は鉄釉の灯明皿である。592は志野釉の皿、593は灰釉施釉の皿、594は襷鉢である。591・594以外はいずれも17世紀後半の所産である。

585は唐津産の碗で、畳付部に砂目が残る。

596～598は磁器である。596は美濃産の皿で、内面に花蝶文が描かれる。597は肥前産のくらわんか碗、598は同じく肥前産の皿で、見込みに松竹梅文が描かれている。

599は瓦質の甕である。外面はよく研磨されている。

600～605は石製品である。600・601は砥石、603～305は軽石製品である。あるいは中世の混入の可能性もある。

606～618は中世の遺物で、混入と思われる。606～610は貿易陶磁。606は白磁碗、607は白磁輪花皿である。608～610は龍泉窯系青磁で、608は刺花文碗、609は腰折皿、610は端反碗である。611・612は瀬戸美濃で、611は後、新期の天日茶碗、612は中期の折縁深皿である。613～615は常滑の甕である。9～10型式に比定される。616・617はかわらけである。616はロクロ成形の小形品、617は手づくね成形かわらけである。618は丸瓦である。

第21号溝状遺構 SD21

出土遺物は、近世陶磁器・貿易陶磁等があるが、図示可能なものはなかった。

第22号溝状遺構 SD22

出土遺物は、近世陶磁器・瀬戸美濃・常滑・かわらけ等があるが、図示可能なものはなかった。

第23号溝状遺構 SD23 (第78図 図版12)

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃、肥前産の磁器碗・皿などである。その他、中世の貿易陶磁、瀬戸美濃、かわらけなども出土しており、図示可能遺物は中世貿易陶磁・瀬戸美濃各1点のみである。

619は白磁口壳碗・Ⅹ類である。620は瀬戸美濃天目茶碗で、後Ⅲ期のものである。

第24号溝状遺構 SD24

出土遺物はなかった。

第25号溝状遺構 SD25 (第78図)

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃、肥前産の磁器碗・皿、石製品などである。その他、中世の貿易陶磁、瀬戸美濃、かわらけなども出土している、図示可能遺物は中世の瀬戸美濃平碗と石製品である。

621は後Ⅱ期の瀬戸美濃平碗である。622は軽石を棒状に加工した製品である。

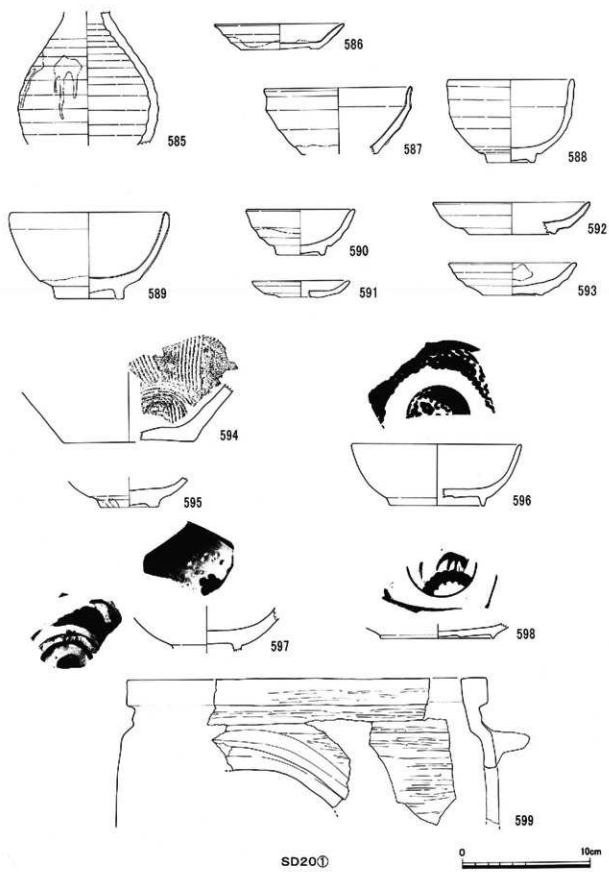
第26号溝状遺構 SD26

出土遺物は、近世陶磁器の小破片があるのみで、図示可能なものはなかった。

第27号溝状遺構 SD27 (第78図)

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ、貿易陶磁、瀬戸美濃、常滑、石製品などである。623は瀬戸美濃・登窯期の天目茶碗で、17世紀後半のものと思われる。624は貿易陶磁・緑釉盤である。

625は丸瓦であるが、胎土等の特徴から中世のものと思われる。626～632は石製品である。626・627



第76図 溝状遺構出土遺物(20)



第77図 溝状遺構出土遺物(21)

は砥石、628～632は軽石加工品である。

第28号溝状遺構 SD28

出土遺物は、かわらけの小破片があるのみで、図示可能なものはなかった。

第29号溝状遺構 SD29

出土遺物はなかった。

第30号溝状遺構 SD30 (第79図 図版12)

出土遺物は、近世陶磁器、中世のかわらけ、瀬戸美濃、常滑、瓦などで、17世紀代の瀬戸美濃志野皿と瓦各1点が図示可能であった。633は瀬戸美濃登窯期の志野皿で、17世紀前半のものである。634は丸瓦の破片で、胎上の特徴から中世のものと思われる。

第31号溝状遺構 SD31

出土遺物は、近世陶磁器・瀬戸美濃・常滑・かわらけ等があるが、図示可能なものはなかった。

第32号溝状遺構 SD32

出土遺物は、近世陶磁器・瀬戸美濃・常滑・鉄釘等があるが、図示可能なものはなかった。なかった。

第33号溝状遺構 SD33

出土遺物は、かわらけの小破片があるのみで、図示可能なものはなかった。

第34号溝状遺構 SD34 (第79図 図版12)

出土遺物は、近世陶磁器、瓦質製品、石製品などで、他に中世のかわらけ片等もある。このうち、17世紀代の唐津皿2点が図示可能であった。

635・636ともに唐津の皿で、灰軸が施される。見込みには胎上目の痕跡が認められた。

第35号溝状遺構 SD35 (第79図)

出土遺物は、近世陶磁器、かわらけ・瓦質製品・石製品等で、中世の瓦質火鉢と石製品を図示した。637は瓦質火鉢の人形獣足である。638は表面にわずかな凹みのある軽石加工品である。

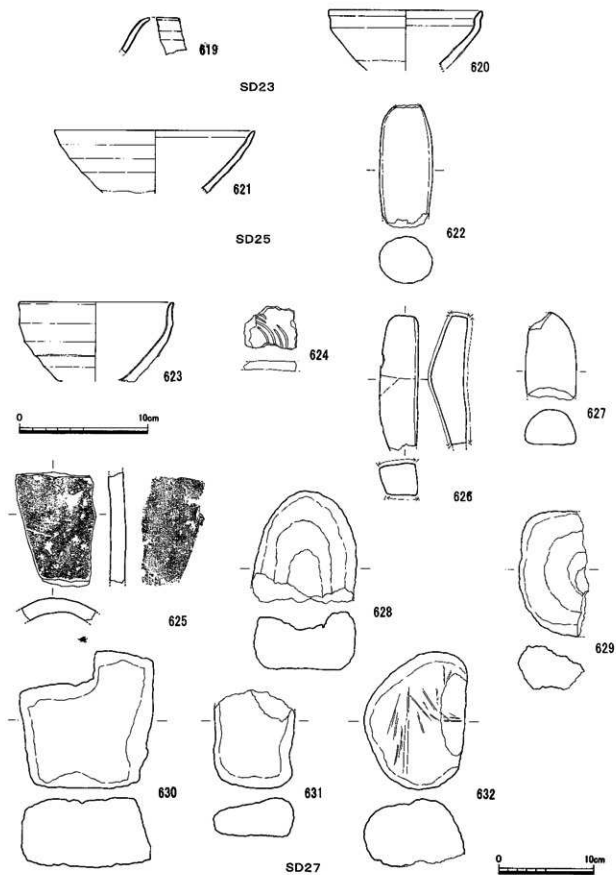
第36号溝状遺構 SD36

出土遺物は、かわらけ・鉄釘等で、図示可能なものはなかった。なかった。

第37号溝状遺構 SD37 (第79図)

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ・貿易陶磁・常滑などで、図示可能遺物は中世のものである。

639～641は貿易陶磁で、639は白磁の皿、640は龍泉窯系青磁の蓮弁文碗（Ⅰ～5類）である。641は青磁の桜花皿である。642は常滑の片口鉢Ⅱ類で、11型式に比定される。643～645はかわらけで、いずれもロクロ成形の小形品である。



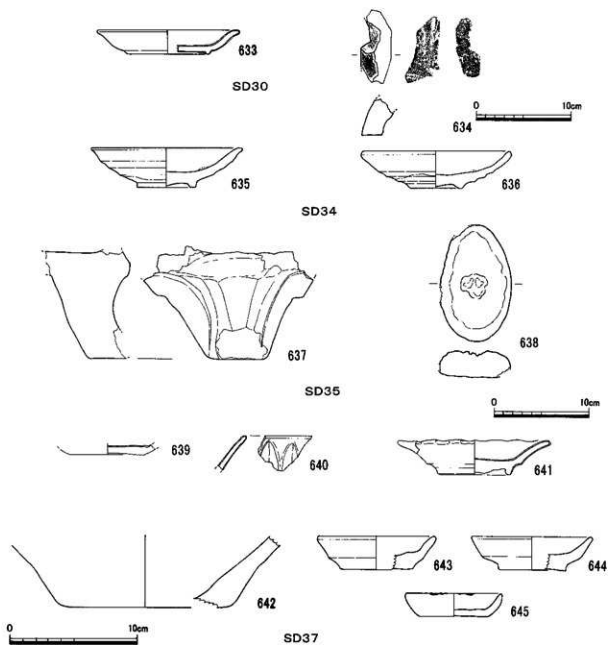
第78図 溝状遺構出土遺物(22)

第38号溝状遺構 SD38

出土遺物は、近世陶磁器・貿易陶磁・常滑・かわらけ等があるが、図示可能なものはなかった。

第39号溝状遺構 SD39

本遺構は確認のみにとどまっているため、出土遺物はなかった。



第79図 溝状遺構出土遺物(23)

(4) 土坑墓出土遺物

上坑墓は5基検出された。出土遺物はいずれもかわらけが中心で、陶磁器等の明確な共伴例はなかった。

第1号土坑墓 ST01 (第80図)

出土遺物は、かわらけ31点、鉄釘4点で、かわらけ2点が図示可能であった。

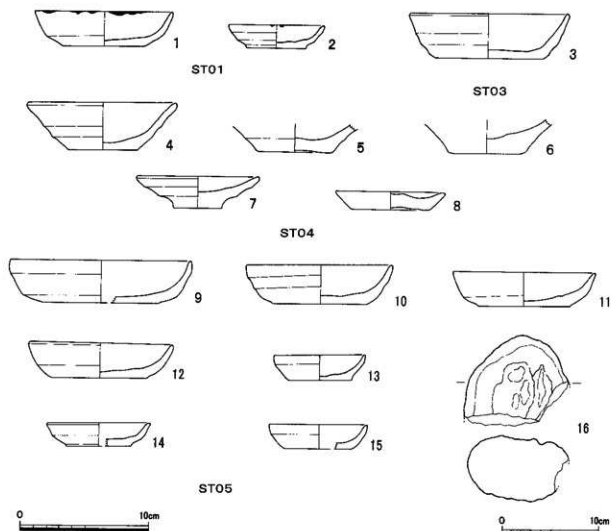
1・2はともにロクロ成形で、体部が内彎するものである。口縁部にススが附着する。大小のセットと考えられる。

第2号土坑墓 ST02

出土遺物は、かわらけ9点、鉄釘14点などで、他に漆片、骨片なども認められた。かわらけはいずれも小破片で、図示可能遺物はなかった。

第3号土坑墓 ST03 (第80図)

出土遺物は、かわらけ14点、骨片などである。かわらけ1点が図示可能であった。3は口径と底径の差が小さい箱形のロクロ成形かわらけで、底部に板状圧痕を残す。



第80図 土坑墓出土遺物

第4号土坑墓 ST04 (第80図)

出土遺物は、かわらけ44点、貿易陶磁1点、瀬戸美濃1点、鉄釘1点などであったが、図示できたのはかわらけ4点である。4は底径が小さく逆台形状を呈すかわらけである。5・6は底部破片であるが、同様のタイプであろう。7は底部の突出する小形のかわらけ、8は器高の低い小形品である。

第5号土坑墓 ST05 (第80図 図版18)

出土遺物は、出土遺物はかわらけ382点、常滑1点、軽石加工品1点、鉄釘1点、スラグ1点などで、覆土内には炭化物も多く認められた。かわらけ7点と軽石製の凹石1点が図示可能であった。

9は口径14cmを越える大形のロクロ成形かわらけである。10～12は中形、13～15は口径8cm以下の小形かわらけである。いずれも形態や胎土が共通しており、大中小のセットと考えることができる。

(5) 土坑出土遺物

土坑は62基検出した。このうち、遺物が出土しているのは49基で、図示可能遺物が出土したのは12基である。ここでは、遺物を図示した土坑のみを記述することとし、それ以外の遺物の出土状況については遺構一覧表を参照されたい。

第14号土坑 SX14 (第81図)

出土遺物はかわらけ1点、古代末の土師器などである。図示可能遺物は1点のみである。1は柱状高台の土師器で、古代末のものと思われる。

第19号土坑 SX19 (第81図 図版18)

かわらけが88点出土しており、そのうちロクロ成形のものが56点、手づくね成形30点、不明2点であった。手づくね成形のかわらけが2/3近くを占める。かわらけ1点を図示した。2は手づくね成形かわらけで、口径11.6cm、器高3.0cmを測る。器高が高い小形化したタイプである。

第34号土坑 SX34 (第81図 図版18)

出土遺物はかわらけのみで、このうちロクロ成形が59点、手づくね成形が35点の計94点であった。8点が図示可能であった。

3～5はロクロ成形かわらけである。3・4は底部破片であるが、底径7.0cmを測り、大形かわらけと思われる。5は口径9.6cmの小形品である。6～10は手づくね成形かわらけで、6～9が大形、10が小形品である。いずれも口径に対して器高が高いタイプの手づくね成形かわらけである。

第35号土坑 SX35 (第81図)

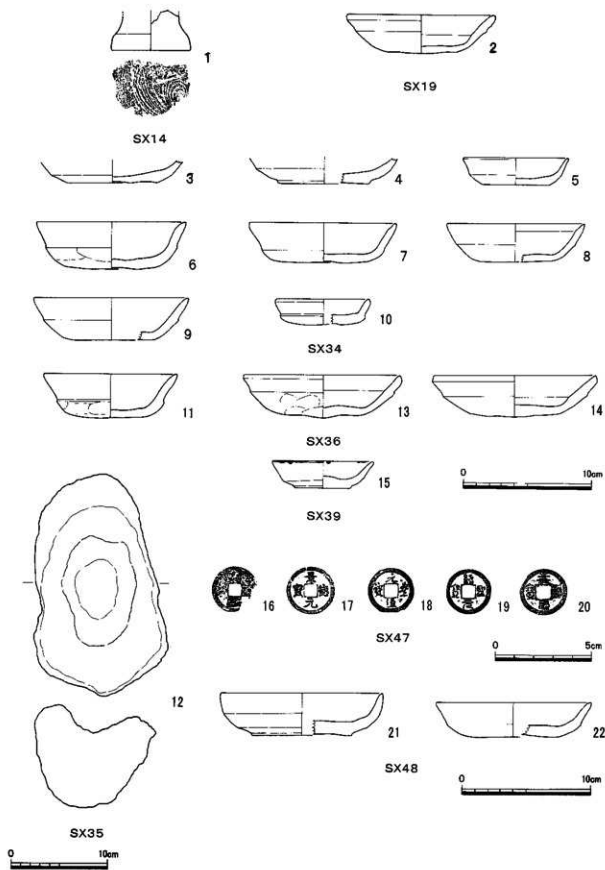
石製品1点のみ図示可能で、その他かわらけ・陶磁器類は小破片のため図示できなかった。11は凹みを有す軽石加工品である。

第36号土坑 SX36 (第81図 図版18)

出土遺物は108点、貿易陶磁1点、常滑1点、鉄釘などが出土しているが、かわらけ3点が図示可能であった。11～14はいずれも大形の手づくねかわらけである。

第39号土坑 SX39 (第81図 図版19)

出土遺物はかわらけ9点、貿易陶磁1点などで、かわらけ1点を図示した。15はロクロ成形の小形か



第81図 土坑出土遺物(1)

わらけで、口縁部にススが附着する。

第47号土坑 SX47 (第81図)

かわらけ17点・銭貨などが出土しているが、かわらけは小破片のため図示はできなかった。銭貨5点が図示可能であった。16は唐銭の開元通宝、17～20は北宋銭で、17が景德元宝、18が元豊通宝、19が招聖元宝、20が嘉祐通宝である。銭貨の出土から、本七坑が土坑墓の可能性もあるが、骨片等は出土しておらず、確定することはできなかった。

第48号土坑 SX48 (第81図)

かわらけ49点、渾美1点などが出土した。かわらけ2点のみ図示可能であった。21はロクロ成形、22は手づくね成形かわらけである。

第50号土坑 SX50 (第82図 図版19)

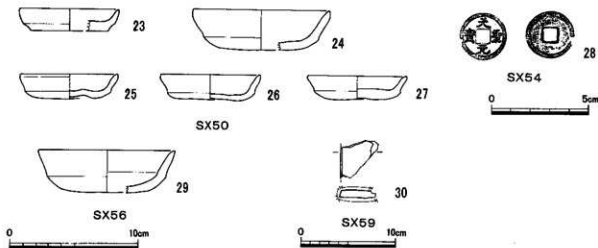
出土遺物はかわらけのみで、ロクロ成形かわらけ67点、手づくね成形かわらけ14点である。5点が図示可能であった。23は小形のロクロ成形かわらけである。24～27は手づくね成形かわらけで、24が口径10cmの大形かわらけ、他は小形かわらけである。いずれも口径が小さく器高が高いタイプの手づくね成形かわらけである。

第54号土坑 SX54 (第82図)

出土遺物はかわらけ・銭貨・鉄釘などである。かわらけは微細な破片が36点あるのみで、銭貨1点のみ図示可能であった。28は北宋銭・天聖元宝である。

第56号土坑 SX56 (第82図 図版19)

出土遺物はかわらけのみで、ロクロ成形25点、手づくね成形6点であった。手づくね成形かわらけ1点が図示可能である。29は口径10.6cm、器高3.3cmを測り、口縁部が外反するものである。



第82図 土坑出土遺物(2)

(6) 集石出土遺物

集石は17基検出された。このうち、遺物が出土しているのは、第1・2・5・6・8～12・16・17号の11基である。なお、各々の集石範囲で同レベルで出土しているものを、遺構に伴うものと認定しており、若干の混入のある可能性もある。また、集石下部の調査は行われていないため、下部の遺構等の有無によっては遺物の状況が変更する可能性もある。

第1号集石 GS01 (第83図)

本集石では、かわらけ10点、瓦2点、石製品1点などが出土している。1～6の6点が図示可能であった。

1～4はかわらけで、いずれもロクロ成形である。1は口径6.8cmの小形、2～4は大形のものである。5は平瓦、6は凹みを有す軽石加工品である。

第2号集石 GS02 (第83図)

遺物は常滑3点、かわらけ34点、瓦21点などである。多くは礎の間から出土している。

7は常滑の片口鉢Ⅱ類で、11型式である。8は東濠江系の小皿である。9～14はかわらけで、いずれもロクロ成形のものである。9は器高が高く口縁部が大きく外反するもの、10・11は口径約10cmの中形タイプで、体部が内彎するものである。12～14は口径8cm以下の小形品である。

15・16は平瓦で、凸面に縄目が認められる。

第5号集石 GS05

出土遺物は、常滑変破片が2点認められたのみで、図示可能遺物はなかった。

第6号集石 GS06 (第84図)

遺物はかわらけ27点、瀬戸美濃1点、常滑2点、瓦3点などで、かわらけ5点が図示可能であった。

17は口径10cmの中形かわらけで口縁部にススが付着している。19～21は小形のかわらけで、21のみは底径が小さく低い逆台形状を呈す。

第8号集石 GS08 (第84図)

瓦1点、石製品2点が出土した。22・23は凹みを有す軽石加工品で、集石の中に混在して出土した。24は軒平瓦の破片である。

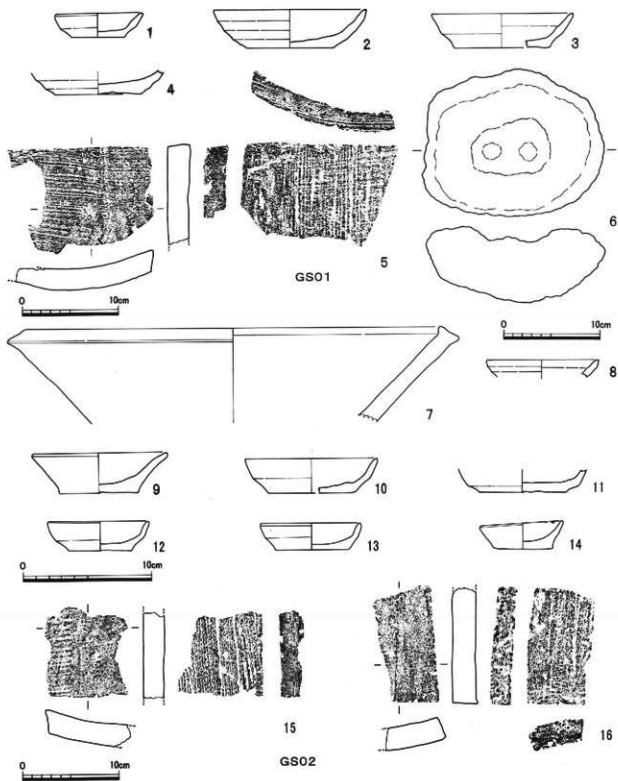
第9号集石 GS09 (第84図)

集石東側で瓦4点が出土し、24の軒平瓦1点を図示した。集石域からやや離れて出土しているため、本集石に伴うものであるかは確定はできない。

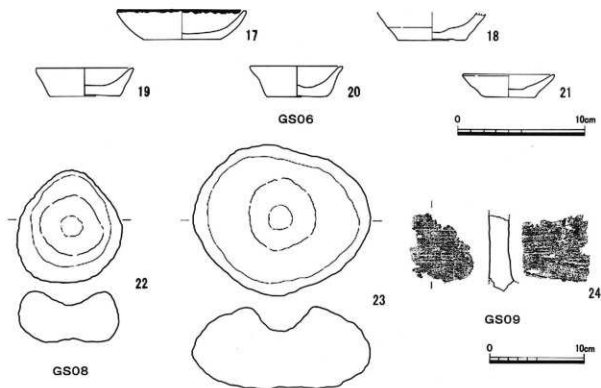
第10号集石 GS10 (第85～91図)

本集石範囲からは、大量の瓦が出土している。総数97点で、35点を図示した。他にかわらけ11点、貿易陶磁1点、瀬戸美濃1点、常滑3点、瓦質製品2点等が出土しているが、いずれも小破片であり、かわらけ2点のみ図示可能であった。

25は口縁部が外反する小形のかわらけである。26は口径11cmのやや大形のかわらけである。全体に厚手で、口縁部がやや外反する。27～61は瓦である。27・28は軒丸瓦で、27は瓦当に巴文を有す。29～34は軒平瓦である。29～31・33は瓦当文が認められたが、いずれも彫刻の剣頭文である。35～



第83回 集石出土遺物(1)



第84図 集石出土遺物(2)

37は丸瓦で、凸面に縄目、凹面に布目痕が認められる。38～61は平瓦である。このうち、40は全体の法量がほぼ推定できる破片で、全長32.9cm、下端幅22.9cm、厚さは最大で2.2cmを測る。本遺構出土の平瓦は、凸面に縄目をもつものがほとんどで、凹面は布目痕が残るか、丁寧なナデ調整を施している。

第11号集石 GS11 (第92図)

出土遺物は瓦1点のみであった。62は平瓦で、上端幅20cmを測る。凹面に布目痕が認められ、凸面はナデ調整である。

第12号集石 GS12 (第92図)

63の平瓦1点が出土した。その他かわらけ小破片3点が出土しているが図示はできなかった。

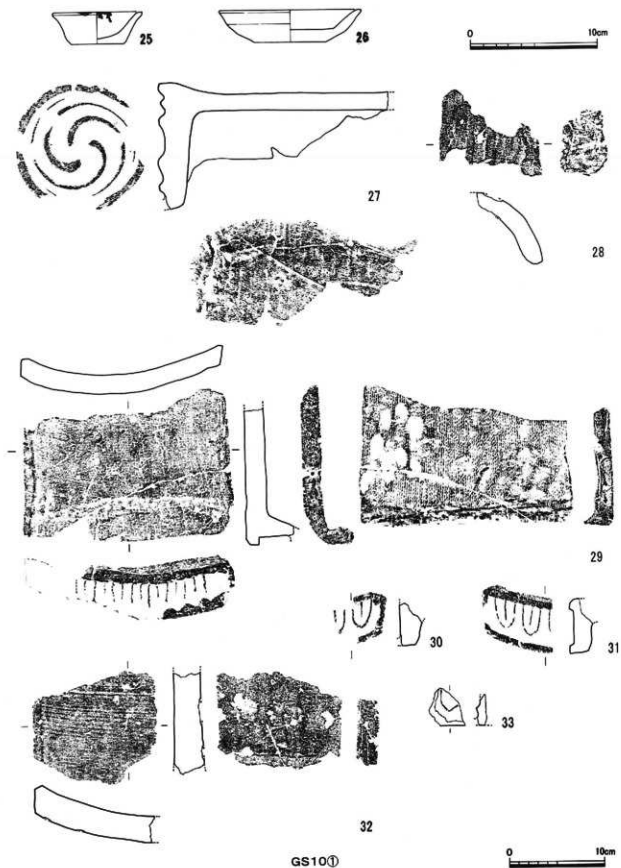
第16号集石 GS16 (第93図)

出土遺物はかわらけ5点、瀬戸美濃1点、常滑6点、瀬美1点、瓦6点、石製品で、瀬戸美濃・かわらけ・瓦、石製品を図示した。

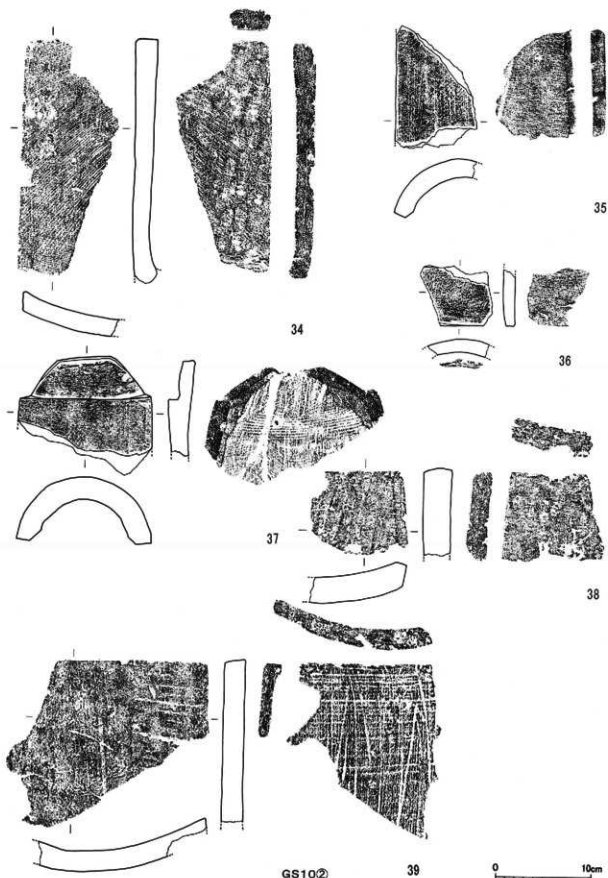
66は瀬戸美濃の播鉢で、後IV古期のものである。67は口径約12cmのロクロ成形かわらけである。68～70は平瓦で、いずれも凸面に縄目が認められた。71は軽石を円盤状に加工したものである。

第17号集石 GS17 (第92図)

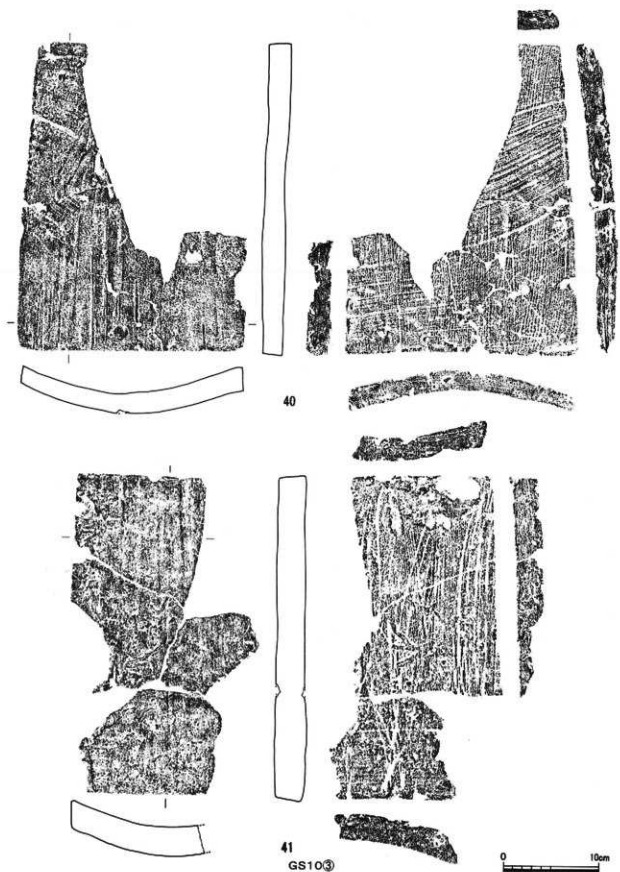
かわらけ2点が出土しており、図示可能であった。64・65はロクロ成形かわらけで、口径9cmを測る。底部が突出気味で体部が内彎するものである。



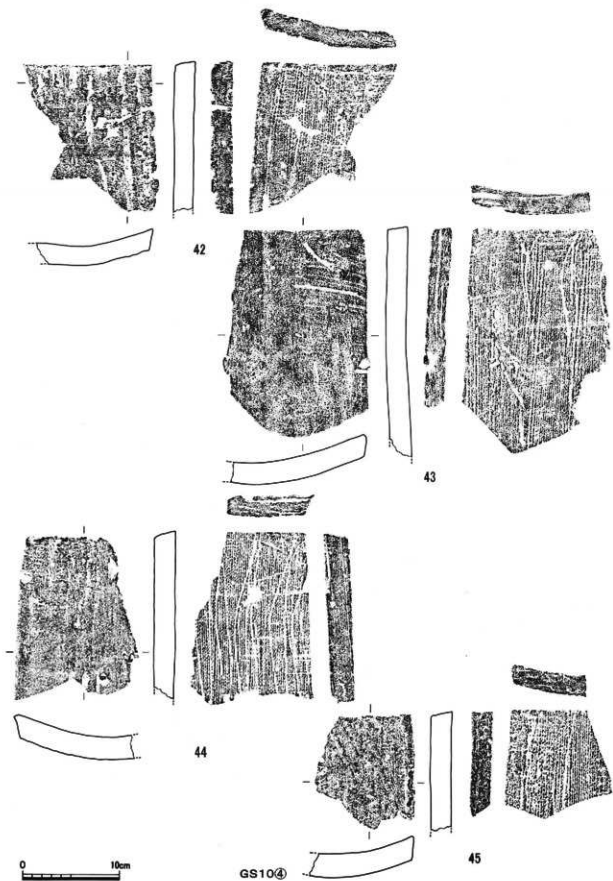
第85圖 集石出土遺物(3)



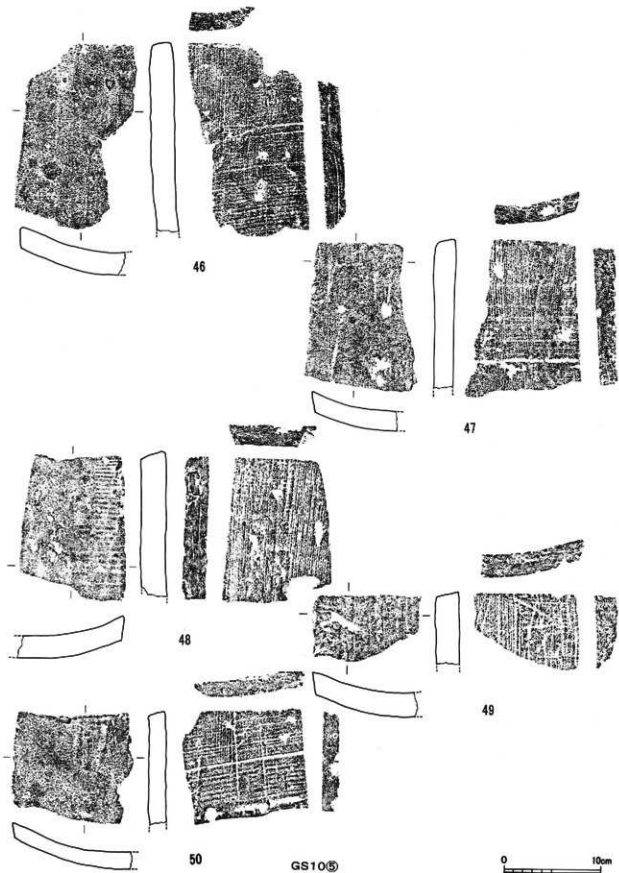
第86図 集石出土遺物(4)



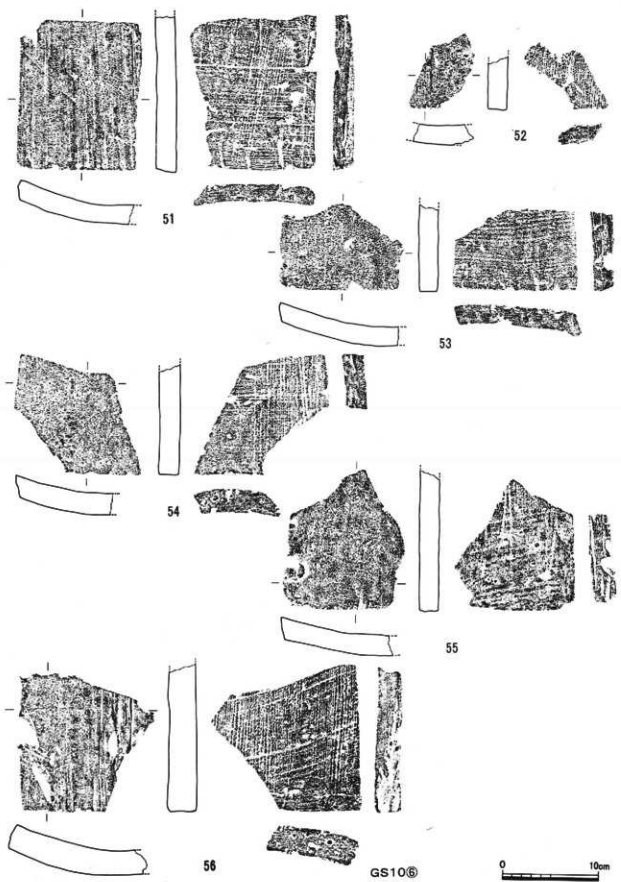
第87図 集石出土遺物(5)



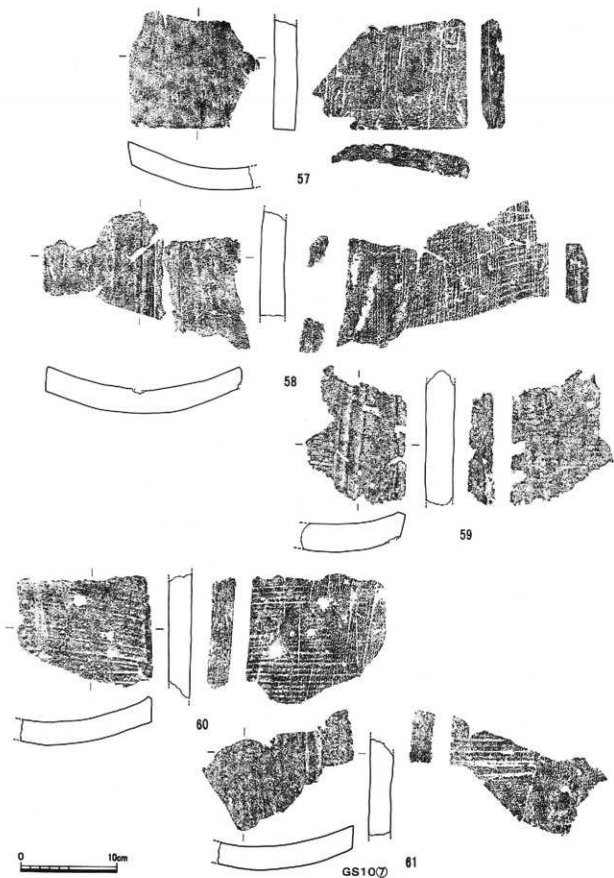
第88図 集石出土遺物(6)



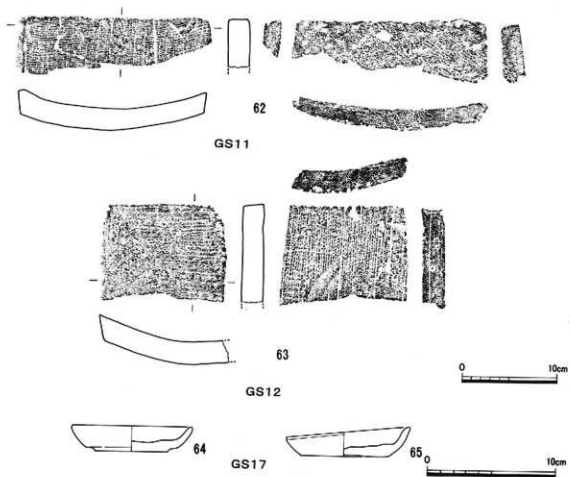
第89図 集石出土遺物(7)



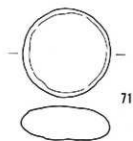
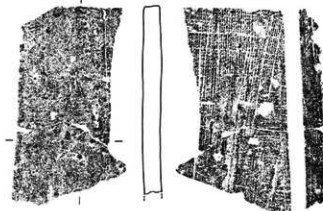
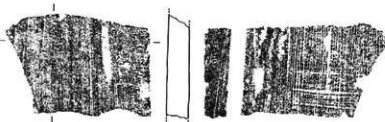
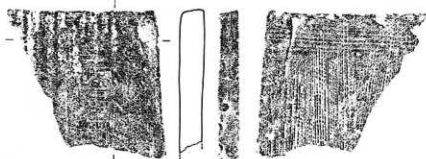
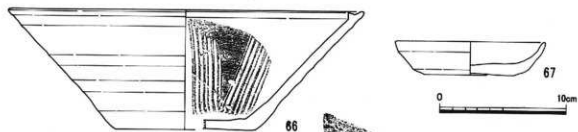
第90図 集石出土遺物(8)



第91図 集石出土遺物(9)



第92図 集石出土遺物(10)



70

GS16



第93図 集石出土遺物(11)

(7) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は1～5区の区別に記述する。

1区の出土遺物（第94～107図）

1区は調査区南部に設定された区で、最も多くの遺物が出土している。出土遺物は、貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・瀬美・かわらけ・瓦質製品・瓦・石製品・近世陶器などである。

第94・95図は貿易陶磁である。1～16は白磁で、碗(1～7)、皿(8～13・16)、坏(14)、小碗(15)がある。碗はⅡ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅹ類があり、12～13世紀のものが中心である。皿はⅣ・Ⅴ・Ⅷ・Ⅹ類があり、12のⅩ類皿は内面に雷文と花文の型押文が認められた。16はB群の皿で、15の小碗とともに明代のものである。17～52は青磁である。17～22は同安窯系青磁で、17～19が碗、20～22が皿である。23以下は龍泉窯系青磁である。23～35は劃花文の碗で、23～30はⅠ・2類、31～33はⅠ・4類、34・35はⅠ・6類である。36～42はⅠ5類の所謂蓮弁文碗である。いずれも鑑の明瞭なもので、13世紀代であろう。44～49は無文の碗、または底部破片のため分類不明のものである。このうち、44・49は口縁部端反のもので、14世紀後半代のものであろう。また、47は見込みに「河濱遠籠」の印を有すもので、12世紀代の製品とされている。45は、高台周辺部を意図的に細かく打ち欠いているもので、同様の例は本遺跡において多く認められた。50は皿で、劃花文系の皿であろう。51は口縁部が折縁になる盤、52は香炉の脚部で「夜学香炉」と呼ばれているものであろう。53～57は青白磁で、53～55は皿、56・57は梅瓶である。58は天目茶碗の底部破片である。59は泉州産の緑釉盤である。

第96図60～87は瀬戸美濃である。60～62は天目茶碗でいずれも後Ⅱ期と後Ⅲ期に比定される。63は小天目茶碗で後Ⅰ期のものである。64～68は平碗である。後Ⅰ～後Ⅳ新期のものが出土している。69～72は緑釉小皿、73・74は折縁小皿である。75は後Ⅳ新期の腰折皿である。76は後Ⅲ期の御皿で、口径は15cmを測る。77は折縁深皿、78は直縁大皿、82は御目付大皿である。80・81・83は仏花瓶である。84・85は柄付片口で後Ⅰ・Ⅱ期である。86は鉄釉の小鉢である。87は人子である。

第97図88～106第98図107～112は常滑である。88～95は甕で3型式・11型式までのものが出土している。95～110は片口鉢で、95～102は片口鉢Ⅰで2～5型式、103～110は片口鉢Ⅱで7～11型式である。111は5～6 a 型式の蓋口甕である。112は山茶碗で3型式に比定される。

第98図113～117は瀬美である。113～115は甕、116は鉢である。117は刻画文の描かれた甕である。118は瀬美か瀬西産の山茶碗である。

第99図119～133は東遠江系の山茶碗である。119～123は碗、124～133は小皿である。13世紀代のものであろう。134は志戸呂産の描鉢で、瀬戸美濃の後Ⅳ期併行である。

第99図135～第101図260はかわらけである。ロク口成形(135～246)と手づくね成形(247～260)が出上している。

135・136は口径14.0cmを越える大形のかかわらけである。底径は小さめで、第1号井戸・第2号井戸から出土した环形タイプに類似する。137～140は同じく第1号・第2号井戸出土かわらけと共通する小形タイプである。137・138は口径と底径の差が小さい皿形、139・140は底径の小さい环形である。141～147・156は口径12cm代のもので、第1号溝状遺構の大形かわらけに相当する。148～155・159～161は同じく第1号溝状遺構の中形、171～182は小形かわらけである。162～170は体部が直線的に立ち上がるかわらけである。162・165～167は第4号溝状遺構の箱形B類の大形、169はその中形である。163は逆台形のC類の大形、168～170は中形である。183～246は第4号溝状遺構出上のもので共通する小形かわらけである。183～186・203～225・227～230は箱形のBタイプ、187・188は内彎するA類、231～234は逆台形C類の薄手、235～246は同類厚手のかかわらけである。また、190・194はD類に相当する。

247～260は手づくねかわらけである。247～252は大形かわらけで、248～250は口唇部に面取りを

有すもの、252・252は厚手で器高の高いものである。253～260は小形のかわりけである。

第101図261～271は瓦質製品である。261・262は火鉢で、262は口縁部下にスタンプ文が巡る。263・264は風炉である。265～267は香炉、268～270は燗台である。271は蹴足であるが、器種は不明である。

第102図272～第106図329は瓦である。272～277は軒丸瓦でいずれも巴文である。272・273・276は網線部に連珠が付される。278～293は軒平瓦である。278は陰刻の剣頭文、279～287は陽刻の剣頭文である。288～291は半截花文半が描かれる。292・293は瓦当を欠く。

294～306は丸瓦である。凸面には縄目が、凹面には布目痕が残るものが多く認められる。307～329は平瓦で、凸面には縄目が、凹面には布目痕が、またはその後のナデ調整認められる。316は格子目のタタキが認められる。

第107図330～338は石製品である。330・331は滑石製の鍋である。332は同じく滑石製の温石で、孔が穿たれている。333～338は砥石である。333～335は中砥で、333・334が天草産、335が伊予産である。336～338は仕上砥で、鳴滝産である。

339は銭貨で北宋・聖宋元宝である。

第107図340以下は中世以外の遺物である。340・341は近世陶器で、340が唐津の碗、341は瀬戸美濃の志野皿である。342～345は灰釉陶器、346・347は須志器である。348は土製管玉である。また、349は弥生時代中期の壺形土器である。350～353は古代瓦である。350は単弁蓮華文の軒丸瓦である。351～353は正格子文叩きが施された平瓦である。

2区の出土遺物 (第108～113図)

2区は1区の北側に設定された比較的狭い調査区であるが、中世前期を中心に多くの遺物が出土している。

第108図1～39は貿易陶磁である。1～13は白磁で、碗のIV類・V類・Ⅷ類、皿Ⅹ類、四耳壺Ⅲ類が出土している。14～30は青磁である。14～20は同安窯系の碗・皿である。21～27は龍泉窯系の碗で、刺花文の類、錦蓮弁文のB1類、B2・B3類、D1類などが出土している。28・29は盤類、30は蓮弁の折縁皿または鉢で、見込みに双魚文が描かれる。31～33は青白磁である。31は碗、32は内面に印花文を有す皿、33は合子である。34は天目茶碗である。35～39は泉州系の陶器である。35・36は緑釉の盤、37は蓋と思われる。38・39は黄釉盤である。

第109図40～59は瀬戸美濃の陶器である。40～45は天目茶碗で、中Ⅳ期～後Ⅲ期のものが出土している。46は小天目茶碗で後Ⅱ期である。47～50は緑釉小皿である。後Ⅰ～後Ⅳ新期のものである。51は中Ⅳ期の折縁深皿、52・54は挿鉢、53は盤類である。55は後Ⅲ期の鉄軸浅碗、56は灰釉の平底木広碗である。57は中Ⅲ期の鉄軸大海茶入である。58は大窯4段階の志野鉄絵皿である。59は瀬戸6段階の山茶碗・片口鉢である。

第109図60～69第110図71～73は常滑美濃産の陶器である。60～67は常滑の甕で2～8型式が出土している。68は常滑片口鉢Ⅰで、2～3型式、69・71・72は片口鉢Ⅱで6～10型式である。70は瀬美産の鉢、73は瀬美または湖西産の鉢である。

第110図74～77は東遠江系の陶器である。74は碗、75は小皿、76・77は片口鉢である。

第110図78～第112図199はかわらけである。ロクロ成形(78～181)と手づくね成形(182～199)がある。

78～138は厚手のかわらけで、第1号・2号井戸出土のもの共通する。大小があり、皿形(78・81～84・86～89・90～92・94・99・102)と坏形(79～81・93・95～98・103)の2種が認められた。

139～144は口径10.5～12.0cmで体部がやや内彎気味に立ち上がるもので、第1号溝状遺構出土のものと同量・器形が共通する。145～153は口径10.0～11.0cmで体部が直線的あるいは外反するもので、第4号溝状遺構のC類中形に相当する。154～181は小形かわらけで、155～161・171は第1号・2号溝状遺構の小形かわらけと共通する。172～181は第4号溝状遺構のものと同類似し、172～176は箱形のB類、177～181は逆台形のC類である。166～170は口径8.0cm代のやや大きめの箱形のかかわらけである。

182～199は手づくねかわらけである。大形は口径14.0cm代、小形は10.0cm前後である。199以外は薄手で、全体に法量も大きめである。

第112図200～203は瓦質製品である。200は火鉢、201・202は香炉である。203は三足をもつ製品であるが、器種は不明である。204はかわらけ質の製品である。小形の香炉かと思われる。

第113図205～212は瓦である。205は軒丸瓦で、205は巴文、206は連珠文が付けられる。207・208は軒平瓦で、207は陰刻の剣頭文、208は半截花文である。209～212は平瓦である。凸面は縄目またはナデ、凹面は布目かナデ痕が認められる。212は格子目のタタキが認められる。

213・214は砥石で、213鴻巣産の仕上砥、214・215はそれぞれ上野産、伊予産の中砥である。

216・217は銭貨で、北宋銭・聖宋元宝、元祐通宝である。

218は近世陶器で、瀬戸美濃の灯明皿である。219は須恵器の瓶類、220は灰釉陶器の碗である。

221・222は石製の管玉で、古代のものであろう。

3区の出土遺物（第114～120図）

3区は2区の西側の調査区で、2区同様中世前期の遺物が多い傾向が認められた。

第114図1～37は貿易陶磁である。1～7は白磁で、碗IV・V・VIII・IX類の碗、V・VI類の皿がある。また、7は皿類の四耳壺である。8～26は青磁である。8～14は同安窯系の碗・皿である。15～23は龍泉窯系の碗で、割花文のI類、鎗蓮弁文のB1類、B3類、D1・2類などが出土している。24は外面蓮弁文の折縁盤、25は同じく蓮弁文の折縁皿である。26は礎花皿である。27～32は青白磁である。27～29は皿で、28は内面に印花文、29は見込みに文様が描かれる。30は盤類または袋物であろう。31・32は梅瓶である。33・34は泉州産陶器で、33は黄釉の盤、34は緑釉の壺であろう。35～37は染付皿で、いずれもB-1群である。

第115図38～41は瀬戸美濃の陶器である。38は八稜皿、39は直縁大皿でともに後Ⅲ期である。40は大窯2後段階の丸皿、41は大窯3段階の天目茶碗である。

42～45は常滑の陶器で、42は2形式の壺、43・44は9形式の片口鉢Ⅱ類である。45は壺で、11～12型式に比定される。46・47は渥美または湖西産の鉢である。

48～50は東遠江系の山茶碗で、いずれも小皿である。

第115図51～第117図131はかわらけである。51～124・131はロクロ成形、125～130は手づくね成形である。

51～83は厚手のかわらけで、第1号・2号井戸と共通する。51～71は大形のかかわらけで、第1号・2号井戸同様、口径と底径の差が大きい坏形（55・63・64・66）、底部が大きい皿形（51・54・69・70）の2種がある。73～83は小形かわらけで、坏形（74～78・80）、皿形（73・79・81・82）に分かれる。72は口径11.0cmで大小の中間の法量である。

84～90は口径11.0cm前後のかかわらけで、内底にナデ、底部に板状凹痕を有す。第1号溝状遺構の中形かわらけに相当する。93～100は第4号溝状遺構のかかわらけと同類似する。93は逆台形を呈す大形のCⅠ類、94～98は中形のCⅡ類に該当する。100～104は器高が低く、口縁部が大きく開く形状である。106～124は小形のかかわらけである。107・108は第1号溝状遺構で出土するタイプ、111～124は第4

乃溝状遺構出上のものに共通する。このうち、111～113は第4号溝状遺構のC類、114・115は内壁するA類、121は箱形を呈するB類である。

125～130は手づくねかわらけである。125・126は器厚の薄い大形のもの、127は厚手で器高の高いかわらけである。128～130は小形かわらけである。

131は体部内外面に墨書が施されたロクロ成形かわらけである。判読不明である。

第117図132・133は瓦質製品である。132は火鉢で口縁下にスタンプ文が巡る。133は風炉で口縁部に幾何学形のスタンプ文が描かれる。

第118図134～第119図144は瓦である。134は丸瓦で、凸面はナデ、凹面は布日痕が残る。135～144は平瓦で、凸面縄目かまたはその後ナデ、凹面は布日痕またはナデ痕が認められる。

第119図145～155は石製品である。145は滑石製の鍋である。146・147は紙石で、いずれも中砥であり、146が伊予産、147が上野産である。148は香炉形の石製品である。149は不明であるが、同様の製品と思われる。151～155は凹みをもつ軽石製品である。151・154は表裏両面から施されている。

第120図156・157は銭貨で、156は寛永通宝、157は北宋銭・皇宋通宝である。

158・159は近世陶器で、158は瀬戸美濃産の皿、159は志戸呂産の天目茶碗である。いずれも17世紀代のものである。

160・162は古代の灰釉陶器、162は緑釉陶器の碗である。163は土師器で、足高高台をもつ碗である。

4区の出土遺物（第121～129図）

4区は最も面積の広い調査区である。調査が遺構確認面までにとどまった部分も多いため、遺物量はそれほど多くはない。北部で古代の遺物が集中的に出土していることが注目される。

第121図1～25は貿易陶磁である。1～12は白磁で、Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷの碗、Ⅱ～Ⅳ類、Ⅸ類の皿がある。10～12は明代の皿で、10はB群、11・12はC-1群である。13～22は青磁である。13・14は同安窯系の碗・皿、15～21は龍泉窯系の碗で、刺花文のⅠ類、鎔蓮弁文のBⅠ類、DⅡ類などが出土している。22外面蓮弁文の折縁盤である。23・24は青白磁で、23が輪花皿、24は梅瓶である。25は褐釉有耳壺である。

第121図26～33は瀬戸美濃の陶器である。26～28は天目茶碗で、26が後Ⅰ期、27・28が後Ⅳ新时期である。29は後Ⅱ期の緑釉小皿、30は大窯段階の端反皿または丸皿である。31は灰釉の燭台と思われる。32・33は後Ⅳ新～大窯段階の擂鉢である。

第122図34～38は常滑の陶器である。34～37は甕、38は片口碗である。39は瀬美産の小碗、40は湖西産の碗である。41～45は東遠江系の山茶碗で、41・42は碗、43～45は小皿で、43は輪花小皿である。46は志戸呂産の鉄釉緑釉小皿で、瀬戸美濃後Ⅳ期併行のものである。

第122図47～第123図86はかわらけである。47～59はロクロ成形かわらけである。47～50は体部がやや内彎気味に立ち上がり、内底面にナデ、底部に板状圧痕を有するもので、47は第1号溝状遺構の中形、48・49は大形に該当する。52～54は底径が小さく逆台形状を呈すかわらけである。55～59は小形のかわらけで、55～57は器高の低いタイプ、5859は器高が高く逆台形になるものである。

60～86は手づくねかわらけである。60～70は大形品で、口唇部に丸みをもち口縁部が大きく外反するもの（61・63）と、口唇部が面取りされやや角張るもの（60・62・64・65）がある。66～70は厚手で器高の高いかわらけである。71～86は小形のもので、71～81は口径が大きめで薄手のもの、82～89は口径が小さめで厚手のかわらけである。

第123図87は瓦質の火鉢で、雷文のスタンプ文が施される。88～92は瓦で、88は唐草文の軒平瓦、89は丸瓦、その他は平瓦である。

第124図93～101は石製品で、93・94は砥石、95は滑石製で鍋かと思われる。96は黒色の扁平な石で、碁石の代用品とも考えられるが不明である。97～101は軽石加工品で、97～99は凹みが認められた。101は円柱状の加工されたものである。

第124図102～106は銭貨で、103が唐銭・開元通宝である他は、すべて北宋銭である。107は近世志戸呂産の皿である。

4区北部から5区にかけては古代の上師器・須恵器などが集中して出土している。

第125図108～113は4区北西部で集中して出土した七器群である。108と109が重なって、また110～113も横位・逆に重なるように出土している。また、2つの集中箇所は近接している。108は須恵器・坏蓋でTK10型式に比定される。109は丸底風の上師器坏で底部に木葉痕が残る。110は低脚の高坏である。111は平底の坏で、内外面とも丁寧なヘラミガキが施されている。112も平底の坏であるが、こちらは内外面ナデ調整である。113は碗形の坏部をもつ高坏である。

第125図114～第127図127は4区北東部に、排水のために深掘りしたテストビットから集中して出土した遺物である。114・115は上師器の平底鉢で、外面ナデ調整、内面ハケ調整である。116は胴部がやや扁平な球割状の小型壺である。117～119は高坏、120は器台である。121～126は甕である。いずれも内外面ハケ調整で、126はさらにミガキが施される。127は壺で、外面ヘラミガキ、内面ハケ調整が施される。

その他、128以下は4区で出土した古代の上師器等である。128～139は須恵器である。128は坏蓋で、陶器系でTK23型式である。129も陶器系の坏でON46型式である。130は6世紀代の坏である。131～133は甕である。胴部または頸部に櫛指文が描かれる。陶器系である。134は小型壺、135は蓋、136～138は高台付坏である。139は甕である。140～159は七師器である。140～146は平底の坏である。いずれも体部が強く内彎し、口縁は内傾するものが多い。147は小型丸底壺で、外面は丁寧にミガキが施される。148～152は高坏である。153は壺である。154～156は台付甕、157は広口の甕である。158・159は大形の壺の口縁部で、縄文と貼付文を有すいわゆる大甕の壺である。

160～167は手づくねの小型土器である。167は底部が高台風につくられている。

168・169は灰軸陶器で、168が碗、169が広口瓶と思われる。170～172は古代瓦である。

173・174は古代の石製品で、173が滑石製の石製模造品、174が管玉である。175・176は土製模造品である。

5区の出土遺物（第130・131図）

5区は北側の調査区である。遺物出土量は他の調査区に比べて少ない。

第130図1～4は貿易陶磁で、1は白磁の四耳壺、2～4は青磁の碗である。

5・6は瀬戸美濃で、5が掬鉢、6が大窯段階の丸皿である。7～9は常滑で、7は甕、8・9は片口鉢である。

10～18はかわらけである。10～14はロクロ成形のかわらけである。10は体部がほぼ直線的に立ち上がる大形のもの、11・12は同じく体部が直線的な中形のかわらけである。13・14は小形のかわらけで口縁部にススが付着する。15～18は手づくねかわらけである。口径は13.0～13.6cmで、16は口唇部に面取りを施す薄手のもの、他はやや厚手で口唇部も丸みをもつものである。

19・20は石製品である。19は産地不明の砥石、20は凹みのある軽石加工品である。

21～27は古代の遺物である。21～24は土師器の坏である。底部は平底で内外面ミガキまたはナデ調整である。25・26は土師器の甕である。27は石製模造品である。2孔があり、鏡の模造品であろう。

出土地点不明の遺物（第132・133図）

調査時あるいは整理段階で、出土地点不明となってしまった遺物について、以下に記述する。

第132図1～17は貿易陶磁である。1～8が白磁で、碗・皿・四耳壺などがある。9～13は青磁の碗、14は無文の折縁鉢である。15は青白磁の皿、16は同じく合子の破片である。17は泉州系の緑釉盤である。

18・19は瀬戸美濃で、18が後IV新期の灰釉緑釉小皿である。19は東濃系の山茶碗で、大畑大洞新段階のものと思われる。20～22は常滑の甕、片口鉢である。23は湖西産の山茶碗小皿である。

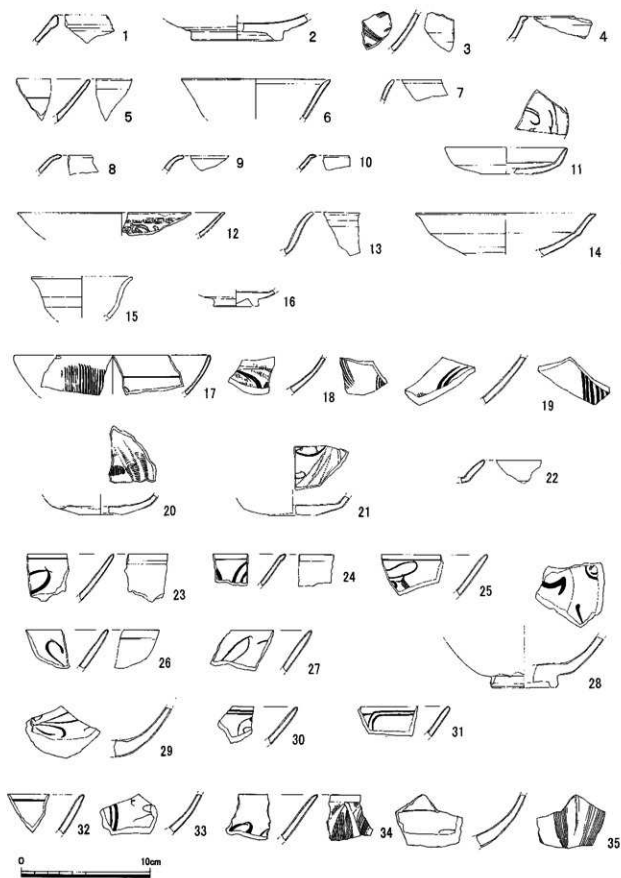
24～29はかわらけである。24・25はロクロ成形の大形かわらけ、26・27は小形のかわらけである。ともに厚手で底部がやや突出する。28は箱形を呈す小形かわらけで、口縁部にススが付着する。29は厚手の手づくねかわらけである。

30～32は瓦質の火鉢で、30は胴部に大形のスタンプ文、31は口縁部下にスタンプと連珠が巡る。

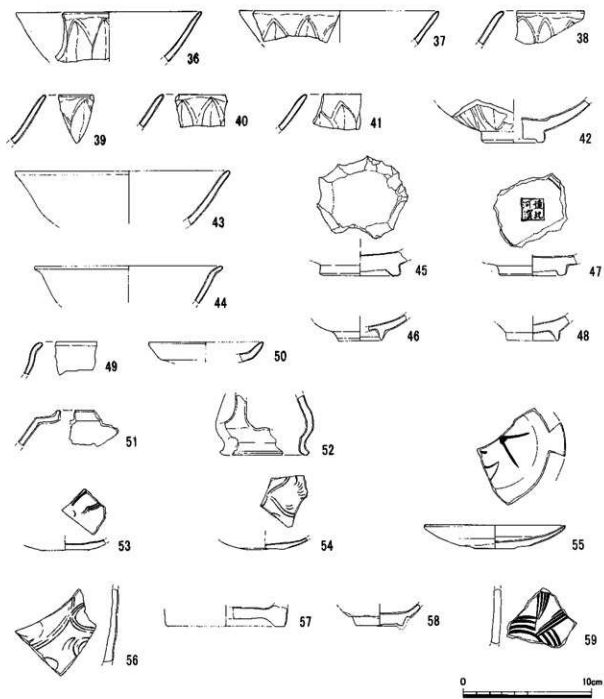
第133図33は軒丸瓦である。小破片であるが、巴文と思われる。34は香炉形の土製品であろう。

35～38は石製品で、35は磨石で、弥生から古墳時代のものと思われる。36～38は軽石加工品である。39は銭貨で、北宋・紹聖元宝である。

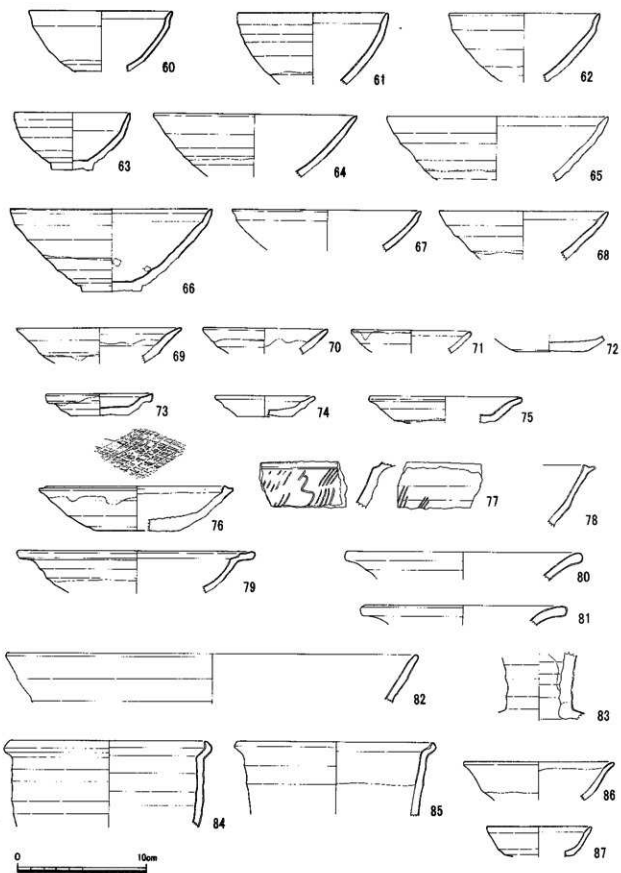
40～43は古代の土器で、40・41は須恵器で、40は波状文をもつ壺、41は高坏の脚部破片である。42は土師器坏、43は同じく高坏である。



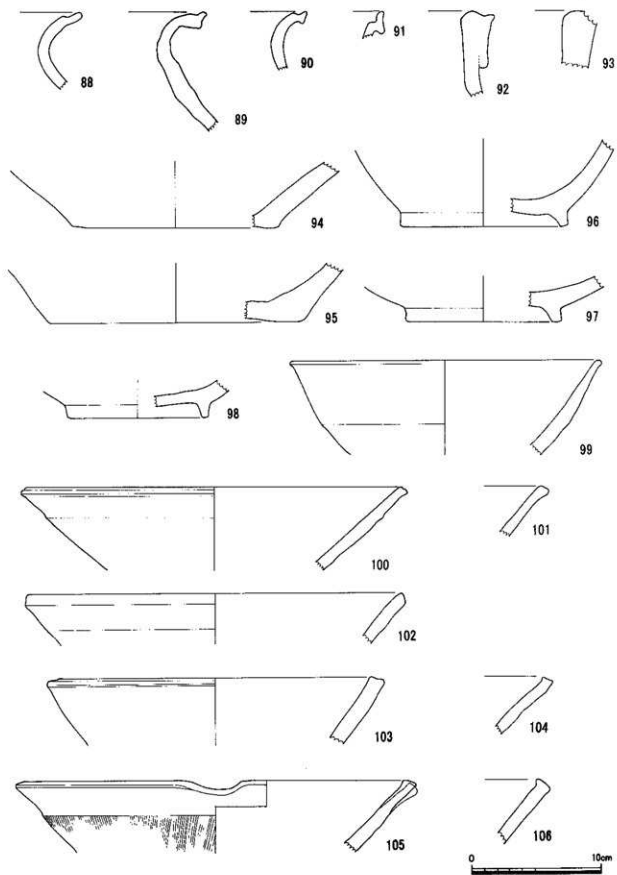
第94图 遗物出土(1)-1区①-



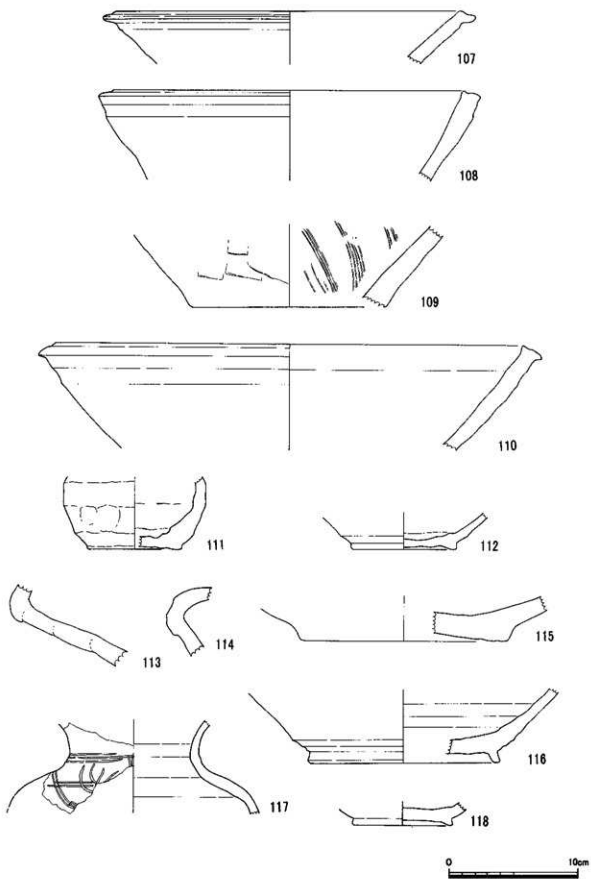
第95図 遺構外出土遺物(2)-1区②-



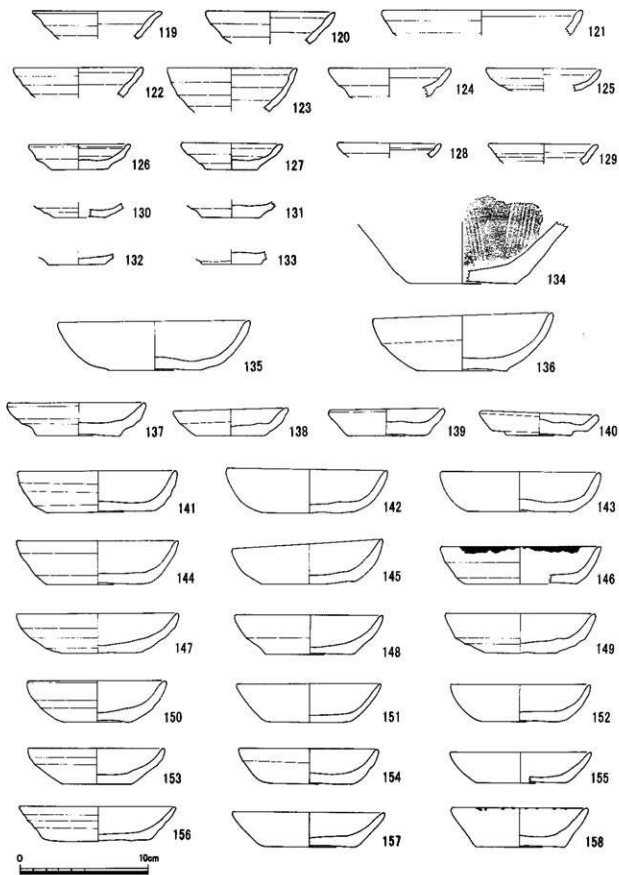
第96図 遺構外出土遺物(3)-1区③-



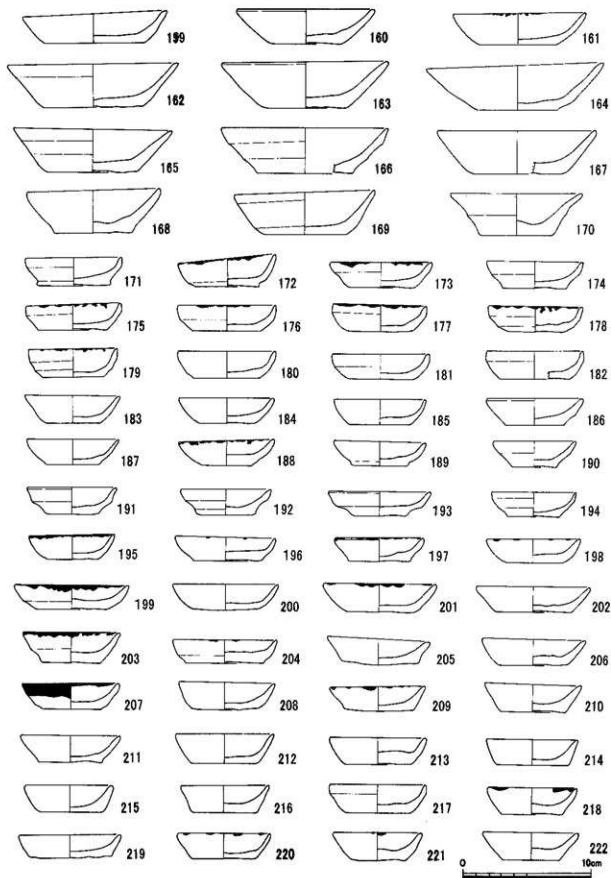
第97图 遗構外出土遺物(4)-1区④-



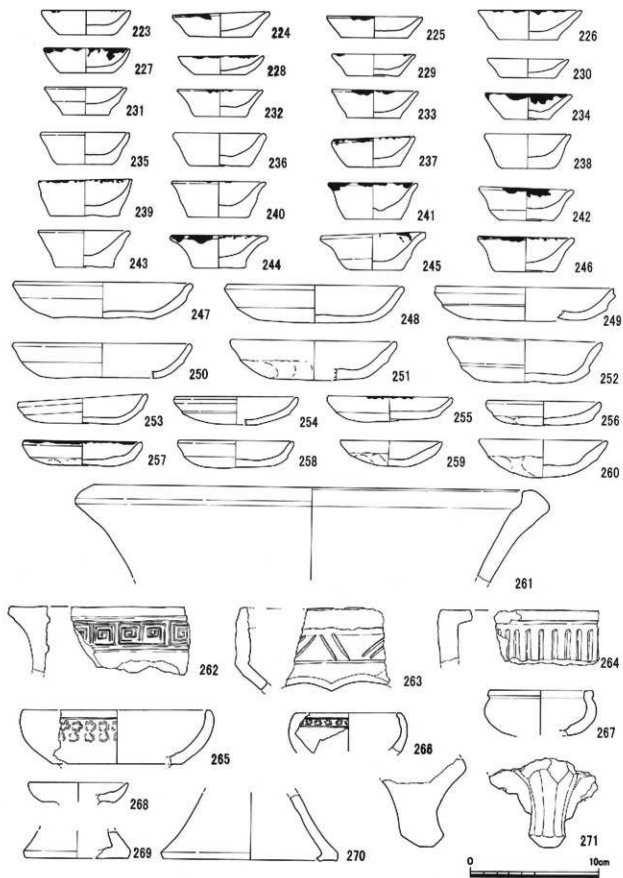
第98図 遺構外出土遺物(5)-1区⑤-



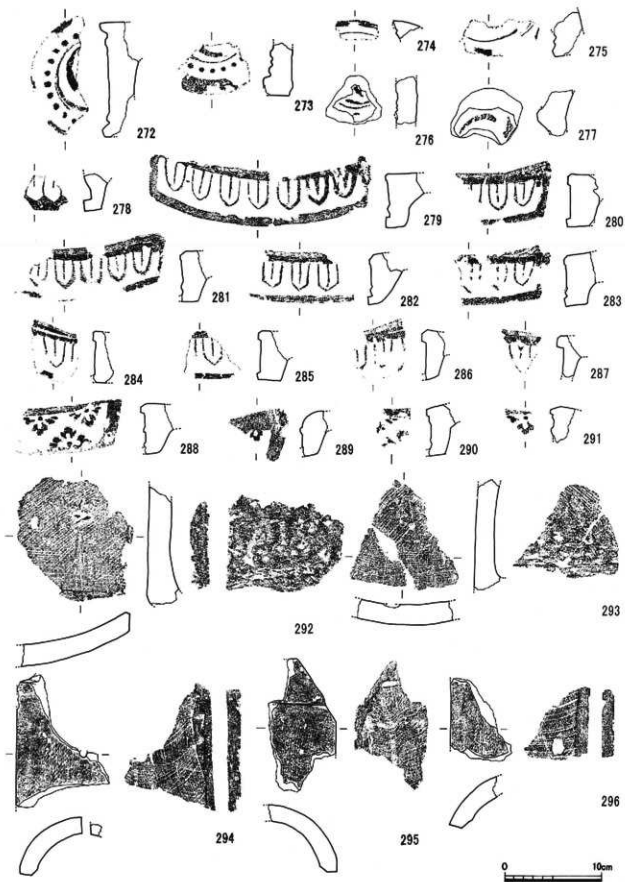
第99图 遗構外出土遺物(6)-1区⑥-



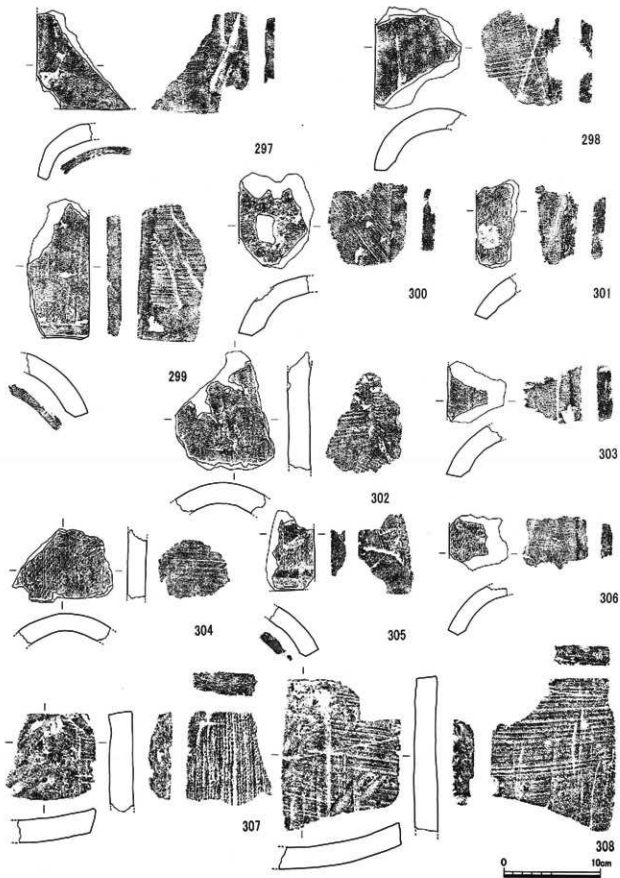
第100图 遗構外出土遺物(7)-1区(7)-



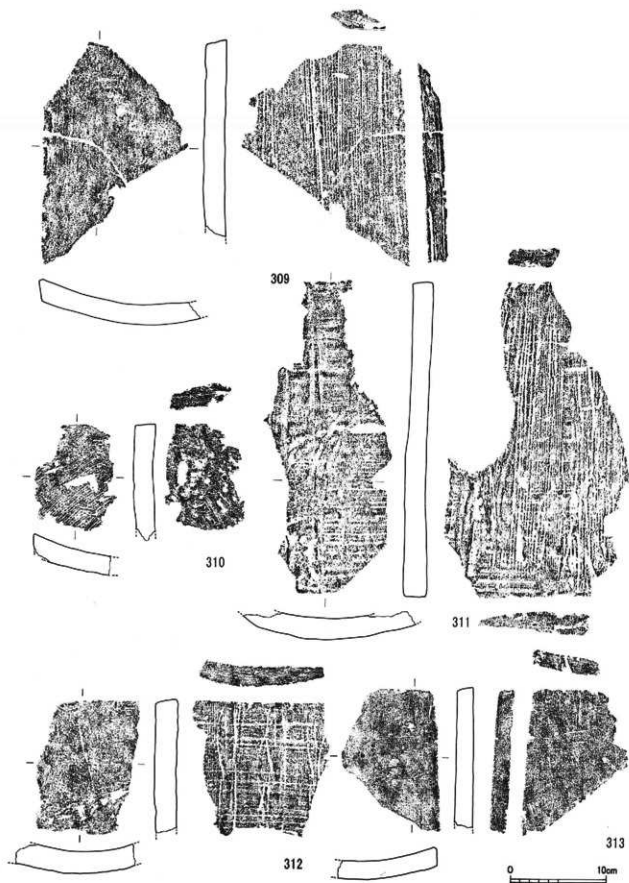
第101图 遗構外出土遺物(8)-1区⑧-



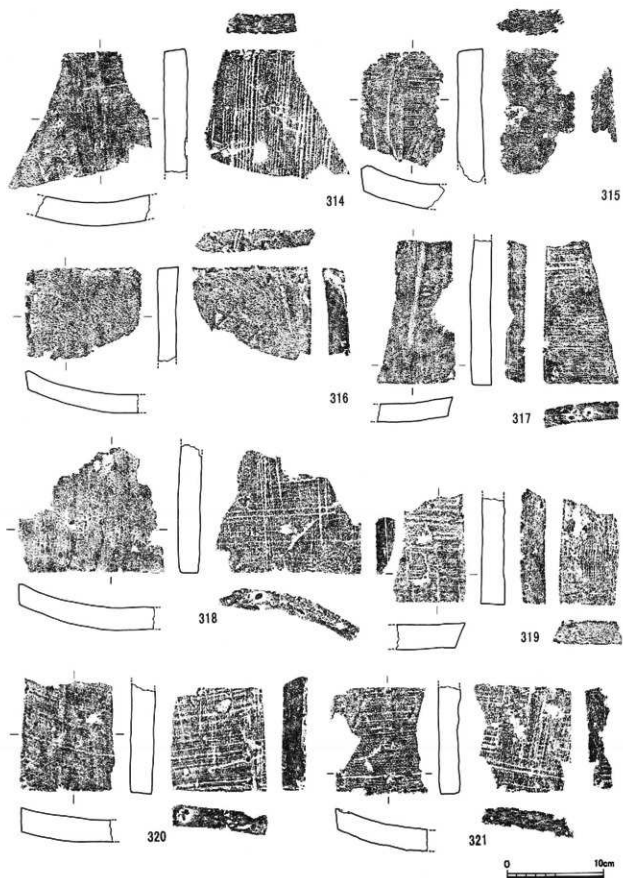
第102图 遗構外出土遺物(9)-1区⑨-



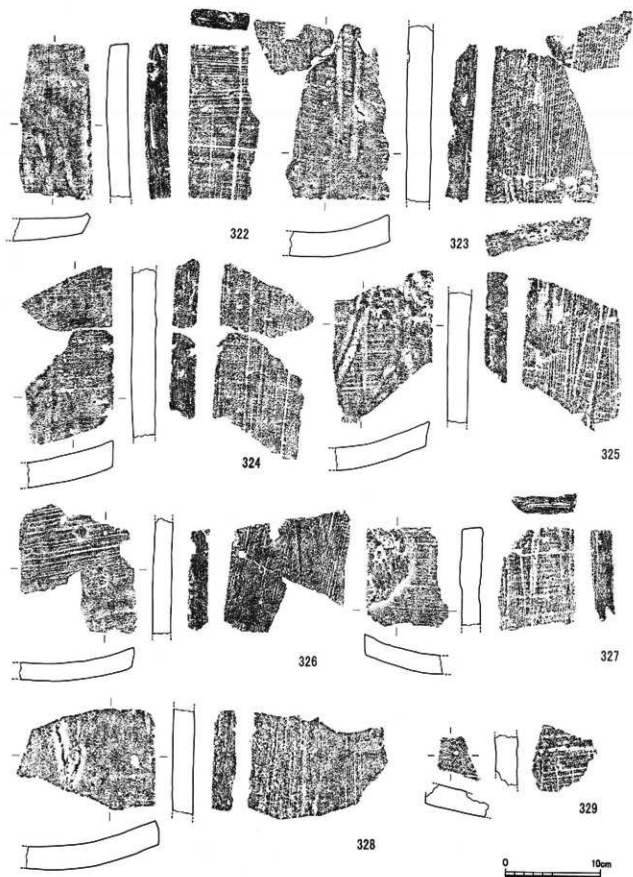
第103图 遗構外出土遺物(10)-1区⑩-



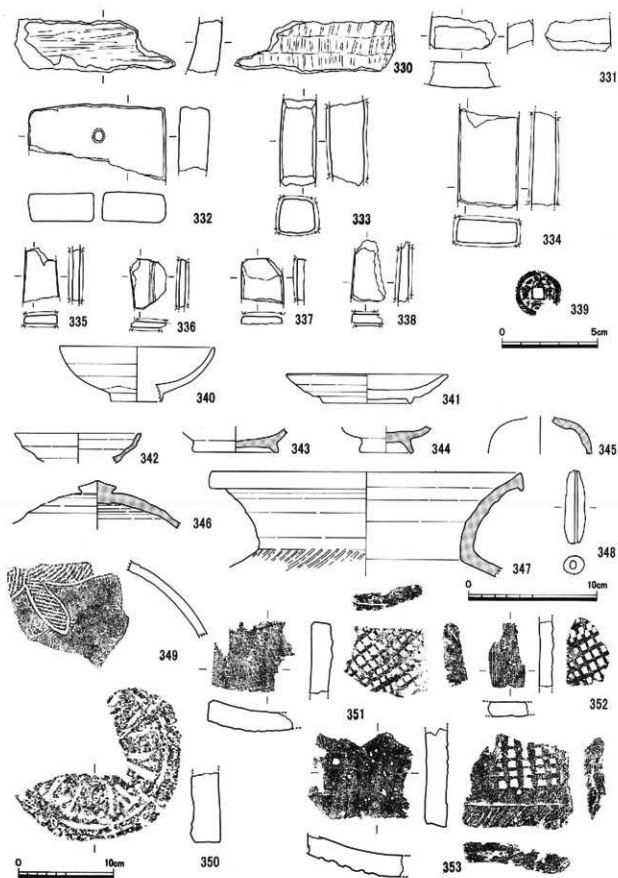
第104图 遺構外出土遺物(11)-1区①-



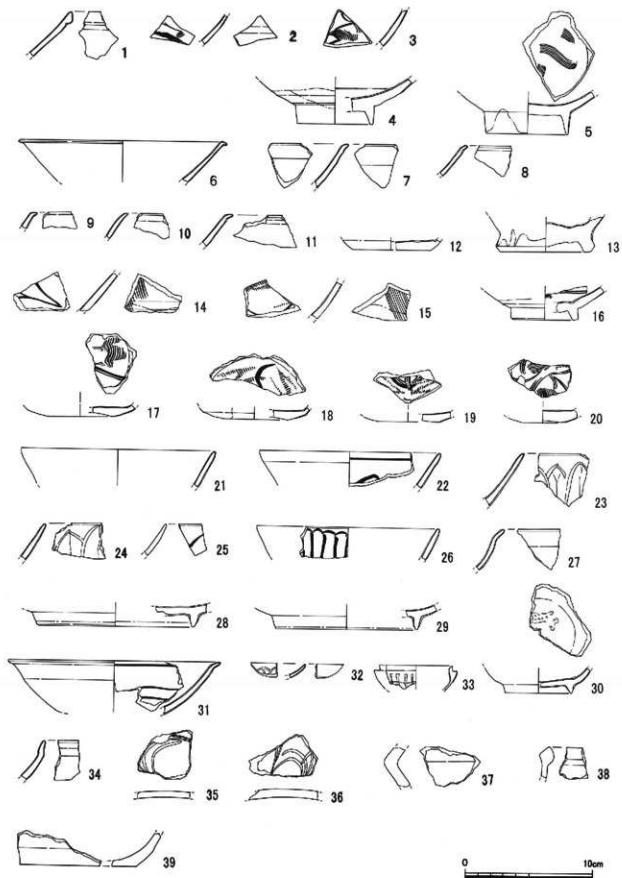
第105图 遗構外出土遺物(12)-1区⑫-



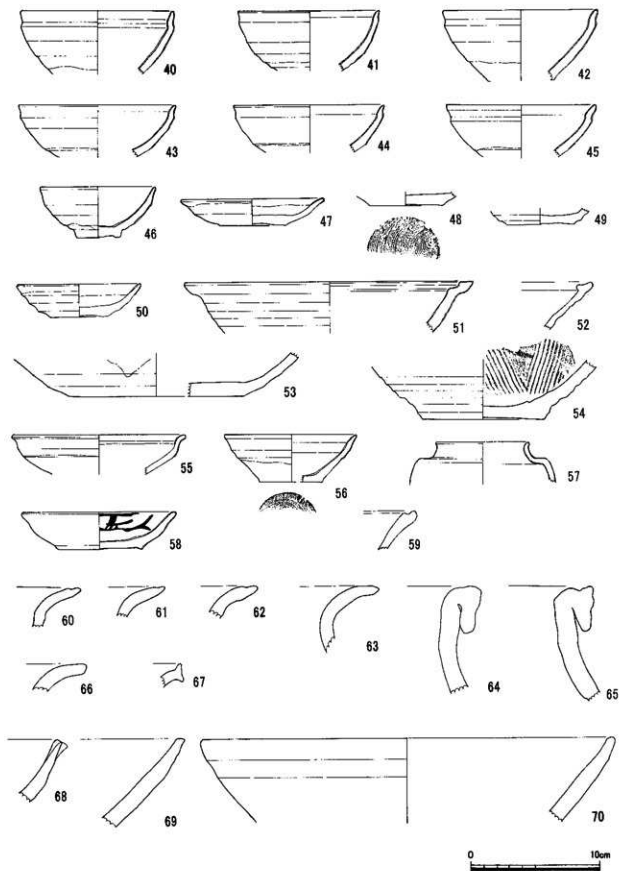
第106图 遗構外出土遺物(13)-1区⑬-



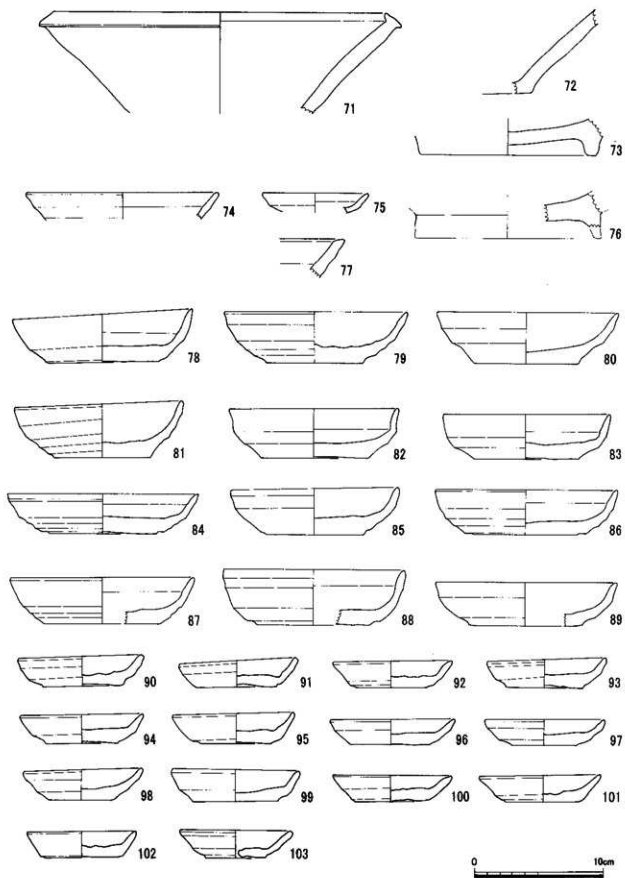
第107图 遗構外出土遺物(14)-1区⑭-



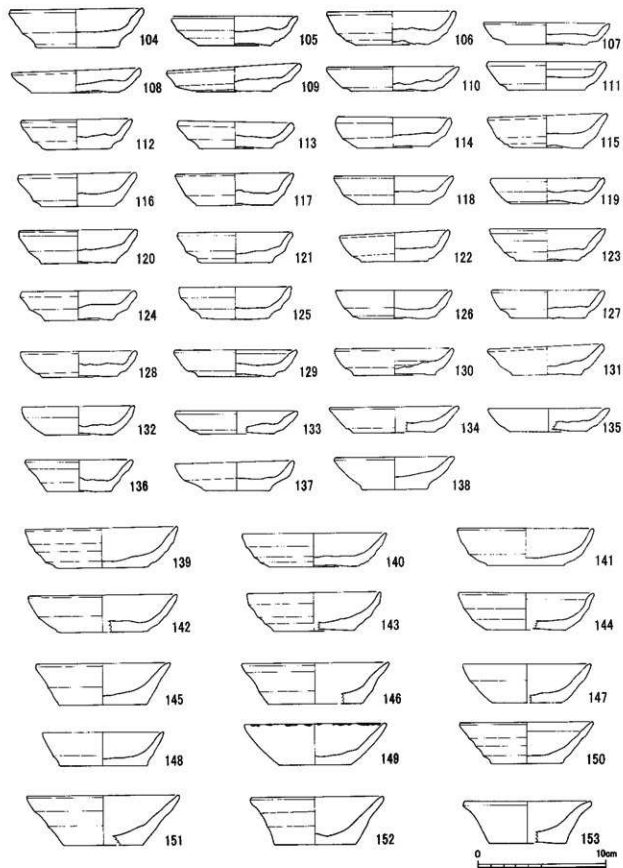
第108图 遺構外出土遺物(15)-2区①-



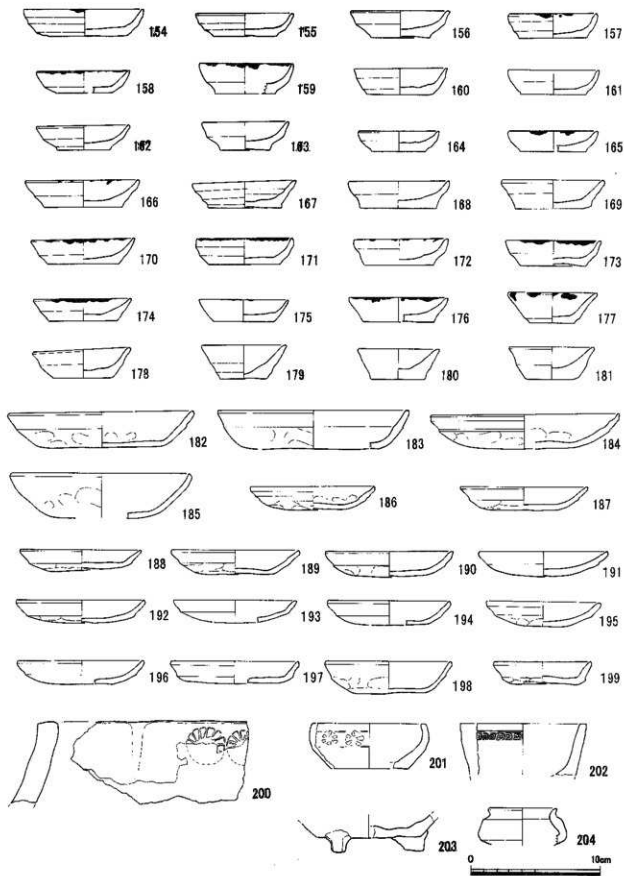
第109图 遺構外出土遺物(16)-2区②-



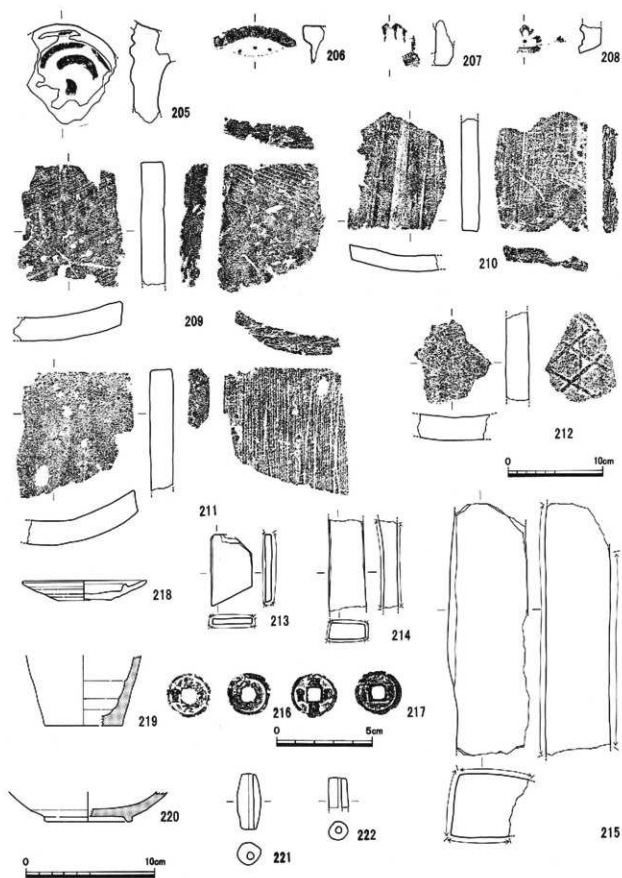
第110图 遺構外出土遺物(17)-2区③-



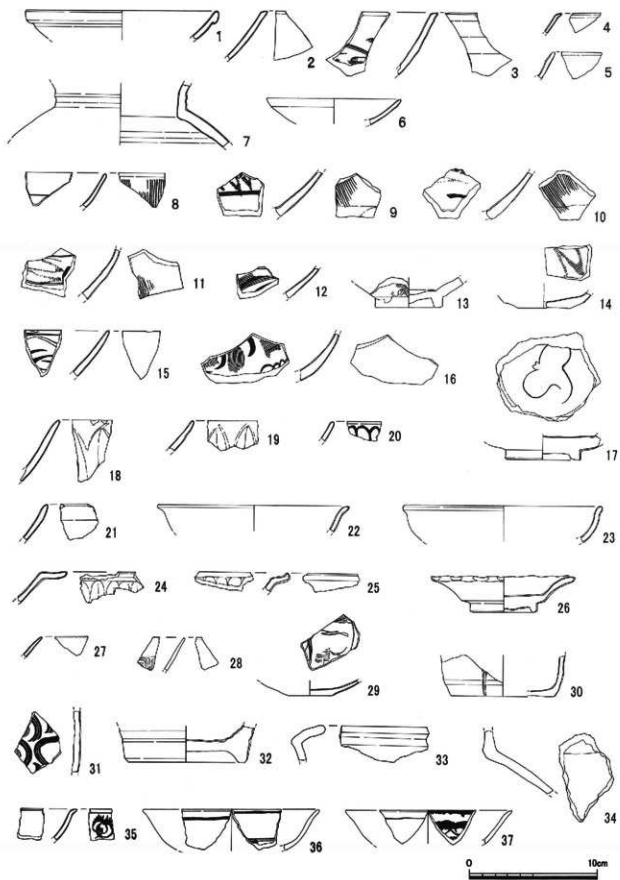
第111图 遗構外出土遺物(18)-2区④-



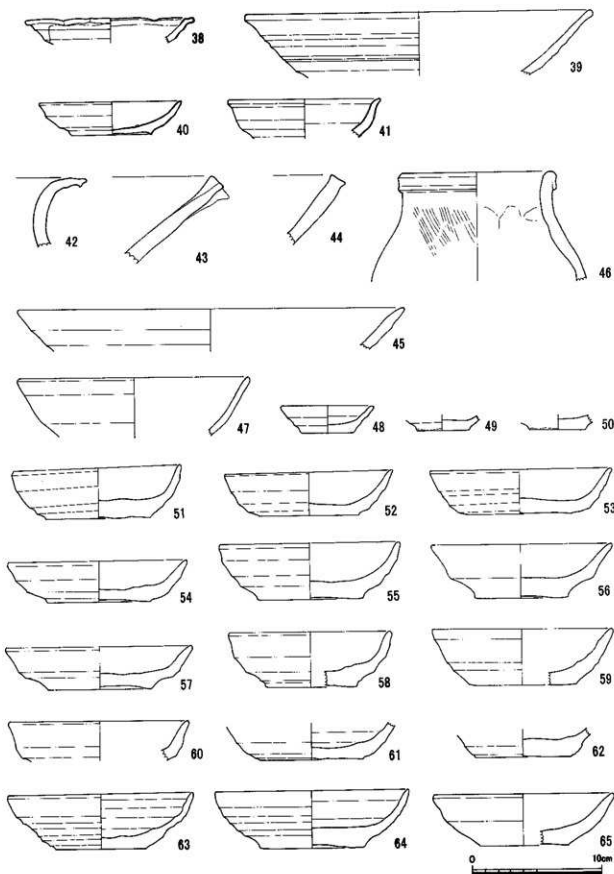
第112图 遗構外出土遺物(19)-2区⑤-



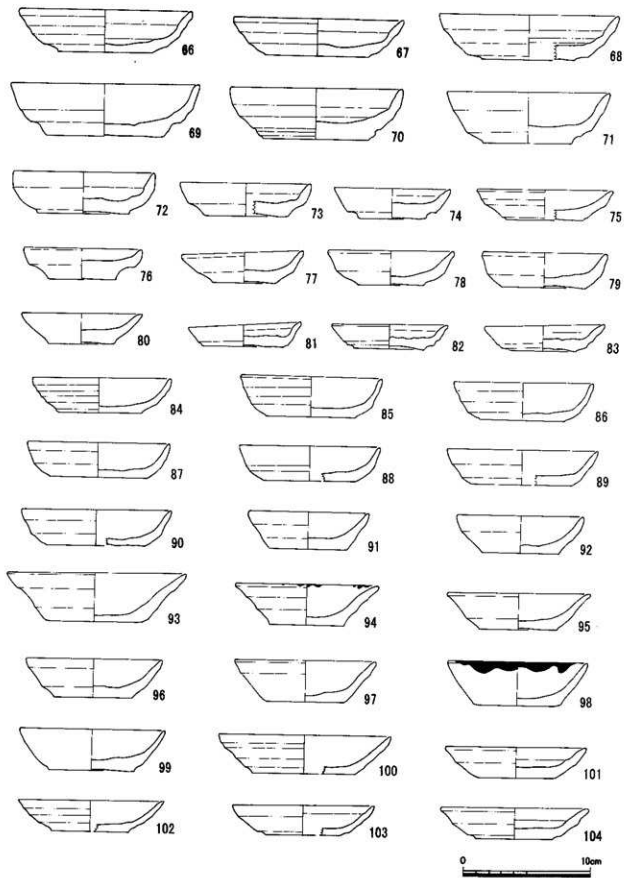
第113图 遗構外出土遺物(20)-2区⑥-



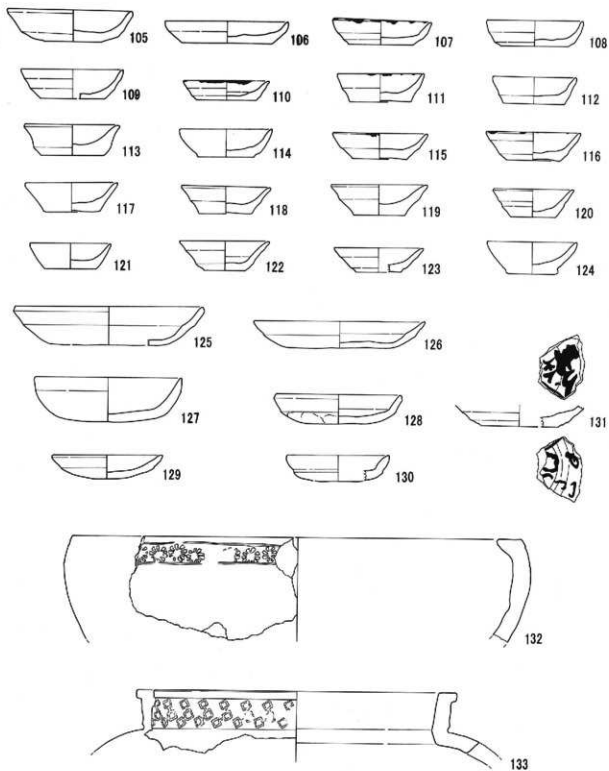
第114回 遺構外出土遺物(21)-3区①-



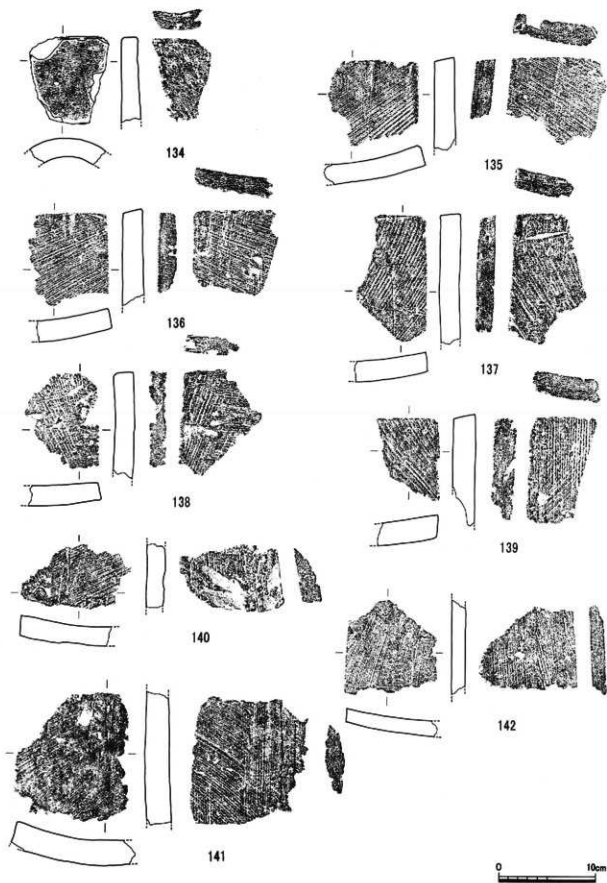
第115图 遗構外出土遺物(22)-3区②-



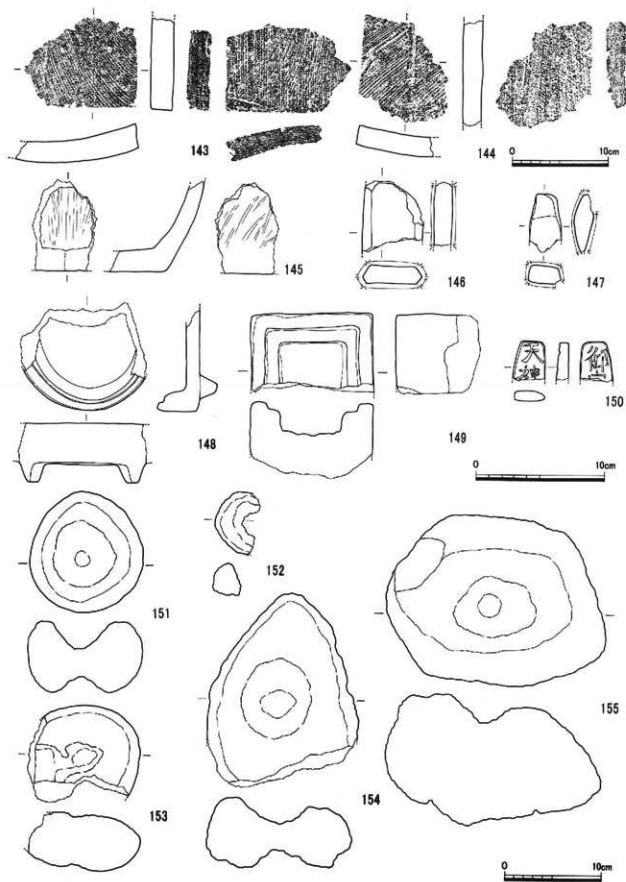
第116图 遗構外出土遺物(23)-3区③-



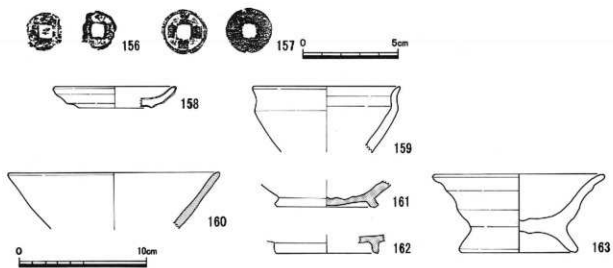
第117図 遺構外出土遺物(24)-3区④-



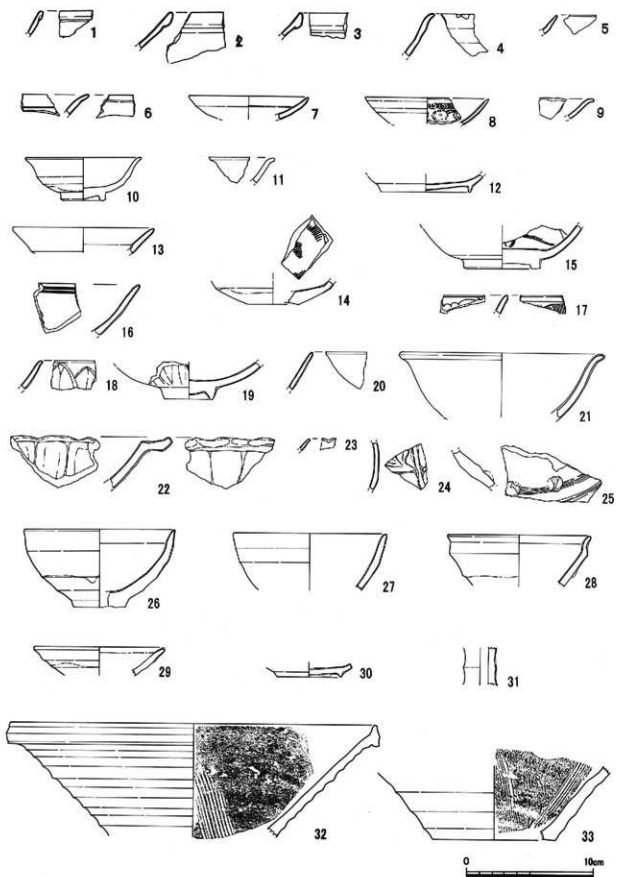
第118図 遺構外出土遺物(25)-3区⑤-



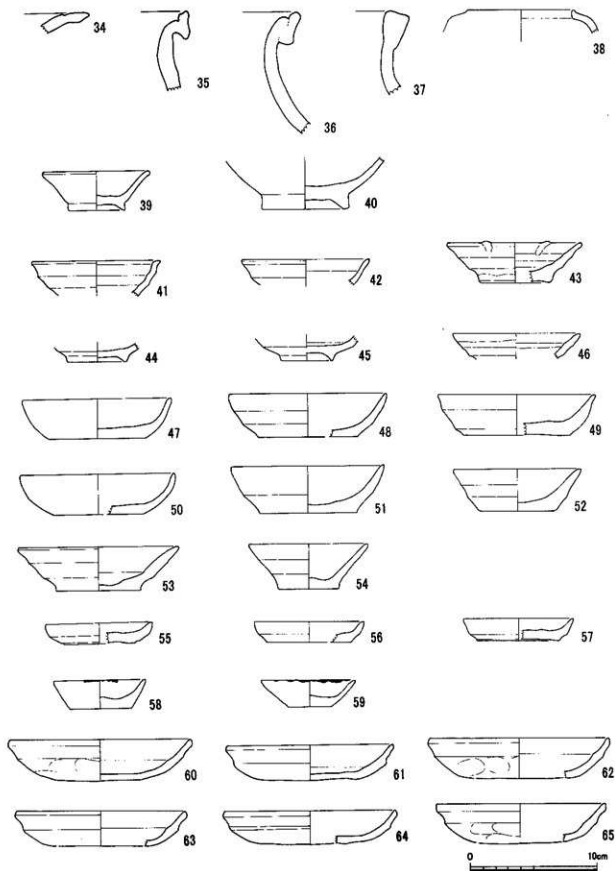
第119図 遺構外出土遺物(26)-3区⑥-



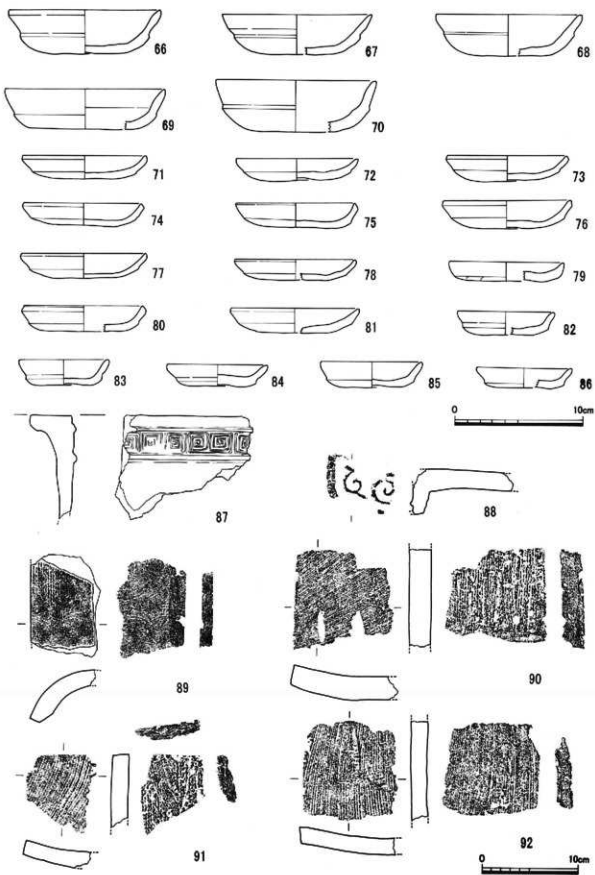
第120図 遺構外出土遺物(27)-3区⑦-



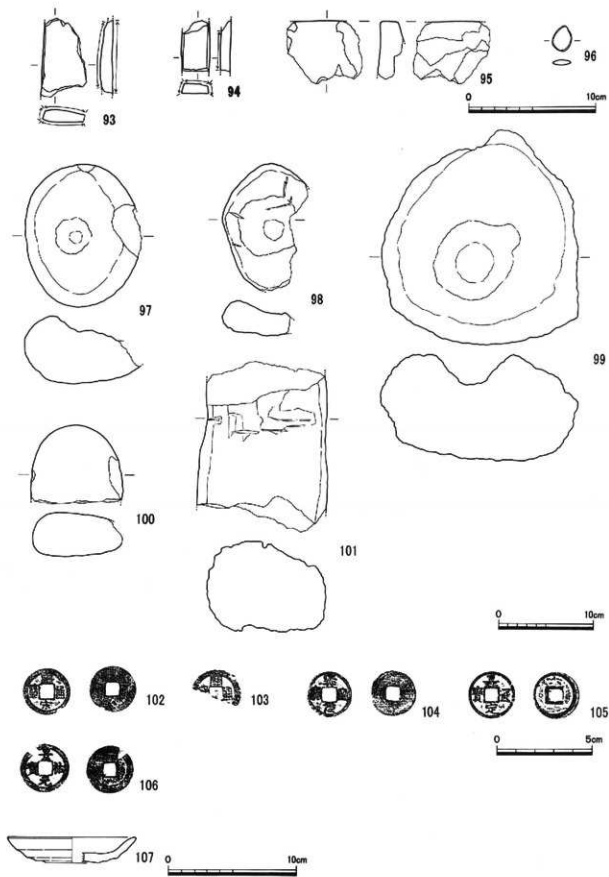
第121图 遺構外出土遺物(28)-4区①-



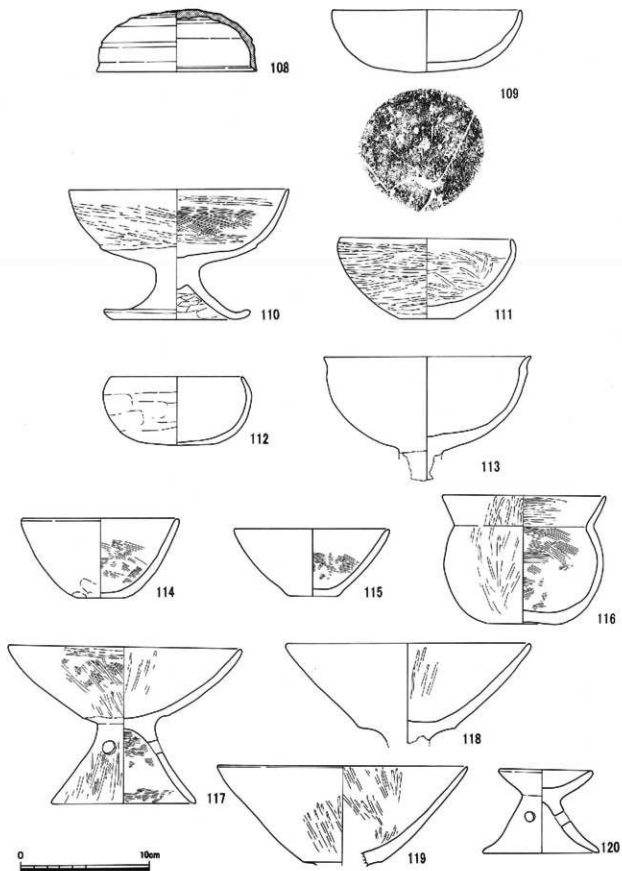
第122图 遗構外出土遺物(29)-4区②-



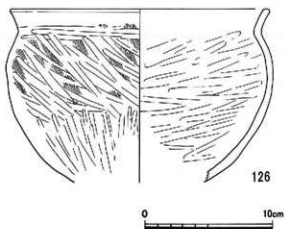
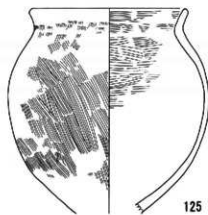
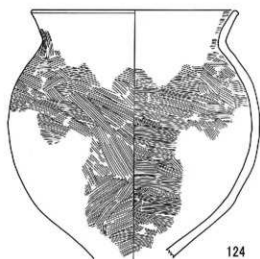
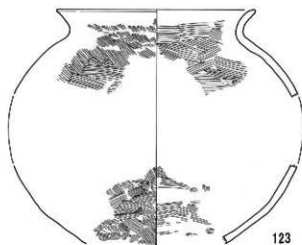
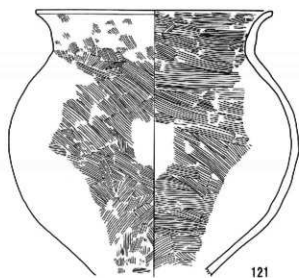
第123图 遺構外出土遺物(30)-4区③-



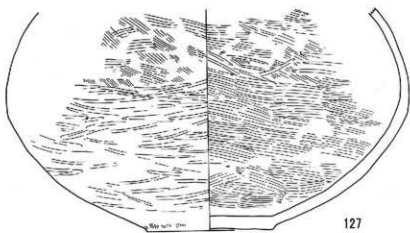
第124図 遺構外出土遺物(31)-4区④-



第125図 遺構外出土遺物(32)-4区⑤-



第126図 遺構外出土遺物(33)-4区⑥-



127



128



129



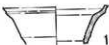
130



131



132



133



134



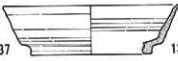
135



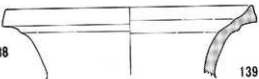
136



137



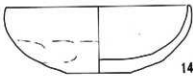
138



139



140



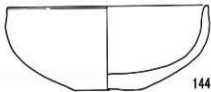
141



142



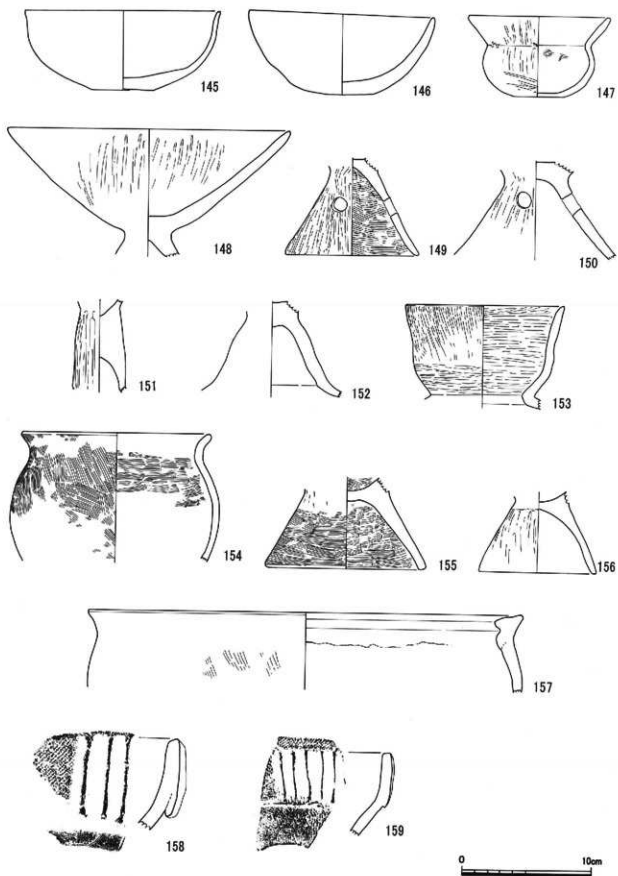
143



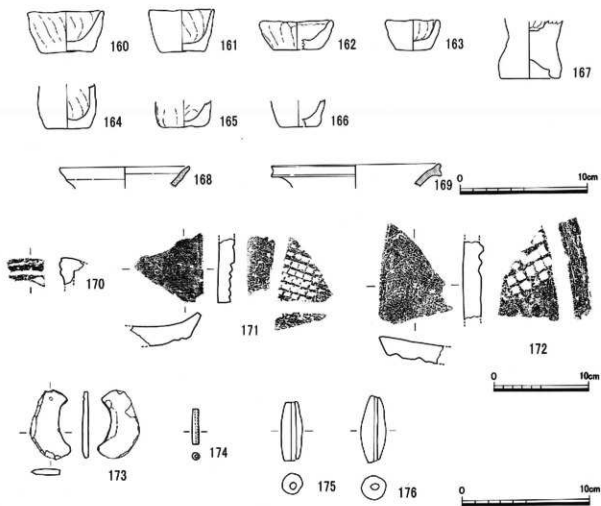
144



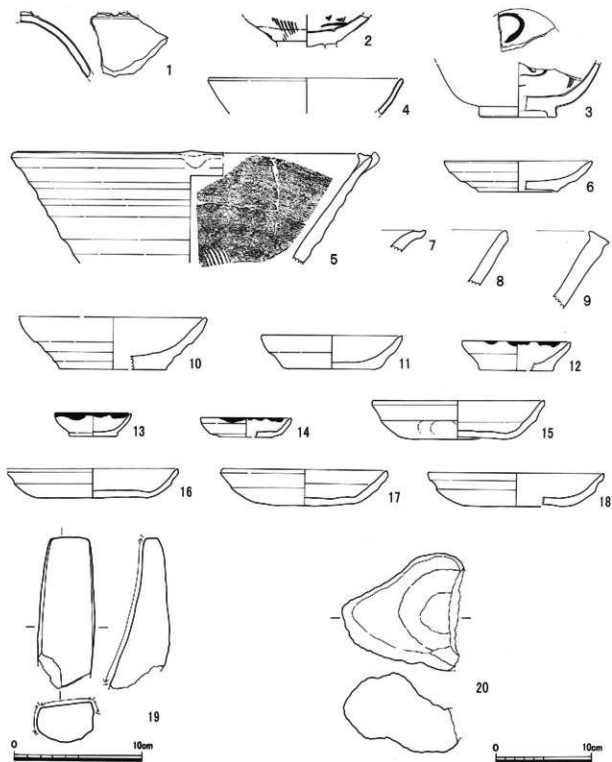
第127图 遺構外出土遺物(34)-4区⑦-



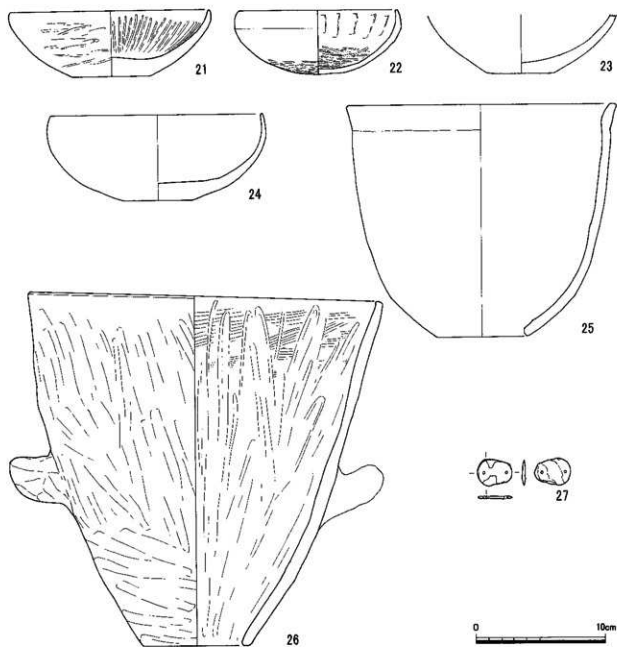
第128图 遗構外出土遺物(35)-4区⑧-



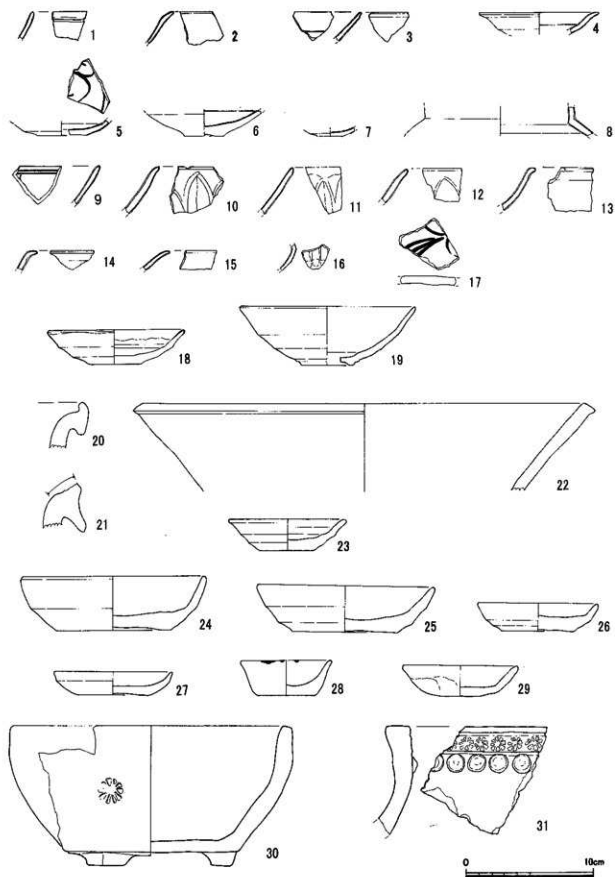
第129图 遗構外出土遺物(36)-4区⑨-



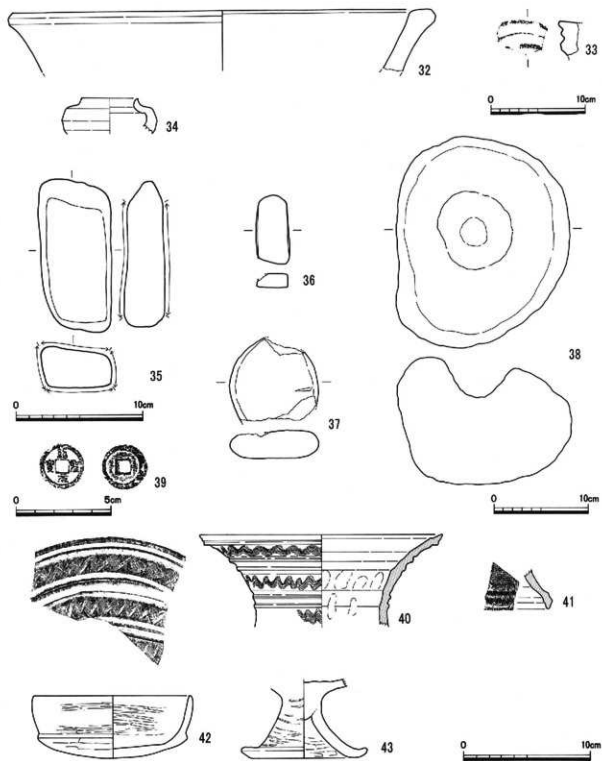
第130図 遺構外出土遺物(37)-5区①-



第131图 遺構外出土遺物(38)-5区②-



第132圖 遺構外出土遺物(39)―地点不明①―



第133回 遺構外出土遺物(40)-地点不明②-

VI. 調査の成果と課題

1. 遺物について

(1) 出土遺物の全体組成について

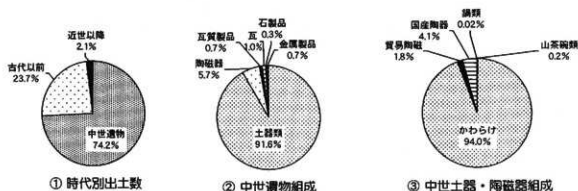
御所之内遺跡第13次調査地点は、当遺跡内においては2830m²という広い面積の調査が行われたため、中世を中心に長期にわたる大量の遺物が出土した。出土破片数を時代別にみると、中世の遺物が62,972点で74%を占め最も多く、古代以前の遺物が約20,117点・24%で、これに次ぐ。古代以前の遺物で、最も古いものは弥生時代中期の壺破片であるが、弥生時代のものはごく少量であり、4世紀～6世紀と平安時代後半の遺物が多い傾向がみられた。残る2%は近世以降の遺物1,746点で、17世紀前半の瀬戸美濃・唐津などの陶磁器がややまとまって出土している。

中世遺物は総計で62,972点出土した。最も多くを占めるのは土器類で、57,681点で91.6%を占める。次いで陶磁器3,597点で5.7%、瓦661点1%、金属製品・瓦質製品・石製品はいずれも1%以下である(第12表参照)。

中世の土器・陶磁器組成では、かわらけが57,577点で94%を占める。次いで国産陶器2,495点で4.1%、貿易陶磁が1,102点で1.8%である。これに対して、山茶碗は92点で0.2%、鍋類は12点で0.02%と非常に少ない。これは静岡県内でも伊豆地域・駿河東部地域で顕著にみられる傾向である。

陶磁器を産地別にみると。常滑が1,434点・39.1%で最も多く、貿易陶磁が29.9%でこれに次ぐ。瀬戸美濃は796点・21.9%、渥美湖西は236点・6.6%である。一方、静岡県内に産地のある東遠江系山茶碗は65点・1.8%、志戸呂・初山は23点・0.6%で、著しく少ない傾向が認められる。

当遺跡では、中世前期・後期の遺構面を把握できず、とくに北側の4区から5区では、ほぼ同一面上に遺構・遺物が展開しており、層位によって遺構の時間的な変遷を把握することは困難であった。そこで、以下、時期判別可能な陶磁器の時期別出土量やその変化を追うことにより、当遺跡の変遷を考えてみたい。

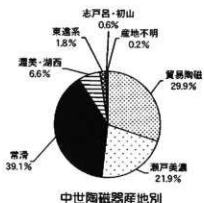


第134図 出土遺物組成グラフ

(2) 貿易陶磁

貿易陶磁の出土総数は1102点である。種別のみで青磁が712点で64.6%となり全体の2/3を占める。白磁は261点で23.7%、青白磁は53点で4.8%、陶器は72点で約6.5%、染付はわずかに4点・0.4%である。

青磁のうち、同安窯系は141点で、龍泉窯系は571点である。同安窯系では皿に比べて碗が多く、3/4を占める。龍泉窯系では碗が456点と圧倒的に多く、その中でもA類(I-2~4・6類)劃花文碗が157点と最も多く出土している。B-1類(I-5類)とⅢ類が137点で、これに次ぎ、これ以外のヘラ・線描きのB-3類は4点、C類(雷文帯碗)は1点、D類(端反碗)は27点で、非常に少ない。皿・鉢類は31点で碗と比較して少ない傾向がみえる。また、盤類は35点で、折縁のものが目立つようであるが、破片が小さいため詳細は不明である。その他、香炉も出土している。



第135図 中世陶磁産地別グラフ

白磁261点のうち碗が119点と最も多く、その中でもV~Ⅶ類の端反碗が73点で、最も多く出土している。Ⅱ・Ⅳ類の玉縁碗も25点あり、比較的多い傾向がみえる。これに対して、Ⅰ類の口壳碗は3点と少ない。皿は70点で、Ⅳ~Ⅶ類の平底皿やⅠ類の口壳皿が多い。また、明代のB群・C群はそれぞれ13点・3点と比較的少ない。また、壺類が17点でやや多く、そのほとんどが四耳壺と思われる。合子・小壺なども出土しており、器種のバラエティーは豊富である。

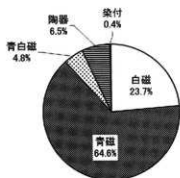
青白磁は碗・皿・合子・梅瓶などがある。全体数は53点で少ないため器種の量的な傾向の把握は難しいが、皿20点、梅瓶10点などが比較的多い傾向がみられ、その他、香炉・合子・水注などがある。皿を除くと、奢侈品と考えられる器種が目立つ傾向が認められる。

その他の陶器類は72点出土している。天目茶碗が19点、褐釉の壺類が6点出土している。泉州産は黄釉18点、緑釉27点で当地域では比較的多い傾向がみえる。緑釉の壺が2点ある他は、すべて盤類である。

全体を通しての器種別の組成は第136図③に示した。碗が64%で圧倒的に多い。碗の種類別の内訳は、右側の小円グラフに示したように、青磁が80%を占め、白磁が17%である。青白磁はわずかに0.1%で青磁碗の圧倒的な量が見てとれる。皿・鉢・坏類は15%で、碗の1/4以下である。器種別の傾向を同様の小円グラフで示した。碗と傾向が異なり、白磁が47%で半分近くを占めている。青磁も40%近い数値を示しており、また、青白磁も12%で碗にみられたようなひとつの種類への圧倒的な偏りは認められなかった。その他の器種は盤類や壺類・合子などを併せた数量であるが、それでも全体の12.2%しかなく、碗・皿にははるかに及ばない。種類別では、泉州産の緑釉・黄釉の盤が一定量あるため陶器が40%と最も多い。この他、四耳壺・壺などで白磁が13%を示す。青磁20.9%のほとんどは盤類、青白磁17.2%は梅瓶・合子などである。これは一定の器種分化が進んでおり、皿・鉢類と同様に特定種類への偏りはやはりみられなかった。

貿易陶磁の時期が最も反映されるのが青磁碗の産地と分類別の割合である。第136図④に青磁碗の産地・分類別のグラフを示した。龍泉窯系劃花文碗(A類)が27.8%と最も多く、蓮弁文碗(B-1類)24.2%を上回っている。同安窯系も19.3%と多く、劃花文と同安窯系碗をあわせて半分近くを占めることになり、この傾向に当遺跡の特徴が最もよく表われていると思われる。これに対して、14世紀以降と考えられるヘラ・線描き蓮弁文碗(B-3類)は0.7%、雷文帯碗(C類)は0.2%、端反碗のD-1類4.2%、同D-2類は0.5%であり、非常に少ない傾向が認められた。

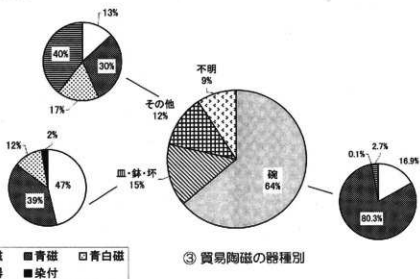
貿易陶磁の時期別の数量をグラフ化したものが第136図④である。時期区分は主な編年案³²⁾と、静岡



② 青磁碗 産地と分類別組成

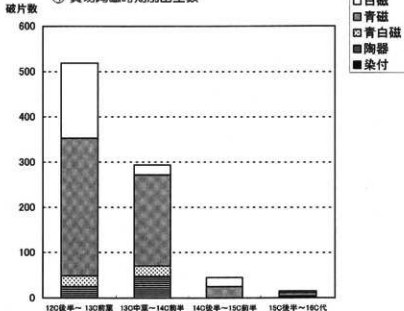


① 貿易陶磁の種類別



③ 貿易陶磁の器種別

④ 貿易陶磁時期別出土数

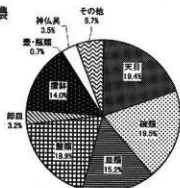


第136図 貿易陶磁の組成と時期別出土量グラフ

県菊川町の横地城跡総合調査報告書に掲載された編年¹⁰²⁾、その他鎌倉・平泉などの東国の出土傾向を参考にして計数を行った。

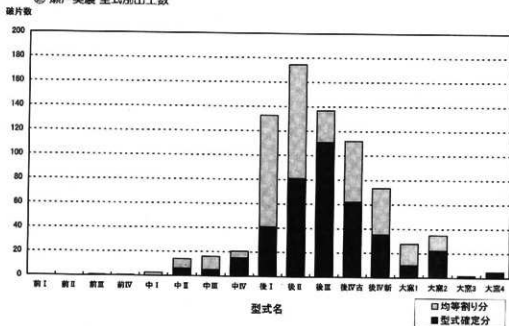
12世紀後半から13世紀前葉にかけての出土量が最も多い。その多くを占めるのが青磁で、同安窯系青磁・龍泉窯系青磁劃花文碗の量が反映している。白磁の碗・皿・壺類も多いため、白磁も一定量認められる。13世紀中葉以降14世紀にかけては、東国各地で龍泉窯系の鎊蓮弁文碗（B-1類）が大量に流通する時期であるが、本遺跡においては青磁碗はむしろ減少する傾向を示す。また、白磁の口禿碗・皿（IX類）もそれほど大量には出土していないため、白磁も減少する傾向がみえる。しかし、青白磁や泉州系陶器の増加により、種類が多様化する時期でもある。ところが、14世紀後半になると、全体の出土量が急激に減少する。これは青磁のヘラ・線描き蓮弁文碗（B-3類）や端反碗などが非常に少なく、また盤類などの出土量も多くないことによる。この傾向は15世紀後半以降16世紀になってさらに進み、いっそうの減少傾向を示す。当遺跡においてはこの時期に各地で流通する白磁皿B・C類、青磁硃花皿、染付碗・皿などが少ないことに起因していると思われる。

(3) 瀬戸美濃



① 瀬戸美濃 器種別

② 瀬戸美濃 型式別出土数



第137図 瀬戸美濃の組成と型式別出土量グラフ

瀬戸美濃は山茶碗を除いて796点出土している。このうち、器種不明を除いた752点について、器種別のグラフに表したものが第137図①である。天目茶碗・小天目茶碗などの天目類が19.4%、平碗・浅碗などの碗類が19.5%で、多くを占めている。また、盤類18.9%、皿類15.2%と続き、供膳形壺が全体の7割以上を占めている。これに対して、播鉢が14.0%、卸皿は少なく3.2%で、調理具は少ない傾向がみえる。その他の器種はいずれも数%以下であるが、花瓶や香炉などの神仏具が3.5%とやや高い比率を示していることが注目される。

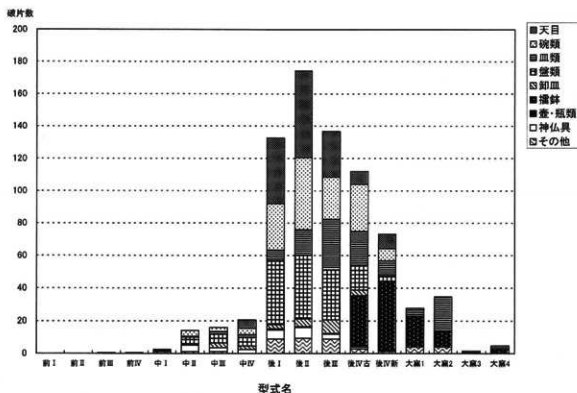
第137図②のグラフには型式別の出土量を棒グラフで示した。濃い色のグラフがその型式固有の点数で、薄い色は数型式にわたる点数を型式数で割った数値を表わしている。たとえば、後Ⅰ～Ⅲ期の天目茶碗が6点の場合、後Ⅰ・Ⅱ・Ⅲそれぞれ2点ずつとして計算している。

後Ⅱ期が最も多く、全体の23%を占める。その前後も多く、後Ⅰ期17%、後Ⅲ期18%で、この3期で全体の半分以上の出土量を占めている。一方、中Ⅳ期以前と大窯期の製品は非常に少なく、後Ⅰ期での極端な増加と大窯期以降の減少が当遺跡の特徴といえる。

同様の出土量グラフを器種別に表したものが第138図③である。当遺跡で最古の瀬戸美濃製品は入子で、前Ⅲ期～中Ⅱ期に比定されるものである。2個体出土している。中Ⅱ期に、碗類・盤類・壺類・神仏具などが少量出土し、中Ⅲ・Ⅳ期でやや増加する。当遺跡の主要な器種である天目茶碗は、中Ⅳ期からあらわれる。

後Ⅰ期になると、前段階の6倍の出土量になり、次の後Ⅱ期でピークを迎えることになる。後Ⅰ期の器種構成は、天目類30%、碗類22%、盤類29%が大きな比率を占める。これら3器種の増加が当該期の急激な出土量増大につながっている。また、鉢類や柄付片口、小杯など、前段階ではみられなかった

③ 瀬戸美濃 型式別・器種別出土数

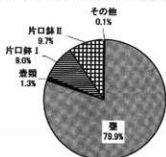


第138図 瀬戸美濃の型式別・器種別出土量グラフ

器種も出現し、器種のパラエティーが豊かになることも特徴的である。次の後Ⅱ期には、天目・碗類・盤類は少しずつ増加してその割合には変化がみられないものの、皿類が前段階の4%から8%に倍増し、出土量増加の要因となっている。後Ⅲ期になると、天目・碗類が減り全体の出土量も減少するが、皿は逆に増加傾向となり22%を占める。後Ⅳ古期になると、播鉢の出現により器種構成に大きな変化があらわれる。天目7%、碗類25%、皿類18%、盤類13%となり、天目を初めとして供膳具は減少するのに対して、播鉢は27%で最大の比率となる。とくに天目類の減少は著しい。後Ⅳ新时期では、碗類、盤類も大きく後退し、播鉢は57%となり半分以上を占めるようになる。大塚期にはいると、全体の出土量は激減し、主要な器種は皿類と播鉢で占められるようになる。大塚2段階で、皿類が増えるものの、大塚3・4段階の出土量はわずかとなり、器種構成も不明となる。

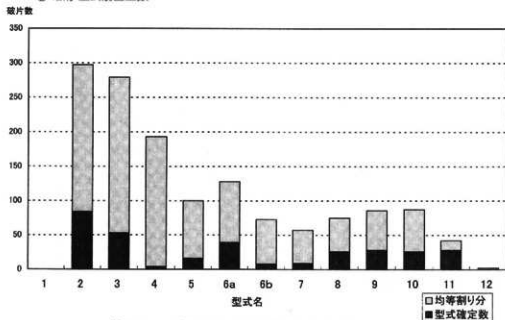
(4) 常滑

常滑の出土数は山茶碗を除き1434点を数える。器種不明15点を除いた1419点の器種別グラフを第139図①に示した。圧倒的に甕が多く、1134点で約80%を占める。ついで片口鉢Ⅰが多く、片口鉢Ⅰ類が9%、同Ⅱ類が9.7%である。壺類は非常に少なく1.3%である。グラフには示していないが、渥美も同様の傾向を示しており、出土点数236点のうち205点が甕で87%を占めている。



① 常滑 器種別

② 常滑 型式別出土数



第139図 常滑の組成と型式別出土量グラフ

瀬戸美濃同様に型式別のグラフを第139図②に示した。1型式は出土しておらず、2型式の出土量が最大で全体の21%を占めている。3型式も多く19%、4型式は若干減少するものの13.5%である。以上の2～4型式で全体の半分以上を占めており、鎌倉時代前半期に、大量の常滑製品が当遺跡に持ち込まれたことが想定される。

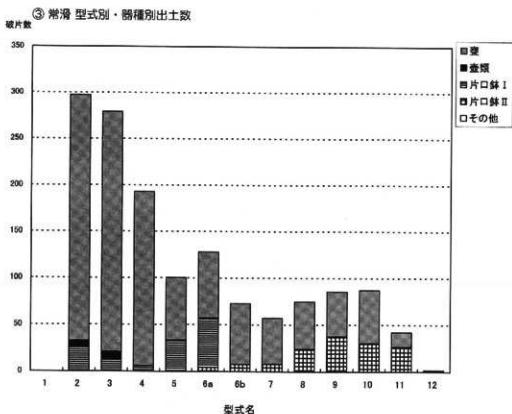
その後、5型式から減少傾向がみられ、6 a型式と8～10型式で少し増加するものの、全体には低い出土量で推移するが12型式までは極端な減少はみられない。全体に常滑製品は量の多寡はあるものの、安定して供給されていたと考えられよう。

型式別の出土量を器種別に表したものが第140図③のグラフである。全体の器種別グラフでみたように、すべて時期を通じて甕が多い傾向がみえるが、時期によってやや割合が異なることが明らかになった。2型式では甕と片口鉢Ⅰ類が10：1の比率を示している。3型式では20：1、4型式では30：1と、2型式に比べて減少傾向を示すものの、5型式では2：1、6 a型式では1.3：1と増加に転じ、片口鉢の占める割合が高くなっていくことがわかる。また、片口鉢Ⅱ類でも、当初6 b型式では甕：片口鉢Ⅱ類が8：1であったが、次第に増加し9型式では1.2：1とほぼ同量となり、11型式では1：1.6と逆転する。

このような型式ごとの出土量の変化、器種別の割合の増減減少は、当遺跡の消長のあらわれであると同時に、産地における生産量や流通量・流通経路の問題、他の産地との競合関係など、複雑な要因によるものと考えられ、在土器も含めて多角的な検討が必要と考えられる。

(5) かわらけと遺構内共伴遺物

次に当遺跡で最も出土量の多いかわらけについて検討する。伊豆地域では、菰山町と三島市の三嶋大社周辺を除いては中世のかわらけの良好な資料が少なく、現段階において編年が確立されていない状況



第140図 常滑の型式別・器種別出土量グラフ

である²³⁾。その理由として、前述のように資料が非常に限られていることと、大量にかわらけが出土している菰山町においては、中世全般にわたる遺跡が重層的に展開しているため、遺構の重複が著しく、層位的な検討や共存遺物との検証などが可能な良好な一括資料に恵まれていないことがあげられる。ここでは、当遺跡において比較的良好的一括資料をあげ、共存遺物とともにその年代を推定し、かわらけの変遷を追っていくこととする。

第1期 第1号井戸(SE01)の一括出土資料が相当する。わずかな破片を除いて手づくね成形かわらけはほとんど出土しておらず、ロクロ成形かわらけのみで構成される段階と考えられる。大小の2法量のロクロ成形かわらけがあり、それぞれ器形から2分することができる。大形のかわらけには口径14cm前後・底径8~9cmの口径と底径の差の小さい皿形のもの(第141図1・2)と、底径7cmほどで口径と底径の差の大きい環形のもの(3・4)がある²⁴⁾。小形かわらけも大形と同様に皿形(5・6)と環形(7・8)の2種がある。また、環形でも底部が非常に厚く底径がさらに小さくなる9・10のようなものがあり、これらは古代末の上質土器の系譜をひくものと思われる。ロクロ成形後の調整は底部外面・内面とも顕著なものは認められず、わずかに底部内面のロクロ成型時の盛り上がりや指またはへら状の工具で調整したような痕跡が一部に認められるのみである。

第1号井戸では、これらのかわらけに貿易陶磁・東遠江系山茶碗が共存している。第142図64~67は貿易陶磁である。64~66は白磁の碗で、64がⅡ類、65がⅣ類、66はⅤ類である。67は白磁小壺である。68~70は東遠江系の山茶碗で、68・69は碗、70は片口鉢である。

第2期 第2号井戸(SE02)出土資料がこの段階である。ロクロ成形かわらけに加えて手づくね成形かわらけが一定量出土する。

ロクロ成形かわらけは前段階同様大小の2法量があり、大形は口径13.0~14.0cm・器高3.5~4.0cmを測る。また、底径9.0cm前後の皿形(11・12)、7.0cm前後の環形(13・14)がある。口径・底径とも前段階との差はあまりないが、皿形・環形ともに器高の低いものがみられるようになる。また小形かわらけは皿形のもの(15・16・18)が主体となるようであるが、17のように底部が厚く小さめの底部から引き出されるように立ち上がっている例は前段階からの系譜を引くものと考えられる。

手づくね成形かわらけは口径14~15cm・器高2.5~3.0cmの大形かわらけ(71・72)と口径9.5~10.0cm・器高2.0cm前後の小形かわらけ(73~76)がある。器厚は比較的薄手で、口唇部も丁寧につくられている。外側に面取りを施す例が多いが、丸くおさめるものもある。底部は平坦で底部内面にはナデまたはハケ状の調整痕が認められる。調整の順序は底部内面→口縁部のナデである。小形かわらけには、口縁部のナデが強い場合屈曲が明瞭で口縁部がやや外反気味になるもの(73・74)と、ナデが弱いあるいは口縁下に沈線や施す程度の調整のため、口縁部が内彎し全体に扁平な半球状を呈すもの(75・76)との2種が認められる。

第2号井戸の共存遺物は貿易陶磁のみで、77は白磁碗Ⅴ類かⅧ類、78は青磁刺花文碗(A類)である。

第3期 第3号溝状遺構、第34号・36号・48号・50号土坑出土のかわらけを第3期とする。

大形のロクロ成形かわらけは口径が縮小し、口径が12.0cm前後のもの(21・22)も認められる。器高も3.5cm前後となり、前段階より低くなる。器高の低化が進むため大小とも皿形・環形の差は不明瞭になっている。器形は底部脇からやや引き出し気味に立ち上がり、体部は内彎して口縁部に至るもの、口縁部でやや外反するものなどが認められる。また、本段階では大小ともに底部内面にナデ痕や底部外面に板状凹痕など成形後の調整が普遍的に認められるようになることが大きな特徴である。底部内面のナデ痕は丁寧に見込み部ほぼ全面にわたって回数施されている。

手づくね成形かわらけの口径は大形のもの12.0~13.0cm、器高は3.0cm前後となり、前段階に比べ口径の縮小と器高の増加が顕著である(79・80・82・83)。また、器厚が厚手になり、口唇部も丸

みをもち外側の面取りを施さなくなる。第34号・50号土坑(SX34・50)の手づくねかわらけ(84・85)は、口径は10.5~11.5cmとさらに縮小し、その一方で器高が3.5cm前後と高くなる。また、口縁部高が拡大し外反が強くなる特徴を示す。小形かわらけも同様で、第3号溝状遺構の口径は8.0cm(81)、第34号・50号土坑のもの(86・87)は7.0cm代に縮小している。また、口縁部高が拡大し、体部~底部にかけて扁平な形状になる。底部内面の調整も口縁部の横ナデが底部中央まで及んでいるものが多く、前段階までの底部内面→口縁部の調整順序が崩れている。手づくねかわらけの小形化・粗雑化が進んだ段階である。

第3期の遺構陶磁器の共伴例がなく、明確な実年代比定は困難である。

第4期 第1号溝状遺構、第2号溝状遺構、第1~5号上坑墓のかわらけがこの段階である。手づくねかわらけを伴わない時期である。第1号・2号溝状遺構の新旧関係によりa・bの小期に区分した。

第4a期は第1号溝状遺構と第5号上坑墓に良好な資料がある。この段階から大中小の3法量が見られる。大形のロクロ成形かわらけ(27・28)は口径12.0~13.0cm・底径8.0~9.0cm・器高は3.5~4.0cm、中形かわらけ(29・30・37)は口径11.0~11.5cm・底径6.0~8.0cm・器高3.0cm前後で、口径・底径の縮小傾向が進み、全体的に小型化する。とくに底径の縮小が進むため前段階に比べて口径と底径の差が開く傾向がある。小形のかわらけ(31・32・35)も同様の傾向で、口径7.0~8.0cm・底径5.0~6.0cm・器高1.5~2.0cmを測る。

第1号溝状遺構の共伴遺物には、コースター型の手づくねかわらけ(88)、楠葉産の瓦器碗(89)、青磁坏(90)、常滑の甕(91)・片口鉢I類(92)がある。

第4b期は第2号溝状遺構と第1号上坑墓が該当する。ロクロ成形かわらけの口径・底径の縮小傾向・小型化傾向がさらに進む段階である。大形のかわらけは良好な資料がなかったため、ここでは不明である。中形かわらけ(36~38)は口径10.5~11.0cm・底径6.5cm前後・器高2.5~3.0cm、小形かわらけ(39・40)は口径7.0~7.5cm・底径5.0cm前後・器高2.0cmを測り、全体に小型化傾向が顕著である。とくに底径の縮小が進み前段階に比べて口径と底径の差がさらに大きくなる傾向が認められる。また、内底面のナデ調整も省略傾向がみられるようになり、前段階まで底部内面全体に施されていたナデ調整が、数回のナデから一方向の1回ナデに変化するようである。

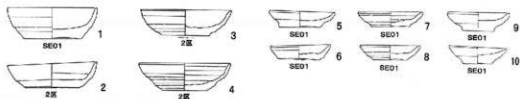
共伴資料は陶磁器がないが、第2号溝状遺構では瓦質風炉が出土している。

第5期 第4号溝状遺構・第16号溝状遺構がこの段階である。当遺跡において、最もかわらけの出土量の多い段階であり、法量や器形のバラエティーが豊富である。具体的には、第三章遺物の項に記したように、第4号・16号土坑では、A~Dの4種の器形が認められ、D類を除きそれぞれ大中小の3法量がある。

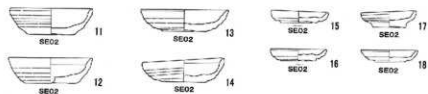
A類は体部が内嚢して立ち上がる器形で、大形I類、中形II類、小形III類に分けられる。大形のA-I類(41)は口径12.0cm前後、底径は7.0~8.0cm、器高は3.0cm前後である。中形のA-II類(42)は口径8.0~10.0cm、底径5.0~7.0cm、器高は2.5~3.0cmである。小形のA-III類(43・44)は口径6.0~7.0cm、底径4.0cm前後、器高は2.0cm前後を測る。いずれも見込みのナデと底部外面の板状圧痕が顕著である。

B類は体部が直線的に立ち上がる箱形の器形のもので、A類と同様に大中小のI~III類がある。大形のB-I類(45)は口径12.0~14.0cm、底径は8.0~9.0cm、器高は3.0~4.0cmである。中形のB-II類(46)は口径10.0~11.0cm、底径5.5~7.0cm、器高は2.5cm前後である。大形・中形ともに法量にややばらつきがあり、さらに細分も可能であるが、個体差の範囲とも考えられるので、3法量にとどめた。小形のB-III類はC-III類とともに、出土量が非常に多く、本期の主要なかわらけである。口径6.5~7.5cm、器高は2.0~2.5cmを測るものであるが、底径の差によりさらに二分することができる。底径が

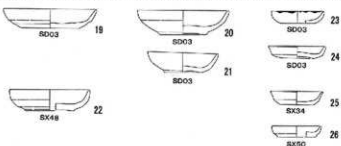
第1期



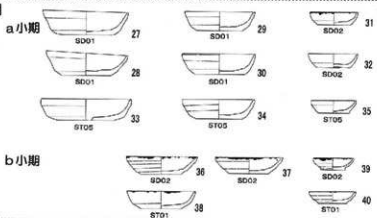
第2期



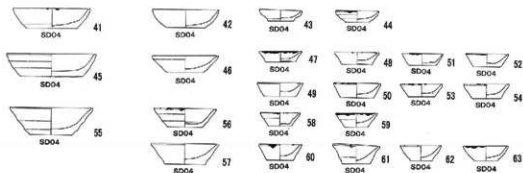
第3期



第4期

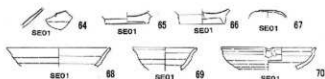


第5期



第141図 かわらけの変遷と共伴遺物(1) (S=1/6)

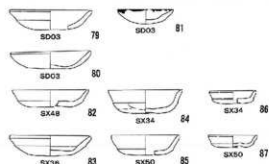
第1期



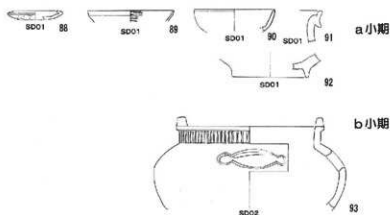
第2期



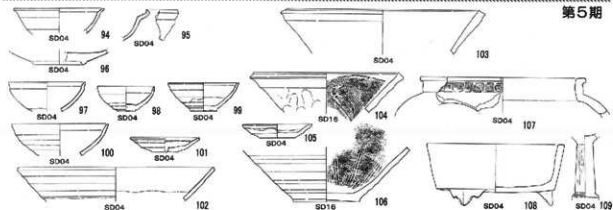
第3期



第4期



第5期



第142図 かわらけの変遷と共伴遺物(2) (S=1/6)

4.5~5.0cmを測る箱形のはa類とし、器厚によりさらに1・2類に分けた。箱形で器厚の薄いⅢa1類は47・48で、器厚の厚手のⅢa2類は49・50である。底径が小さく4.0~4.5cmのやや逆台形を呈すものはb類とし、a類同様器厚により1・2類に分けた。器厚の薄いⅢb1類は51・52で、厚手のⅢb2類は53・54である。a・b類ともに厚手の2類の方が、やや大きくなる傾向がある。また、底部外面の板状圧痕は顕著にみられるが、見込みのナデはあるものもないものがある。

C類は器高が高く逆台形を呈すものである。やはり大中小の3法量がある。大形のC-I類(55)は口径13.0cm前後、底径は6.5cm前後、器高は4.0cm以上である。中形のC-II類(56・57)は口径10.0~11.0cm、底径5.5~6.0cm、器高は3.2~3.6cmである。小形のC-III類は口径8.0cm以下のものであるが、法量と器厚によりさらに細分した。C-III1類(58・59)は器厚が薄手で、口径6.0~6.8cm、器高は2.0cm前後、底径は4.0cm以下である。C-III2類(60・61)は1類よりもやや大きめで厚手である。口径6.5~8.0cm、器高は2.5cm前後、底径は4.0~4.5cm以下である。底部が厚く全体に粗雑なつくりである。以上のC類は、見込みのナデや底部外面の板状圧痕はほとんど認められない。

D類(62・63)は小形のみ認められた器形で、器高が高く体部が内湾して立ち上がるものである。C類に近く同類に含めてもよいかもかもしれない。

以上のようにいくつかの器形が一度に出現するのが第5期である。A類・B類は第4期の系統上にあるものであるが、C・D類は新出の器形であり、当地域ではその祖形となるものが認められない。他地域からの影響が考えられるが、現在までのところその系譜は不明である。

第4号・16号溝状遺構とも、3法量のうち、小形かわらけが多いことが特色である。第4号溝状遺構の場合、実測可能個体で大中小の割合は、1:4:16である。また、小形かわらけはほとんどのものに口縁部にススが付着しており、灯明皿として使用された可能性が考えられる。これに対して、中形かわらけのスス付着の割合は2~3割ほど、大形かわらけはほとんど認められなかった。後述するこの時期の遺跡の性格によるものと考えられるが、器形のバラエティーとも関連し、興味深いかわらけ様相といえよう。

当期に共存する陶磁器は瀬戸美濃が中心になる。後I~III期が主体で、犬目茶碗(97)・小犬目茶碗(98)・平碗(100)・緑釉小皿(101)・直縁大皿(102)・柄付片口など器種も豊富である。常滑は斐・片口鉢II類が伴出し、8型式が主体である。貿易陶磁は青磁碗反碗(D-1類・94)、青磁盤類(95・96)などが出上している。第16号溝状遺構では、常滑8型式の片口鉢II類の内面に播り目があり(104)、類例の少ない例として注目される。その他、後IV期に併行する志戸呂の播鉢(106)がある。瓦質製品も多く伴出し、火鉢(108)・風炉(107)の他、燗台(109)や香炉なども出土している。

各期の実年代について

第1期は手づくねかわらけ出現以前の段階で、共存する貿易陶磁・東遠江系山茶碗の年代から12世紀代の中葉から後葉に位置づけられる。古代末の土師質土器の系譜をひくものもあるが、11世紀代に盛行する足高台杯は含まれていないことから、12世紀以降と考えられる。

次の第2期は手づくねかわらけを伴う段階で、白磁碗V類、同安窯系青磁碗・皿や龍泉窯系青磁刺花文碗などが共存していることから、12世紀末~13世紀初頭と考えられる。第2号井戸の手づくねかわらけは、韭山における出現期の手づくねかわらけよりも若干後出のものと考えられ⁹⁹⁾。平泉や鎌倉の手づくねかわらけとの比較によっても、13世紀初頭に位置づけられる可能性が高い。韭山の手づくねかわらけは、口唇部のつくりやナデなどの技法が京都とは異なり、直接的な技術伝播とは考えにくく、京都の影響で成立したことは他地域と同様であるが、京都との直接的な関わりというよりも、鎌倉あるいは平泉を介しての影響と考えた方が妥当であろう。

第3期は共存する陶磁器類がないため、直接的な比定はできないが、前後の関係から13世紀の前半か

ら中葉に位置づけられる。ロクロ成形かわらけ・手づくね成形かわらけともに前の段階より小型化・粗雑化している。

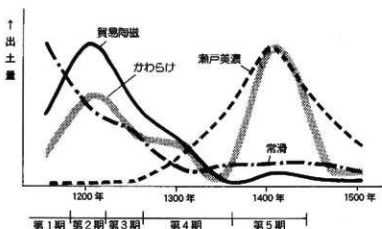
第4期のa小期は第1号溝状遺構から13世紀後半の桶葉産瓦器碗、コースター型のかわらけなどが出土していることから、13世紀後半以降と考えられる。手づくね成形かわらけはなく、ロクロ成形かわらけのみの段階である。b小期は陶磁器を共存していないため、詳細は不明であるが、瓦質風炉があることから14世紀代に位置づけられよう。かわらけ・陶磁器ともに出土量が少なく、また、年代に幅があることから、今後検討が必要である。

第5期は、第4号・第16号溝状遺構で、瀬戸美濃の後Ⅰ～Ⅲ期が多く共存しているため、14世紀後半～15世紀前半に位置づけられる。一部後Ⅳ古期の遺物もあるため、15世紀中葉まで下がる可能性もある。かわらけ・陶磁器ともに大量の遺物が出土する時期であるが、多様なかわらけが出土しており、陶磁器の年代幅も広いため、さらに時期区分が可能と思われるが、当調査区内の遺構の出土状況では詳細な検討ができなかったため、今後の資料増加を待って再検討を行いたい。

(6) 時期別の出土量について

以上、史跡北条氏邸跡の陶磁器それぞれの器種や時期別の出土状況を概観した。次にこれらを組み合わせ、遺跡全体の様相として考察するため、貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・かわらけの出土量を概念的に表わしたものが第143図のグラフである。かわらけについては、全点を時期別に判別することは不可能なので、実測可能個体について、その時期別の割合を示している。グラフは実数ではなく、全体に占める各時期の割合とその推移を折れ線グラフで表わしている。

貿易陶磁は12世紀末～13世紀前半にピークがあり、14世紀後半からは激減する。瀬戸美濃は14世紀末～15世紀前半にかけて最も出土量が多く、貿易陶磁と入れ替わるような様相を示している。常滑は12世紀後半にピークがあり、その後は全体に減少傾向するが、全体的に安定的な供給が認められる。かわらけは、12世紀末～13世紀前半と14世紀末～15世紀前半に2つのピークがあり、あたかも貿易陶磁、瀬戸美濃と呼応しているようにみえる。



第143図 主要遺物の出土量の推移

2. 遺構の期的な展開について

前項で検討した遺物の時期区分を元に、遺構の変遷を第144・145図に示した。前述のように、当遺跡では時期別の遺構面がとらえられないため、出土遺物により時期決定の可能なもののみ掲載し、その他時期不明の遺構は省略してある。そのため、当遺跡の検出遺構のすべてを網羅するものではない。また、調査区南部の1区は、第5期の遺構面までの調査にとどまっており、下層の第4期以前の遺構配置は不明である。

第1期の遺構 遺物によって確定できるのは第1号井戸のみである。第14号土坑も破片資料であるが、古代末の土師器の系譜をひくものが出土しているため、この時期に存在したと思われる。遺物量も多くはないため、当遺跡において主体的な遺構の展開する以前の段階と考えられる。第1号井戸廃絶の後、第2・3号掘立柱建物跡がつくられるが、位置関係から1～3号掘立柱建物跡がすべて同時期に建てたとは考えられないので、第1号井戸との位置を考慮すれば、第1号掘立柱建物跡と第1号柱穴列が伴う可能性も考えられる。

第2期の遺構 確実に遺物が出土しているのは第2号井戸のみであるが、前後の遺構の重複関係や周辺の遺物の出土状況から、第1号～4号掘立柱建物跡がこの時期に含まれると思われる。また、主軸方向や柱間寸法がほぼ同じことから、第6号・7号柱穴列もこの時期のものと考えられる。第7号～10号掘立柱建物跡・第5号柱穴も未調査ではあるが、主軸方向から同時期の可能性がある。

調査区北側に崩跡と思われる柱穴列を伴った大型の掘立柱建物跡が並び、その南側には小型の掘立柱建物跡が配置されている。第5～7号柱穴列も同時期であると想定すれば、L字の区画施設の可能性がある。第9・10号掘立柱建物跡は位置関係からその性格の推測はむずかしいが、周辺から大甍のかわらけが出土していることから、大型掘立柱建物跡と関連する施設であった可能性が高い。第1号井戸は最も南で検出されている。

第2期は、かわらけ・貿易陶磁・常滑などが大量に出土しており、当遺跡の中心的な時期であったと思われる。

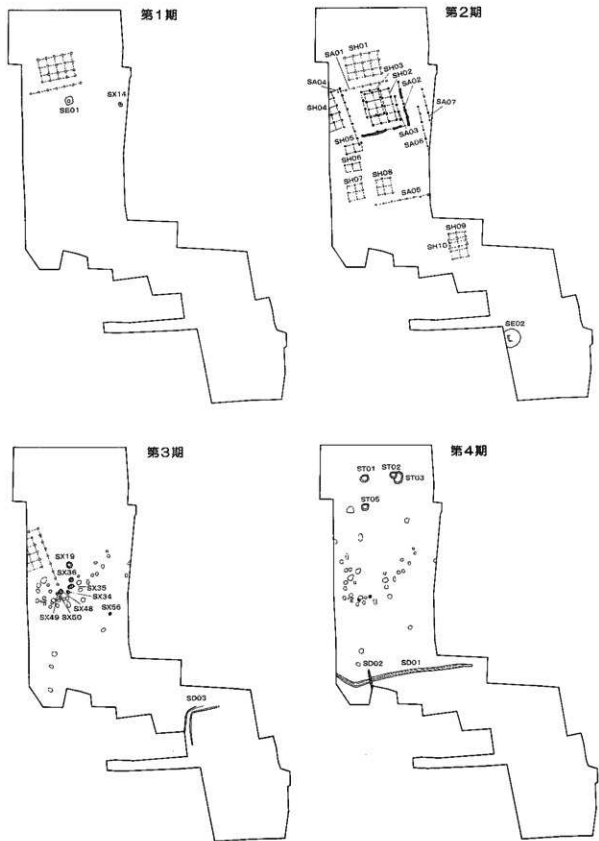
第3期の遺構 第3号溝状遺構、第19・34・35・36・48・49・50・56号土坑が該当する。共存する陶磁器がないため、詳細な時期の特定はできないが、かわらけの様相からはある程度の時間幅が想定され、すべての遺構が同時期に存在していたものではないだろう。また、周辺から検出された土坑で確実な伴出遺物により時期決定ができなかった土坑のなかにも、同時期のものが含まれている可能性がある。なお、第2期の掘立柱建物跡の主軸方位を考慮すると、第1号→第2→第4号の順序が予想され、第4号が最も新しい可能性がある。土坑群の広がりから、第4号掘立柱建物跡は、残存していた可能性も考えられる。

第4期の遺構 第1号・2号溝状遺構、第1号～5号土坑墓によって構成される。調査区北側に土坑墓が集中していることから、この時期には、少なくとも遺跡北側は居住地から墓域に変わっていたことが想像される。上坑墓南側の土坑集中域でも、第47号・第54号土坑からは銭貨が出土しており、土坑墓の可能性が高い。北側が墓域として機能していたとすれば、第1号溝状遺構は、遺跡の南北の性格を分ける区画溝の役割を果たしていた可能性があり興味深い。

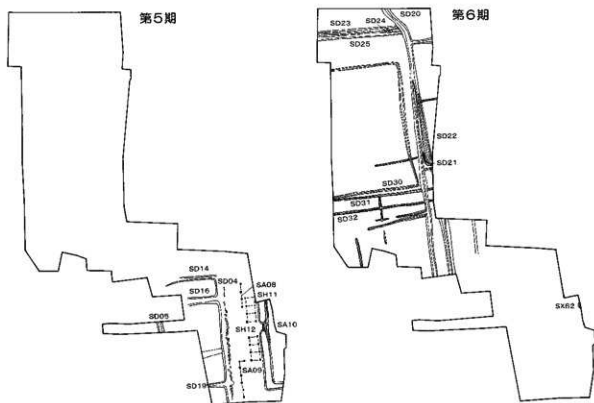
第4期は、第1号・2号溝状遺構の重板から少なくとも2小期以上に分けることができるが、当遺跡においてかわらけ・陶磁器とも最も少ない時期であり、詳細は不明である。

第5期の遺構 調査区南側で遺構が多く展開する時期である。第11号・12号掘立柱建物跡やそれに付随する第8号・9号柱穴列、築地塼の基礎と思われる土壇状の高まり・第10号遺構などがあり、主軸を同じくして第4号・5号・14号・16号・19号溝状遺構が西側に展開する。

第8号・9号掘立柱建物跡と柱穴列については、同時期に類例がなく性格は不明であるが、第10号遺



第144図 主な遺構の変遷(1) (S=1/1,000)



第145図 主な遺構の変遷(2) (S=1/1,000)

構の高まりが、第11号・12号掘立柱建物跡の間で途切れていることからすれば、門のような施設であったことが推測される。同様に、第8号・9号柱穴列も塀のような施設が想像できる。溝状遺構は東西・南北方向に走っており、方形に区画されているようすがみられ、東側の施設に伴う区画溝であったと考えられる。

第6期の遺構 近世以降の溝状遺構によって構成される時期である。第20号溝状遺構～第39号溝状遺構まで20基の溝が想定される。このうち南北に走る第20・21・22号溝状遺構と、東西に走る第23・24・25・30・31・32号溝状遺構、L字に曲がる第27号溝状遺構などによって、方形の区画が構成されている。屋敷の区画溝の可能性が考えられる。ただし、それぞれの詳細な時期や、溝同士を組み合わせたなどは不明であり、どのような性格の場であったのは不明である。

平治の乱で敗れた源頼朝は、1160年に伊豆並山の蛭ヶ小島に流されるが、娘政子との結婚を通じて北条氏が後見的な立場となる。文治元年(1185年)平家を倒し、東国において武家政権が樹立され、頼朝の男にあたる北条氏は執権・得宗として鎌倉幕府の中核で繁栄することになるが、北条氏の本拠地が並山であり、その館跡が当遺跡と推定されている。元弘三年(1333年)に、鎌倉幕府が滅び北条氏は滅亡するが、残された子女の一部は本拠地並山にもどり、北条貞時の妻である円成尼が本拠地に円成寺を建てた。円成尼が亡くなった後の円成寺は一時衰退するが、伊豆国守護山内上杉氏の庇護を受けて繁栄することになる⁽⁴⁴⁾。また、長祿二年(1458年)、永享の乱・享徳の乱で乱れた東国を治めるために、新たな関東公方として足利義政の庶兄政知が派遣され、並山に願極御所を構えた。これも、明応二年(1493年)、伊勢盛時(通称北条早雲)によって滅ぼされる。以上のように、当遺跡は鎌倉時代の北条

氏の本貫地の館、鎌倉幕府滅亡後の14世紀中頃から15世紀にかけての円成寺、そして、15世紀後半の堀越御所という3つの歴史背景を有している。

以上の歴史背景とみると、先述の上出遺物の消長と関連性がいくつか認められるように思われる。12世紀末～13世紀前半のピークは北条氏の台頭期であり、それに呼応するように、大量の貿易陶磁やかわらけが出土している。また、願成就院の建立時期と重なっていることから、この地に多くの文物が流入し繁栄していたと想像される。とくに、手づくねかわらけの存在は、京や鎌倉との密接な関係を示唆するものである。その後13世紀後半以降の減少は、北条氏が本格的に本拠を鎌倉に移したためと推測できる。14世紀末～15世紀前半のピークについては円成寺、とくに山内上杉氏の庇護下での繁栄と関連していると考えられる。瀬戸美濃天日茶碗や神仏具の出土、灯明皿に使用したと思われるススの付着した大量のかわらけなどは、同時期中世集落とは様相を異にしており、区画された遺構配置とともに、寺院としての特徴を示している。しかし、寺院の主要部分が未確認であるので、円成寺の様相については今後の調査をまって再考したい。また、15世紀後半の遺物が少ないことから、堀越御所については当遺跡の範囲には主要部分が及んでいなかったと思われる。

註

1. 参考文献：横田賢次郎・森田 勉 1978、小野正敏 1982、森田 勉 1982、山本信夫 1988 他
2. 参考文献：原 廣志 1999
3. 参考文献：池谷 1998において中世前期の編年試案を示したが、再検討が必要である。
4. 第1号井戸では、環形のかわらけは底部破片のみの出土で完形品がないため、同種の包含層出土遺物を使用している。
5. 出現期の手づくねかわらけと思われるものは、御所之内遺跡第1次調査（文献：並山町 1985）、願成就院跡、正念寺跡（未報告）で出土している。
6. 円成寺の成立・沿革については、参考文献：湯之上 1996で詳しく論じられている。

参考文献

報告書

- 神奈川県立埋蔵文化財センター 1986『千葉地東遺跡』
- 鎌倉市教育委員会 1991『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』
- 鎌倉市教育委員会 2002『永福寺跡 一遺物編・考察編一』
- 鎌倉市鶴岡八幡宮研修棟境内用地発掘調査団 1983『鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書』
- 菊川町教育委員会 1999『横地城跡 総合調査報告書』
- 菊川町教育委員会 2000『横地城跡 総合調査報告書 資料編』
- 国立歴史民俗博物館 1994『日本出土の貿易陶磁 東日本編2』国立歴史民俗博物館資料調査報告5
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 1998『元島遺跡Ⅰ（遺構編 本文）』
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 1999『元島遺跡Ⅰ（遺物・考察編1 中世）』
- 並山町教育委員会 1985『御所之内遺跡発掘調査報告書 予備調査～第3次調査』
- 並山町教育委員会 1997『並山町史跡整備基本構想Ⅰ』
- 並山町教育委員会 1995『伊豆並山円成寺遺跡』
- 並山町教育委員会 1999『史跡北条氏邸跡発掘調査概報―御所之内遺跡第22次調査―』
- 富士宮市教育委員会 2000『元富士大宮町船跡』
- 三島市教育委員会 1990『三嶋大社境内遺跡Ⅰ』
- 三島市教育委員会 1997『三嶋大社境内遺跡第3地点』
- 横小路周辺遺跡発掘調査団 1996『横小路周辺遺跡 二階堂字横小路110番3地点』

論文等

- 浅野晴樹 1991『東国における中世在地土器について―主に関東を中心にして―』『国立歴史民俗博物館研究紀要』第31集

- 飯村 均 1998 「東国のかわらけ」『中近世土器の基礎研究』XⅢ 日本中近世土器研究会
- 池谷初恵 1999 「伊豆国における白色系かわらけについて—胎土分析による京・鎌倉との比較—」『静岡県考古学研究』No.30
- 池谷初恵 1999 「韭山町御所之内遺跡群における貿易陶磁の変遷」『静岡県考古学研究』No.31
- 伊野近富 1987 「かわらけ考」『京都府埋蔵文化財論集』第1集 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 伊野近富 1998 「中世前期の京都系土器器皿の伝播と受容」『中近世土器の基礎研究』XⅢ 日本中近世土器研究会
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 小野正敏 1985 「出土遺物よりみた15、16世紀における陶磁の素地」『MUSEUM』No.416
- 小野正敏 2000 「遠江の州土陶磁器組成の特徴—貿易陶磁を中心に—」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 河野真知郎 1986 「鎌倉における中世土器様相」『神奈川考古』第21号 神奈川考古学会
- 河野真知郎 1992 「鎌倉の搬入土器と在土土器」『中近世時の基礎研究』Ⅶ 日本中世土器研究会
- 小森俊寛・上村憲章 1995 「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『京都市埋蔵文化財研究所 研究紀要』第3号 京都市埋蔵文化財研究所
- 南木秀雄 2002 「12世紀末から13世紀のかわらけ」『かながわの中世—鎌倉から小田原へ—土器様相を中心として』神奈川県考古学会
- 宗彦秀明 1996 「第六章 遺物の編年と遺跡の性格」『横小路周辺遺跡 二階堂字横小路110番3地点 横小路周辺遺跡発掘調査田』
- 宗彦秀明 1998 「中世都市鎌倉の初期かわらけ」『中近世土器の基礎研究』XⅢ 日本中近世土器研究会
- 宗彦秀明 2002 「14世紀のかわらけ」『かながわの中世—鎌倉から小田原へ—土器様相を中心として』神奈川県考古学会
- 鶴橋俊夫 1988 「畿内における古代末から中世の土器」『中近世土器の基礎的研究』Ⅳ 日本中世土器研究会
- 鶴橋俊夫 1994 「平安京出土土器の諸問題」『平安京出土土器の研究』古代集協会
- 田代大次 2002 「15世紀のかわらけ」『かながわの中世—鎌倉から小田原へ—土器様相を中心として』神奈川県考古学会
- 中野晴久 1994 「生産地における編年について」全国シンポジウム『常滑焼をとおして』資料集
- 中野晴久 1996 「濠洲系中世陶器の生産」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界—その流通と生産』資料集
- 服部実喜 1992 「南武蔵・相模における中世の食器様相(1)—中世初期の様相」『神奈川考古』第28号
- 服部実喜 1994 「南武蔵・相模における中世の食器様相(2)—中世前期の様相」『神奈川考古』第30号
- 服部実喜 1995 「南武蔵・相模における中世の食器様相(3)—中世後期の様相Ⅰ」『神奈川考古』第31号
- 服部実喜 1996 「南武蔵・相模における中世の食器様相(4)—中世後期の様相Ⅱ」『神奈川考古』第32号
- 原 廣志 1999 「横地氏関連遺跡群と周辺遺跡の特徴について」『横地城跡 総合調査報告書』
- 藤澤良祐 1986 「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅴ』
- 藤澤良祐 1991 「古瀬戸占室址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅹ』
- 藤澤良祐 1996 「中世瀬戸の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界—その流通と生産』資料集
- 藤澤良祐 2000 「造江出土の瀬戸美濃焼」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 藤澤良祐 2001 「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通—研究の現状と課題」『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品』資料集 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤原良幸 1988 「中世の食器考—(かわらけ) ノート—」『列島の文化史』Ⅴ 日本エディタースクール
- 馬淵和雄 2002 「貿易陶磁と国産陶磁」『かながわの中世—鎌倉から小田原へ—土器様相を中心として』神奈川県考古学会
- 森田 勉 1982 「14~16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 八重樫忠郎 1995 「3. 出土遺物(1)かわらけ」『志摩山遺跡第35次発掘調査報告書』平泉町教育委員会
- 八重樫忠郎 2001 「中世前期の時間軸としての遺物」『平泉文化研究年報』第1号
- 山本信夫 1988 「北宋期貿易陶磁器の編年—太宰府出土例を中心として」『貿易陶磁研究』No.8 日本貿易陶磁研究会
- 湯之上 隆 1996 「寛海川成と伊豆川成守—鎌倉禅と女性をめくって—」『静岡県史研究』第12号
- 横田賢次郎・森田勉 1978 「太宰府出土の輸入陶磁器について—型式分類と編年を中心にして」『九州歴史 資料館研究報告』

遺構・遺物一覽表

第3表 掘立柱建物跡一覧表(1) 単位:m、寸法は概算

遺構名	調査状況	規模	主軸方位	時期	主な出土遺物	備考
第1号掘立柱建物跡 SH01		4×2間 底付1.6m 柱間2.1m	N-88°-W	120末~130前		
トポ1 SH01-P1		円形径0.63 深0.20				
トポ2 SH01-P2		円形径0.56 深0.25				
トポ3 SH01-P3		円形径0.47 深0.10				
トポ4 SH01-P4		隅丸方形0.40×0.30 深0.08				
トポ5 SH01-P5		円形径0.47 深0.17				
トポ6 SH01-P6		隅丸方形? 0.40×0.39 深0.08				
トポ7 SH01-P7		隅丸方形0.42×0.41 深0.10				
トポ8 SH01-P8		隅丸方形0.45×0.42 深0.18				
トポ9 SH01-P9		隅丸方形? 0.58×(0.40) 深0.13				
トポ10 SH01-P10		円形径0.33 深0.04				
トポ11 SH01-P11		円形径0.63 深0.17				
トポ12 SH01-P12		不整塊円形0.60×0.51 深0.20				
トポ13 SH01-P13		隅丸方形0.38×0.31 深0.07				
トポ14 SH01-P14		円形径0.50 深0.21				
トポ15 SH01-P15		円形径0.43 深0.28			かわらけ	
トポ16 SH01-P16		円形径0.35 深0.20				
トポ17 SH01-P17		隅丸方形0.46×0.41 深0.24				
トポ18 SH01-P18		隅丸方形0.48×0.39 深0.14				
トポ19 SH01-P19		隅丸方形0.53×0.42 深0.21				スラグ
第2号掘立柱建物跡 SH02		3×4間 3.6m 柱間2.1m	N-87°-W	120末~130前		
トポ1 SH02-P1		不整塊円形径0.411×0.33 深0.26				
トポ2 SH02-P2		隅丸方形0.41×0.38 深0.30			かわらけ	
トポ3 SH02-P3		隅丸方形0.47×0.35 深0.30			釘	
トポ4 SH02-P4		円形径0.51 深0.20			かわらけ	
トポ5 SH02-P5		隅丸方形0.60×0.38 深0.35			かわらけ	
トポ6 SH02-P6		円形径0.43 深0.25			かわらけ	
トポ7 SH02-P7		隅丸方形0.52×0.43 深0.29			釘	
トポ8 SH02-P8		隅丸方形0.48×0.40 深0.15				
トポ9 SH02-P9		円形径0.36 深0.17				
トポ10 SH02-P10		円形径0.35 深0.20			かわらけ	
トポ11 SH02-P11		円形径0.31 深0.15				
トポ12 SH02-P12		円形径0.40 深0.35			かわらけ	
トポ13 SH02-P13		不整塊隅丸方形0.42×0.35 深0.46			かわらけ	
トポ14 SH02-P14		隅丸方形0.45×0.40 深0.28				
トポ15 SH02-P15		不整塊隅丸方形0.43×0.40 深0.34				
トポ16 SH02-P16		不整塊隅丸方形? 0.45×(0.35) 深0.40			かわらけ	
トポ17 SH02-P17		隅丸方形0.45×0.45 深0.28			良島陶磁	
トポ18 SH02-P18		隅丸方形0.44×0.34 深0.43			かわらけ	
トポ19 SH02-P19		隅丸方形0.50×0.40 深0.34				
第3号掘立柱建物跡 SH03		2×3間 2.83m 柱間2.1m	N-87°-30'-W	120末~130前		
トポ1 A SH03-P1A		隅丸方形0.50×0.25 深0.36				
トポ1 B SH03-P1B		隅丸方形? 0.40×(0.30) 深0.28				
トポ2 SH03-P2		不整塊0.80×0.48 深0.31			かわらけ	
トポ3 SH03-P3		隅丸方形0.55×0.46 深0.26			かわらけ 良島陶磁	
トポ4 SH03-P4		隅丸方形0.51×0.48 深0.33			かわらけ 炭素 スラグ	
トポ5 SH03-P5		隅丸方形0.43×0.40 深0.24				
トポ6 SH03-P6		円形径0.63 深0.40			かわらけ	
トポ7 SH03-P7		隅丸方形0.43×0.37 深0.35				
トポ8 SH03-P8		隅丸方形0.50×0.30 深0.48			かわらけ	
トポ9 SH03-P9		隅丸方形0.42×0.39 深0.25			かわらけ	
トポ10 SH03-P10		隅丸方形0.42×0.31 深0.30			かわらけ	
第4号掘立柱建物跡 SH04		4×(2~)間 柱間2.1m	N-83°-W	120末~130前		
トポ1 SH04-P1		不整塊隅丸方形0.33×0.30 深0.22			かわらけ	
トポ2 SH04-P2		不整塊隅丸方形0.38×0.35 深0.56			かわらけ 良島陶磁	
トポ3 SH04-P3		円形径0.40 深0.39			かわらけ	
トポ4 SH04-P4		隅丸方形0.60×0.43 深0.33			かわらけ	
トポ5 SH04-P5		隅丸方形0.38×0.33 深0.43			かわらけ	
トポ6 SH04-P6		隅丸方形0.58×0.45 深0.38				
トポ7 SH04-P7		隅丸方形0.40×0.35 深0.35			かわらけ	
第5号掘立柱建物跡 SH05		2×1間 2.6m 柱間2.1m	N-82°-30'-W	120末~130前		
トポ1 SH05-P1		隅丸方形0.45×0.38 深0.08			かわらけ	
トポ2 SH05-P2		隅丸方形0.38×0.34 深0.11			かわらけ	
トポ3 SH05-P3		隅丸方形? 0.40×(0.30) 深0.12			かわらけ	
トポ4 SH05-P4		隅丸方形0.34×0.29 深0.28			かわらけ	
トポ5 SH05-P5		円形径0.33 深0.27			かわらけ	

第4表 掘立柱建物跡一覽表(2) 単位m ()は換存径

遺構名	調査状況	規模	主軸方位	時期	主な出土遺物	備考
第6号掘立柱建物跡 SH06		2×1間 8.0m ² 柱間2.1m	N-84° 30'-W	12C末～13C前		
ビツ1 SH06-P.1	確認のみ	隅丸方形 0.35×0.27 深0.34				
ビツ2 SH06-P.2	確認のみ	隅丸形 0.38×0.32 深0.38			かわらけ	
ビツ3 SH06-P.3	確認のみ	隅丸方形 0.40×0.32 深0.36			かわらけ 瓦	
ビツ4 SH06-P.4	確認のみ	円形? 径0.34				
ビツ5 SH06-P.5	確認のみ	隅四角形 0.35×0.29				
第7号掘立柱建物跡 SH07		2×2間 16m ² 柱間2.0m	N-83° 30'-W	12C末～13C前?		
ビツ1 SH07-P.1	確認のみ	隅形 径0.39				
ビツ2 SH07-P.2	確認のみ	隅四角形 0.51×0.40				
ビツ3 SH07-P.3	確認のみ	隅四角形 0.40×0.34				
ビツ4 SH07-P.4	確認のみ	隅丸方形 0.35×0.35				
ビツ5 SH07-P.5	確認のみ	円形? 径0.32				
第8号掘立柱建物跡 SH08		2×2間 16m ² 柱間2.0m	N-83° 30'-W	12C末～13C前?		
ビツ1 SH08-P.1	確認のみ	隅四角形 0.50×0.43				
ビツ2 SH08-P.2	確認のみ	隅四角形 0.40×0.33				
ビツ3 SH13-P.3	確認のみ	隅四角形 0.35×0.25				
ビツ4 SH08-P.4	確認のみ	隅四角形 0.28×0.21				
ビツ5 SH08-P.5	確認のみ	隅四角形 0.35×0.28				
ビツ6 SH08-P.6	確認のみ	隅四角形? 0.55×0.40				
ビツ7 SH08-P.7	確認のみ	隅丸方形 0.43×0.43				
第9号掘立柱建物跡 SH09		2×3間 26.8m ² 柱間2.1m	N-80° -W	12C末～13C前?		
ビツ1 SH09-P.1	確認のみ	隅形 径0.35				
ビツ2 SH09-P.2	確認のみ	隅形? 径0.50				
ビツ3 SH09-P.3	確認のみ	隅丸方形 0.64×0.50				
ビツ4 SH09-P.4	確認のみ	隅四角形 0.39×0.30				
ビツ5 SH09-P.5	確認のみ	隅四角形 0.30×0.25				
ビツ6 SH09-P.6	確認のみ	隅丸方形 0.56×0.43				
ビツ7 SH09-P.7	確認のみ	隅丸長方形 0.50×0.35				
ビツ8 SH09-P.8	確認のみ	不整形 0.33×0.27				
ビツ9 SH09-P.9	確認のみ	隅丸方形 0.36×0.28				
ビツ10 SH09-P.10	確認のみ	隅四角形 0.45×0.35				
ビツ11 SH09-P.11	確認のみ	不整形隅丸方形 0.37×0.38				
ビツ12 SH09-P.12	確認のみ	隅四角形? 0.43×0.30				
第10号掘立柱建物跡 SH10		2×1間 9.2m ² 柱間2.1m	N-83° -W	12C末～13C前?		
ビツ1 SH10-P.1	確認のみ	隅形 径0.41				
ビツ2 SH10-P.2	確認のみ	隅形 径0.35				
ビツ3 SH10-P.3	確認のみ	不整形 0.55×0.35				
ビツ4 SH10-P.4	確認のみ	隅形 径0.33				
ビツ5 SH10-P.5	確認のみ	隅四角形 0.42×0.30				
第11号掘立柱建物跡 SH11		2×1間 12.2m ² 柱間2.0m	N-15° -E	中世後期		
ビツ1 SH11-P.1	確認のみ	隅四角形 0.37×0.35 深0.14				
ビツ2 SH11-P.2	確認のみ	隅四角形 0.33×0.27 深0.21				
ビツ3 SH11-P.3	確認のみ	隅丸方形 0.22×0.15 深0.11				
ビツ4 SH11-P.4	確認のみ	隅四角形 0.48×0.35 深0.12				
ビツ5 SH11-P.5	確認のみ	隅丸方形 0.28×0.18 深0.04				
ビツ6 SH11-P.6	確認のみ	隅丸方形 0.70×0.60 深0.20			瓦	
ビツ7 SH11-P.7	確認のみ	隅丸方形 0.53×0.47 深0.12				
第12号掘立柱建物跡 SH12		3×1間 12.5m ² 柱間2.0m	N-12° -E	中世後期		
ビツ1 SH12-P.1	確認のみ	不整形 0.77×0.55 深0.24			かわらけ	
ビツ2 SH12-P.2	確認のみ	不整形 0.85×0.52 深0.19			かわらけ	
ビツ3 SH12-P.3	確認のみ	不整形 0.47×0.41 深0.12			かわらけ 漆漬	
ビツ4 SH12-P.4	確認のみ	隅四角形 0.37×0.32 深0.28			かわらけ	
ビツ5 SH12-P.5	確認のみ	隅四角形 0.32×0.28 深0.08				
ビツ6 SH12-P.6	確認のみ	隅形 径0.44 深0.10				
ビツ7 SH12-P.7	確認のみ	隅丸方形 0.38×0.33 深0.11				
ビツ8 SH12-P.8	確認のみ	隅四角形 0.44×0.34 深0.10				

第5表 柱穴一覧表(1) 単位m ()は換存径

遺構名	調査状況	規模	主軸方位	時期	主な出土遺物	備考
第1号柱穴跡(探跡) SA01		長13.2m 6間 柱間2.1m	N-86° -W	12C末～13C前		
ビツ1 SA01-P.1	確認のみ	隅四角形 0.25×0.25 深0.18				かわらけ
ビツ2 SA01-P.2	確認のみ	隅形 径0.35 深0.26				
ビツ3 SA01-P.3	確認のみ	隅丸方形 0.33×0.30 深0.18				かわらけ
ビツ4 SA01-P.4	確認のみ	隅丸方形 0.33×0.33 深0.18				かわらけ
ビツ5 SA01-P.5	確認のみ	隅四角形 0.40×0.37 深0.30				かわらけ
ビツ6 SA01-P.6	確認のみ	隅四角形 0.51×0.38 深0.07				
ビツ7 SA01-P.7	確認のみ	隅四角形 0.40×0.34 深0.24				

第6表 柱穴一覧表(2)

単位:m ()は残存径

遺構名	調査状況	規模	主軸方位	時期	主な出土遺物	備考
第2号柱穴(竪坑): SA02		L字形 南北長12.0m 6間 東西長12.9m 4間 柱間:1.0~2.1m	N-57°-W	120東~130前		前面埋方?
E-1: SA02-P-1		円形 径0.40 深0.21			かわらけ	
E-2: SA02-P-2		不整楕円方形 0.58×0.50 深0.17			かわらけ	
E-3: SA02-P-3		不整形 0.42×0.32 深0.32				
E-4: SA02-P-4		不整形 0.61×0.21 深0.21				
E-5: SA02-P-5		楕円形 0.62×0.55 深0.34			かわらけ	
E-6: SA02-P-6		楕円方形 1.02×0.62 深0.46			かわらけ	
E-7: SA02-P-7		楕円形? 0.30×1.02 深0.34			かわらけ	
E-8: SA02-P-8		楕円形 0.54×0.26 深0.44			かわらけ	
E-9: SA02-P-9		不整楕円方形 0.60×0.80 深0.50			かわらけ	
E-10: SA02-P-10		不整楕円形 0.75×0.35 深0.37			かわらけ 土師器	
E-11: SA02-P-11		楕円形 0.60×0.55 深0.51			かわらけ 異形陶磁 灰土	
E-12: SA02-P-12		楕円形 0.78×0.73 深0.41			かわらけ	
E-13: SA02-P-13		楕円形 0.62×0.55 深0.32			かわらけ 異形陶磁	
溝 1: SA02-D-1		長(2.95) 幅(0.34) 深(0.32) 断面U字形	N-4° -E		かわらけ 異形陶磁	
溝 2: SA02-D-2		長(5.28) 幅(0.48) 深(0.20) 断面U字形	N-4° 30°-E		かわらけ 瓦	
溝 3: SA02-D-3		長(1.40) 幅(0.40) 深(0.20) 断面U字形	N-88° -E		かわらけ 異形陶磁 軽石節石	
溝 4: SA02-D-4		長(5.72) 幅(0.55) 深(0.18) 断面U字形	N-88° -E		かわらけ 異形陶磁 常滑 節石	
第3号柱穴(竪坑): SA03		長(6.8m) 3間 柱間2.1m				
E-1: SA03-P-1		楕円形 0.46×0.40 深0.37				
E-2: SA03-P-2		楕円形? 0.50×0.45 深0.47			かわらけ	
E-3: SA03-P-3		楕円形 0.45×0.35 深0.25			かわらけ	
E-4: SA03-P-4		楕円形 0.45×0.40 深0.20			かわらけ	
第4号柱穴(竪坑): SA04		L字形 南北長15.8m 8間 東西長 2.2m ()=1間 柱間:1.8~2.1m	N 3° -E	120東~120前		
E-1: SA04-P-1		円形 径0.25 深0.25			かわらけ	
E-2: SA04-P-2		楕円方形 0.40×0.25 深0.15			かわらけ	
E-3: SA04-P-3		円形? 径0.40 深0.57			かわらけ	
E-4: SA04-P-4		不整楕円方形 0.25×0.35 深0.36			かわらけ	
E-5: SA04-P-5		円形 径0.35 深0.34			かわらけ	
E-6: SA04-P-6		楕円形? 0.40×0.35 深0.52			かわらけ	
E-7: SA04-P-7		楕円形 0.44×0.37 深0.44			かわらけ	
E-8: SA04-P-8		円形 径0.41 深0.27			かわらけ	
E-9: SA04-P-9		円形 径0.32 深0.38			かわらけ	
E-10: SA04-P-10		楕円形 0.46×0.41 深0.30			かわらけ	
第5号柱穴(竪坑): SA05		長(14.2m) 7~8間 柱間2.1m				
E-1: SA05-P-1		確認のみ	N-85° -W	120東~130前		
E-2: SA05-P-2		確認のみ				
E-3: SA05-P-3		確認のみ				
E-4: SA05-P-4		確認のみ				
E-5: SA05-P-5		確認のみ				
E-6: SA05-P-6		確認のみ				
E-7: SA05-P-7		確認のみ				
E-8: SA05-P-8		確認のみ				
第6号柱穴(竪坑): SA06		長(11.0)m ()=1間 柱間2.1m				
E-1: SA06-P-1		円形 径0.35 深0.22				
E-2: SA06-P-2		楕円形? 0.32×0.25 深0.16				
E-3: SA06-P-3		楕円形 0.22×0.20 深0.10				
E-4: SA06-P-4		楕円方形 0.30×0.28 深0.16				
E-5: SA06-P-5		楕円形 0.30×0.24 深0.27				
E-6: SA06-P-6		楕円方形 0.30×0.22 深0.19				
第7号柱穴(竪坑): SA07		長(11.0) 5~6間 柱間2.1m				
E-1: SA07-P-1		不整楕円方形 0.33×0.35 深0.09				
E-2: SA07-P-2		円形 径0.25 深0.12				
E-3: SA07-P-3		円形 径0.29 深0.17			かわらけ	
E-4: SA07-P-4		不整形 0.70×0.49 深0.41			かわらけ	
E-5: SA07-P-5		円形 径0.30 深0.44			かわらけ	
E-6: SA07-P-6		確認不明				
第8号柱穴(竪坑): SA08		長(9.0m) 3間 柱間2.0m				
E-1: SA08-P-1		円形 径0.20 深0.07	N-14° 30°-E	中盤後期		
E-2: SA08-P-2		不整楕円形 0.42×0.30 深0.20				
E-3: SA08-P-3		円形 径0.25 深0.18				
E-4: SA08-P-4		楕円形 0.27×0.23 深0.11				
第9号柱穴(竪坑): SA09		長(9.8m) 3間 柱間:1.8~2.0m				
E-1: SA09-P-1		楕円形 0.30×0.41 深0.11	N-10° -E	中盤後期		かわらけ
E-2: SA09-P-2		円形 径0.49 深0.21				かわらけ
E-3: SA13-P-3		円形 径0.52 深0.15				かわらけ
E-4: SA09-P-4		円形 径0.52 深0.20				
E-5: SA09-P-5		楕円形 0.48×0.40 深0.18			かわらけ	
E-6: SA09-P-6		円形 径0.26 深0.18			瓦質	
E-7: SA13-P-7		楕円形 0.45×0.35 深0.15			かわらけ 異形陶磁 常滑 釘	
第10号遺構: SA10		長(23.2)×(5.0)m 幅2.7m 高0.4m	N-10° -E	中盤後期	かわらけ 異形陶磁 常滑 釘	型地確認済?

第7表 井戸一覧表

単位m ()は残存値

遺構名	形状	調査状況	規模		時期	主な出土遺物	備考
			縦	横			
第1号井戸	SE01 隅丸方形 直壁		縦	横	130後半	かわらけ 質良陶磁 東近江系 灰陶磁器 土師器	
第2号井戸	SE02 楕形 内輪 木枠	完壁空室	縦	横	120末～130初	かわらけ 質良陶磁 常滑系 東近江系 質 磁石 磁瓦	
第3号井戸	SE03 楕円形?	未掘	縦	横	不明		
第4号井戸	SE04 円形?	未掘	縦	横	不明		

第8表 溝状遺構一覧表

単位m ()は残存値

遺構名	形状	調査状況	規模		主軸方向	時期	主な出土遺物	備考
			長さ	幅				
第1号溝状遺構	SD01 (30.60)	0.60～1.20	0.29～0.45	U字形	断面	130後半	かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 常滑系 東近江系 磁石 磁瓦	
第2号溝状遺構	SD02 (4.60)	0.50	0.10	竪坑	N-4° 30'-E	120末～140	かわらけ 常滑系 瓦葺	
第3号溝状遺構	SD03 (16.50)	1.45	0.57	混合形	L字形に尺曲	130中盤	かわらけ 質良陶磁 常滑系 磁石磁瓦	
第4号溝状遺構	SD04 (31.60)	2.00	0.40～0.70	U字形	N-13° -E	140末～150初	かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦 磁石磁石 スラグ	黄銅石列
第5号溝状遺構	SD05 (9.30)	1.50	0.28	U字形	N-5° -E	不明	かわらけ 瀬戸系 瓦葺	
第6号溝状遺構	SD06 (11.25)	0.50	0.31	竪坑	N-76° -W	不明	かわらけ	
第7号溝状遺構	SD07 (1.50)	0.35	0.20	U字形	不明	不明	かわらけ 質良陶磁 釘	
第8号溝状遺構	SD08 (5.70)	0.90～0.45	0.10	U字形	N-31° -W	不明	かわらけ	
第9号溝状遺構	SD09 (13.50)	0.60	0.70	U字形	N-30° -E	不明	かわらけ	
第10号溝状遺構	SD10 (4.90)	0.40	0.20	U字形	N-4° -E	150初	かわらけ 質良陶磁 常滑	
第11号溝状遺構	SD11 (4.25)	0.60～0.95	0.20	溝状	N 1° 30'-W	120末～130初	かわらけ 質良陶磁 常滑	
第12号溝状遺構	SD12 (7.10)	0.70	0.12	竪坑	難読	不明	かわらけ 常滑系 瓦葺	
第13号溝状遺構	SD13 (8.30)	1.40	0.52	混合形	不明	不明	かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦 磁石磁石 磁石磁石 スラグ	
第14号溝状遺構	SD14 (19.30)	1.10	0.26	混合形	N-76° -W	中層後期	かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦 磁石磁石 釘	
第15号溝状遺構	SD15 (1.35)	1.00～1.80	0.56	混合形	不明	不明	かわらけ 常滑系 瓦葺	
第16号溝状遺構	SD16 (7.60)	1.70～2.10	0.55	U字形	N-77° -W	140末～150初	かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦 磁石磁石 磁石磁石 スラグ	
第17号溝状遺構	SD17 (8.30)	0.60～1.00	0.10	竪坑	N-14° 30'-W	不明	かわらけ 瀬戸系 常滑系 瓦葺	
第18号溝状遺構	SD18 (4.50)	1.30	0.33	U字形	N-86° -W	不明	かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦 磁石磁石	
第19号溝状遺構	SD19 (4.00)	1.00	0.63	V字形	N-77° 30'-W	中層後期	かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦 磁石磁石	
第20号溝状遺構	SD20 (71.70)	1.30～1.80	0.30～0.66	U字形	N-1° -E	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦 磁石磁石 磁石磁石 スラグ	
第21号溝状遺構	SD21 (14.10)	0.55	0.33	U字形	N-51° -E	近世以降	近世陶磁器 良質陶磁	
第22号溝状遺構	SD22 (25.50)	1.40	0.30	U字形	N-4° -E	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦 磁石磁石 磁石磁石 スラグ	
第23号溝状遺構	SD23 (20.85)	0.70～1.20	0.31	U字形	N-78° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 質良陶磁	
第24号溝状遺構	SD24 (3.10)	0.30	0.09	竪坑	N 79° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ	
第25号溝状遺構	SD25 (71.50)	0.60～1.00	0.25～0.34	U字形	N-79° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸系 常滑系	
第26号溝状遺構	SD26 (5.30)	1.20	0.48	混合形	N-81° -W	近世以降	近世陶磁器	
第27号溝状遺構	SD27 (48.20)	0.20～1.20	0.09～0.25	U字形	N-8° 30'-E	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦 磁石磁石	
第28号溝状遺構	SD28 (4.30)	0.40	0.13	U字形	N-86° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ	
第29号溝状遺構	SD29 (11.40)	2.40	0.05	竪坑	N-89° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ	
第30号溝状遺構	SD30 (22.10)	0.40	0.10	竪坑	N-81° 30'-W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦	
第31号溝状遺構	SD31 (25.50)	0.50	0.14	U字形	N 83° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦	
第32号溝状遺構	SD32 (28.30)	0.50	0.15	U字形	N-84° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸系 常滑系 瓦葺 瓦	
第33号溝状遺構	SD33 (12.80)	0.30	0.07	竪坑	N-9° -E	近世以降	かわらけ	
第34号溝状遺構	SD34 (12.10)	0.20～0.60	0.01～0.11	竪坑	N-86° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 質良陶磁 常滑	
第35号溝状遺構	SD35 (15.00)	0.40～1.10	0.08～0.16	U字形	N-89° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瓦葺 磁石磁石	
第36号溝状遺構	SD36 (7.90)	0.20～0.60	0.11	U字形	N 4° 30'-E	近世以降	かわらけ 釘	
第37号溝状遺構	SD37 (26.00)	1.60～2.20	0.27	U字形	N-1° -E	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 質良陶磁 常滑	
第38号溝状遺構	SD38 (2.30)	0.60	0.37	U字形	不明	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 質良陶磁 常滑	
第39号溝状遺構	SD39 (3.20)	0.30	-	不明	N-9° -E	近世以降		確認済み

第9表 土坑墓一覧表

単位m ()は残存値

遺構名	形状	調査状況	規模		時期	主な出土遺物	備考
			縦	横			
第1号土坑墓	ST01 楕円形		2.28×1.66	0.27	140後半～	かわらけ 釘	
第2号土坑墓	ST02 不整形		2.14×1.60	0.21	140後半～	かわらけ 釘 磁瓦	
第3号土坑墓	ST03 楕円形		3.15×2.40	0.13	140後半～	かわらけ 釘 釘	
第4号土坑墓	ST04 不整形		1.90×1.65	0.45	140後半～	かわらけ 質良陶磁 瀬戸系 瓦葺 釘	
第5号土坑墓	ST05 隅丸長方形?		1.77×(1.71)	0.15	140後半～	かわらけ 常滑系 瓦 磁石磁石 スラグ 釘 磁瓦	

第10表 土坑一覧表

単位m ()は隠存値

通称名	形状	規模		時期	主な出土遺物	備考
		径	深さ			
第1号土坑	SK01	楕円形	1.05×0.80	0.18	不測	
第2号土坑	SK02	不整形円形	0.87×0.70	0.17	不測	
第3号土坑	SK03	楕円形	1.38×0.80	0.23	不測	かわらけ 常滑
第4号土坑	SK04	円形	径1.33	0.28	不測	かわらけ 貿易陶磁
第5号土坑	SK05	楕円形	1.90×1.15	0.10	不測	かわらけ
第6号土坑	SK06	円形?	径0.87	0.09	不測	
第7号土坑	SK07	円形	径0.86	0.28	不測	かわらけ
第8号土坑	SK08	不整形円形	1.73×0.66	0.17	不測	かわらけ
第9号土坑	SK09	不整形	1.35×1.00	0.15	不測	かわらけ
第10号土坑	SK10	楕円形	1.10×0.75	0.08	不測	かわらけ
第11号土坑	SK11	円形	径0.85	0.10	不測	かわらけ 釘
第12号土坑	SK12	楕円形	0.80×0.50	0.14	不測	かわらけ
第13号土坑	SK13	円形	径0.75	0.20	不測	かわらけ
第14号土坑	SK14	不整形	1.05×0.90	0.20	宮代末	土師器 かわらけ
第15号土坑	SK15	楕円方形	0.77×0.65	0.21	不測	
第16号土坑	SK16	不整形	1.07×0.72	0.05	不測	かわらけ
第17号土坑	SK17	不整形方形	1.05×0.80	0.40	不測	
第18号土坑	SK18	楕円形	0.88×0.72	0.10	不測	かわらけ
第19号土坑	SK19	円形	径1.45	0.22	13C	かわらけ
第20号土坑	SK20	不整形	1.45×1.23	0.18	不測	かわらけ
第21号土坑	SK21	円形	径0.70	0.07	不測	
第22号土坑	SK22	楕円形	(0.97)×(0.77)	0.60	不測	かわらけ 貿易陶磁
第23号土坑	SK23	不整形	1.65×(1.38)	0.20	不測	
第24号土坑	SK24	円形	径1.05	0.55	不測	かわらけ
第25号土坑	SK25	円形	径1.00	0.10	不測	かわらけ
第26号土坑	SK26	楕円形?	(0.80)×0.75	0.68	不測	かわらけ
第27号土坑	SK27	円形	径0.90	0.10	不測	かわらけ 漆器
第28号土坑	SK28	長楕円形	1.65×0.45	0.21	不測	かわらけ 釘
第29号土坑	SK29	不整形方形	0.68×0.56	0.40	不測	かわらけ 常滑
第30号土坑	SK30	円形	径0.89	0.10	不測	
第31号土坑	SK31	円形?	径0.65	0.07	不測	
第32号土坑	SK32	円形?	径0.63	0.08	不測	
第33号土坑	SK33	円形	径0.65	0.12	不測	かわらけ
第34号土坑	SK34	円形?	径0.85	0.10	13C	かわらけ
第35号土坑	SK35	楕円形	1.58×1.18	0.14	不測	かわらけ 貿易陶磁 常滑 磁石回石
第36号土坑	SK36	円形	径1.05	0.15	不測	かわらけ 貿易陶磁 常滑 釘
第37号土坑	SK37	円形	径0.65	0.25	13C	かわらけ
第38号土坑	SK38	円形	径1.35	0.30	不測	かわらけ 貿易陶磁 常滑 漆石 釘
第39号土坑	SK39	楕円形	1.43×0.70	0.18	13C	かわらけ 貿易陶磁 釘
第40号土坑	SK40	円形	径0.86	0.10	不測	かわらけ
第41号土坑	SK41	円形	径0.92	0.14	不測	かわらけ
第42号土坑	SK42	楕円形	0.73×0.68	0.13	不測	
第43号土坑	SK43	円形	径1.05	0.10	不測	
第44号土坑	SK44	不整形円形	径1.07	0.23	不測	かわらけ
第45号土坑	SK45	楕円長方形	1.53×0.82	0.12	不測	かわらけ
第46号土坑	SK46	円形	径0.90	0.11	不測	かわらけ
第47号土坑	SK47	楕円形	0.66×0.55	0.20	中世前期	鉄貨
第48号土坑	SK48	円形	径1.15	0.23	不測	かわらけ 漆器
第49号土坑	SK49	楕円形	0.80×0.65	0.19	不測	かわらけ
第50号土坑	SK50	不整形	1.08×0.75	0.65	13C	かわらけ
第51号土坑	SK51	不整形方形	0.87×0.60	0.48	不測	貿易陶磁
第52号土坑	SK52	楕円形?	(0.75)×0.70	0.18	不測	かわらけ
第53号土坑	SK53	円形	径1.13	0.23	不測	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸産 釘
第54号土坑	SK54	楕円方形	(0.33)×0.70	0.10	不測	かわらけ 鉄貨 釘
第55号土坑	SK55	円形	径0.80	0.08	不測	
第56号土坑	SK56	不整形	0.78×0.58	0.08	不測	かわらけ
第57号土坑	SK57	楕円形?	(0.88)×(0.94)	0.66	不測	かわらけ
第58号土坑	SK58	楕円形?	(1.12)×0.94	0.14	不測	かわらけ
第59号土坑	SK59	円形	径1.23	0.14	不測	かわらけ 貿易陶磁 瓦質 磁石 釘
第60号土坑	SK60	不整形	1.00×0.95	0.03	不測	かわらけ 貿易陶磁
第61号土坑	SK61	不整形	(1.05)×1.00	0.09	不測	かわらけ 貿易陶磁
第62号土坑	SK62	楕円形?	(1.82)×(0.48)	0.75	近世?	火葬土坑

第11表 集石遺構一覧表

遺構名	分布範囲	時期	主な出土遺物	備考
第1号集石遺構 GS01	南北9.60m 東西3.75m	中世後期?	かわらけ 瓦 鏡石器等	
第2号集石遺構 GS02	南北2.05m 東西3.74m	中世後期?	かわらけ 瓦 磁器類 瀬戸瓦器 常滑 唐津江島 瓦	
第3号集石遺構 GS03	南北7.10m 東西1.70m	不明		
第4号集石遺構 GS04	南北2.70m 東西0.87m	不明		
第5号集石遺構 GS05	南北2.80m 東西2.00m	不明	常滑	
第6号集石遺構 GS06	南北4.45m 東西4.40m	中世後期?	かわらけ 瀬戸瓦器 常滑 瓦	
第7号集石遺構 GS07	南北8.15m 東西1.10m	不明		
第8号集石遺構 GS08	南北1.95m 東西1.50m	不明	瓦 野蒜陶石	
第9号集石遺構 GS09	南北4.90m 東西1.72m	不明	かわらけ 瓦	
第10号集石遺構 GS10	南北7.80m 東西4.63m	中世後期?	かわらけ 瀬戸瓦器 常滑 瓦質 瓦	
第11号集石遺構 GS11	南北3.08m 東西1.35m	不明	瓦	
第12号集石遺構 GS12	南北2.53m 東西1.10m	不明	かわらけ 瓦	
第13号集石遺構 GS13	南北0.70m 東西0.97m	不明		
第14号集石遺構 GS14	南北1.72m 東西2.06m	不明	瓦	
第15号集石遺構 GS15	南北1.18m 東西1.78m	不明		
第16号集石遺構 GS16	南北4.48m 東西7.20m	中世後期?	かわらけ 瀬戸瓦器 常滑 唐津 瓦	
第17号集石遺構 GS17	南北0.92m 東西2.56m	不明	かわらけ	
第18号集石遺構 GS18	南北3.70m 東西0.38m	不明		
第19号集石遺構 GS19	南北1.05m 東西0.58m	不明		

第12表 中世遺物組成表

種別	破片数	厚片数	割合
土器類	57691	56187	91.60%
山形陶器	92	91	0.16%
土器質土器類	57599	56096	91.48%
陶磁器	2597	2416	3.71%
灰土	1434	1389	2.28%
漆器・漆土	236	230	0.37%
焼土・漆土	796	791	1.26%
貝類陶器	1102	1076	1.75%
赤土器	2	2	0.03%
物山窯	2	2	0.00%
その他不明	6	6	0.01%
瓦葺	423	396	0.67%
瓦葺	100	99	0.16%
陶器	32	23	0.05%
磁器	18	18	0.03%
埴土	14	14	0.02%
漆器(灰土器)	5	5	0.01%
瓦葺	3	2	0.00%
その他	73	52	0.12%
不明	176	176	0.28%
瓦	661	619	1.05%
瓦葺	113	109	0.18%
赤土	519	497	0.82%
不明	29	29	0.05%
石製品	173	161	0.27%
磁器	46	46	0.07%
埴土	1	1	0.00%
漆器類	4	4	0.01%
焼石加工土	47	47	0.07%
焼石片	40	40	0.06%
その他	35	25	0.06%
金属製品	437	437	0.69%
鉄片	26	26	0.04%
刀子	1	1	0.00%
釘	252	252	0.40%
太刀ヅ	28	28	0.04%
鋸口	6	6	0.01%
その他	124	124	0.20%
合計	62972	61909	100.00%

n=21

93 99

第13表 中世以外の遺物組成表

種別	破片数	厚片数
古代以前	20117	198579
土器類	16457	179339
漆器類	417	1401
石製品類	194	196
瓦	15	13
石製品	34	34
近世陶磁器	1746	1787
合計	21883	21312

第14表 中世土器・陶磁器組成表

種別	破片数	厚片数	割合
山茶碗類	92	91	0.15%
山形陶器	40	39	0.07%
土器	33	33	0.05%
小皿	2	2	0.00%
山口鉢	17	17	0.03%
土器質土器類	57589	56096	93.98%
かわらけ	57577	56094	93.98%
陶器	12	12	0.02%
その他	1434	1389	2.34%
漆	18	18	0.03%
埴土	1134	1100	1.85%
磁	286	240	0.43%
その他	1	1	0.00%
不明	15	15	0.02%
漆器・漆土	236	230	0.39%
漆	1	1	0.00%
埴土	205	199	0.33%
磁	13	13	0.02%
不明	17	17	0.03%
焼土・漆土	796	791	1.30%
赤土器	146	139	0.24%
陶器	147	136	0.24%
磁器	114	96	0.19%
加古物	34	31	0.04%
埴土	142	137	0.23%
磁器	105	92	0.17%
漆・漆土	5	5	0.01%
埴土	26	21	0.04%
磁器	23	18	0.04%
小皿・小皿	2	2	0.00%
その他	15	9	0.03%
不明	44	44	0.07%
瓦葺陶磁器	1102	1076	1.80%
青土	712	697	1.16%
陶器	565	569	0.92%
磁器	63	59	0.10%
磁器	35	30	0.06%
不明	5	5	0.01%
その他	5	5	0.01%
不明	44	44	0.07%
白土	761	757	0.43%
陶器	119	116	0.19%
磁器	70	67	0.11%
不明	2	2	0.00%
不明	17	17	0.03%
その他	4	4	0.01%
不明	49	49	0.08%
山口鉢	53	51	0.09%
陶器	1	1	0.00%
磁器	20	19	0.03%
漆器	10	10	0.02%
代物	15	15	0.02%
不明	9	9	0.01%
不明	4	4	0.01%
陶器	4	4	0.01%
その他	72	67	0.12%
磁器	25	20	0.04%
山口鉢	47	47	0.08%
不明	21	21	0.03%
赤土器	146	139	0.24%
陶器	3	3	0.00%
磁器	17	17	0.03%
不明	1	1	0.00%
漆器	1	1	0.00%
漆・漆土	5	5	0.01%
山口鉢	6	6	0.01%
漆器・漆土	5	5	0.01%
合計	61276	59607	100.00%

第15表 貿易陶磁分類別一覽表

分類					破片數	接合後破片數	分類			破片數	接合後破片數					
種類	號碼	寬	型式	種類			號碼	寬	型式							
白磁	261	119		耳瓶	9	9			712	555	阿安茶系A種	分瓶 (曲線1-1)	109	109		
	(2517)	(2180)		片瓶	16	16					阿安茶系B種	1-2	3	3		
				IV-V類	14	14						1-3	17	17		
				雙瓶	14	14						1-4	3	3		
				IV-V類	13	13						1-5	25	25		
				V類	31	31						B種(通孔系)B-1;C-1	137	137		
				雙瓶	1	1						B-2;C-1	4	4		
				双瓶	3	3						C種 C-1;C-2	1	1		
				12~13C平頸	12	12						D種 D-1;D-2	24	24		
				明代	1	1						D-3;D-4	3	3		
				不明	4	4						雜文	8	8		
				小瓶(明代)	1	1						雜文-不明	119	119		
				耳瓶	6	6						分瓶	3	3		
				存瓶	5	5						阿安茶系	32	32		
				V類	4	4						雜文(工器)	6	6		
				雙瓶	5	5						雜文(工器)	3	3		
				双瓶	13	13						通孔文(雜)	3	3		
				印花(留印)	2	2						通孔文(雜)雙瓶	3	3		
				轉花	2	2						雜文(雜)雙瓶	6	6		
				作瓶	13	13						雙瓶	8	8		
				C種(通孔) C-1	3	3						不明	3	3		
				明代	3	3						雜文不明	43	43		
				12~13C平頸	7	7						雙瓶	35	35		
				不明	7	7						その他	5	5		
				不明	10	10						不明	3	3		
				双瓶	35	35						青白磁	1	1		
				雙瓶	3	3						雜	20	20		
				雙瓶	2	2						(B2) 雙-通	3	3		
				四耳瓶	8	8						雙瓶	10	10		
				瓶	3	3						合子	7	7		
				雙-水注	3	3						合子-雙	2	2		
				公器	3	3						雙物	4	4		
				合子	1	1						不明	6	6		
				不明	0	0						合	1	1		
												(G)	不	2	2	
												その他	補繪	天目黃綠	13	13
														青耳	1	1
														長柄	2	2
														雙	3	3
														雙	18	18
														雙	2	2
														雙	27	27
														計	1102	1076

第16表 常滑・瀨美・湖西 器種・時期別一覽表

産地名	器種名	期 別												合計	接合後破片數	
		1	2	3	4	5	6a	6b	7	8	9	10	11			12
常滑	雙	88	49	2	1	3	2	1	2	1	6	2			1134	1100
	片	51	3				4		85	6	70	12	3			
	雙	508			12				6							
	片	27	4		168			3		11	17					
	雙				4				1							
	片	12		2	15	35									128	123
	雙	5			30											
	片					1	5	5		24	27	20	26		136	123
	雙						5				21					
	三耳瓶		2	4											7	7
三耳瓶-玉縁瓶					1									1	1	
広口壺		1												9	9	
廣口壺		7												1	1	
壺														1	1	
廣口瓶														1	1	
牙瓶														1	1	
合計														15	15	15
産地名	器種名	瀨美・湖西年代												合計	合計	
瀨美	雙	12世紀中	12世紀後半	12世紀代	13世紀初頭	13世紀前半	不明									
	片	3	3	1	2							11		205	199	
	雙		5											6	6	
	雙			9										9	9	
	片				1									1	1	
	不明									3				7	7	
	不明										3			3	3	
常滑・湖西	片口鉢			3										3	3	
	広口壺			1						1				2	2	
合計														236	230	

第19表 掘立柱建物跡・環状出土遺物一覧表

No	遺構	種別	産地	時期	年代(推定)			出土・検出	形状	備考
					口径	高さ	底径			
1	SH06-03	瓦	瓦	古瓦	10	10	10	瓦	1/2	
2	SH06-03	石製品	鍛造加工品	古瓦	10	10	10	石	1/2	
3	SH02	石製品	鍛造加工品	古瓦	10	10	10	石	1/2	

第20表 井戸出土遺物一覧表(1)

No	遺構	種別	産地	時期	年代(推定)			出土・検出	形状	備考
					口径	高さ	底径			
1	SE01	瓦製品類	白磁・陶	I期	—	—	—	瓦製品類	1/2	
2	SE01	瓦製品類	白磁・陶	V期	—	—	—	瓦製品類	1/2	
3	SE01	瓦製品類	白磁・陶	V期	—	—	—	瓦製品類	1/2	
4	SE01	瓦製品類	白磁・小片?	—	2.7	—	—	瓦製品類	1/2	
5	SE01	瓦製品類	白磁・食子	—	—	—	—	瓦製品類	1/2	
6	SE01	瓦製品類	東洋江崎産	食子Ⅰ-1	14.8	—	—	瓦製品類	1/2	
7	SE01	瓦製品類	東洋江崎産	食子Ⅰ-1	10.6	—	—	瓦製品類	1/2	
8	SE01	瓦製品類	東洋江崎産	食子Ⅰ-1	14.8	—	—	瓦製品類	1/2	
9	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	14.6	4.9	3.6	かわらけ	1/2	
10	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	—	(1.8)	0.6	かわらけ	1/2	
11	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	—	(2.0)	0.6	かわらけ	1/2	
12	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	—	(3.2)	0.6	かわらけ	1/2	
13	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	—	(2.6)	0.6	かわらけ	1/2	
14	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	10.0	2.6	0.4	かわらけ	1/2	
15	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	10.3	2.6	0.3	かわらけ	1/2	
16	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	10.2	2.7	0.3	かわらけ	1/2	
17	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	9.3	2.2	0.4	かわらけ	1/2	
18	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	9.0	2.6	0.7	かわらけ	1/2	
19	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	9.3	2.3	0.6	かわらけ	1/2	
20	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	10.0	2.6	0.3	かわらけ	1/2	
21	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	9.6	2.1	0.4	かわらけ	1/2	
22	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	9.6	2.4	0.6	かわらけ	1/2	
23	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	9.1	2.6	0.4	かわらけ	1/2	
24	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	9.4	2.8	0.4	かわらけ	1/2	
25	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	—	(4.1)	0.4	かわらけ	1/2	
26	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	—	(2.5)	0.6	かわらけ	1/2	
27	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	—	(2.6)	0.4	かわらけ	1/2	
28	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	—	(2.2)	0.3	かわらけ	1/2	
29	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	—	(1.8)	0.1	かわらけ	1/2	
30	SE01	かわらけ	大・口内	大・口内	14.4	2.9	—	かわらけ	1/2	
31	SE02	瓦製品類	白磁・陶	V-前期(永平)	—	—	—	瓦製品類	1/2	
32	SE02	瓦製品類	白磁・陶	V期	—	—	—	瓦製品類	1/2	
33	SE02	瓦製品類	白磁・陶	A2期(1-1期)	—	—	—	瓦製品類	1/2	
34	SE02	瓦製品類	白磁・陶	B1期(1-1期)	—	—	—	瓦製品類	1/2	
35	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.0	4.1	7.5	かわらけ	1/2	
36	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.0	4.0	7.6	かわらけ	1/2	
37	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.4	3.7	7.8	かわらけ	1/2	
38	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.6	4.0	8.0	かわらけ	1/2	
39	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.8	3.4	7.3	かわらけ	1/2	
40	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	12.8	3.9	7.0	かわらけ	1/2	
41	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.0	1.9	5.7	かわらけ	1/2	
42	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.4	2.0	5.8	かわらけ	1/2	
43	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.8	2.0	5.4	かわらけ	1/2	
44	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.1	1.9	5.5	かわらけ	1/2	
45	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	8.8	1.8	5.3	かわらけ	1/2	
46	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.4	2.2	5.8	かわらけ	1/2	
47	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	8.9	2.4	5.5	かわらけ	1/2	
48	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	8.8	2.1	5.4	かわらけ	1/2	
49	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.6	2.3	6.0	かわらけ	1/2	
50	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.2	2.1	5.4	かわらけ	1/2	
51	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.0	1.8	5.2	かわらけ	1/2	
52	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.0	1.9	5.4	かわらけ	1/2	
53	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.3	2.2	5.5	かわらけ	1/2	
54	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	8.6	1.9	5.3	かわらけ	1/2	
55	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.0	2.0	5.4	かわらけ	1/2	
56	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	8.7	2.2	5.2	かわらけ	1/2	
57	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.0	2.2	5.6	かわらけ	1/2	
58	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	8.9	1.9	4.9	かわらけ	1/2	
59	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.5	2.1	5.9	かわらけ	1/2	
60	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.6	2.0	5.8	かわらけ	1/2	
61	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	8.9	2.2	4.9	かわらけ	1/2	
62	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	9.4	1.8	6.1	かわらけ	1/2	
63	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	8.9	1.8	5.1	かわらけ	1/2	
64	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	14.0	2.7	6.2	かわらけ	1/2	
65	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.6	2.5	6.0	かわらけ	1/2	
66	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.8	2.5	6.1	かわらけ	1/2	
67	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	14.0	2.5	6.2	かわらけ	1/2	
68	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	14.2	2.5	6.3	かわらけ	1/2	
69	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	15.2	2.5	6.4	かわらけ	1/2	
70	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.4	2.2	6.1	かわらけ	1/2	
71	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.4	2.8	6.1	かわらけ	1/2	
72	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	14.0	2.6	6.1	かわらけ	1/2	
73	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	14.0	2.8	6.2	かわらけ	1/2	
74	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	14.2	2.8	6.3	かわらけ	1/2	
75	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.8	2.8	6.1	かわらけ	1/2	
76	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.2	2.7	6.0	かわらけ	1/2	
77	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.2	2.7	6.0	かわらけ	1/2	
78	SE02	かわらけ	大・口内	大・口内	13.2	2.4	6.0	かわらけ	1/2	

第23表 再状遺構出土遺物一覧表(2)

No.	遺構	種類	産地	器種	片種	単位(g)			加工・傷痕	附存	備考
						口徑	高さ	底径			
28-5001	井戸跡	土	口内	中	口内	10.8	2.8	8.8	A297-砂粒混焼褐色土	1/4	遺構跡付属
29-5001	井戸跡	土	口内	中	口内	10.4	3.1	7.2	A297-砂粒混焼褐色土	2/2	遺構跡付属
30-5001	井戸跡	土	口内	中	口内	11.4	2.8	7.8	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
31-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	15.4	2.9	8.9	A297-砂粒混焼褐色土	1/3	遺構跡付属
32-5001	井戸跡	土	口内	中	口内	10.8	2.7	6.8	砂粒混焼褐色土	1/4	遺構跡付属
33-5001	井戸跡	土	口内	大	口内	12.0	3.2	7.8	砂粒混焼褐色土	1/4	遺構跡付属
34-5001	井戸跡	土	口内	中	口内	10.6	2.8	6.7	A297-砂粒混焼褐色土	1/4	遺構跡付属
35-5001	井戸跡	土	口内	中	口内	10.8	2.7	5.1	砂粒混焼褐色土	1/3	遺構跡付属
36-5001	井戸跡	土	口内	中	口内	10.0	3.4	4.5	砂粒混焼褐色土	1/4	遺構跡付属
37-5001	井戸跡	土	口内	中	口内	11.6	2.6	6.9	A297-砂粒混焼褐色土	1/4	遺構跡付属
38-5001	井戸跡	土	口内	中	口内	10.6	2.8	8.1	A297-砂粒混焼褐色土	1/4	遺構跡付属
39-5001	井戸跡	土	口内	大	口内	-	(24)	7.8	砂粒混焼褐色土	遺跡1/4	
40-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.7	1.8	4.5	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	大欠付属
41-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.6	2.3	5.1	砂粒混焼褐色土	1/2	大欠付属
42-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.7	1.9	5.1	砂粒混焼褐色土	1/2	大欠付属
43-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.7	2.2	4.8	砂粒混焼褐色土	1/2	大欠付属
44-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.8	2.7	5.1	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
45-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.7	2.0	5.0	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
46-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.7	1.5	5.1	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
47-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.7	1.5	5.1	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
48-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.5	1.8	5.4	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
49-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.7	2.0	4.8	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
50-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.8	2.7	5.1	砂粒混焼褐色土	1/2	大欠付属
51-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	8.5	1.9	5.6	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
52-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	8.2	1.7	6.5	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
53-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.8	2.0	5.4	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
54-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.0	2.2	4.7	砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
55-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.8	2.0	5.2	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
56-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.4	1.3	5.4	砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
57-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	8.3	2.2	5.5	砂粒混焼褐色土	1/2	遺構跡付属
58-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	8.4	2.0	5.8	砂粒混焼褐色土	1/4	遺構跡付属
59-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	8.0	1.8	5.2	砂粒混焼褐色土	1/4	大欠付属
60-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	8.0	2.2	5.8	砂粒混焼褐色土	1/4	大欠付属
61-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.7	2.0	5.2	砂粒混焼褐色土	5/8	大欠付属
62-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	7.8	2.1	5.4	砂粒混焼褐色土	2/3	遺構跡付属
63-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	8.2	1.8	6.2	A297-砂粒混焼褐色土	1/2	
64-5001	井戸跡	土	口内	小	口内	8.8	1.2	6.8	砂粒混焼褐色土	1/2	
65-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
66-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
67-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
68-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
69-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
70-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
71-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
72-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
73-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
74-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
75-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
76-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
77-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
78-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
79-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
80-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
81-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
82-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
83-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
84-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
85-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
86-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
87-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
88-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
89-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
90-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
91-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
92-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
93-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
94-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
95-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
96-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
97-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
98-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
99-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属
100-5001	瓦葺	特殊	北	内	内	13.6	-	-	一層瓦	1	焼物付属

第24表 清灰遺構出土遺物一覽表(3)

No	遺構	場所	産地	器種	分類	算出量			出土・構成	残存	備考
						口数	数量	备注			
114-5004	陶器残片	瀬戸島崎大石原遺構	丸形	赤土器	11.9	—	—	乳白色 陶土・黒褐色	1/2		
115-5004	陶器残片	瀬戸島崎大石原遺構	鉢形	赤土器	9.2	3.9	2.7	灰白色 陶土	1/2		
116-5004	陶器残片	瀬戸島崎小石原遺構	動物	土器	9.0	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
117-5004	陶器残片	瀬戸島崎小石原遺構	動物	土器	9.0	—	—	淡褐色 陶土	1/4		
118-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	15.0	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
119-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	15.0	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
120-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	—	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
121-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	10.8	2.3	4.0	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
122-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	11.1	—	—	淡褐色 陶土	1/4		
123-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	10.4	—	—	淡褐色 陶土	1/2		
124-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	10.0	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
125-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	11.8	4.4	—	灰白色 陶土	1/2		
126-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	24.0	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
127-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	21.0	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
128-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	23.5	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
129-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	11.1	—	—	淡褐色 陶土	1/2		
130-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	3.2	3.2	—	淡褐色 陶土	1/2		
131-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	—	—	—	淡褐色 陶土	1/2		
132-5004	陶器残片	瀬戸島崎子原	动物	土器	15.0	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
133-5004	陶器残片	濠洲	丸形	赤土器	—	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
134-5004	陶器残片	濠洲	片口鉢	5型式	29.2	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
135-5004	陶器残片	濠洲	片口鉢	5型式	32.0	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
136-5004	陶器残片	濠洲	片口鉢	11型式	27.8	—	—	灰白色 陶土・黒褐色	1/2		
137-5004	陶器残片	濠洲	片口鉢	11型式	—	—	—	11.0 粉砂 灰土	1/2		
138-5004	陶器残片	赤土器	鉢形	赤土器	10.8	2.2	8.4	淡褐色 陶土	1/2		
139-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	22.0	3.1	8.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
140-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	15.0	2.8	7.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
141-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	12.4	4.8	7.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
142-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	12.6	3.5	8.5	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
143-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	12.8	3.6	7.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
144-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	13.2	3.3	8.2	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
145-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	13.2	3.2	8.2	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
146-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	4.0	3.8	8.7	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
147-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	4.6	3.8	8.4	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
148-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	14.8	3.7	9.6	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
149-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	3.0	4.2	8.6	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
150-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	0.4	2.8	6.4	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
151-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	0.4	2.7	6.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
152-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.4	2.7	6.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
153-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	0.4	2.8	6.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
154-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.4	2.8	6.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
155-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	0.8	2.8	6.4	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
156-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	1.0	3.2	6.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
157-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	0.8	2.5	5.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
158-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	7.8	2.5	4.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
159-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.7	2.3	4.2	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
160-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	3.8	2.2	4.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
161-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.4	3.1	5.2	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
162-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	3.8	2.6	5.5	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
163-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.8	4.8	5.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
164-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.4	2.8	8.4	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
165-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.8	2.8	7.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
166-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.4	2.8	8.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
167-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.8	2.8	8.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
168-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	11.6	2.5	7.2	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
169-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	11.8	2.5	8.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
170-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	11.8	2.7	7.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
171-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	11.8	3.1	7.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
172-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	11.6	2.2	6.4	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
173-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	9.8	1.9	8.4	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
174-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	9.8	3.1	5.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
175-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.6	3.1	5.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
176-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.6	3.1	7.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
177-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.4	2.4	7.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
178-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.5	2.4	8.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
179-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.8	3.8	8.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
180-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.6	3.2	6.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
181-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	10.8	3.8	8.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
182-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	11.1	3.5	5.3	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
183-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	3.8	1.1	4.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
184-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	6.2	2.0	4.3	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
185-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	6.2	2.0	4.3	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
186-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.2	1.5	4.4	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
187-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.2	1.7	3.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
188-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.2	1.8	4.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
189-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.2	2.1	3.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
190-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.2	1.7	4.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
191-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.2	1.8	4.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
192-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	8.2	1.9	4.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
193-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	6.4	1.8	4.3	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
194-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	6.5	1.8	4.3	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
195-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	6.6	1.7	4.0	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
196-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	6.8	1.8	3.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
197-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	6.8	2.0	4.4	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
198-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	6.6	1.9	3.8	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	
199-5004	赤土器	赤土器	鉢形	赤土器	6.7	1.9	4.1	赤土器	1/2	瀬戸島崎子原	

第25表 漢伏遺構出土遺物一覧表(4)

No.	遺構	種別	産地	部類	分類	数量(個)			加工・構成	保存	備考
						口徑	高さ	直径			
2065S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	1.8	2.6	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2071S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	2.0	4.0	砂粒混 漆喰色 良好	2/3	2/3	大 漆喰作底	
2076S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	1.9	4.0	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2078S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.6	1.8	2.8	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	漆喰作底	
2084S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.0	2.0	5.3	1377-砂粒混 漆喰色 良好	口縁1/2次	1/2	大 漆喰作底	
2095S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.1	2.0	4.2	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	漆喰作底	
2096S004	赤丸土坑	小	白丸印	4.2	1.4	4.2	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2071S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	1.6	1.0	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2085S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.7	1.5	5.0	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2091S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	1.7	3.0	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2105S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.9	1.9	5.1	砂粒混 漆喰色 良好	漆喰作底	1/2	漆喰作底	
2115S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	1.9	6.0	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2125S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.6	2.2	1.0	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2145S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.3	1.9	4.2	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2148S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.6	2.0	2.4	漆喰混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2155S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.7	2.0	4.2	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2175S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	2.1	4.5	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2181S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.6	1.9	4.0	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2183S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	2.1	4.5	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2192S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	2.1	4.5	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2215S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	2.0	4.2	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2227S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.0	1.8	4.4	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	漆喰作底	
2232S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.2	4.7	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2245S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.0	4.4	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2253S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	1.9	4.6	陶粒混 漆喰色 良好	漆喰作底	1/2	大 漆喰作底	
2265S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.5	2.2	4.2	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2285S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.2	4.4	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2293S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.8	2.3	4.7	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2303S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	2.0	4.8	1377-砂粒混 漆喰色 良好	口縁1/2次	1/2	大 漆喰作底	
2317S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.7	2.2	4.2	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2327S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.7	2.2	4.8	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2333S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.6	2.1	4.8	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2345S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	2.1	4.8	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2355S004	赤丸土坑	小	白丸印	0.8	2.1	5.0	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2371S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.0	2.2	5.0	陶粒混 漆喰色 良好	口縁1/2次	1/2	大 漆喰作底	
2382S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.3	4.8	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2388S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.0	5.1	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2392S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.2	6.8	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2405S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.4	4.7	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2415S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.2	4.8	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2435S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.3	4.8	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2437S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.0	2.2	3.0	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2445S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.2	5.0	陶粒混 漆喰色 良好	口縁1/2次	1/2	大 漆喰作底	
2453S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	1.9	5.4	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2465S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.2	5.2	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	漆喰作底	
2475S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.0	5.2	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2485S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.0	5.2	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2495S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.1	5.0	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2505S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.2	5.0	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2515S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.3	5.2	砂粒混 漆喰色 良好	漆喰作底	1/2	大 漆喰作底	
2525S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.4	5.2	砂粒混 漆喰色 良好	漆喰作底	1/2	大 漆喰作底	
2545S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.4	5.0	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2555S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.5	5.2	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2559S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.1	5.2	1377-砂粒混 漆喰色 良好	漆喰作底	1/2	大 漆喰作底	
2565S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.4	5.0	砂粒混 漆喰色 良好	漆喰作底	1/2	大 漆喰作底	
2575S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.2	6.1	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2585S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.3	5.2	陶粒混 漆喰色 良好	漆喰作底	1/2	大 漆喰作底	
2595S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	1.9	6.4	1377-砂粒混 漆喰色 良好	漆喰作底	1/2	大 漆喰作底	
2605S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.8	2.2	5.3	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2615S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.6	2.4	5.1	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2635S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.6	2.4	5.2	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2648S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.7	2.0	5.5	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2655S004	赤丸土坑	小	白丸印	6.8	2.2	6.2	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2665S004	赤丸土坑	小	白丸印	6.8	2.0	4.3	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2695S004	赤丸土坑	小	白丸印	6.8	2.1	4.7	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2705S004	赤丸土坑	小	白丸印	6.7	2.0	4.5	砂粒混 漆喰色 良好	漆喰作底	1/2	大 漆喰作底	
2699S004	赤丸土坑	小	白丸印	6.8	2.1	4.8	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2705S004	赤丸土坑	小	白丸印	6.8	2.1	4.6	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2715S004	赤丸土坑	小	白丸印	6.8	2.2	4.3	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2725S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.3	4.4	陶粒混 漆喰色 良好	口縁1/2次	1/2	大 漆喰作底	
2735S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.0	2.2	4.4	1377-砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2745S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.0	2.2	4.7	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2755S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.0	2.1	4.5	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2775S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.0	2.2	4.8	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2785S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.1	2.1	4.8	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2795S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.1	2.3	4.7	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2805S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.1	4.8	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2815S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.4	4.8	陶粒混 漆喰色 良好	口縁1/2次	1/2	大 漆喰作底	
2825S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.1	4.8	陶粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2835S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.3	4.4	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2845S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.3	2.3	4.4	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	
2855S004	赤丸土坑	小	白丸印	7.2	2.3	4.1	砂粒混 漆喰色 良好	1/2	1/2	大 漆喰作底	

第26表 溝状遺構出土遺物一覧表(5)

No	遺構	種類	産地	器種	分類	標準cm			胎土・構成	残存	備考
						口径	高さ	厚さ			
288	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.4	4.7	粉砂質 黄褐色 良好	口縁	3/5	
287	S004	赤土片	小	円筒	7.4	2.3	4.9	粉砂質 黄褐色 良好	口縁1/2次		
288	S004	赤土片	小	円筒	7.4	2.2	4.5	2.577・砂粒混 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
289	S004	赤土片	小	円筒	7.4	2.5	4.4	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
290	S004	赤土片	小	円筒	7.5	2.6	4.5	粉砂質 黄褐色 良好	3/4	次	形状不備
291	S004	赤土片	小	円筒	7.8	2.9	5.2	2.577・砂粒混 黄褐色 良好	3/4	次	形状不備
292	S004	赤土片	小	円筒	7.6	1.9	5.0	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
293	S004	赤土片	小	円筒	7.4	2.3	5.1	2.577・砂粒混 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
294	S004	赤土片	小	円筒	7.6	2.5	5.0	2.577・砂粒混 黄褐色 良好	5/8	次	形状不備
295	S004	赤土片	小	円筒	7.5	2.2	4.9	粉砂質 黄褐色 良好	4/5	次	形状不備
296	S004	赤土片	小	円筒	7.1	2.6	4.9	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
297	S004	赤土片	小	円筒	5.8	2.0	3.7	砂粒混 黄褐色 良好	5/8	次	形状不備
298	S004	赤土片	小	円筒	6.2	2.1	3.7	粉砂質 黄褐色 良好	溝物	次	形状不備
299	S004	赤土片	小	円筒	6.4	2.1	3.9	2.577・砂粒混 黄褐色 良好	5/8	次	形状不備
300	S004	赤土片	小	円筒	6.4	1.9	3.9	2.577・砂粒混 黄褐色 良好	口縁1/2次	次	形状不備
301	S004	赤土片	小	円筒	6.4	2.3	3.4	粉砂質 黄褐色 良好	2/3	次	形状不備
302	S004	赤土片	小	円筒	6.4	2.5	4.2	粉砂質 黄褐色 良好	2/3	次	形状不備
303	S004	赤土片	小	円筒	6.4	1.9	3.6	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
304	S004	赤土片	小	円筒	6.4	1.9	4.0	粉砂質 黄褐色 良好	2/3	次	形状不備
305	S004	赤土片	小	円筒	6.5	2.2	4.0	粉砂質 黄褐色 良好	2/4	次	形状不備
306	S004	赤土片	小	円筒	6.5	2.2	3.9	粉砂質 黄褐色 良好	5/8	次	形状不備
307	S004	赤土片	小	円筒	6.6	2.2	4.0	粉砂質 黄褐色 良好	6/5	次	形状不備
308	S004	赤土片	小	円筒	6.6	2.2	3.6	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
309	S004	赤土片	小	円筒	6.6	2.2	3.6	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
310	S004	赤土片	小	円筒	6.7	2.6	3.8	粉砂質 黄褐色 良好	溝物	次	形状不備
311	S004	赤土片	小	円筒	6.7	2.2	3.9	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
312	S004	赤土片	小	円筒	6.7	2.2	3.8	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
313	S004	赤土片	小	円筒	6.6	2.4	3.8	粉砂質 黄褐色 良好	3/4	次	形状不備
314	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.3	3.8	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
315	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.3	3.8	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
316	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.6	3.8	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
317	S004	赤土片	小	円筒	7.0	2.1	4.0	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
318	S004	赤土片	小	円筒	7.0	2.5	3.8	2.577・砂粒混 黄褐色 良好	6/5	次	形状不備
319	S004	赤土片	小	円筒	7.0	2.0	3.8	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
320	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.2	3.7	2.577・砂粒混 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
321	S004	赤土片	小	円筒	7.1	2.2	4.0	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
322	S004	赤土片	小	円筒	7.8	2.4	4.3	粉砂質 黄褐色 良好	1/3	次	形状不備
323	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.5	4.1	粉砂質 黄褐色 良好	口縁1/2次	次	形状不備
324	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.7	4.7	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
325	S004	赤土片	小	円筒	6.9	2.5	4.6	2.577・砂粒混 黄褐色 良好	溝物	次	形状不備
326	S004	赤土片	小	円筒	7.0	3.1	4.5	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
327	S004	赤土片	小	円筒	7.0	2.5	4.5	粉砂質 黄褐色 良好	溝物	次	形状不備
328	S004	赤土片	小	円筒	7.0	2.4	4.3	粉砂質 黄褐色 良好	溝物	次	形状不備
329	S004	赤土片	小	円筒	7.0	2.6	4.6	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
330	S004	赤土片	小	円筒	7.1	2.9	4.7	粉砂質 黄褐色 良好	溝物	次	形状不備
331	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.7	4.6	粉砂質 黄褐色 良好	口縁1/2次	次	形状不備
332	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.7	4.4	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
333	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.7	4.7	粉砂質 黄褐色 良好	口縁1/2次	次	形状不備
334	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.9	5.1	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
335	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.7	4.6	粉砂質 黄褐色 良好	4/5	次	形状不備
336	S004	赤土片	小	円筒	7.1	2.6	4.6	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
337	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.6	4.7	粉砂質 黄褐色 良好	2/4	次	形状不備
338	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.7	4.8	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
339	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.7	4.7	粉砂質 黄褐色 良好	溝物	次	形状不備
340	S004	赤土片	小	円筒	7.2	2.7	4.6	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
341	S004	赤土片	小	円筒	7.3	2.9	5.1	粉砂質 黄褐色 良好	口縁1/2次	次	形状不備
342	S004	赤土片	小	円筒	7.3	2.9	5.3	粉砂質 黄褐色 良好	2/3	次	形状不備
343	S004	赤土片	小	円筒	7.3	2.1	5.0	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
344	S004	赤土片	小	円筒	7.4	2.8	5.5	粉砂質 黄褐色 良好	3/5	次	形状不備
345	S004	赤土片	小	円筒	7.5	2.7	4.6	粉砂質 黄褐色 良好	5/8	次	形状不備
346	S004	赤土片	小	円筒	7.5	2.7	4.7	粉砂質 黄褐色 良好	溝物	次	形状不備
347	S004	赤土片	小	円筒	7.5	3.2	4.4	粉砂質 黄褐色 良好	口縁1/2次	次	形状不備
348	S004	赤土片	小	円筒	8.0	2.8	5.3	粉砂質 黄褐色 良好	3/4	次	形状不備
349	S004	赤土片	小	円筒	8.1	2.9	4.8	粉砂質 黄褐色 良好	口縁1/2次	次	形状不備
350	S004	赤土片	小	円筒	6.4	2.4	3.4	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
351	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.4	4.0	粉砂質 黄褐色 良好	3/4	次	形状不備
352	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.2	3.7	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
353	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.2	3.4	粉砂質 黄褐色 良好	2/3	次	形状不備
354	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.3	3.2	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
355	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.6	3.2	粉砂質 黄褐色 良好	1/2	次	形状不備
356	S004	赤土片	小	円筒	7.3	2.8	4.0	粉砂質 黄褐色 良好	浮き物	次	形状不備
357	S004	赤土片	小	円筒	8.2	2.1	3.8	粉砂質 黄褐色 良好	口縁1/2次	次	形状不備
358	S004	赤土片	小	円筒	7.0	2.3	3.7	粉砂質 黄褐色 良好	2/3	次	形状不備
359	S004	赤土片	小	円筒	6.8	2.1	4.6	粉砂質 黄褐色 良好	2/3	次	形状不備
360	S004	赤土片	小	円筒	6.5	2.1	3.6	粉砂質 黄褐色 良好	5/8	次	形状不備
361	S004	赤土片	小	円筒	7.1	2.4	4.2	粉砂質 黄褐色 良好	5/8	次	形状不備
362	S004	赤土片	小	円筒	4.8	0	2.4	2.577 砂粒混 黄褐色 良好	1.577 砂粒混 黄褐色 良好	1/3	形状不備
363	S004	瓦質製品	丸鉢	2.577 4 溝物	17.2	-	-	2.577 砂粒混 黄褐色 良好	1/4	次	形状不備
364	S004	瓦質製品	丸鉢	溝物	21.4 7.8 (縦径)	18.4	4.6	粉砂質 黄褐色 良好	1/3	次	形状不備
365	S004	瓦質製品	丸鉢	溝物	溝底24.0	-	-	粉砂質 黄褐色 良好	溝底	1/3	形状不備
366	S004	瓦質製品	丸鉢	溝物	溝底24.0	-	-	粉砂質 黄褐色 良好	溝底	1/3	形状不備
367	S004	瓦質製品	丸鉢	溝物	溝底24.0	-	-	粉砂質 黄褐色 良好	溝底	1/3	形状不備
368	S004	瓦質製品	丸鉢	溝物	溝底24.0	-	-	粉砂質 黄褐色 良好	溝底	1/3	形状不備
369	S004	瓦質製品	丸鉢	溝物	溝底24.0	-	-	粉砂質 黄褐色 良好	溝底	1/3	形状不備
370	S004	瓦質製品	丸鉢	溝物	溝底24.0	-	-	粉砂質 黄褐色 良好	溝底	1/3	形状不備
371	S004	瓦質製品	丸鉢	溝物	溝底24.0	-	-	粉砂質 黄褐色 良好	溝底	1/3	形状不備

第27表 溝状遺構 出土遺物一覧表(6)

No	遺構	種類	産地	図録	分類	単位量 (1) 1個物単位			加工・機能	残存	備考
						材質					
						白磁	青磁	雑焼			
372-5004	瓦質製品	香炉	---	---	---	---	---	2,177 砂粒, 淡褐色	遺物1:4	---	
373-5004	瓦質製品	香炉	---	---	---	---	---	砂, 灰色, 内面, 淡褐色	砂粒のみ	---	
374-5004	瓦質製品	香炉	---	---	---	---	---	2,177 砂粒, 灰白色, 淡褐色	砂粒のみ	---	
375-5004	瓦	軒瓦	巴文	---	---	---	---	灰白色, 暗灰色, 淡褐色	瓦面1/3	---	
376-5004	瓦	瓦	△ 横目 田ノ目	---	---	---	---	灰赤 (10.8), 市 (12.4) 厚2.0	灰赤 砂粒, 淡褐色	残存	
377-5004	瓦	瓦	△ 横目 田ノ目	---	---	---	---	灰赤 (15.8), 市 (15.1) 厚2.0	灰赤 砂粒, 灰色, 焼成中欠粒	残存	
378-5004	瓦	瓦	△ 横目 田ノ目	---	---	---	---	灰赤 (10.5), 市 (13.2) 厚2.3	灰赤 砂粒, 灰色, 焼成中欠粒	残存	
379-5004	石製品	伊予 漆土	中環	---	---	---	---	黒色0.0 幅5	---	上下階交換 清潔1:3 遺物1:000残存	
380-5004	鏡片	長石鏡	---	---	---	---	---	---	---	---	
381-5004	鏡片	長石鏡	---	---	---	---	---	13.0 2.3	6.5 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
382-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	8.0 2.1	5.2 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
383-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	8.4 2.1	5.2 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/5	
384-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	7.4 2.1	5.5 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
385-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	---	---	---	
386-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	13.2 2.7	7.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
387-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	12.9 3.7	8.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
388-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	11.0 2.8	6.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/6	
389-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	10.4 3.2	6.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
390-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	7.4 2.0	6.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
391-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目 (1+2) 田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
392-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
393-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
394-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
395-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
396-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
397-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
398-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
399-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
400-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
401-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
402-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
403-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
404-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
405-5004	瓦質製品	磁器製瓦 筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
406-5004	かわらけ	大	山口	---	---	---	---	12.0 2.7	8.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
407-5004	かわらけ	大	山口	---	---	---	---	11.6 2.6	8.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
408-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	9.2 2.8	5.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
409-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	7.0 2.0	4.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
410-5004	石製品	軽石加工品	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
411-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
412-5004	かわらけ	大	山口	---	---	---	---	13.2 3.8	8.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
413-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	9.5 2.1	5.5 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/4	
414-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
415-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
416-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
417-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
418-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
419-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
420-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
421-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
422-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
423-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
424-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
425-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
426-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
427-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
428-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
429-5004	瓦質製品	筒瓦 筒	田ノ目	---	---	---	---	---	---	---	
430-5004	かわらけ	大	山口	---	---	---	---	13.2 3.7	7.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
431-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	11.0 3.1	7.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
432-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	11.2 2.8	6.5 緑褐色, 緑褐色, 良好	4/8	
433-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	11.4 2.7	7.2 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
434-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	12.0 3.6	7.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
435-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	11.0 3.2	6.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
436-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	11.0 3.2	6.8 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
437-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	12.4 3.3	6.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
438-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	12.9 3.0	6.2 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
439-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	12.8 3.2	5.9 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
440-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	12.0 2.9	6.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
441-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	12.0 3.0	6.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
442-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	12.4 2.8	6.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
443-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	10.8 3.1	6.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
444-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	11.4 3.1	6.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
445-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	9.7 3.1	4.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
446-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	9.2 2.1	5.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
447-5004	かわらけ	中	山口	---	---	---	---	9.3 2.3	3.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
448-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	6.2 1.8	3.8 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
449-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	6.4 1.8	3.8 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
450-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	6.4 1.7	3.3 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
451-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	6.4 1.8	4.2 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
452-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	7.0 1.8	4.0 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
453-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	6.2 1.6	3.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	
454-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	6.0 1.4	4.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
455-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	7.0 1.8	4.4 緑褐色, 緑褐色, 良好	1/3	
456-5004	かわらけ	小	山口	---	---	---	---	6.8 1.9	3.3 緑褐色, 緑褐色, 良好	2/3	

第28表 溝状遺構 出土遺物一覧表(7)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	単位:cm		跡土・構成	層序	備考
						口径	高さ			
455	S016	かわらけ	小	白砂	6.7	1.8	3.6	焼物灰 焼物 良好	3/4	入土層 遺物層
456	S016	かわらけ	小	白砂	6.5	2.0	3.6	焼物灰 焼物 良好	3/4	入土層 遺物層
457	S016	かわらけ	小	白砂	7.6	2.0	3.6	焼物灰 焼物 良好	3/4	入土層 遺物層
458	S016	かわらけ	小	白砂	7.4	1.9	3.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	入土層 遺物層
459	S016	かわらけ	小	白砂	7.6	1.9	4.0	焼物灰 焼物 良好	1/2	入土層 遺物層
460	S016	かわらけ	小	白砂	2.4	1.7	4.8	焼物灰 焼物 良好	1/2	入土層 遺物層
461	S016	かわらけ	小	白砂	7.5	2.1	4.8	焼物灰 焼物 良好	3/4	入土層 遺物層
462	S016	かわらけ	小	白砂	7.2	2.0	5.4	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
463	S016	かわらけ	小	白砂	12	3.0	4.4	焼物灰 焼物 良好	1/2	入土層
464	S016	かわらけ	小	白砂	7.8	2.2	5.1	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
465	S016	かわらけ	小	白砂	8.0	2.5	5.4	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
466	S016	かわらけ	小	白砂	6.8	2.2	4.6	焼物灰 焼物 良好	3/4	入土層 遺物層
467	S016	かわらけ	小	白砂	6.8	2.2	4.0	焼物灰 焼物 良好	4/5	入土層
47	S016	かわらけ	小	白砂	7.0	2.3	4.4	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
472	S016	かわらけ	小	白砂	7.4	2.5	3.2	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
473	S016	かわらけ	小	白砂	7.3	2.3	4.8	焼物灰 焼物 良好	4/5	遺物層
474	S016	かわらけ	小	白砂	7.4	2.5	4.6	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
475	S016	かわらけ	小	白砂	7.4	2.5	5.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
476	S016	かわらけ	小	白砂	7.0	2.4	4.0	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
477	S016	かわらけ	小	白砂	6.6	2.2	3.8	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
478	S016	かわらけ	小	白砂	7.2	2.7	3.5	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
479	S016	かわらけ	小	白砂	7.0	2.8	4.4	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
480	S016	かわらけ	小	白砂	7.4	2.9	4.6	焼物灰 焼物 良好	4/5	入土層
481	S016	かわらけ	小	白砂	7.0	2.5	5.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	入土層 遺物層
482	S016	かわらけ	小	白砂	7.2	2.5	5.2	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
483	S016	かわらけ	小	白砂	6.0	2.3	4.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
484	S016	かわらけ	小	白砂	7.0	2.7	3.8	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
485	S016	かわらけ	小	白砂	12.6	3.4	7.4	焼物灰 焼物 良好	2/3	遺物層
486	S016	かわらけ	小	白砂	14.6	3.8	8.4	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
487	S016	かわらけ	小	白砂	1.3	3.1	7.4	焼物灰 焼物 良好	4/5	遺物層
488	S016	かわらけ	小	白砂	8.2	2.5	6.6	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
489	S016	かわらけ	小	白砂	8.8	2.2	6.8	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
490	S016	かわらけ	小	白砂	9.1	2.0	5.6	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
491	S016	かわらけ	小	白砂	9.4	1.9	7.2	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
492	S016	かわらけ	小	白砂	10.4	1.7	4.8	焼物灰 焼物 良好	3/5	遺物層
493	S016	かわらけ	小	白砂	9.0	2.3	5.2	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
494	S016	かわらけ	小	白砂	8.2	1.8	5.2	焼物灰 焼物 良好	5/5	遺物層
495	S016	かわらけ	小	白砂	9.0	2.3	5.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
496	S016	かわらけ	小	白砂	9.0	2.1	6.2	焼物灰 焼物 良好	4/5	遺物層
497	S016	かわらけ	小	白砂	9.4	2.5	6.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
498	S016	かわらけ	小	白砂	9.4	2.8	5.6	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
499	S016	かわらけ	小	白砂	9.2	2.0	5.4	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
500	S016	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
501	S016	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	-	-	18.2	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
502	S016	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	24.0	19.2	19.0	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
503	S016	瓦葺き瓦	瓦葺	-	11.4	-	-	焼物灰 焼物 良好	1/4	遺物層
504	S016	瓦葺き瓦	瓦葺	-	10.8	-	-	焼物灰 焼物 良好	1/4	遺物層
505	S016	瓦葺き瓦	瓦葺	-	-	-	5.8	焼物灰 焼物 良好	1/4	遺物層
506	S016	瓦葺き瓦	瓦葺	-	-	-	-	焼物灰 焼物 良好	1/4	遺物層
507	S016	瓦葺き瓦	瓦葺	-	-	-	-	焼物灰 焼物 良好	1/4	遺物層
508	S017	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
509	S017	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
510	S017	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
511	S017	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
512	S018	かわらけ	小	白砂	12.4	1.5	6.0	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
513	S018	かわらけ	小	白砂	5.2	1.3	3.4	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
514	S018	かわらけ	小	白砂	6.4	2.0	6.0	焼物灰 焼物 良好	1/4	遺物層
515	S018	かわらけ	小	白砂	9.3	2.5	5.6	焼物灰 焼物 良好	2/3	遺物層
516	S018	かわらけ	小	白砂	9.3	2.5	5.6	焼物灰 焼物 良好	2/3	遺物層
517	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
518	S018	かわらけ	小	白砂	12.4	1.5	6.0	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
519	S018	かわらけ	小	白砂	5.2	1.3	3.4	焼物灰 焼物 良好	1/2	遺物層
520	S018	かわらけ	小	白砂	6.4	2.0	6.0	焼物灰 焼物 良好	1/4	遺物層
521	S018	かわらけ	小	白砂	9.3	2.5	5.6	焼物灰 焼物 良好	2/3	遺物層
522	S018	かわらけ	小	白砂	9.3	2.5	5.6	焼物灰 焼物 良好	2/3	遺物層
523	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
524	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
525	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
526	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
527	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
528	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
529	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
530	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
531	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
532	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
533	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
534	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
535	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
536	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
537	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
538	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
539	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
540	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
541	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層
542	S019	瓦葺き瓦	瓦葺	33/27+溝	33.0	-	19.0	焼物灰 焼物 良好	3/4	遺物層

第29表 漢伏遺構出土遺物一覧表(8)

No	遺構	種別	所在地	器種	分類	規格(mm)			出土・構成	残存	備考
						口径	計	高さ			
343	5019	赤瓦分片	小	020	8.6	2.2	4.1	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	埋藏層底	
344	5019	赤瓦分片	小	020	6.7	2.0	3.8	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	埋藏層底	
345	5019	赤瓦分片	小	020	3.8	2.2	3.8	微粉粒、埋褐色、良好	4/5	土文付着	
346	5019	赤瓦分片	小	020	6.2	2.2	4.0	微粉粒、埋褐色、良好	3/5	土文付着	
347	5019	赤瓦分片	小	020	6.4	2.4	4.6	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着、埋藏層底	
348	5019	赤瓦分片	小	020	3.8	2.4	4.1	微粉粒、埋褐色、良好	2/4	埋藏層底	
349	5019	赤瓦分片	小	020	7.0	2.4	4.8	微粉粒、埋褐色、良好	1/2	埋藏層底	
150	5019	赤瓦分片	小	020	7.1	4.7	5.1	微粉粒、埋褐色、良好	津波層底	土文付着、埋藏層底	
151	5019	赤瓦分片	小	020	7.5	2.4	3.0	微粉粒、埋褐色、良好	4/5	土文付着、埋藏層底	
752	5019	赤瓦分片	小	020	7.8	2.8	3.0	微粉粒、埋褐色、良好	土文付着	土文付着、埋藏層底	
753	5019	赤瓦分片	小	020	7.5	2.5	3.4	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着、埋藏層底	
94	5019	赤瓦分片	小	020	8.0	2.8	3.6	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着、埋藏層底	
95	5019	赤瓦分片	小	020	8.0	2.1	3.4	微粉粒、埋褐色、良好	2/3	土文付着、埋藏層底	
96	5019	赤瓦分片	小	020	8.4	2.4	3.4	微粉粒、埋褐色、良好	1/2	埋藏層底	
97	5019	赤瓦分片	小	020	7.9	3.0	4.0	微粉粒、埋褐色、良好	4/5	埋藏層底	
98	5019	赤瓦分片	小	020	7.4	3.0	4.0	微粉粒、埋褐色、良好	3/5	埋藏層底	
99	5019	赤瓦分片	小	020	6.9	2.4	4.6	微粉粒、埋褐色、良好	2/3	埋藏層底	
980	5019	赤瓦分片	小	020	6.9	2.7	4.4	微粉粒、埋褐色、良好	2/3	埋藏層底	
961	5019	赤瓦分片	小	020	6.8	2.4	4.6	微粉粒、埋褐色、良好	津波層底	土文付着	
962	5019	赤瓦分片	小	020	7.2	2.1	3.8	微粉粒、埋褐色、良好	3/6	埋藏層底	
983	5019	赤瓦分片	小	020	7.2	2.5	4.4	微粉粒、埋褐色、良好	3/4	埋藏層底	
964	5019	赤瓦分片	小	020	7.8	2.5	4.6	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着、埋藏層底	
965	5019	赤瓦分片	小	020	7.4	2.5	4.8	微粉粒、埋褐色、良好	5/8	土文付着、埋藏層底	
966	5019	赤瓦分片	小	020	7.4	2.5	4.6	微粉粒、埋褐色、良好	4/8	土文付着、埋藏層底	
967	5019	赤瓦分片	小	020	7.4	3.0	3.0	微粉粒、埋褐色、良好	1/2	埋藏層底	
968	5019	赤瓦分片	小	020	7.8	2.3	4.8	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着、埋藏層底	
969	5019	赤瓦分片	小	020	7.1	2.1	4.8	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着、埋藏層底	
170	5019	赤瓦分片	小	020	8.2	2.2	3.8	微粉粒、埋褐色、良好	3/5	埋藏層底	
871	5019	赤瓦分片	小	020	8.0	1.9	4.6	微粉粒、埋褐色、良好	1/2	土文付着、埋藏層底	
572	5019	赤瓦分片	小	020	7.6	2.4	4.7	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着	
172	5019	赤瓦分片	小	020	7.2	2.5	4.6	微粉粒、埋褐色、良好	3/4	土文付着、埋藏層底	
874	5019	赤瓦分片	小	020	8.2	2.5	3.0	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着、埋藏層底	
378	5019	赤瓦分片	小	020	8.2	2.7	4.5	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着	
876	5019	赤瓦分片	小	020	8.2	2.6	4.6	微粉粒、埋褐色、良好	1/2	土文付着	
877	5019	赤瓦分片	小	020	8.6	2.9	3.5	微粉粒、埋褐色、良好	口縁一部分	土文付着、埋藏層底	
379	5019	瓦質製品	瓦葺	-	-	-	-	微粉粒、埋褐色、良好	埋藏層底	土文付着	
378	5019	瓦質製品	瓦葺	-	-	-	-	微粉粒、埋褐色、良好	埋藏層底	土文付着	
379	5019	瓦質製品	瓦葺	-	-	-	-	微粉粒、埋褐色、良好	埋藏層底	土文付着	
980	5019	瓦質製品	瓦葺	-	-	-	-	微粉粒、埋褐色、良好	埋藏層底	土文付着	
981	5019	瓦	軒丸	古文	横溝	横溝	横溝	微粉粒、埋褐色、良好	埋藏層底	土文付着	
982	5019	瓦	軒丸	古文	横溝	横溝	横溝	微粉粒、埋褐色、良好	埋藏層底	土文付着	
983	5019	瓦製品	陶器	瓦葺	上野	横溝	横溝	微粉粒、埋褐色、良好	埋藏層底	土文付着	
584	5019	瓦製品	瓦葺	横石加工品	横溝	横溝	横溝	微粉粒、埋褐色、良好	埋藏層底	土文付着	
475	5020	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
585	5020	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
387	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
388	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
389	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
390	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
391	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
392	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
393	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
585	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
794	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
795	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
796	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
387	5023	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
388	5023	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
389	5023	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
803	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
804	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
805	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
806	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
807	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
808	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
809	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
810	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
811	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
812	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
813	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
814	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
815	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
816	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
817	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
818	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
819	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
820	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
821	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
822	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
823	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
824	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
825	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
826	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	
827	5022	瓦製品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	埋蔵品	

第34表 1区出土遺物一覧表(1)

No	遺構	種類	産地	経緯	分層	計量値			出土・構成	保存	備考
						口径	底径	高さ			
1	竈土陶器	白磁 罎	穴罎					灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片		
2	竈土陶器	白磁 罎	口罎				7.1	灰白色 胎面灰白色 透明	底面1/4		
3	竈土陶器	白磁 罎	V-罎					灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片		
4	竈土陶器	白磁 罎	V-罎(厚底)					灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片		
5	竈土陶器	白磁 罎	V-罎(厚底)					灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片		
6	竈土陶器	白磁 罎	穴罎			11.4		灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片		
7	竈土陶器	白磁 罎・罎	穴罎					灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片		
8	竈土陶器	白磁 罎	穴罎					灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片		
9	竈土陶器	白磁 罎	穴罎					灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片		
10	竈土陶器	白磁 罎	V-罎					灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片		
11	竈土陶器	白磁 罎	穴罎(厚底)			8.8	2.1	4.6	灰白色 胎面灰白色 透明	1/5	
12	竈土陶器	白磁 罎	穴罎(厚底)			16.0			灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片	内面印状残存
13	竈土陶器	白磁 罎	穴罎						灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部破片	
14	竈土陶器	白磁 罎	罎			14.3			灰白色 胎面灰白色不透明	口縁部破片	
15	竈土陶器	白磁 小罎	罎			7.8			灰白色 胎面灰白色 透明	口縁部・底	裏面入り 刷毛
16	竈土陶器	白磁 罎	罎					3.4	灰白色 胎面灰白色 透明	裏面のみ	裏面入り
17	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			13.2			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
18	竈土陶器	灰赤土陶器	罎						灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
19	竈土陶器	灰赤土陶器	罎						灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
20	竈土陶器	灰赤土陶器	罎					2.4	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/4	
21	竈土陶器	灰赤土陶器	罎					2.6	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/4	
22	竈土陶器	灰赤土陶器	罎						灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
23	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A2層(1-2層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
24	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A2層(1-2層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
25	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A2層(1-2層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
26	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A2層(1-2層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
27	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A2層(1-2層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
28	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A2層(1-2層)				5.2	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/4	
29	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A2層(1-2層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
30	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A2層(1-2層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
31	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A4層(1-4層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
32	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A4層(1-4層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
33	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A4層(1-4層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
34	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A6層(1-6層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
35	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	A6層(1-6層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
36	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	B1層(1-15層)				14.4	灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部1/6	
37	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	B1層(1-15層)				13.4	灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部1/6	
38	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	B1層(1-15層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
39	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	B1層(1-15層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
40	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	B1層(1-15層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
41	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	B1層(1-15層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
42	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	B1層(1-15層)					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
43	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	B1層(1-15層)				5.0	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/3	
44	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			13.6			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部1/8	本文
45	竈土陶器	灰赤土陶器	罎	D1層		14.8			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部1/8	
46	竈土陶器	灰赤土陶器	罎					6.3	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面のみ	
47	竈土陶器	灰赤土陶器	小罎					3.5	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/4	
48	竈土陶器	灰赤土陶器	小罎						灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面2/3	河内遺文の引
49	竈土陶器	灰赤土陶器	小罎					4.2	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/2	河内遺文の参照
50	竈土陶器	灰赤土陶器	小罎	D1層					灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	40cm長 遺文
51	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			8.8			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	本文
52	竈土陶器	灰赤土陶器	罎						灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	本文
53	竈土陶器	灰赤土陶器	罎					0.6	灰白色 胎面緑褐色 不透明	破片	厚手赤土
54	竈土陶器	灰赤土陶器	罎					2.6	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/4	
55	竈土陶器	灰赤土陶器	罎					4.8	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/3	
56	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			10.9	1.8	2.1	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/2	
57	竈土陶器	灰赤土陶器	罎						灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面のみ	
58	竈土陶器	灰赤土陶器	罎					3.6	灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面のみ	
59	竈土陶器	灰赤土陶器	罎						灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面のみ	埴中細頸
60	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			11.2			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部1/8	
61	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			11.8			灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/3	河内遺文
62	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			1.9			灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/8	
63	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			9.0	4.5	1.1	灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/4	
64	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			15.8			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
65	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			17.0			灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/5	
66	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			15.6	0.5	4.5	灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/3	
67	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			14.8			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部1/3	
68	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			12.0			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部1/8	
69	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			12.8			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
70	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			17.0		3.1	灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/2	
71	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			8.4			灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/3	
72	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			12.4			灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面2/3	
73	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			8.2	1.7	4.2	灰白色 胎面緑褐色 不透明	2/3	
74	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			7.7	1.8	4.2	灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/4	
75	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			12.0			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
76	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			15.0	3.5	6.8	灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/4	
77	竈土陶器	灰赤土陶器	罎						灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
78	竈土陶器	灰赤土陶器	罎						灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
79	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			18.4			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
80	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			16.4			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
81	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			16.0			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
82	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			22.0			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
83	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			17.0			灰白色 胎面緑褐色 不透明	底面1/3	
84	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			16.0			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
85	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			15.4			灰白色 胎面緑褐色 不透明	口縁部破片	
86	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			11.8			灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/3	
87	竈土陶器	灰赤土陶器	罎			8.0			灰白色 胎面緑褐色 不透明	1/3	

第35表 1区出土遺物一覧表(2)

No.	遺種	種類	産地	器種	分種	単位cm (寸) 寸法標準			備考
						口徑	計 寸	底径	
86	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
87	甕	甕	甕	4匁式	—	—	—	—	
88	甕	甕	甕	4匁式	—	—	—	—	
89	甕	甕	甕	4匁式	—	—	—	—	
90	甕	甕	甕	4匁式	—	—	—	—	
91	甕	甕	甕	4匁式	—	—	—	—	
92	甕	甕	甕	10匁式	—	—	—	—	
93	甕	甕	甕	11匁式	—	—	—	—	
94	甕	甕	甕	6匁式	—	—	—	—	
95	甕	甕	甕	6匁式	—	—	—	—	
96	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
97	甕	甕	甕	1匁式	—	—	—	—	
98	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
99	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
100	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
101	甕	甕	甕	4匁式	22.2	—	—	—	
102	甕	甕	甕	4匁式	20.7	—	—	—	
103	甕	甕	甕	6匁式	—	—	—	—	
104	甕	甕	甕	2匁式	29.8	—	—	—	
105	甕	甕	甕	2匁式	29.2	—	—	—	
106	甕	甕	甕	3匁式	19.5	—	—	—	
107	甕	甕	甕	3匁式	21.5	—	—	—	
108	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
109	甕	甕	甕	10匁式	39.8	—	—	—	
110	甕	甕	甕	11匁式	—	—	—	—	
112	甕	甕	甕	11匁式	39.0	—	—	—	
113	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
114	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
115	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
116	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
117	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
118	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
119	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
120	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
121	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
122	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
123	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
124	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
125	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
126	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
127	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
128	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
129	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
130	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
131	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
132	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
133	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
134	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
135	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
136	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
137	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
138	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
139	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
140	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
141	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
142	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
143	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
144	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
145	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
146	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
147	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
148	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
149	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
150	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
151	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
152	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
153	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
154	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
155	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
156	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
157	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
158	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
159	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
160	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
161	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
162	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
163	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
164	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
165	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
166	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
167	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
168	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
169	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
170	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
171	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
172	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
173	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	
174	甕	甕	甕	2匁式	—	—	—	—	

第36表 1区出土遺物一覽表(3)

No	遺物	種別	産地	器種	分類	量			加工・焼成	残存	備考
						口数	重量	直径			
173	土わらじ	小	江戸	8.8	2.1	5.4	焼物	焼物	5/6	土文 磁器片	
176	土わらじ	小	江戸	7.8	2.0	5.2	焼物	焼物	2/3	土文 磁器片	
177	土わらじ	小	江戸	14	2.2	5.2	焼物	焼物	口縁一部分	土文 磁器片	
178	土わらじ	小	江戸	14	2.0	5.2	焼物	焼物	土文	土文 磁器片	
179	土わらじ	小	江戸	7.2	2.2	4.8	焼物	焼物	口縁一部分	土文 磁器片	
180	土わらじ	小	江戸	7.6	2.1	5.2	焼物	焼物	1/3		
181	土わらじ	小	江戸	7.8	2.0	5.2	焼物	焼物	2/3		
182	土わらじ	小	江戸	7.8	2.2	5.4	焼物	焼物	2/3	透影磁器片	
183	土わらじ	小	江戸	7.4	2.2	4.2	焼物	焼物	2/3		
184	土わらじ	小	江戸	7.4	2.0	4.2	焼物	焼物	2/3	磁器片	
185	土わらじ	小	江戸	7.2	2.0	4.8	焼物	焼物	3/4	磁器片	
186	土わらじ	小	江戸	7.8	2.1	4.8	焼物	焼物	1/3		
187	土わらじ	小	江戸	7.2	1.8	4.8	焼物	焼物	2/3	磁器片	
188	土わらじ	小	江戸	7.4	2.1	3.8	焼物	焼物	5/8	土文 磁器片	
189	土わらじ	小	江戸	7.2	2.0	4.4	177	焼物	3/4	透影磁器片	
190	土わらじ	小	江戸	8.4	2.2	3.8	焼物	焼物	2/3	磁器片	
191	土わらじ	小	江戸	7.2	2.1	4.9	焼物	焼物	2/3		
192	土わらじ	小	江戸	7.2	1.8	4.8	焼物	焼物	3/4	磁器片	
193	土わらじ	小	江戸	6.2	1.8	4.0	焼物	焼物	2/3	土文 磁器片	
194	土わらじ	小	江戸	6.8	1.9	4.0	焼物	焼物	1/2	透影磁器片	
195	土わらじ	小	江戸	6.7	1.5	4.0	焼物	焼物	2/3	磁器片	
196	土わらじ	小	江戸	7.7	1.9	3.2	焼物	焼物	2/3	土文 磁器片	
197	土わらじ	小	江戸	7.0	1.9	3.0	焼物	焼物	1/2	土文 磁器片	
198	土わらじ	小	江戸	7.4	1.8	4.6	焼物	焼物	4/5	土文 磁器片	
199	土わらじ	小	江戸	8.0	1.9	4.0	177	焼物	1/2	土文 磁器片	
200	土わらじ	小	江戸	8.1	2.2	3.0	焼物	焼物	2/3	透影磁器片	
201	土わらじ	小	江戸	8.3	2.2	5.6	焼物	焼物	2/3	磁器片	
202	土わらじ	小	江戸	8.0	2.2	6.0	焼物	焼物	1/2	土文 磁器片	
203	土わらじ	小	江戸	7.4	2.4	4.6	焼物	焼物	口縁一部分	透影磁器片	
204	土わらじ	小	江戸	8.0	2.1	6.0	焼物	焼物	4/5	土文 磁器片	
205	土わらじ	小	江戸	8.0	2.2	6.0	焼物	焼物	口縁一部分	透影磁器片	
206	土わらじ	小	江戸	8.1	2.1	6.4	焼物	焼物	口縁一部分		
207	土わらじ	小	江戸	7.6	2.0	5.2	焼物	焼物	2/3	土文 磁器片	
208	土わらじ	小	江戸	7.4	2.2	5.4	焼物	焼物	2/3	透影磁器片	
209	土わらじ	小	江戸	7.1	1.9	5.4	焼物	焼物	口縁一部分	土文 磁器片	
210	土わらじ	小	江戸	7.6	2.2	5.2	焼物	焼物	177	磁器片	
211	土わらじ	小	江戸	7.8	2.1	5.2	焼物	焼物	1/2		
212	土わらじ	小	江戸	7.6	2.3	5.2	焼物	焼物	1/2	透影磁器片	
213	土わらじ	小	江戸	7.4	2.1	5.4	焼物	焼物	口縁一部分		
214	土わらじ	小	江戸	7.1	2.0	5.8	焼物	焼物	口縁一部分	透影磁器片	
215	土わらじ	小	江戸	7.6	2.1	5.2	焼物	焼物	口縁一部分		
216	土わらじ	小	江戸	5.8	2.3	5.0	焼物	焼物	完整		
217	土わらじ	小	江戸	7.8	2.2	5.0	177	焼物	2/3		
218	土わらじ	小	江戸	7.2	2.1	3.0	焼物	焼物	1/2	土文 磁器片	
219	土わらじ	小	江戸	6.3	1.8	4.4	焼物	焼物	3/4	透影磁器片	
220	土わらじ	小	江戸	7.2	2.5	5.0	焼物	焼物	1/2	土文 磁器片	
221	土わらじ	小	江戸	7.3	2.2	4.4	焼物	焼物	完整	土文 磁器片	
222	土わらじ	小	江戸	3.8	2.2	4.4	焼物	焼物	口縁一部分		
223	土わらじ	小	江戸	7.0	2.0	4.4	焼物	焼物	1/2	土文 磁器片	
224	土わらじ	小	江戸	7.8	2.0	6.0	焼物	焼物	口縁一部分	土文 磁器片	
225	土わらじ	小	江戸	7.5	1.7	5.2	焼物	焼物	4/5	土文 磁器片	
226	土わらじ	小	江戸	8.0	2.3	4.6	焼物	焼物	4/5	土文 磁器片	
227	土わらじ	小	江戸	8.8	2.0	4.4	焼物	焼物	4/5	土文 磁器片	
228	土わらじ	小	江戸	8.6	1.8	4.6	焼物	焼物	5/5	土文 磁器片	
229	土わらじ	小	江戸	8.6	1.7	4.2	焼物	焼物	3/4	土文 磁器片	
230	土わらじ	小	江戸	6.4	1.6	4.6	焼物	焼物	4/5	土文 磁器片	
231	土わらじ	小	江戸	6.1	2.2	3.8	焼物	焼物	1/6	透影磁器片	
232	土わらじ	小	江戸	8.8	2.1	4.2	焼物	焼物	2/4	土文 磁器片	
233	土わらじ	小	江戸	6.8	2.2	4.2	焼物	焼物	4/5	土文 磁器片	
234	土わらじ	小	江戸	5.8	2.2	3.8	焼物	焼物	口縁一部分	土文 磁器片	
235	土わらじ	小	江戸	7.6	2.5	4.5	焼物	焼物	2/4	土文 磁器片	
236	土わらじ	小	江戸	7.2	2.6	4.5	焼物	焼物	1/2		
237	土わらじ	小	江戸	6.6	2.4	4.4	焼物	焼物	完整	土文 磁器片	
238	土わらじ	小	江戸	5.8	2.2	4.6	焼物	焼物	2/3		
239	土わらじ	小	江戸	7.1	2.0	5.4	焼物	焼物	口縁一部分	土文 磁器片	
240	土わらじ	小	江戸	7.2	2.8	4.8	焼物	焼物	2/4	土文 磁器片	
241	土わらじ	小	江戸	7.3	2.8	4.4	焼物	焼物	2/3	土文 磁器片	
242	土わらじ	小	江戸	7.4	2.8	4.6	焼物	焼物	3/4	土文 磁器片	
243	土わらじ	小	江戸	7.2	2.9	4.5	焼物	焼物	2/3	透影磁器片	
244	土わらじ	小	江戸	7.4	2.8	4.2	焼物	焼物	1/2	透影磁器片	
245	土わらじ	小	江戸	8.0	3.0	6.0	焼物	焼物	2/3	土文 磁器片	
246	土わらじ	小	江戸	7.6	2.7	4.8	焼物	焼物	4/5	土文 磁器片	
247	土わらじ	大	手ごしら	14.0	2.8	3.8	焼物	焼物	177	磁器片	
248	土わらじ	大	手ごしら	14.0	3.0	3.8	焼物	焼物	1/4		
249	土わらじ	大	手ごしら	14.0	2.6	3.8	焼物	焼物	1/4		
250	土わらじ	大	手ごしら	14.0	2.7	3.8	焼物	焼物	1/8		
251	土わらじ	大	手ごしら	13.0	3.1	3.8	焼物	焼物	1/4		
252	土わらじ	大	手ごしら	12.2	3.2	3.8	焼物	焼物	3/8	土文 磁器片	
253	土わらじ	小	手ごしら	10.2	2.4	3.8	焼物	焼物	177	磁器片	
254	土わらじ	小	手ごしら	9.8	2.2	3.8	焼物	焼物	1/3		
255	土わらじ	小	手ごしら	9.8	2.1	3.8	焼物	焼物	3/4	土文 磁器片	
256	土わらじ	小	手ごしら	9.8	1.9	3.8	焼物	焼物	2/3		
257	土わらじ	小	手ごしら	9.4	1.9	3.8	焼物	焼物	1/2		
258	土わらじ	小	手ごしら	9.0	2.1	3.8	焼物	焼物	1/4	透影磁器片	
259	土わらじ	小	手ごしら	8.0	2.1	3.8	焼物	焼物	1/2		
260	土わらじ	大	手ごしら	10.0	2.8	3.8	焼物	焼物	1/4		
261	瓦敷物	大	手ごしら	37.0	-	-	焼物	焼物	口縁一部分		

第41表 2区出土遺物一覧表(3)

No.	遺物	種類	産地	単位	分類	計測値			加工・施作	数量	備考
						口径	高さ	底径			
140	赤瓦片			甲	口内口	10.0	3.2	5.8	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
145	赤瓦片			甲	口内口	10.0	3.2	5.8	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	
151	赤瓦片			甲	口内口	11.0	3.0	6.0	2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/4	
152	赤瓦片			甲	口内口	10.3	3.7	6.3	赤瓦片 小形多量 横溝色 良好	4/8	
153	赤瓦片			甲	口内口	10.0	3.3	6.0	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	
154	赤瓦片			小	口内口	8.0	2.1	3.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/4	又土付着
155	赤瓦片			小	口内口	7.6	1.9	4.8	2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	
156	赤瓦片			小	口内口	7.8	2.1	4.1	2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/4	
157	赤瓦片			小	口内口	6.9	1.9	5.1	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	又土 横溝色いい
158	赤瓦片			小	口内口	7.2	1.7	4.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/4	口縁部入土付着
159	赤瓦片			小	口内口	7.9	2.3	4.6	陶製瓦 横溝色 良好	2/2	又土 横溝色いい
162	赤瓦片			小	口内口	7.2	2.1	5.2	赤瓦片 横溝色 良好	4/2	
163	赤瓦片			小	口内口	7.0	1.9	5.0	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
163	赤瓦片			小	口内口	7.2	1.9	4.1	2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	2/2	横溝色いい
163	赤瓦片			小	口内口	6.6	2.2	3.8	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
164	赤瓦片			小	口内口	6.4	1.9	4.1	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	
165	赤瓦片			小	口内口	7.0	2.1	5.2	赤瓦片 横溝色 良好	4/2	
166	赤瓦片			小	口内口	6.8	2.1	6.0	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
167	赤瓦片			小	口内口	6.1	2.2	3.8	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
168	赤瓦片			小	口内口	6.9	2.2	6.0	陶製瓦 横溝色 良好	4/2	横溝色いい
168	赤瓦片			小	口内口	6.9	2.2	5.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
170	赤瓦片			小	口内口	6.0	2.0	5.1	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
171	赤瓦片			小	口内口	7.8	2.1	5.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	又土 横溝色いい
172	赤瓦片			小	口内口	7.5	2.1	5.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	又土 横溝色いい
173	赤瓦片			小	口内口	7.4	2.2	5.0	陶製瓦 横溝色 良好	4/2	又土 横溝色いい
174	赤瓦片			小	口内口	7.8	1.7	3.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/4	又土 横溝色いい
175	赤瓦片			小	口内口	7.0	1.7	4.7	赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
176	赤瓦片			小	口内口	7.8	1.9	5.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	又土 横溝色いい
177	赤瓦片			小	口内口	6.9	2.4	3.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	口縁部入土付着
178	赤瓦片			小	口内口	7.0	2.4	4.6	陶製瓦 横溝色 良好	2/4	横溝色いい
179	赤瓦片			小	口内口	6.6	2.4	4.3	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
180	赤瓦片			小	口内口	6.4	2.4	4.3	陶製瓦 横溝色 良好	2/4	横溝色いい
181	赤瓦片			小	口内口	6.5	2.4	4.6	陶製瓦 横溝色 良好	2/2	横溝色いい
182	赤瓦片			大	平式内口	14.4	2.8	5.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/4	横溝色いい
182	赤瓦片			大	平式内口	14.8	2.7	5.4	陶製瓦 横溝色 良好	3/6	横溝色いい
184	赤瓦片			大	平式内口	14.4	2.7	5.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
185	赤瓦片			大	平式内口	14.0	2.5	5.4	陶製瓦 横溝色 良好	1/4	横溝色いい
186	赤瓦片			小	平式内口	9.4	1.6	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	1/4	横溝色いい
187	赤瓦片			小	平式内口	8.8	1.6	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	2/2	横溝色いい
189	赤瓦片			小	平式内口	9.4	1.7	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	2/2	横溝色いい
189	赤瓦片			小	平式内口	10.2	1.8	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
190	赤瓦片			小	平式内口	10.2	2.0	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	2/2	横溝色いい
191	赤瓦片			小	平式内口	10.2	1.9	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	2/2	横溝色いい
192	赤瓦片			小	平式内口	10.2	1.8	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	1/4	横溝色いい
193	赤瓦片			小	平式内口	8.6	1.7	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
194	赤瓦片			小	平式内口	9.7	1.8	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
195	赤瓦片			小	平式内口	8.5	1.8	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
196	赤瓦片			小	平式内口	8.6	1.5	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	1/4	横溝色いい
197	赤瓦片			小	平式内口	10.0	1.7	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	1/4	横溝色いい
198	赤瓦片			小	平式内口	10.0	2.3	4.4	2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	5/6	横溝色いい
199	赤瓦片			小	平式内口	7.8	1.8	4.4	赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
200	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
201	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/4	横溝色いい
202	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
203	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
204	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
205	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
206	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
207	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
208	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
209	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
210	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
211	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
212	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
213	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
214	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
215	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
216	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
217	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
218	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
219	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
220	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
221	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
222	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい
223	瓦製製品	瓦							2.5寸 赤瓦片 横溝色 良好	1/2	横溝色いい

写真図版



1.調査区全景

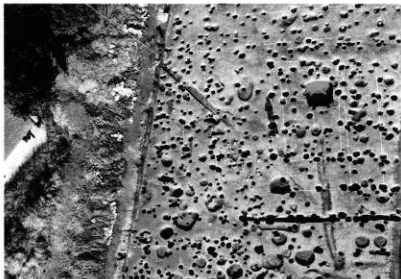


2.第1号掘立柱建物跡・
第1号柱穴列

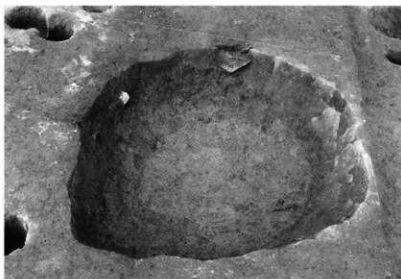


3.第2・3号掘立柱建物跡・
第2・3号柱穴列

图版 2



1. 第2~4号掘立柱建物跡・
第2~4号柱穴列



2. 第4号土坑墓



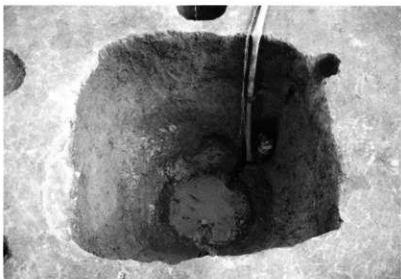
3. 第5号土坑墓



1.第 1 号井戸(1)



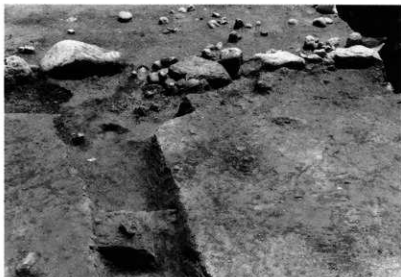
2.第 1 号井戸(2)



3.第 1 号井戸(3)

图版 4

1. 第 3 号沟状遗構



2. 第 4 号沟状遗構



3. 第 4 号沟状遗構土层断面





1. 第 4 号溝状遺構



2. 第 4 号溝状遺構遺物出土状況

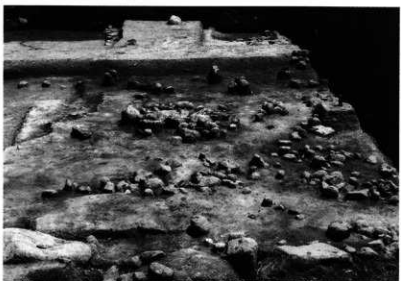


3. 第 5 号溝状遺構

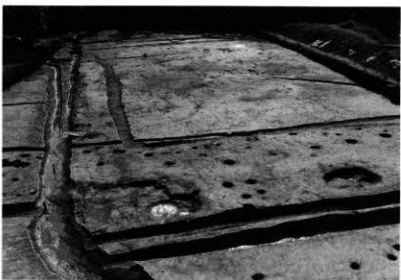
図版 6



1. 第17号溝状遺構



2. 1区集石検出状況



3. 近世溝状遺構



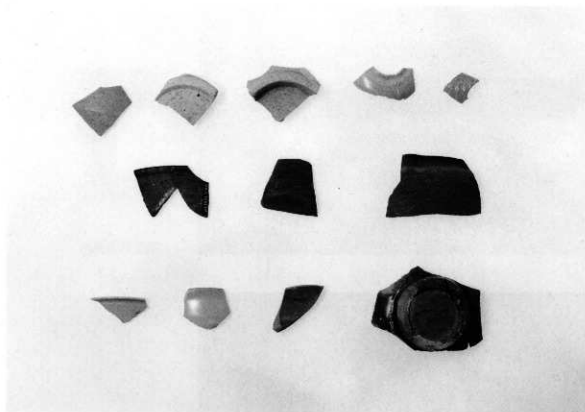
1.発掘調査風景



2.見学会風景



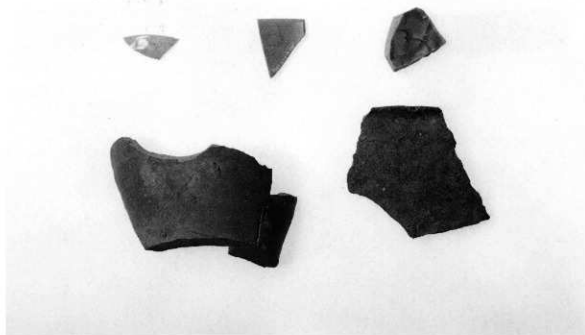
3.見学会風景



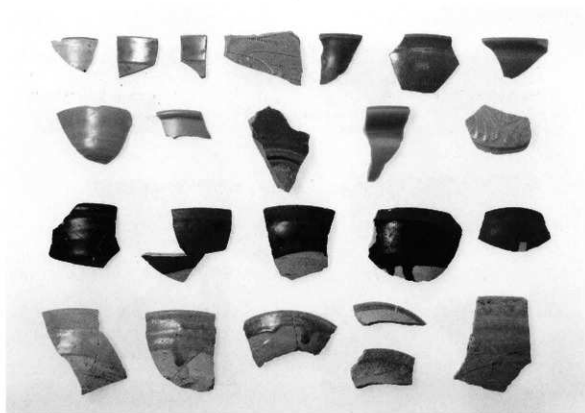
1. 第1号・2号井戸出土陶磁器



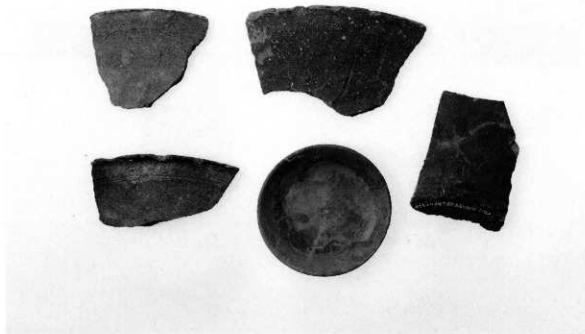
2. 第1号溝状遺構出土陶磁器



1. 第 3 号溝状遺構出土陶磁器



2. 第 4 号溝状遺構出土陶磁器



1.第4号溝状遺構出土陶磁器



2.第4号溝状遺構出土瓦質製品



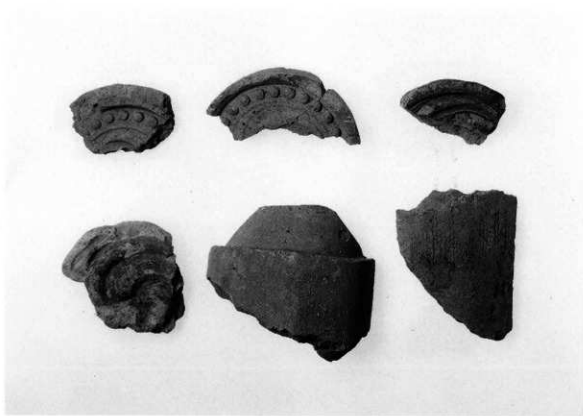
1. 第16号溝状遺構出土陶磁器



2. 第16号溝状遺構出土陶磁器・瓦質製品



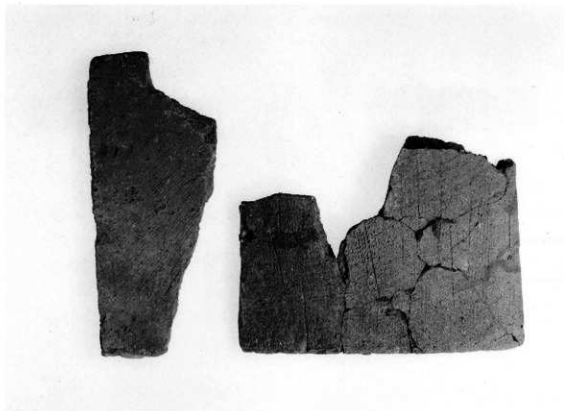
1. 近世溝状遺構出土陶磁器



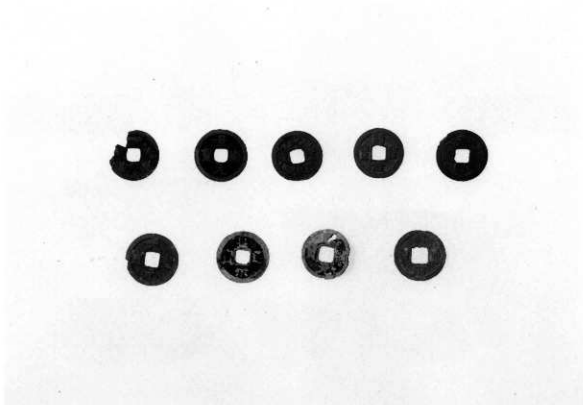
2. 軒丸瓦



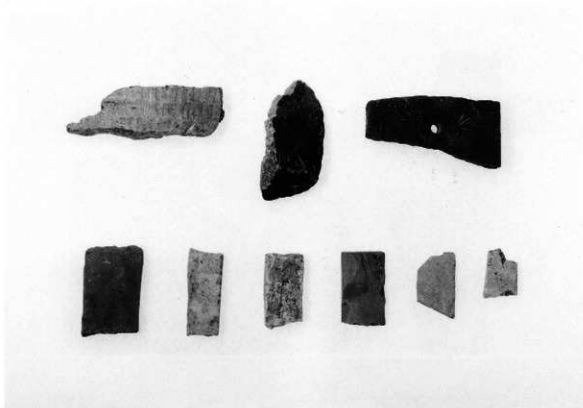
1. 軒平瓦



2. 平瓦



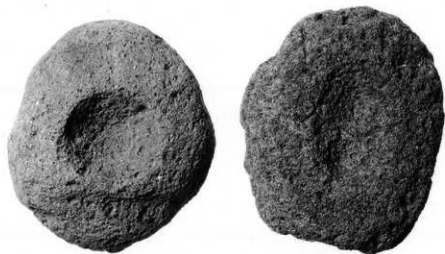
1. 錢貨



2. 石製品(1)



1.石製品(2)



2.石製品(3)



1.第1号井戸出土かわらけ



2.第2号井戸出土かわらけ



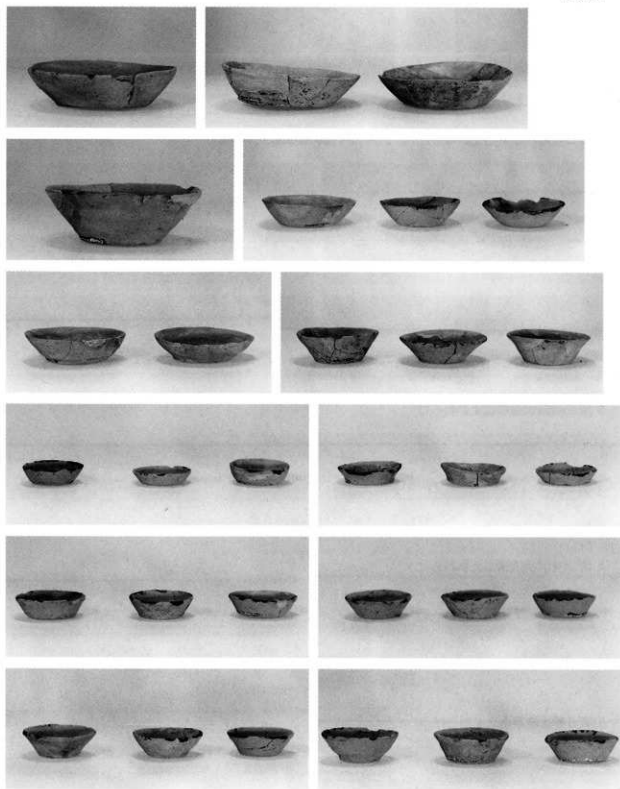
3.第1号溝状遺構出土かわらけ



4.第2号溝状遺構出土かわらけ



5.第3号溝状遺構出土かわらけ

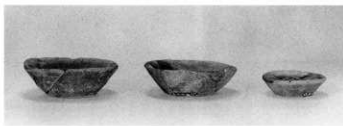


第4号溝状遺構出土かわらけ

図版18



1. 第5号溝状遺構出土かわらけ



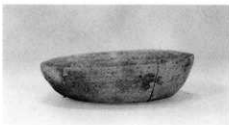
2. 第10号溝状遺構出土かわらけ



3. 第16号溝状遺構出土かわらけ



4. 第19号溝状遺構出土かわらけ



5. 第5号土坑墓出土かわらけ



6. 第34号土坑出土かわらけ



7. 第36号土坑出土かわらけ



1. 第39号土坑出土かわらけ



2. 第50号土坑出土かわらけ



3. 第56号土坑出土かわらけ



4.4 区遺物集中地点出土須恵器・土師器



5.4 区出土土師器



6.5 区出土土師器

報告書抄録

ふりがな	しせきほうじょうしていあとはくつちょうさほうこく							
書名	史跡北条氏邸跡発掘調査報告							
副書名	御所之内遺跡第13次発掘調査報告							
巻次	I							
シリーズ名	韭山町文化財調査報告							
シリーズ番号	No.42							
編集者名	原 茂光 池谷初志							
編集機関	韭山町教育委員会							
所在地	〒410-2123 静岡県田方郡韭山町四日町210-3							
発行年月日	西暦2002年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
御所之内遺跡	静岡県田方郡 韭山町大字 四日町字 御所之内	22326	-	35° 02' 41"	138° 56' 35"	1992.03.09 ~12.29 1993.03.18 ~07.25	2,826.68㎡	保養施設建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
御所之内	居館・集落	古 代 中 世 近 世	掘立柱建物跡 井戸 溝 土坑 土坑墓		かわらけ 貿易陶 磁 国産陶器 瓦 瓦質製品 石製品		史跡北条氏邸跡内の調査	

史跡北条氏邸跡発掘調査報告Ⅰ
— 御所之内遺跡第13次発掘調査報告 —

平成14年3月20日印刷
平成14年3月29日発行

編集・発行 菟山町教育委員会
〒410-2123
静岡県田方郡菟山町四日町210-3
電話 055-949-5251

印刷 アサダ印刷株式会社

